

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガクウホジツン モリノミヤイヨウガクケン 学校法人 森ノ宮医療学園							
フリガナ大学の名称	モリノミヤイヨウガク 森ノ宮医療大学 (Morinomiya University of Medical Science)							
大学本部の位置	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号							
大学の目的	豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。							
新設学部等の目的	<p>【看護学部】 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、医療人としての態度を身につけた人材を育成する。</p> <p>【看護学科】 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材を育成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	看護学部 [Faculty of Nursing] 看護学科 [Department of Nursing]	年	人	年次人	人	学士(看護学) 【B. S. in Nursing】	令和4年4月 第1年次	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号
	計		90	-	360			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療学部 看護学科(廃止) △90 ※令和4年4月学生募集停止</li> <li>・総合リハビリテーション学部理学療法学科 (70) (令和3年4月届出予定)</li> <li>・総合リハビリテーション学部作業療法学科 (40) (令和3年4月届出予定)</li> <li>・保健医療学部理学療法学科 (△70) ※令和4年4月学生募集停止</li> <li>・保健医療学部作業療法学科 (△40) ※令和4年4月学生募集停止</li> <li>・令和4年4月名称変更予定 保健医療学部→医療技術学部</li> <li>・保健医療学研究科 看護学専攻博士後期課程 (2) (令和3年4月届出予定)</li> </ul>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	看護学部	講義	演習	実験・実習	計	127単位		
		74科目	41科目	14科目	129科目			

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新 設 分	看護学部 看護学科		11人 (11)	7人 (7)	10人 (10)	4人 (4)	32人 (32)	0人 (0)	0人 (0)	令和3年4月届出 予定
	総合リハビリテーション学部 理学療法学科		8 (8)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
	作業療法学科		5 (5)	0 (0)	4 (4)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
	計		24 (24)	10 (10)	17 (17)	7 (7)	48 (48)	0 (0)	0 (0)	
既 設 分	保健医療学部 鍼灸学科		11 (11)	3 (3)	6 (6)	4 (4)	24 (24)	1 (1)	19 (19)	令和4年4月医療 技術学部に変更
	臨床検査学科		10 (11)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	9 (9)	
	臨床工学科		4 (4)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	
	診療放射線学科		6 (6)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
	計		31 (31)	10 (10)	10 (10)	9 (9)	60 (60)	1 (1)	38 (38)	
合 計			55 (55)	20 (20)	27 (27)	16 (16)	108 (108)	1 (1)	38 (38)	
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		55人 (55)		10人 (10)		65人 (65)			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		10 (10)		11 (11)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		56 (56)		20 (20)		76 (76)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡		特例措置の認定 により運動場機 能の代替措置を 講じる。 特区No.828（大 阪市）		
	運 動 場 用 地	0㎡	0㎡	0㎡		0㎡				
	小 計	30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡		0㎡				
合 計	30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		28,853.21㎡ ( 28,853.21 ㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)		28,853.21㎡ ( 28,853.21 ㎡)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	46室	19室	49室	1室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		大学全体			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		82		個人研究室56室 共同研究室26室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	看護学部	31,200 [1,760] (30,100 [1,720])	440 [60] (440 [62])	20 [10] (19 [10])	920 (899)	1,695 (1,695)	275 (275)			
	計	31,200 [1,760] (30,100 [1,720])	440 [60] (440 [62])	20 [10] (19 [10])	920 (899)	1,675 (1,695)	275 (275)			

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		881.58㎡		273		80,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,323.22㎡		多目的スポーツ施設 1		-				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		15,500千円	15,500千円	15,500千円	15,500千円	-千円	-千円	
		図書購入費	14,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	-千円	-千円	
	設備購入費	36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	-千円	-千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
				1,800千円	1,720千円	1,720千円	1,720千円	-千円	-千円	看護学科
				1,800千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	-千円	-千円	理学療法学科
				1,800千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	-千円	-千円	作業療法学科
				1,800千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	-千円	-千円	鍼灸学科
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	臨床検査学科		
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	臨床工学科		
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	診療放射線学科		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大学の名称		森ノ宮医療大学								
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
保健医療学部							1.11		大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号	
鍼灸学科		4	60	-	240	学士(鍼灸学)	1.13	平成19年度		
理学療法学科		4	70	-	280	学士(理学療法)	1.04	平成19年度		
看護学科		4	90	-	360	学士(看護学)	1.03	平成23年度		
臨床検査学科		4	70	-	260	学士(臨床検査)	1.15	平成28年度		
作業療法学科		4	40	-	160	学士(作業療法)	1.28	平成28年度		
臨床工学科		4	60	-	240	学士(臨床工学)	1.14	平成30年度		
診療放射線学科		4	80	-	160	学士(診療放射線)	1.12	令和2年度		
保健医療学研究科										
保健医療学専攻		2	6	-	12	修士(保健医療)	1.41	平成23年度		
看護学専攻		2	6	-	12	修士(看護学)	0.33	令和2年度		
医療科学専攻		3	2	-	6	博士(医療科学)	1.00	平成30年度		
附属施設の概要		名称：森ノ宮医療大学附属施設 目的：鍼灸学科の学内臨床実習のため 所在地：大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号(森ノ宮医療大学内) 設置年月日：平成19年4月 規模等：床面積180㎡								

学校法人森ノ宮医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学	編入学	収容	令和4年度	入学定	編入学	収容定	変更の事由
	定員	定員	定員		員	定員	員	
森ノ宮医療大学				森ノ宮医療大学				
保健医療学部				医療技術学部 名称変更				
鍼灸学科	60	-	240	鍼灸学科	60	-	240	
臨床検査学科	70	-	280	臨床検査学科	70	-	280	
臨床工学科	60	-	240	臨床工学科	60	-	240	
診療放射線学科	80	-	320	診療放射線学科	80	-	320	
看護学科	90	-	360		0	-	0	令和4年4月学生募集停止
理学療法学科	70	-	280		0	-	0	令和4年4月学生募集停止
作業療法学科	40	-	160		0	-	0	令和4年4月学生募集停止
				看護学部 学部の設置(届出)				
				看護学科	90	-	360	
				総合リハビリテーション学部 学部の設置(届出)				
				理学療法学科	70	-	280	
				作業療法学科	40	-	160	
計	470		1880	計	470		1880	
森ノ宮医療大学大学院				森ノ宮医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻 (M)	6	-	12	保健医療学専攻 (M)	6	-	12	
看護学専攻 (M)	6	-	12	看護学専攻 (M)	6	-	12	
医療科学専攻 (D)	2	-	6	医療科学専攻 (D)	2	-	6	
				看護学専攻 (D)	2	-	6	専攻の課程の変更(届出)
計	14		30	計	16		36	
森ノ宮医療学園専門学校				森ノ宮医療学園専門学校				
鍼灸学科				鍼灸学科				
昼間部	90	-	270	昼間部	90	-	270	
夜間部	30	-	90	夜間部	30	-	90	
柔道整復学科				柔道整復学科				
昼間部	60	-	180	昼間部	60	-	180	
夜間部	30	-	90	夜間部	30	-	90	
計	210		630	計	210		630	

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2			○		6	7	10	4		兼1		
		物理学	1後	2			○							兼1		
		生物学	1前	2			○							兼1		
		化学	1前	2			○							兼1		
		情報処理	1前	2				○						兼1		
		統計学	1前	2				○						兼1		
	小計(6科目)		—	8	4	0	—			7	7	10	4	0	兼4	—
	人間理解と社会	心理学	1後	2			○							兼1		
		生命倫理学	1前	2			○							兼1		
		哲学	1後	2			○							兼1		
		社会福祉学	1前	2			○							兼1		
		日本国憲法	1後	2			○							兼1		
		東洋史概説	3前	2			○							兼1		
小計(7科目)		—	2	12	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—	
語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2				○						兼2			
	英語Ⅱ(中級)	1後	2				○						兼2			
	英会話	2前	2				○						兼1			
	医学英語	2後	2				○						兼1			
	基礎英語演習	2前	2				○						兼1			
	応用英語演習	2後	2				○						兼1			
小計(6科目)		—	4	8	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1			○			1						
		チーム医療見学実習	1前	1				○			1					
		医療コミュニケーション	2前	1			○				2					
		チーム医療論	2後	1				○			2					
		IPW論	3前	1				○			2					
		基礎体育	1後	2				○						兼4		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前	2			○							兼1		
		健康管理学Ⅰ	2前	2			○							兼1		
		健康管理学Ⅱ	2後	2			○							兼1		
		栄養学	1後	2			○			1						
		身体運動科学	2後	2			○							兼3		
		東洋医療概論	2後	2			○							兼1		
		統合医療概論	2後	2			○			1				兼2	オムニバス	
小計(13科目)		—	7	14	0	—			1	2	0	0	0	兼11	—	
学科専門科目群	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	1			○			1						
		形態機能学Ⅱ	1前	1			○									
		形態機能学Ⅲ	1後	1			○							兼1		
		形態機能学Ⅳ	1後	1			○									
		フィジカルアセスメント	2前	2				○			2	3	2			
		生化学	1後	2			○			1						
		発達心理学	1前	2			○							兼1		
	小計(7科目)		—	8	2	0	—			2	2	3	2	0	兼2	—
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1後	1			○			1						
		病理学	1後	1				○		1						
		臨床薬理学	2前	1			○			1						
		臨床病態学Ⅰ	2前	1			○							兼1		
		臨床病態学Ⅱ	2前	1			○							兼1		
臨床病態学Ⅲ		2前	1			○							兼1			
臨床病態学Ⅳ		2後	1			○							兼1			
臨床病態学Ⅴ	2後	1			○							兼1				
臨床心理学	1後	2			○							兼1				
小計(9科目)		—	8	2	0	—			2	0	0	0	0	兼4	—	
社会健康支援と保健制度	医療概論	1前	1			○			1							
	公衆衛生学	1後	2			○							兼1			
	看護関係法規	3前	2			○			1	4						
	保健統計学	2前	2			○							兼1			
疫学	2後	2			○							兼1				
小計(5科目)		—	5	4	0	—			2	4	0	0	0	兼2	—	

学科専門科目群	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1前	1			○			1								
			看護理論	1後	2			○			2								
			生活援助論Ⅰ	1前	2				○		2	1	1	1					
			生活援助論Ⅱ	1後	2				○		2	1	1	1					
			診療援助論Ⅰ	1後	2				○		2	1	1	1					
			診療援助論Ⅱ	2前	2				○		2	1	1	1					
			看護過程演習	2前	1				○		2	1	1	1					
			小計(7科目)	—	12	0	0		—		2	1	1	1	0	兼0			—
		在宅地域看護論	地域・在宅看護概論	2前	2			○				1	1						
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			○				1	1						
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	3前	1				○			1	1						
			外来看護論	3前	1	1			○			1							
		小計(4科目)	—	5	1			—			1	1			兼0			—	
		成人看護学	成人看護学概論	2前	2			○			1	1							
			成人看護援助論Ⅰ	2後	1				○		2	1	3	1					
			成人看護援助論Ⅱ	2後	1				○		2	1	3	1					
			成人看護援助論Ⅲ	3前	1				○		2	1	3	1					
			成人看護援助論Ⅳ	3前	1				○		2	1	3	1					
		小計(5科目)	—	6	0	0		—		2	1	3	1	0	兼0			—	
		老年看護学	老年看護学概論	2前	2			○				1							
老年看護援助論Ⅰ	2後		1				○			1	1								
老年看護援助論Ⅱ	3前		1				○			1	1								
小計(3科目)	—	4	0	0		—		0	1	1	0	0	兼0			—			
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○			1	1									
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1				○		1	1		1							
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1				○		1	1		1							
小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	1	0	1	0	兼0			—			
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1										
	小児看護援助論Ⅰ	2後	1				○				2								
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1				○				2								
小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	0	2	0	0	兼0			—			
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○				1									
	精神看護援助論Ⅰ	2後	1				○			1	1	1							
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1				○			1	1	1							
小計(3科目)	—	4	0	0		—		0	1	1	1	0	兼0			—			
看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2後	2			○				1									
	家族看護学	3前	1			○			1	1	1								
	看護管理論	4後	1			○					1								
	災害・国際看護論	4後	1	1		○				1									
	養護概説	2前	2			○									兼1				
	学校保健	1後	2			○									兼1				
	健康相談活動論	2後	2			○									兼1				
小計(7科目)	—	4	7	0		—		1	3	2				兼1		—			
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	2	1	1	1							
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	2	1	1	1							
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2前	1					○		1	1								
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	4前	2					○		1	1								
	成人看護学実習Ⅰ(急性)	3後	3					○	2		1	1							
	成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3後	3					○		1	2								
	老年看護学実習	3後	3					○		1	1								
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1		1							
	小児看護学実習	3後	2					○				2							
	精神看護学実習	3後	2					○		1	1	1							
	公衆衛生看護学実習	4前		4				○	1	1									
	主題実習Ⅰ	4前	2					○	6	7	10	4							
	主題実習Ⅱ	4前		1				○	1	1	1								
小計(13科目)	—	23	5	0		—		6	7	10	4	0	兼0			—			

専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2		○			1		1							
		公衆衛生看護学演習	3前	2			○		1	1	1							
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後	2			○		1		1							
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後	2			○			1	1							
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前	2			○				1						兼1	
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	3前	2			○		1		1							
		公衆衛生看護管理論	3前	2			○			1	1	1						
		保健医療福祉行政論	3前	2			○			1	1	1						
	小計(8科目)		—	2	14	0	—		1	1	1	0	0	兼1	—			
	卒業	看護研究	3前	1			○		2	3	2							
		卒業研究	4通	2			○		9	7	10	4						
	小計(2科目)		—	3	0	0	—		9	7	10	4	0	兼0	—			
	看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	4前	2			○		1									
		臨床看護学セミナーⅡ	4後	2			○		1									
		公衆衛生看護セミナー	4後	2			○		1	1	1							
臨床看護技術セミナー		4後	1			○		6	7	10	3							
小計(4科目)		—	5	2	0	—		7	7	10	3	0	兼0	—				
教職に関する科目	教育原理	1前	2			○		1										
	教職論	1前	2			○										兼1		
	教育行政学	1後	2			○		1										
	教育心理学	1後	2			○										兼1		
	特別支援教育概論	2後	1			○										兼1		
	教育課程論	2前	2			○										兼1		
	道徳教育論	2後	2			○		1										
	総合的な学習の時間の指導法	2前	2			○		1										
	特別活動論	2後	2			○		1										
	教育方法論	3前	2			○											兼1	
	生徒指導論	2前	2			○											兼1	
	教育相談の基礎と方法	2後	2			○											兼1	
	養護実習(事前事後指導を含む)	4前	5				○	2									兼3	
	教職実践演習(養護教諭)	4後	2				○	2									兼3	
小計(14科目)		—	0	30	0	—		2	0	0	0	0	兼8	—				
合計(129科目)		—	118	105	0	—		11	7	10	4	0	兼34	—				
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、共通科目群から必修7単位+選択4単位以上、学科専門科目群の専門基礎分野から必修21単位+選択2単位以上、学科専門科目群の「専門分野」から必修76単位+選択1単位以上の計127単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。								1学年の学期区分				2学期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業時間				90分						

教育課程等の概要																
(保健医療学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○		7	7	10	4		兼1	
		物理学	1後	2			○								兼1	
		生物学	1前	2			○								兼1	
		化学	1前	2			○			1						
		情報処理	1前	2				○							兼1	
		統計学	1前	2				○							兼1	
	小計(6科目)		—	8	4	0	—			7	7	10	4	0	兼4	—
	人間理解と社会	心理学	1後		2			○								兼1
		生命倫理学	1前		2			○								兼1
		哲学	1後		2			○								兼1
		社会福祉学	1前	2				○								兼1
		日本国憲法	1後		2			○								兼1
		東洋史概説	3前		2			○								兼1
西洋史概説	3前		2			○								兼1		
小計(7科目)		—	2	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—	
語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2				○								兼2	
	英語Ⅱ(中級)	1後	2				○								兼2	
	英会話	2前		2			○								兼1	
	医学英語	2後		2			○								兼1	
	基礎英語演習	2前		2			○								兼1	
	応用英語演習	2後		2			○								兼1	
小計(6科目)		—	4	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—	
学部共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1			○				1					
		チーム医療見学実習	1前	1				○			1					
		医療コミュニケーション	2前	1			○				2					
		チーム医療論	2後	1				○			2					
		IPW論	3前	1				○			2					
		基礎体育	1後		2			○								兼6
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2			○								兼1
		健康管理学Ⅰ	2前		2			○								兼1
		健康管理学Ⅱ	2後		2			○								兼1
		栄養学	1後	2				○			1					
		身体運動科学	2後		2			○								兼1
		東洋医療概論	2後		2			○								兼1
		統合医療概論	2後		2			○			1					兼1
小計(13科目)		—	7	14	0	—			1	2	0	0	0	兼11	—	
学科専門科目群	専門基礎分野	形態機能学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		形態機能学Ⅱ	1前	1			○			1						
		形態機能学Ⅲ	1後	1			○								兼1	
		形態機能学Ⅳ	1後	1			○			1						
		フィジカルアセスメント	2前	2				○			2	3	2			
		生化学	1後	2				○		1						
		発達心理学	1前		2			○								兼2
小計(7科目)		—	8	2	0	—			2	2	3	2	0	兼3	—	



学科専門科目群	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1後	1			○		1											
			病理学	1後	1				○		1										
			臨床薬理学	2前	1						1										
			臨床病態学Ⅰ	2前	1			○												兼1	
			臨床病態学Ⅱ	2前	1			○												兼1	
			臨床病態学Ⅲ	2前	1			○												兼1	
			臨床病態学Ⅳ	2後	1			○												兼1	
			臨床病態学Ⅴ	2後	1			○												兼1	
			臨床心理学	1後	1			○													兼1
			小計(9科目)		—	8	2	0		—		2	0	0	0	0	0			兼5	—
	社会保健制度と健康支援と	医療概論	1前	1				○		1										兼1	
		公衆衛生学	1後	2				○												兼1	
		看護関係法規	3前	2				○		2	2										
		保健統計学	2前		2			○												兼1	
		疫学	2後		2			○												兼1	
	小計(5科目)		—	5	4	0		—		3	2	0	0	0	0			兼3	—		
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1前	1			○		1											
			看護理論	1後	2			○		2											
			生活援助論Ⅰ	1前	2					○	2	1	2	1							
			生活援助論Ⅱ	1後	2					○	2	1	2	1							
診療援助論Ⅰ			1後	2					○	2	1	2	1								
診療援助論Ⅱ			2前	2					○	2	1	2	1								
看護過程演習			2前	1					○	2	1	2	1								
小計(7科目)			—	12	0	0		—		2	1	2	1	0			兼0	—			
実習地		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	2	1	2	1								
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	2	1	2	1								
小計(2科目)		—	3	0	0		—		2	1	2	1	0			兼0	—				
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	2前	2			○		2												
		成人看護援助論Ⅰ	2後	1				○	3		3	1									
		成人看護援助論Ⅱ	2後	1				○	3		3	1									
		成人看護援助論Ⅲ	3前	1				○	3		3	1									
		成人看護援助論Ⅳ	3前	1				○	3		3	1									
	小計(5科目)		—	6	0	0		—		3	0	3	1	0			兼0	—			
	老年看護学	老年看護学概論	2前	2			○		1	1											
		老年看護援助論Ⅰ	2後	1				○	1	1	1										
		老年看護援助論Ⅱ	3前	1				○	1	1	1										
	小計(3科目)		—	4	0	0		—		1	1	1	0	0			兼0	—			
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○		1													
	母性看護援助論Ⅰ	2後	1				○	1			1							兼1			
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1				○	1			1										
	小計(3科目)		—	4	0	0		—		1	0	0	1	0			兼1	—			
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1												
	小児看護援助論Ⅰ	2後	1				○		1	2											
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1				○		1	2											
	小計(3科目)		—	4	0	0		—		0	1	2	0	0			兼0	—			
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○			1												
	精神看護援助論Ⅰ	2後	1				○		1	1	1										
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1				○		1	1	1										
	小計(3科目)		—	4	0	0		—		0	1	1	1	0			兼0	—			

学科専門科目群	専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ（急性）	3後	3					○	2		1	1						
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3後	3					○	1		2							
		臨地実習	老年看護学実習Ⅰ	3後	3					○	1	1	1						
		老年看護学実習Ⅱ	3後	1					○	1	1	1							
		母性看護学実習	3後	2					○	1			1						
		小児看護学実習	3後	2					○		1	2							
		精神看護学実習	3後	2					○		1	1	1						
		小計（7科目）		—	16	0	0		—	5	3	7	3	0		兼0		—	
	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2前	2				○			2	1						
			在宅看護援助論Ⅰ	2後	1					○		2	1						
			在宅看護援助論Ⅱ	3前	1					○		2	1						
			外来看護論	3前		1			○			1							
		小計（4科目）		—	4	1	0		—	0	3	1	0	0		兼0		—	
		看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2後	2				○			1							
			家族看護学	3前	1				○		1	2							
			看護管理論	4後	1				○		1		1						
			災害・国際看護論	4後		1			○				1						
			養護概説	2前		2			○										兼1
			学校保健	1後		2			○										兼1
			健康相談活動論	2後		2			○										兼1
小計（7科目）		—	4	7	0		—	2	4	1	0	0		兼1		—			
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2				○			1									
	公衆衛生看護学演習	3前		2				○		1	1								
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2			○			1									
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2			○				1								
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前		2			○										兼2		
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	3前		2			○		1								兼1		
	公衆衛生看護管理論	3前		2			○				1								
	保健医療福祉行政論	3前		2			○				1								
小計（8科目）		—	2	14	0		—	1	1	0	0	0		兼3		—			
臨地実習	在宅看護論実習	4前	2					○		2	1								
	公衆衛生看護学実習	4前		4				○	1	1									
	主題実習Ⅰ	4前	2					○	8	7	10	4							
	主題実習Ⅱ	4前		1				○	1	1									
小計（4科目）		—	4	5	0		—	8	7	10	4	0		兼0		—			
研究卒業	看護研究	3前	1					○	3	4	2								
	卒業研究	4通	2					○	11	7	10	4							
	小計（2科目）		—	3	0	0		—	11	7	10	4	0		兼0		—		
看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	4前	2					○	1										
	臨床看護学セミナーⅡ	4後	2					○	1										
	公衆衛生看護セミナー	4後		1				○	1	1									
	臨床看護技術セミナー	4後	1					○	8	7	10	4							
小計（4科目）		—	5	1	0		—	9	7	10	4	0		兼0		—			
教職に関する科目	教育原理	1前		2				○	1										
	教職論	1前		2				○									兼1		
	教育行政学	1後		2				○	1										
	教育心理学	1後		2				○									兼1		
	特別支援教育概論	2前		1				○									兼1		
	教育課程論	2前		2				○									兼1		
	道徳教育論	2後		2				○	1										
	総合的な学習の時間の指導法	2後		2				○	1										
	特別活動論	2前		2				○	1										
	教育方法論	3前		2				○											
	生徒指導論	2前		2				○											
	教育相談の基礎と方法	2後		2				○									兼1		
	養護実習（事前事後指導を含む）	4前		5				○	2								兼3		
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2				○	2								兼3		
小計（14科目）		—	0	30	0		—	2	0	0	0	0		兼8		—			
合計（129科目）		—	117	104	0		—	13	7	10	4	0		兼41		—			

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、学部共通科目群から必修7単位+選択4単位以上、学科専門科目群の専門基礎分野から必修21単位+選択2単位以上、学科専門科目群の「専門分野Ⅰ」から必修15単位、「専門分野Ⅱ」から必修38単位、「統合分野」から必修22単位+選択1単位以上の計126単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。			1 学年の学期区分	2学期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、学生を少人数のグループに分けて担当教員を配属し、(1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において取得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。
		物理学	物理学は自然現象を素粒子のような小さなものから宇宙のような大きなものまで、統一した概念で説明できるように発展してきた。そのような物理の基礎的概念は自然現象を説明するだけでなく、テレビや携帯電話、コンピュータ、脳の働きの理解にまで応用されている。ここでは、自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項、物体の運動を理解する力学、波の性質、熱力学とエントロピー、電場、電流と磁界、電磁誘導と電磁波、光の性質、相対性理論、原子と原子核などについて、幅広い知識を教授する。
		生物学	今日生物学の知識は爆発的に増え続け、生命科学の分野だけでなく自然科学全体にも深く関与し、人文科学や社会科学にも影響を与えている。多様化した生物学の分野で、細胞の概念をとらえることは重要である。そのために、細胞とはどういうものであるか、その細胞構造の中に含まれている細胞内小器官はどのような働きをするのか、細胞はその内部や外部に対してどのような情報伝達の仕組みをもっているのか、生殖・発生・分化の仕組みはどのようにになっているのか、などについて教授する。
		化学	化学は自然界のさまざまな物質の成り立ちや振る舞いを理解する学問である。そのために、原子の構造とその結合、固体、液体、気体などの物質の状態、溶液の性質、化学反応と熱の授受、化学反応の速さと平衡、金属や非金属とその化合物、有機化合物、量子化学の基礎など、幅広い範囲について教授する。
		情報処理	本演習では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算を中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、技術の習得のみならず、情報化社会に必要な倫理観を養うため個人情報保護法等についても教授する。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindowsを、ソフトウェアはマイクロソフトのWord、Excel等を使用する。
		統計学	本演習では代表値や相関と回帰を学ぶことで医学データのまとめ方や確率の基礎・分散分析などを理解する。データと標本調査について解説し、統計学的推定と検定、割合・率・比・リスクについて学んだあと、リスク比、オッズ比、オッズ差の信頼区間へと学修を進める。相関関係と因果関係について学んだあと検定・推定と標本数の関係を理解することで、研究の妥当性、コントロールの必要性、治療の効果、疫学研究から因果関係を調べるための考え方を教授する。
	人間理解と社会	心理学	心理学を学ぶことで心の仕組みと働き、さらには人間理解を深め、多方面で激動する現代社会の中で、先見性と方向性をもった活動をするための礎の確立を目指す。心理学の基礎的な理論や概念を教授し、さらにそれを実証するための研究方法も教授する。また認知心理学分野、学習心理学分野、カウンセリング、ストレス、犯罪心理、家族心理、社会心理などについて学修し、患者心理に向き合い医療従事者として必要な、こころのケアについても具体的に教授する。
		生命倫理学	脳死や安楽死など、現代医療の進歩は、これまで人類が直面したことのない問題を新たに生み出すようになっている。医療現場でも救急医療では、死に直面する機会にも遭遇する。本講義では、そうした生命倫理の様々な問題を考察しながら、同時に「私達にとって生きるということとはどういうことか」を考えさせる。生命倫理の問題は、当事者になって初めて意識するというものではなく、現代人のすべてにそうした生への問いを投げ掛けているということを概説する。
		哲学	哲学の基礎として、「世界、人間、神」について哲学的に考えることを解説する。著名な哲学者らが、それらについてどのように考えてきたかを考察し、それらへの理解を哲学的に深めるとともに、彼らにある根本や全体から考えるといった哲学的思考方法の基礎を学び、次に東洋哲学と西洋哲学の特色を教授する。
		社会福祉学	社会福祉の発達を社会環境の歴史的变化との関連で捉え、社会福祉諸法の概要をその成立根拠をふまえながら解説する。また、わが国の社会福祉の特徴や問題点、福祉サービスの現状を解説すると同時にその活用法について実生活との関わりの中で理解する。さらに、少子高齢化の進展をはじめ社会福祉を取り巻く環境が近年大きく変化するなかで、今後の社会変動と社会福祉制度・活動の動向について教授する。福祉の動向・課題について関心を持ち、自らの考えを持ち行動する態度を養うため、新聞記事等から事例を示し考察させる。

看護学部看護学科			
授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間理解と社会	日本国憲法	法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、過去の歴史的背景や出来事を含めて、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がわれわれにとって非常に身近であることを認識させる。さらに、障害者や母子家庭、父子家庭のこどもたちなどの社会的弱者の問題を含めた、さまざまな社会問題を、人権保障の観点から包括的に考察させる。	
	東洋史概説	文献や近年の考古学の成果などを踏まえ、時間的視点・空間的視点でその地域をとらえながら、東アジア世界が果たした役割を歴史的観点から考察する。また、本講義においては、「医学の歴史」の観点からアプローチを行い、東洋医学の背景にある文化や思想について理解する。そして、東洋医学に対して中国医学がどのように影響を与えたかについて考察させる。	
	西洋史概説	本講義では、西洋史における民族社会の形成や文化の歴史的発展を考察し、その基本的問題や特性を理解させる。また、西洋の歴史を古代文明から継承されたいくつかの要素を基に掘り起し、民族社会の形成と発展、キリスト教文化圏や国家の形成等に焦点を当て解説する。なお、本講義においては、西洋における「医」の考え方や歴史的展開等について時間軸に沿った変化を考察させる。	
教養科目群	英語Ⅰ（初級）	英語Ⅰでは、単語・熟語・慣用句の知識を含む語彙力や、文意を正確につかむ文法力を養い、日常生活で目にするようなレベルの会話文を含む、英文を読んで理解する力の習得を目的とする。また、未知語の推測や背景知識、文化的背景の違いに関する知識などを活用して、文章の概要や要点を速く正確に読み取る技術や読解力を養う。医療用語を含めた文章中のキーワードを頼りにして速読を行い、書き手の意図を速く正確に捉える読解力を養う。	
	英語Ⅱ（中級）	英語Ⅱでは、英語Ⅰで獲得した英文読解の知識や技術をさらに発展させることを目的とする。さまざまな分野の英文を多量に読むことにより、中級から上級のレベルの英文を速く読んで正確に理解できる力を養う。パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど、英文読解に必要な技術にも触れながら、速読・多読の演習を行い、重要な情報を正確につかむ読解力を養う。速読によって得た情報をもとに議論をし、文章作成能力の基礎を養う。	
	英会話	英会話では、日常生活で用いられる定型的・慣用的な表現について解説し、その表現を自由に使えるように基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。日常生活で自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を養うだけでなく、日常の話題について基本的な英語表現を用いて自由に表現できる能力の獲得を目指す。対話における受け答えだけでなく、自らも問いかげができるような、会話を発展させる能力をも養い、十分な自己表現ができることを目指す。	
	医学英語	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため(1)コミュニケーションの構成要素について学修し、(2)臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、英語でしかコミュニケーションのとれない患者に対して検査や採血などの行為を行うケースを想定し、具体的に教授する。また患者説明時に、患者の誤解を招かぬように指示を伝えるために必要となる、的確な表現や語彙の選択能力を日本語・英語の相違点を踏まえて解説する。	
	基礎英語演習	基礎英語演習では、基礎的な日常会話コミュニケーション能力の向上に焦点を当てながら、総合的な英語運用能力を培うことを目的とする。そのような運用能力を習得するために、(1)日常的な場面で使われる英語の語彙・熟語・構文・文法を確認し理解を深め、(2)実際の会話文のモデルパターンを数多く理解し、またそれらの暗記を実践し、(3)様々な題材を読んだり、聴いたりすることにより正確に要点を捉える能力を育成する。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで450点（以上）に相当する英語運用能力習得を目標とする。	
	応用英語演習	応用英語演習では、基礎英語演習で獲得した総合的な英語運用能力をさらに発展させることを目的とする。基礎英語演習で修得した語彙力・文法力・リスニング力・読解力を総合的に定着させ、日常の様々な場面において、その状況や文脈を理解し、自ら情報を発信することができる、レベルアップした英語運用能力の獲得を目指す。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで500点（以上）に相当する英語運用能力習得を目標とする。	
	語学		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目群	保健 医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	本授業は、大学生としての学修や生活をスムーズにスタートできるよう、教育課程(カリキュラム)及びその履修方法、学生生活のルール等について概説する。また、本学園の歴史、建学の精神の意味、ディプロマポリシー等についても教授し、医療の歴史及び医療の現在と未来、ひいては医療全般への理解と興味を深めさせることで、医療を学ぶ大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を養うと共に医療従事者としての意識醸成を図ることを目標とする。
		チーム医療見学実習	医療の実践現場である病院等の施設において“医療従事者の1日”に密着体験することによって医療職への理解を深めさせるとともに、個々の学生が目指す専門職の役割やチーム医療を構成する様々な専門職との関係について学ばせる。また、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性及びチーム医療の実践についても教授する。
		医療コミュニケーション	医療現場において、医療の専門性を発揮し、患者に適切な医療を行うためには患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。また、他の医療従事者と連携をして患者の治療にあたることが求められるが、コミュニケーションは連携のための重要な手段の1つである。本講義では、患者や医療従事者とコミュニケーションをとるために必要な知識、技術を教授する。
		チーム医療論	自学科以外の職種について理解と関連性を学び、医療の質の向上、患者中心の医療安全を実践できる医療人としての心構えを教授する。併せて他職種の特性や内容について学び、体験することで、医療従事者間ならびに患者との間に生じる考え方のギャップを理解し、コミュニケーションに生かすことができるパーソナリティを身につけることを目標とし、3年次前期に開講するIPW論への礎とする。
		IPW論	本学が有する鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科と診療放射線学科の7学科において各分野に共通する症状、障害、危機管理、診療計画などをテーマにチームアプローチの実践について教授する。実際の症例を想定し、各学科の専門性を基に“専門職間連携”の理念を実現するための方法について討議させる。その際、他者の意見を聞き自らの意見を明確に伝える能力を修得させるとともに、当事者主体の原理に立ったアプローチ方法を検討させる。
		基礎体育	スポーツ(運動)を実施する目的は、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種多様である。本演習では、多種多様なスポーツ・運動種目を用意し、目的に応じた効果的トレーニング方法の理論と実際を、スポーツ(運動)の実践を通じて学べる授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図る。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ(運動)を実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されているダイエットや運動に関する情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本講義では、日本人の生活習慣や食生活の変化、および健康維持に不可欠な知識を教授する。さらに生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、健康管理に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識の修得を目指す。
		健康管理学 I	本講義では、運動不足の健康への影響を学び、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を教授する。特に、有酸素運動の健康上の必要性を解説し、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、健康づくりのための運動所要量の算出法や、ウォーミング・アップおよび、クール・ダウンを含めた、運動処方プログラムの構成についても解説する。さらに、食生活と疾病の関係、特に肥満や生活習慣病との関係および健康生活を確立するための食生活の重要性を理解するとともに、肥満に関する正しい知識を身につけ適正な減量の方法を解説する。また、講義だけでなく実際の調査およびエネルギー代謝測定を通じて、栄養素の種類とその機能、栄養の消化・吸収、日本人の栄養所要量、日常生活のエネルギー代謝および消費量、タンパク質等栄養所要量を算出するための方法論の基礎と実際を教授する。

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目群	保健医療	健康管理学Ⅱ	近年、生活習慣病の危険因子が次第に明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾病に罹患する確率も高くなることから、現代社会では、日常生活においていかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と体力・運動不足の関連性、健康診断（メディカルチェック）に関する基本的な考え方、および健康度の一つの尺度となる体力について、理解を深めさせると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠について教授する。また、個人および集団の健康の現状を把握し、人間の健康を疾病から予防し、維持・増進するための理論や具体的な方法についても解説する。	
		栄養学	栄養は生物が増殖、成長、活動するために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象を指す。ここでは医療人として必要な知識である、栄養と生命活動に焦点を絞った内容を教授する。それらは食生活と疾病の関連、摂取した栄養素の体内での働き、植物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝、脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの代謝、遺伝子発現と栄養の関係、人間の成長発達と栄養所要量ならびに栄養状態の判定等で構成する。	
		身体運動科学	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて教授する。また身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニング方法について解説する。さらに栄養学的な見地から、運動時の筋力増強や、心肺機能を増強させるために効果的な栄養素やその補給方法などを交えて、栄養と運動の関連性についても教授する。	
		東洋医療概論	東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。	
		統合医療概論	現代医学と伝統医学、あるいはBody・Mind・Spiritの視点のいずれも重視しながら患者を包括的にケアすることを目指す統合医療の概念を教授する。まず、今日の医療に必要なEBMの概念と治療法の批判的吟味の仕方について理解させ、次に統合医療の定義、従来の医療や補完代替医療との違い、統合医療の普及状況、現代における統合医療の必要性について解説する。また、各論として統合医療を構成する個々の主要な補完代替療法についても概観し、それを実際に臨床応用している医療機関の実践手法を解説する。統合医療の良い点だけでなく問題点も指摘し、各医療職種が統合医療の概念を取り入れて向かうべき方向性について教授する。本科目の単位認定者は山下 仁である。  (オムニバス方式/全15回) (38 山下 仁/10回) 医療におけるエビデンスの重要性、EBMの概要と実践例、代替医療研究における倫理、代替医療概論、代替医療の主な診断治療体系の特徴、統合医療の概念と現状、および統合医療の理解と応用について解説する。  (9 森 美侑紀/2回) 代替医療における代表的な手法の一例としてアロマセラピーの概要と実際について解説および実演をする。  (45 増山 祥子/3回) 研究デザイン、有効性検証のための臨床試験、手技療法の概要と実際について解説および実演をする。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群	専 門 基 礎 分 野	人 体 の 構 造 と 機 能	形態機能学Ⅰ 運動器系は骨格と筋から構成される。日常生活における「歩く」、「嘔む」などの身体運動の多くが骨格と筋との精緻な連携によってなされている。形態機能学Ⅰでは、運動器系の構造と機能の基本について修得させる。また、看護の現場では患者に直接触れる機会が多く、自分が触れている部分の深層にいかなる構造が存在しているかを知っていることは極めて重要である。本講義では、体表から見た人体の構造の基本を修得させる。これらの知識を踏まえて、運動器系の構造と機能との関連性を考察、説明出来るようにする。
			形態機能学Ⅱ 医療系の大学では、医学の基礎として、生体の形態を扱う解剖学と機能を扱う生理学を学修する。健康な人間には、正しく機能する形態があり、形態が異常になると機能が異常になり疾病に至る。形態機能学Ⅱでは、分子レベルから細胞、組織、器官系にいたるまでの生体の形態と機能を学修させた後、栄養素の代謝及び消化・吸収、呼吸や循環の仕組みや調節について学修させ、説明できるようにする。また、疾患との関わりを説明できるようにする。
			形態機能学Ⅲ 身体は恒常性維持のために絶えず外部環境の情報を受容すると共に内部環境との調整を図っている。この情報の受容と処理に不可欠なのが感覚器と脳神経系である。形態機能学Ⅲでは、第1にこれらの情報の受容と処理システムの基本について修得させる。第2に、これらの情報を踏まえて、外部環境の変化に対して身体の恒常性を維持するための防御システムの基本について修得させる。これらの知識を総合して、外部環境の情報の受容、処理と生体防御システムについて考察、説明出来るようにする。
			形態機能学Ⅳ 人体を取り巻く外部環境は、温度や湿度などが絶えず変化しているが、内部環境はほぼ一定に保たれている(ホメオスタシス)。形態機能学Ⅳでは、最初に体内に含まれる水と電解質のバランスを調節している腎泌尿器系の形態や機能について学習する。その後、生体内外の環境の変化に応じてさまざまな臓器の機能を変化させる自律神経系と内分泌系の形態と機能について学習する。自律神経系と内分泌系はホメオスタシスの主役であり、多くの疾患との関連を説明できるようにする。
			フィジカルアセスメント フィジカルアセスメントはクライアントを全人的、客観的に理解するために基盤となる不可欠な概念として認識する。これは人間の生活行動を支える身体の構造と機能を客観的に測定し評価するものである。基本技術として問診・視診・触診・打診・聴診と各器官のアセスメントから構成され、これらの知識・技術を学修する。各器官は循環器系、呼吸器系、体温の恒常性、感覚器系、運動器系で構成する。
			生化学 生化学では、①「生命の維持と仕事」細胞・エネルギー・熱・pHなどの基本的な事について ②「栄養素」(糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・電解質・水・核酸)についてとそれらの代謝 ③「酵素による代謝」体内の代謝のほとんどは酵素反応である ④「血液による恒常性」栄養素の運搬・ホルモンの運搬・血液ガス老廃物の運搬・熱の運搬・pHと浸透圧について ⑤「血液と免疫」血液の組成と働きのメカニズム ⑥「臓器の生化学」肝臓・膵臓・胃・小腸・腎臓・神経・筋肉などの代謝の特異性について教授する。また、栄養素が細胞・臓器を構成し、その臓器の中をどの様に流れて行き、どの様にコントロールされているか(ホルモンと神経)を教授する。
			発達心理学 発達心理学は、人間が誕生し、成長発達、成熟、やがて死に至るといった人間のライフサイクルにおける精神の発達過程が研究対象である。ここでは、各発達段階(新生児期・乳幼児期・学童期・思春期・成人各期・老年各期)の精神発達の特徴と人間関係の諸相について、エリクソンやピアジェ等の発達理論をもとに教授する。
疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	微生物学 微生物は肉眼では観察できない微小な生物であり、人類にとって有用性と病原性の両面をもっている。微生物学がどのような人々によって担われ、どのように発展してきたか、微生物学の具体的姿を通して解説する。また、病原微生物学から発展した免疫学の基本についても解説する。細菌についてはその増殖と代謝、細菌の遺伝、細菌の病原性、滅菌と消毒、化学療法、生体防御、ワクチンについて学び、ウイルスについては構造、感染機構、感染症を教授する。		
	病理学 疾病は構造、代謝、機能等が正常から逸脱した状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について教授する。ここでは総論的な内容として病因論、組織障害、再生と修復、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、感染症、代謝異常、腫瘍等を、各論として循環器系、呼吸器系、消化器系といったように系統別に代表的な病理を教授する。		
	臨床薬理学 治療目的で患者に投与される薬物について、病態との関連から薬物の作用機序について正しい認識が必要である。そこで、基本的な治療薬の作用について病態と関連づけて理解するとともに副作用と禁忌、薬物動態、薬物相互作用、投与時の注意、薬物管理について教授する。具体的には末梢神経薬、筋弛緩薬と麻酔薬、中枢神経系作用薬、心臓血管系作用薬、呼吸器系作用薬、化学療法薬、抗悪性腫瘍薬、抗炎症薬等について教授する。		



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床病態学Ⅰ	疾病は構造、機能等が異常を起こした状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について基礎的な概説を行う。本講義ではまず内科系臨床医学総論として診断学・症候学を学び、その後具体的疾患として循環器疾患(高血圧症、虚血性心疾患、脳卒中、心不全、不整脈等)・呼吸器疾患(気管・気管支・肺の慢性あるいは悪性病変)・消化器疾患(食道・胃・十二指腸・肝・胆・膵疾患等)、内分泌疾患(甲状腺・下垂体・副腎疾患等)についてその概要、病態生理、症状、診断、治療等について教授する。	
	臨床病態学Ⅱ	看護診断には疾患の理解が不可欠である。疾病は構造、機能等が異常を起こした状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について臨床病態学Ⅰに引き続き基礎的な概説を行う。ここでは代謝疾患(糖尿病・各種代謝異常症等)、腎・泌尿器疾患(腎炎・腎不全等)・血液疾患(血液系悪性腫瘍・各種貧血等)、免疫疾患(各種アレルギー性疾患・自己免疫疾患等)について、その概要、病態生理、症状、診断、治療等について教授する。	
	臨床病態学Ⅲ	看護診断には疾患の理解が不可欠である。疾病は構造、機能等が異常を起こした状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について臨床病態学Ⅰ、Ⅱに引き続き基礎的な概説を行う。ここでは主要な神経・筋疾患、感染症疾患、老年疾患(老年症候群・認知症等)、さらに感覚器疾患(皮膚科領域・耳鼻咽喉科領域・眼科領域)について、その概要、病態生理、症状、診断、治療等について教授する。	
	臨床病態学Ⅳ	看護診断には疾患の理解が不可欠である。疾病は構造、機能等が異常を起こした状態であるが、そのような異常を起こす原因、病態および種類について基礎的な概説を行う。ここでは産婦人科領域・小児科領域・精神科領域における主要な疾患について、その概要、病態生理、症状、診断、治療等について教授する。	
	臨床病態学Ⅴ	本講義では外科的アプローチを主体とする各種疾患の理解を深める。運動器系を中心とする整形外科領域、消化器疾患・内分泌疾患を中心とする一般外科領域、頭蓋内疾患を中心とする脳神経外科領域に分け、主要疾患についてそれぞれの概要、病態生理、症状、診断、治療、予後等について外科的側面から教授する。	
専門基礎分野	臨床心理学	臨床心理学は、人間の心理的障害・病理の問題について、心理学的な原理や知識を統合して解決することを研究対象とし、実践的にはカウンセラー、心理判定員、相談員、調査官などが活動している。看護実践においては、医療施設をはじめとするあらゆる場において、個人や家族の心理的問題へ関与することが多く、人間の心理的障害や病理の課題に関する基本的な知識と技術を教授する。	
	医療概論	医療をめぐる社会環境の動向を把握し、医療の本質、現代医療の問題点、EBN(evidence based nursing)とEBM(evidence based medicine)、インフォームドコンセント、脳死、臓器移植、医療経済等で構成について学修する。また、医療は人(個人・家族・集団)の生・老・病・死に対して展開されるので、①「人間」への理解、②「患者」への理解、③「死生」への理解について看護の観点からそれぞれの本質を教授する。	
	公衆衛生学	公衆衛生学は、国民の健康維持増進のために行う社会的、組織的な実践学であり、ここでは、健康の捉え方、集団の疾病予防対策、地域における包括保健医療福祉活動や社会環境の国民生活に及ぼす影響を理解する。そのために、健康指標、感染症・循環器疾患・メタボリックシンドローム等の予防、環境と健康の関連、地域における対象に応じた保健活動について教授する。	
	看護関係法規	この授業の目的は、他者と自己の尊重を基本にすえ、法規を活用することにより、人々の人権を守り、対象者のQOL向上に寄与することを教授することである。人間社会は、日常的に多くの法の規制を受け、生活が成り立っている。ここでは看護が社会や医療の変化に伴い、現実に沿うよう法的整備がなされていくことを視野に入れ、対象者の権利を守り、適切なサービスを提供するために、業務を遂行する上で関わる主な法則について教授する。	
	保健統計学	保健統計学は、健康に関連する数量的比較を基礎として、多くの事実を統計的に観察し、処理する方法を研究する学問である。保健活動を実践するためには地域における集団特性の理解は不可欠である。そこで地域保健活動で用いられる各種の保健統計について、利用方法、近年の動向、データの背景等について教授する。	
	疫学	疫学は、疾病や事故・健康状態について、地域や職域などの多数集団を対象とし、その原因や発生条件を統計的に明らかにする学問である。看護は医療施設に入院中の患者だけでなく、地域で生活する個人や集団または広域的な広がりを持つ地域そのものを対象とする。したがって、疾病や事故の発生あるいは健康状態の統計的な実態を把握することは、看護実践にとって重要な課題である。看護の対象に関わる基本的知識として必要な統計的実態について教授する。	
	健康支援と社会保障制度		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎看護学	看護学概論	看護を学ぶに当たり、看護の全体像を把握させる。看護専門科目を受ける前段階の導入として、看護の理念、目的、機能、実際の活動等を学修し、個々の看護に対する姿勢を築く一助とする。「健康の概念」「看護の定義」を理解させ、看護・看護学の発展過程と現状、今日の看護学を形成している基礎知識を学修させる。各自が看護・看護学の現状とその方向性を理解し、専門職としての看護・看護学について主体的に考える土台を形成することを旨とする。	
	看護理論	看護の本質について、F.NightingaleとV.Hendersonを中心に理論形成の背景や、理論の中心概念を学修させる。また看護実践に必要な「看護過程」論について、アセスメント・看護診断・計画・実践・評価の内容、方法を中心に学修する。本授業科目が「看護過程演習」へ繋がるよう、事例やグループワークを活用する。	
	生活援助論Ⅰ	日常生活における基本的ニーズを充足させる基本的看護技術とそれらに関連するEBNとEBMを教授する。「看護技術」とは何か、本質を理解し、「対象者の安全を守るとは何か」、「対象者に安楽を提供するとは何か」について考え、健康に障害を持つ人々を援助する技術を修得できるよう、学内での体験(ロールプレイ)を通じ理解させる。また看護の実践において重要となるコミュニケーションについて基本を教授する。	
	生活援助論Ⅱ	人間が生きていることを示す生活兆候について学修させる。活動と休息、排泄、清潔、衣生活について必要性と看護介入の内容と方法を理解させる。生命に影響を及ぼす因子について個々の活動と休息、排泄、清潔、衣生活のアセスメントを通じ、看護を提供する対象への関わりについて教授する。また、それらのアセスメントから、看護において観察、記録することの意義とその技術を教授する。	
	診療援助論Ⅰ	健康に障害をきたした人に対する診療を行う際の支援技術を学修させる。特に診療に関するものは、比較的高頻度で基本的な技術として感染予防、注射・輸液、酸素吸入、尿道留置カテーテル・導尿、深部静脈血栓予防、吸引等を行う際の基本的な技術とそのEBN(evidence based nursing)について理解する。また、ストレスにより生じる身体・精神的変化を理解し、対象が受ける治療や検査に伴うストレスを軽減させるために必要な看護の役割を教授する。	
	診療援助論Ⅱ	患者の看護においては、薬物療法や手術療法、放射線療法など、現代医療で行われている治療に伴う対象の反応・変化についての理解は不可欠である。健康に障害を来した人が、治療を受ける際に必要な看護援助の基本的方法を教授する。化学療法に伴う反応と経過に応じた看護ケアや手術により生じる身体・精神的変化、放射線療法の障害等について、高頻度における疾患を中心に教授する。	
	看護過程演習	看護実践の基本となる看護過程の展開について医療現場において遭遇しやすい状況(事例)について、paper patientを用いて看護計画を立案させる。これまで学修した知識を活用し患者の情報の収集、アセスメント(患者の健康障害に関連する要因を看護的視点で分析する)、看護診断に基づく具体的なケア方針、方法の提示等を行い、看護学実習時に必要な知識・技術を教授する。	
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	わが国は少子超高齢化はより伸展し、生産年齢人口が減少する一方、老年人口特に後期高齢者の増加が著しい。人口及び疾病構造の変化、医療の進歩、家族形態の多様化により療養の場は病院だけでなく地域における多様な場に移行しつつある。疾病や障害を持ちながら地域で生活している人がすべて看護の対象である。今後、ますます在宅看護のニーズが増大する。地域・在宅看護概論では、このようなわが国の地域における在宅看護の現状を踏まえ、地域在宅医療における看護の役割について学修し、今後の地域包括ケアのあり方について教授する。	
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	地域・在宅看護援助論Ⅰでは、地域在宅看護を実践するために必要な知識・技術・態度を教授する。療養者の日常生活を生活行為として総合的に見る眼を養い、療養者本人の自立、介護者の介護の軽減を図ることができる看護技術や在宅での工夫を教授する。また、在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護、本人・家族への指導方法を教授する。	
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	地域・在宅看護援助論Ⅱでは、事例を用いた看護過程の展開をし、看護計画を立案する。居宅で生活する健康障害やそれに伴う生活障害を持つ療養者とその家族の看護過程の展開方法を修得させる。	
	外来看護論	医療の現場においてはDPCの導入等により、入院患者の在院日数の短縮化、在宅医療の重視等、従来の病院内における患者を取り巻く環境が急速に変化している。また、入院患者は身体側面のみならず、物心両面における問題を抱えたまま早期の退院を余儀なくされるので、退院後のニーズは大きく多様化する。従って外来看護のニーズも質量共に変容している。看護の役割は、外来での診療支援のみならず、心理、社会面において患者の自律を助けるだけでなく、家族支援、地域連携活動、専門看護師による専門外来の活動など多様である。この授業では、今日の医療の動向を把握し現実的な課題を概説する。	

学科専門科目群  
専門分野

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学部看護学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専門科目群	成人看護学	成人看護学概論	ライフサイクルの中で、特に成人期における看護の特徴を、発達、行動、社会、健康の側面から総合的に教授する。成人看護学の対象となる成人各期の発達段階の特徴や生活習慣に関連する健康問題、疾病罹患と治療などを現在の社会背景をふまえて理解する。そのうえで成人期の患者の看護ケアに必要な理論や看護のアプローチ方法について教授する。		
		成人看護援助論Ⅰ	周手術期から回復期にある患者およびその家族の看護について学修させる。手術を受ける患者の特徴と麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応や術後合併症を理解させ、手術前から手術後の合併症予防、苦痛の緩和、ADL拡大、機能回復、退院後の社会復帰を視野に入れた看護について教授する。周手術期ならびに急性期を通過し、回復過程にある成人期の患者がスムーズに社会復帰または、在宅での療養生活ができるようなシステムや看護支援について理解し、患者及び家族の回復期に必要な看護を教授する。		
		成人看護援助論Ⅱ	成人期の患者の看護実践に必要な看護過程の展開を、ゴードンの機能的健康パターンに基づき教授する。周手術期から回復期にある患者の事例を用いて、看護に必要な基礎的知識と成人各期の特徴をふまえた科学的根拠に基づくアセスメントの仕方について教授する。アセスメントから看護診断を導き関連図を作成し、看護実践につなげるための看護計画を立案させる。		
		成人看護援助論Ⅲ	クリティカルケアの概念、対象について教授する。生命の危機的状況にある成人を対象に、急激に変化する身体状況に応じて必要な看護ケアを学び、緊急時に必要な基本的看護の目的と基本的な技術を修得させる。「ストレスコーピング理論」、「危機理論」等を学び、身体状況の変化に伴う対象の精神的变化を理解し、状況に応じた必要な支援方法を教授する。疾病統計、死因の上位にある心筋梗塞・脳卒中等の疾患に罹患した事例を用い、対象に必要な看護について理解させる。		
	成人看護学	成人看護援助論Ⅳ	慢性期、終末期にある患者及びその家族の看護について教授する。慢性的な経過をたどる状態にある対象の身体的、精神的、社会的側面において、家族を含めた特徴を理解する。セルフケア、自己効力、ヘルスプロモーションについて学び、対象を取り巻く社会環境や家族の看護視点から必要なかわりについて教授する。また終末期では自己の死生観看護観を深め、死を迎えつつある人とのコミュニケーション、家族のケアについても教授する。満足した看取りができるための緩和ケア及び臨死期の看護や悲嘆とそのプロセスに応じた看護援助ならびにグリーフケアについても教授する。		
		老年看護学概論	老年期の特徴や加齢に伴う心身の変化等を理解し、高齢者ケアにおける看護の役割とその活動を概観する。特に高齢者の健康管理や障害予防、ライフスタイルを尊重した生活支援、高齢者のQOLや権利擁護などのケアの基本的な視点や考え方を教授する。また、老年者の保健医療福祉サービスの現状や家族支援等を教授する。		
		老年看護援助論Ⅰ	老年期における健康障害のある対象者の特徴を理解し、在宅や保健医療施設と連携した看護について概説する。対象者やその家族とのコミュニケーションおよび関係の成立について理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護のあり方を教授する。		
	老年看護学	老年看護援助論Ⅱ	老年期における健康障害のある対象者の特徴を理解し、基礎的な看護技術を理解する。対象者のQOLを維持する看護支援方法、対象者とその家族に対する指導方法、老年期患者の看護過程の展開について教授する。		
		母性看護学	母性看護学概論	性と生殖に関する健康と権利「リプロダクティブヘルス・ライツ」の視点から、女性の各ライフステージにおける生涯を通じた健康支援について学修させ、現在社会における女性の健康課題について理解させる。	
			母性看護援助論Ⅰ	女性のライフサイクルにおける特徴を理解し、母性看護に必要なアセスメント能力を養う。特に、女性の生殖器の解剖、性周期と内分泌変化、内分泌学的に見た病態、妊娠の成立と経過、正常分娩、妊娠・分娩・産褥の主な病態、産褥の生理的变化、新生児期の特徴と生理的变化、子宮・卵巣の疾患、不妊治療などについて理解する。また、正常妊娠の事例を展開し、出産に伴う身体的、精神的変化や家族への指導等について教授する。	
	母性看護援助論Ⅱ		人間のライフサイクルにおける性と生殖について①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的特性(生理的变化)、②周産期における女性と家族の心理的・社会的特性(役割)の変化について、③ウェルネスの看護過程に基づき、看護の展開、④事例を通してフィジカルアセスメントを行い、健康レベルを評価する、⑤よりよい健康レベルに向けた看護の必要性を理解し実践する、⑥妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における正常からの逸脱を予防し、より良い経過を促進するための看護、健康教育を理解する。これらについて基礎的知識を修得し、産み育てる女性の健康支援について教授する。		
	小児看護学概論	小児看護の目標①「小児看護の特徴とその目的を理解する」、目標②「子どもの成長・発達と発達課題を理解する」、目標③「小児看護において重要な発達理論の概要を学ぶ」、目標④「子どもの各期の特徴を総合的に理解する」目標⑤「子どもと家族を取り巻く社会と問題について理解する」上記において看護の役割を理解するとともに、子どもの成長・発達の過程を身体的、精神的、社会的側面から教授する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群           専 門 分 野           看 護 の 統 合 と 実 践 I	小児看護学	小児看護援助論 I	小児各期の発達課題や発達過程をふまえて、各期におけるヘルスアセスメント(フィジカル・メンタル・ソーシャル等の生活機能アセスメント)、看護診断、EBNとEBMに基づく看護ケア計画立案能力を養う。また小児をとりまく家族、地域社会について基礎的知識や今日の課題を教授する。
		小児看護援助論 II	小児看護学概論、小児看護援助論 I での学修を統合し、事例を通して看護過程の展開を行い、問題解決の思考過程を学修するとともに、小児看護における基本的な援助技術を修得させる。 1. 小児各期の発達段階をふまえて、ヘルスアセスメントをおこない、看護計画を立案する能力を養う。 2. 子どもの発達段階および日常生活をふまえ、個別性を考慮した援助を考える。 3. 健康障害をもつ子どもに対する基本的な小児看護技術を修得させる。
	精神看護学	精神看護学概論	精神看護学概論では、精神看護実践の対象となる人々を理解しケアするために基礎知識となる理論・モデルの他、歴史・法制度および精神保健医療福祉の動向に触れる。さらに、精神看護実践の対象となる人々の視点を多く取り入れ、当事者・家族の主観的体験、および、人権擁護について教授する。
		精神看護援助論 I	精神の成長発達の構造とプロセスの特徴をふまえ、精神の発達や精神健康、精神健康への影響要因、また精神の障害に関するアセスメントについて理論を用いて教授する。また精神健康に問題のある患者に対するアセスメント、看護診断、EBNとEBMに基づくケア計画などの看護過程展開について、看護モデルを適用して教授する。
		精神看護援助論 II	精神看護援助論 II では、既修の知識・技術を統合しながら、精神看護実践の主たる対象者を理解しケアするための視点に触れる。具体的には、演習を多く取り入れ、セルフケアおよびストレスを視点とした対象者理解とケアの具体化について教授する。
	健康教育論	これまで、健康や疾病の治療は専門家に委ねることが国民の認識の主流であった。今日では人々の健康に対する関心は高く、高齢化社会を迎えた21世紀のライフスタイルを構築する上で、健康生活は重要な課題と認識されるに至っている。そういった背景をふまえて、ここでは健康教育に関する本質、すなわちクライアントが主体的に行動変容を目指すような教育的関わりを教授する。	
	家族看護学	家族のあり方が多様化する現代、家族そのものが看護の対象として重要視されている。この科目では、看護の対象である、「家族」の意味とそのダイナミクスを理解させ、家族のアセスメント、家族支援の基本について学修させる。家族の概念、形態、機能を理解し、健康問題のある家族へのアセスメントおよび介入方法について、家族アセスメントモデル等の家族看護諸理論、および、家族看護過程の展開をとおして理解させるとともに、家族看護の役割を理解することを目標とする。	
	看護管理論	施設内の看護部門を、効果的に運営していくために必要な管理に関する基礎的知識を教授する。看護における組織運営とは、患者に安全で安楽なケアを提供するための看護職者による活動の過程であるとともに、専門職者として成長できるような労働環境を形成する過程である。この過程は、目標を達成する一連の行為または運用であり、特に、データ収集、計画、指導および統制について、講義やディスカッションを通し教授する。また、一般の看護職者として知識や技術を応用し現代社会に必要とされるリーダーシップ能力を修得させる。	
	災害・国際看護論	グローバル化した現代において国際看護が重視されている。ここでは世界の人々の健康、保健医療サービスレベルを知り具体的な対策を世界的規模で人口・南北問題、ジェンダーの視点から理解させる。世界の保健医療の現状、国際保健医療協力の体制及び方法論等について学修させる。 災害看護では、災害に対する知識を深め、災害看護の対象である被災者がどのような健康問題に直面し、どのような心の問題を抱えているかを理解させる。また災害が人々の健康や生活に与える影響についても考え概説する。	
	養護概説	養護教諭は学校保健を推進するために中核的役割を担っているため、養護教諭の実践を貫く「養護」について体系的な学びが必要となる。本講義では養護教諭の歴史の変遷を理解し、養護教諭の職務の特性と専門性により、「養護教諭が実践する養護とは何か」を解説し、創造的な養護教諭の実践能力について教授する。さらに、養護教諭に必要な教育者としての資質・能力を培い、子どもの健やかな発達に必要な養護を教育として実践する能力の修得を目標とする。	
	学校保健	学校保健の意義と目的を理解し、学校保健管理・保健指導を円滑に運営するための学校保健安全法及び学校教育関連法規を基に、それぞれの領域での取り組みの実際について具体的に教授する。学校保健は学校安全・危機管理や食育にも関連するためこれらについても教授する。学生の積極的な参加と相互の学修により実践能力を修得することを目標とする。	
	健康相談活動論	児童生徒の心身の健康に関する問題について、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、心身の観察、問題の背景を的確に捉え、関係者が連携し相談を通して問題の解決を図り、学校生活によりよく適応できる能力の修得を目標とする。教職員が行う健康観察や健康相談に心身両面から対応できる健康相談の理論と実践する能力を身につけ、校内及び校外の専門機関と連携するために養護教諭の専門的役割を教授する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学部看護学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 科 専 門 科 目 群	専 門 分 野	臨 地 実 習	基礎看護学実習 I	生活援助論の講義により修得した看護の基礎的技術や知識、コミュニケーションを活用し、医療施設内で対象者にに関わり体験することで、知識を確実な技術へと進歩させるプロセスを教授する。また、看護実践を見学・実施することで、看護の実際や入院生活の実際を知ることを通して、さまざまな場所における看護、看護師の活躍の場を患者を受け持ち関わる中から修得させる。これは以後の看護学学修の動機づけとなる。	
			基礎看護学実習 II	これまで修得した基礎知識や技術を活用し、実際に入院生活をおくる対象者に看護ケアを提供するプロセスを教授する。これは、個々に受け持った対象者に応じたアセスメント、計画の立案、安全に援助を実施することを通して看護の意味を学修することを指す。また、様々な状況における看護の実際、入院生活の実際、看護師の活躍の場を体験し自己の課題と看護の課題について考えさせる。	
			地域・在宅看護論実習 I	地域包括ケアシステムで働く多様な看護の場を理解し、療養者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを行うために必要な資源について知る。地域で実践している看護や地域活動の実際を知り、地域で暮らす人々の生活を健康ニーズを考察し、多様な対象に提供される看護について考えさせる。	
			地域・在宅看護論実習 II	訪問看護を利用している療養者・家族に実際にに関わり、在宅看護に必要な支援・援助を実践的に学修させる。対象の健康状態に応じた看護について、疾病や障害をもちながら地域で生活する人々とその家族の住環境や生活背景を含めた援助や援助システムについて考察する。また、病院、介護施設と在宅療養の連携の重要性や課題を理解し、保健・医療・福祉の連携に必要な看護の役割について実践を通して理解させる。	
			成人看護学実習 I (急性)	成人期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえ、健康問題に伴うストレスや危機的状況にある対象・その家族に対し、これまでの講義で学修した看護理論に基づいた看護実践を体験的に学び、個別のかつ全人的な看護を実践する能力を養う。生命の危機的状況や身体機能に急激な変化が予測される対象・その家族の病態生理的、状況的、治療的関連因子を理解し、生命の維持、苦痛の緩和、日常生活・生活機能の回復に向け、対象の成長発達段階に応じた適応を促進させるための看護実践能力を養う。また、実際の医療チームにおける看護の役割を修得させる。	
			成人看護学実習 II (慢性)	成人期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえ、慢性的な経過をたどる状態あるいは終末期状態などの幅広い健康状態にある対象・その家族に対し、既修得知識を活用し、個別のかつ全人的な看護を実践する能力を養う。対象のニーズを満たし、QOLの向上につなげるためのセルフケア、ソーシャルサポートに関する基礎的な実践力を獲得する。慢性期にある対象への、生活習慣の改善に対する効果的指導方法を個別の実践を通して修得させる。	
			老年看護学実習	老年期における健康問題の特徴をふまえ、疾病による入院治療に必要な老年期の患者に対し、既修得知識や技術を活用し、アセスメント、看護診断、計画立案、実践、評価といった看護過程を展開し、看護の役割を実践を通して理解し、老年症候群や認知症について実践的に修得させる。高齢者ケア施設の概要、様々な施設で生活する老年期の人々の健康問題や生活過程、施設サービスにおける看護職の役割について学修させる。	
			母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護学援助論 I・IIでの学びを踏まえ、周産期の母子に対する看護の基礎的な実践能力を養う。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、女性の生涯を通じた看護を計画的に実施する能力を養う。また、新しい生命を受け入れる家族に対する教育的かかわりを実践的に学修させる。	
			小児看護学実習	それぞれの発達段階にある小児期の子どもを総合的にとらえ、それぞれの小児のニーズに対応した適切な看護ケアを計画的に実践する。内容的には、健康な小児に対する遊びや学習を主とした実践(保育園実習)と病児に対する看護(医療施設の実習：アセスメント・看護診断・計画立案・看護実践・評価)について実践的に教授する。	
精神看護学実習	精神疾患で入院治療が必要な患者に対する看護を実践を通して理解させる。ここでは精神疾患患者の言動を観察し、身体症状との関連を考えるとともに、患者に対する治療法ならびに患者の疾病受容の程度、患者の対人関係力、家族や地域社会とのかかわりについてアセスメントし、看護診断・計画立案・実践・評価といった一連の看護過程を実践する。また、実習を通して病院以外での精神疾患患者にとって開かれた保健・福祉施設について見識を拡大し、看護師の役割を実践的に修得させる。				

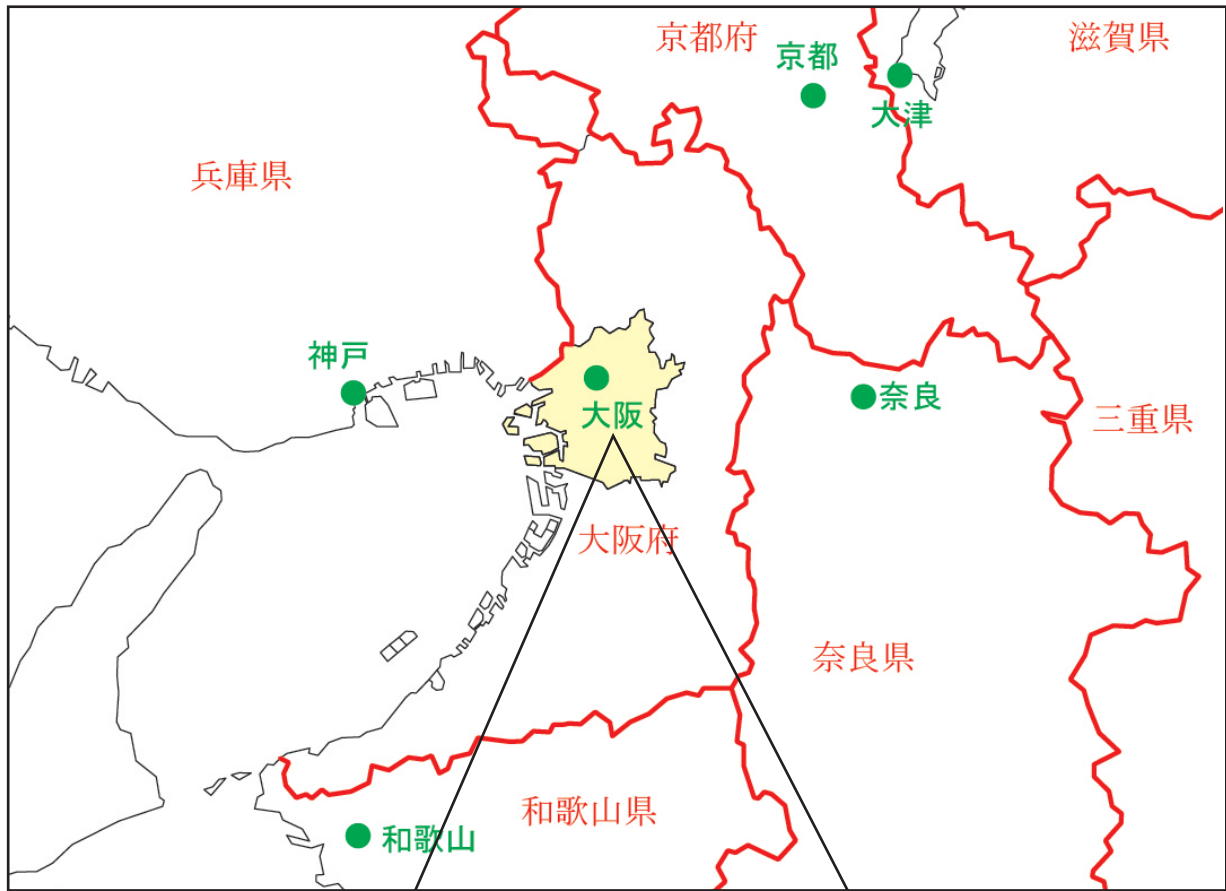
授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群 専門分野 公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習	本実習科目は、保健師国家試験受験資格を取得する学生のための教科目である。行政における保健師活動を通して、保健・医療・福祉システムの現状を学び、個人、家族、集団への公衆衛生看護活動を実践的に教授する。地域で生活する人々の現状から健康に関する課題を明らかにし、個人や集団の健康・生活の質向上に必要な対策を明確にし、住民主体で取り組み、継続していくための行政における支援方法を理解する。また、これらの実践プロセスを通じ、保健師に必要な知識・技術を修得する。	
	主題実習Ⅰ	3年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習から興味のある領域を選択し、その領域の中から、さらに各自（あるいはグループ）がテーマ（主題）を決めて実習計画を立案し、実践してまとめ、基礎教育課程における実習の集大成とする。テーマはこれまでの実習では経験しなかったものや、その領域における専門性を深め、スキルを高めるものとする。なお、各領域においてはサブカテゴリーのテーマを用意しておき、学生がさらにテーマを焦点化する。領域は基礎看護学、成人看護学（周手術・急性期）、成人看護学（慢性・回復・終末期）、母性・小児看護学、在宅・老年看護学、精神看護学、公衆衛生看護学の7領域とする。この領域からサブカテゴリーが提案されている。	
	主題実習Ⅱ	本実習科目は、保健師国家試験受験資格を取得する学生のための教科目である。公衆衛生看護学実習では経験できなかった分野の実習を行い、個人、家族、集団の健康課題と支援を考える力を身につける。また、公衆衛生看護学実習をさらに展開させ、地域診断、計画作成、実施、評価、修正のプロセスを実践する。	
	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の歴史の変遷を踏まえ、地域に生活する人々の暮らしと健康を守る意味について概説する。公衆衛生看護の対象となる個人、家族、集団、地域への看護活動を行うための、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの概念を理解し、それらに基づいた公衆衛生看護活動の本質や展開方法について理解させる。さらに、公衆衛生看護の視点から理念、目的、活動の場、および公衆衛生看護の機能と役割を理解するための基本的な原則を教授する。	
	公衆衛生看護学演習	公衆衛生看護学活動論ⅠおよびⅡにおける対象別活動論について、それぞれの分野での演習を行うことにより、課題を持ちながら地域でくらす人々へのかかわり方を教授する。	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	看護職は、患者の疾病のみを見るのではなく、患者の全体をとらえることが必要である。患者および患者の健康生活に影響をおよぼす要因や内容を理解し、看護を展開していくことが基本となる。公衆衛生看護は、地域で生活するあらゆる健康レベルの人々を対象に健康や生活の質（QOL）の向上を目的とする。ここでは、“パートナーとしてのコミュニティ”の考え方を基本として、乳幼児から高齢者までの各ライフサイクルに応じた公衆衛生看護活動を展開するための理論について教授する。	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	保健師活動（家庭訪問や各種健康教育事業等）に必要な基本的な技術を学修する。事例を用いてグループ討論を行い、学修の結果を発表することを通じて、技術を修得する。公衆衛生看護に関連する既習の知識、技術を統合し、実践で応用できるように動機づけを行う。	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	学校保健の意義と目的を考え、学校保健推進の中核的役割を果たす養護教諭の役割、職務の特質と保健室の機能を理解させる。養護の概念、養護教諭制度の変遷、学校保健の領域について学修させる。学校保健安全法をはじめ関連法規について理解し、地域の中の学校保健として児童生徒の健康の実態を把握し、慢性疾患や障害を持つ児童生徒の理解、感染症の予防、学校危機管理、学校環境管理について教授する。近年の社会情勢を鑑み、いじめ、児童虐待、不登校、現代的健康課題への対応を学び、地域保健と学校保健の役割と連携のあり方を理解させる。また、産業保健では、職業性疾病や過労死、生活習慣病の予防、メンタルヘルスケアの推進など労働者の心身における健康の保持増進を図ることが必要である。これらを達成するために、職場における産業医、産業看護職、衛生管理者等の専門職種が労働者を支援していることを理解させる。また、産業保健の歴史や労働安全衛生法を中心とした関係法令等について解説し、労働衛生の基本と産業保健師の役割を教授する。	
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	大気汚染や水質汚濁など生活環境の汚染問題や深刻な健康影響をもたらした公害問題などから環境問題について理解させ、地球規模での環境問題や環境が人間におよぼす健康への影響を学修し、さらには人の健康の保持増進と疾病予防について理解させる。また、災害看護の定義・目的を理解し、災害予防対策期や災害応急対策、災害復旧・復興対策期における保健師の機能や、国際的な広がりを持つ健康課題に対処するために各国の協力のもとに行われる国際保健医療活動の意義と必要性について理解させる。	
	公衆衛生看護管理論	地域で生活する個人、集団に対する援助方法や活動支援に必要な政策論について解説し、地域住民が、健康を保持・増進するため、主体的な行動変容に必要な支援方法について教授する。地域で生活する人々の健康や生活にかかわる具体的な事例を取り上げ、保健・医療・福祉の視点からアセスメントし保健計画策定の過程を通して、保健・医療・福祉に関する広範な状況に対して適切に対処する方法を教授する。	
	保健医療福祉行政論	少子高齢化社会において保健師として公衆衛生看護を実践する上で不可欠な知識として、保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容を教授する。さらに、健康に暮らせる地域づくりを実現する上で、現実の課題や福祉の視点も加味し、保健福祉計画の策定から評価まで具体的な企画力を教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群  専門分野  看護の統合と実践Ⅱ  教職に関する科目	看護研究	看護学が発展するためには、新たな知識を獲得、拡大していかなければならない。また専門職としてはEBNとEBMに基づく実践が求められている。看護実践者が、看護における未解決の課題に取り組んだり、実践に新たな知見を活用することは重要視されている。ここでは看護研究の目的や意義が理解でき、看護研究の代表的な種類について、「因子探索研究」「関係探索研究」「因果仮説検証研究」について研究の特徴とまとめ方(論文の書き方)を学修させる。学士課程における「看護研究」の目指すものは、研究に対する基礎知識を理解し、研究論文のクリティークができ、看護実践にその知見を活用することである。このことを視野に入れて以下の内容を計画する。なお、看護研究における倫理規定については深く教授する。	
	卒業研究	「看護研究」を通して明らかにした各自の研究計画をもとに研究を行い、卒業論文にまとめさせる。テーマ決定、先行論文のクリティーク、計画設計、データ収集、分析、プレゼンテーションといった一連のプロセスを実践し看護における研究の意義を深く学修させる。また、看護実践(患者・家族等に対するケア方法)において未解決の課題に対して、先行研究の知見を活用することを教授する。	
	臨床看護学セミナーⅠ	形態機能学(解剖生理学)・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立つ事が出来る方法論の獲得を目標とする。具体的には、呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・内分泌代謝系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を明らかにし、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得させる。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を考えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。	
	臨床看護学セミナーⅡ	形態機能学(解剖生理学)・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立つ事が出来る方法論の獲得を目標とする。具体的には、脳神経系・感覚器系・運動器系・造血器系・生体防御系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を考え、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得させる。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を考えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。	
	公衆衛生看護セミナー	現在の社会的背景として、少子高齢化の進展、経済状況の低迷、自然災害の発生など地域でくらす人々の健康課題は、多様化と深刻化の一途を辿っており、保健師には高度な力量が求められている。しかし、看護の基礎教育と並行して行う保健師教育の卒業時における到達度は高いとは言えない現状である。そこで、本教科では主題実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習、主題実習Ⅱの公衆衛生看護学領域全ての実習が終了した時点で、「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」について自己評価を行い、保健師としての実践能力を修得させる。	
	臨床看護技術セミナー	医療の高度化や在院日数の短縮化、医療安全に対する意識の高まりなど国民のニーズの変化を背景に、臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との間には乖離が生じ、その乖離が新人看護職員の離職の一因であると指摘されている。そこで、看護基礎教育では、「看護師教育の技術と卒業時の到達度」を設定しこれを基に、卒業時点で一定の看護実践能力が修得できるよう、自立してできるよう設定した技術項目について技術演習を行う。	
	教育原理	日本の社会と学校で生起している教育事象、とりわけ学校教育を取り巻く諸問題を取り上げ、それらの事象や問題に含まれている教育課題を考察しつつ、教育の原理について教授していく。また、適宜、資料を配布したり、ビデオ活用や受講者同志でのディスカッションを行う。	
	教職論	教員の仕事、教員の養成、採用、研修、地位と待遇、生甲斐と向上への努力等について知識と理解とを得ると共に、日本の教育と世界の教育の動向をも踏まえた知識人としての教員養成を目的とする。また、教員の使命と責務を自覚し、職責を遂行する教員の養成を目指す。	
	教育行政学	今日の日本社会や学校教育において生起している教育行政に関する諸問題について、教育学及び教育行政学視点から考察する。専門職としての教師にとって必要な、教育行政における基礎知識及び技術を教授する。また、適宜、ビデオや情報機器の活用、ディスカッションを講義に取り入れる。	
	教育心理学	教育心理学は心理学で得られた知見を教育現場に応用する科学である。本講義では、学校教育を考える上で、教育心理学に関するさまざまな知識や技術を教授する。また、近年、「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「学習障害」といった学校をめぐる出来事が社会問題化してきていることについて、教育心理学の基本的知識を教授し、実際の教育現場をイメージしながら考える基礎を養うことを主な目標とする。	
特別支援教育概論	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育課程論	教育課程とは、カリキュラム (Curriculum) の訳語であり、学校における教育計画の全体像である。本講義では、日本における教育課程の理想と現実の問題点について教授し、学習指導要領の基本方針など、指導法を学んでいくための前提となる知識を身につけることを主たる内容とする。	
	道徳教育論	道徳教育の理論と方法の両面にわたる学びを通して、自らの道徳性や倫理観を養い、子どもたちと共に考える姿勢や子どもたちを惹きつける指導法の工夫などに資する知識・技能について教授する。学校教育現場で行われている指導方法について、実践を交えて紹介しながら、発問の仕方などについて受講生と共に分析していく。その結果を踏まえて、学習指導案作成を課題とし、グループやペアでのワークなどを積極的に取り入れ、本講義での学習経験が将来の授業(生命尊重など)実践につながることを主な目標とする。	
	総合的な学習の時間の指導法	「総合的な学習の時間」について、創設された背景やその後の経過を知り、その理念や意義について理解する。また、「総合的な学習の時間」の目標や内容を理解する。また、新学習指導要領における「総合的な学習の時間」で育てようとする資質や能力について理解する、横断的・総合的な学習や探究的な学習について理解する、指導計画の作成について理解するという3点について理解を深める。「総合的な学習の時間」は、授業内容や方法は各学校の指導にゆだねられているので、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要がある。大阪市立中学校の具体的な実践事例などを通して、「総合的な学習の時間」を構想できる基礎的・基本的な知識・技能を身につけることを主眼としている。	
	特別活動論	① 特別活動についての意義や内容、その指導法を教授する。 ② 特別活動のあり方を、児童・生徒の集団のあり方と教師のかかわり方、指導のあり方の観点から考察し、指導のあり方について、受講者でディスカッションする。 ③家庭や地域との連携を視野に入れ、特別活動の課題と展望について探求する。	
	教育方法論	教師になったときに必要となる教育の方法、技術、評価方法について基本知識及び技術を教授する。また、教科書及び配付新聞記事等をもとにして、さまざまな教育の方法について教授する。その際、教育実習における現実の問題点についても、絶えず頭において考察していく。	
	生徒指導論	本講義では、現代社会を生きる生徒達に民主的な人格を形成し、自立した市民としての成長を促す生徒指導の在り方を教授し、学級指導や生徒会活動を中心に、自主活動の指導法について、対話をしながら考察させる。また、生徒指導に関する理論を、様々な実践例をあげながら解説し、教育実践の中に教育理論がどのように生かされているかという点を教授する。	
	教育相談の基礎と方法	教育相談の目的は、子ども一人ひとりの心身の成長発達にかかる支援であるが、発達や教育には課題が山積している。子どもの心理・発達の問題に適切に対処するには、状況を理論的にとらえ、理論的理解に基づくより効果的な対応を行う必要がある。本講義では、子どもの抱える問題を教育現場の状況を踏まえながら考察し、子どもの心理・発達の諸問題に関する理論および対応の基礎を教授する。	
	養護実習 (事前事後指導を含む)	本実習においては、各専門領域の臨地実習を基盤に、看護の視点を持った養護教諭の職務について理解させ、学校現場における健康課題に対する実践能力を養い、学校保健とは何かを理解させる。また、実習を通して指導案の作成や教材研究等実践的な指導力を身に付けるとともに、学級経営、生徒指導、教育相談、特別活動等の教育活動全体を通して児童・生徒の実態や教員の職務への理解を深めることを目的とする。	
	教職実践演習 (養護教諭)	学生の臨地実習の学びの報告、学友の実習報告を基に自分が経験できなかった校種の学校保健活動と養護教諭の実践を共有し、養護教諭の資質について自己評価させる。さらに教育者として養護教諭に求められる使命感、責任感、教育力、社会性、対人能力、児童生徒理解、保健室経営、保健管理・保健指導の向上を図る観点から、研究発表、演習・役割演技を取り入れたグループワークと評価により、学校教育における養護教諭の実践力を身につけることを目的とする。	



# 森ノ宮医療大学 府内における位置関係



# 森ノ宮医療大学 最寄り駅からの距離、周辺地図



大阪メトロ中央線 コスモスクエア駅より約 80m 徒歩 1 分

# 森ノ宮医療大学 校舎、運動場等の配置図



森ノ宮医療大学の校地面積…30,495.44㎡

森ノ宮医療大学の校舎面積…28,853.21㎡

- 全学で共用する校舎 (一部、看護学科の専用部分を含む)
- 全学で共用する校舎 (一部、他学科等の専用部分を含む)
- 全学で共用する校舎

# 森ノ宮医療大学

## 学 則（案）

第一章	目的
第二章	自己点検評価及び第三者評価
第三章	学部・学科等及び附属施設
第四章	学年、学期及び休業日
第五章	修業年限及び在学年限
第六章	入学
第七章	教育課程、履修方法等
第八章	休学、復学、転学、退学及び除籍
第九章	卒業及び学位
第十章	科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴 講生及び外国人留学生
第十一章	職員組織
第十二章	教授会、各種委員等
第十三章	入学検定料、入学料、授業料等
第十四章	賞罰
第十五章	大学開放及び生涯学習事業
第十六章	雑則

## 第一章 目的

(目的)

第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。

## 第二章 自己点検評価及び第三者評価

(自己点検評価及び第三者評価)

- 第2条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育・研究・組織・運営・施設及び設備の状況について、自己点検評価を行う。
- 2 自己点検評価に関する必要な事項は別に定める。
  - 3 本学は前項の措置に加え、その教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。
  - 4 自己点検評価および第三者評価の結果を公表するものとする。

(情報の積極的な公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって積極的にその情報を公開するものとする。

## 第三章 学部・学科等及び附属施設

(学部、学科、入学定員及び収容定員)

- 第4条 本学に看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部を置く。
- 2 看護学部に看護学科を置き、総合リハビリテーション学部に理学療法学科及び作業療法学科を置き、医療技術学部に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。
  - 3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
看護学部	看護学科	90	360
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	280
	作業療法学科	40	160

医療技術学部	鍼灸学科	60	240
	臨床検査学科	70	280
	臨床工学科	60	240
	診療放射線学科	80	320
合計		470	1880

4 医療技術学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。

5 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。

#### (学部の目的)

第4条の2 前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。
- (3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。

#### (学科の目的)

第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材の育成を目的とする。
- (3) 総合リハビリテーション学部作業療法学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にす感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。
- (4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。

(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(大学院)

第4条の4 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

第4条の5 本学に次の専攻科を置く。

(1) 助産学専攻科

2 専攻科に関する規則は別に定める。

(附属施設)

第5条 本学に次の附属施設を置く。

(1) 附属図書館

(2) 附属臨床実習施設

2 前項の附属施設に関し必要な事項は別に定める。

## 第四章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期にわけるとする。

(1) 前期4月1日から9月30日まで

(2) 後期10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
  - (3) 春期休業日 3月21日から3月31日まで
  - (4) 夏期休業日 8月11日から9月30日まで
  - (5) 冬期休業日 12月25日から1月7日まで
- 2 学長は前項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

## 第五章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第10条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学した学生は、第19条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

## 第六章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

2 ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学する場合及び特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者



(6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) 前各号に定める者の他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、入学願書に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第16条 学長は、編入学を志望するものがあるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に編入学を許可することができる。

2 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

(1) 大学及び短期大学の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(2) 高等専門学校の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(3) 学校教育法第三十二条に定める専修学校を卒業した者か、卒業見込みの者

(転入学)

第17条 学長は、他の大学に在籍しているもので、本学への転入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第18条 学長は、再入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第19条 第16条、第17条、第18条の規定により入学を許可された者が既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

## 第七章 教育課程、履修方法等

### (教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

第21条 授業は、講義、演習、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第22条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

### (単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実習については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

### (1年間の授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週とすることを原則とする。

### (単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者に、担当の教員は所定の単位を与える。

- 2 前項の試験は、当該授業科目を履修した者でなければ、受けることができない。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、優、良、可及び不可の4段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。

(試験の種類)

第27条 各授業科目の試験は、定期試験、追試験、再試験及び臨時試験等とする。

(入学前及び在学時における他大学等での既修得単位等の認定)

第28条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等で履修した授業科目について修得した単位(大学等で科目等履修生として修得した単位を含む)を、該当する授業科目を本学において履修及び修得したものと見なし、単位を与えることができる。

2 学長は教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学等と協議の上、学生が授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第16条の編入学、第17条の転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科スポーツ特修コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育

2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の看護学部看護学科の教育課程及び別表第5の医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

## 第八章 休学、復学、転学、退学及び除籍

(休学)

第29条 疾病その他やむを得ない事情により3ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合において、学長の許可を得たときは、この限りでない。
- 3 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学の期間は第10条に規定する在学年限に算入しない。

(復学)

第30条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第31条 本学への在学期間中、他の大学等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第32条 退学しようとするものは、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第33条 次の各号に該当する者は、学長が除籍することができる。

- (1) 第10条の規定により定められた在学年限を超えた者
  - (2) 第29条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者
  - (3) 授業料を納入しない者
  - (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 前項(3)により除籍となった者が、所定の期日内に学費を納付した場合、復籍を認めることがある。

## 第九章 卒業及び学位

(卒業)

第34条 本学に4年(第16条、第17条、第18条の規定により入学したものについては、第19条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、単位を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

- 2 学長は、前項の卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)

総合リハビリテーション学部	理学療法学科 作業療法学科	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）
医療技術学部	鍼灸学科 臨床検査学科 臨床工学科 診療放射線学科	学士（鍼灸学） 学士（臨床検査学） 学士（臨床工学） 学士（診療放射線学）

## 第十章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

### （科目等履修生）

第36条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

### （研究生）

第37条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

2 研究生となることを志願することができる者は大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

### （聴講生）

第38条 本学において、特定の授業科目について聴講を志願するものがあるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

### （特別聴講生）

第38条の2 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下この条において同じ）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長は、特別聴講生として入学を許可することができる。

### （外国人留学生）

第39条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

## 第十一章 職員組織

### （職員）

第40条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の必要な職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合には副学長を置くことができる。

(各組織の長)

第41条 本学に、学長のほか、事務局長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、附属臨床実習施設長、及び附属図書館長等を置く。

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

5 学部長は、本学の教授をもって充て、各学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。

7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。

8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

## 第十二章 教授会、各種委員等

(教授会)

第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第44条 本学に、専門事項を審議する専門委員会を置く。

2 専門委員会は学長の付託を受け専門事項を審議する。

3 専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

## 第十三章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第10のとおりとする。

(授業料等の納付)

第46条 本学の学生の授業料等は4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とし、その年額の2分の1に相当する額を、学長が指定した日までに納付しなければならない。

2 経済的事由により授業料等の納付が困難であって、学業優秀と認められた者その他やむを得ない事情があると認められた者については、授業料等の全部若しくは一部の納付を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

3 第29条により休学を認められた学生の学納金は、各学期の授業料の5分の1とする。

4 既に納付した入学検定料、授業料は、返還しない。

## 第十四章 賞罰

(表彰)

第47条 学長は、表彰に値する行為があった学生を表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

## 第十五章 大学開放及び生涯学習事業

(大学開放)

第49条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第50条 本学は、地域社会の発展に寄与するため、生涯学習事業をとおして本学の教育研究資源の地域社会への還元に積極的に努めるものとする。

## 第十六章 雑則

(雑則)

第51条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は学長が別に定める。



附 則

- 1 この学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、第12条、第13条、第14条、第15条、第45条、第46条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成19年度	120人				120人
平成20年度	120人	120人			240人
平成21年度	120人	120人	120人		360人
平成22年度	120人	120人	120人	120人	480人

- 3 この学則は平成23年4月1日から施行する。
- 4 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成23年度	200人	120人	120人	120人	560人
平成24年度	200人	200人	120人	120人	640人
平成25年度	200人	200人	200人	120人	720人
平成26年度	200人	200人	200人	200人	800人

- 5 平成23年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 6 この学則は平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 7 この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 8 この学則は平成27年4月1日から施行する。
- 9 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成28年度	300人	200人	200人	200人	900人
平成29年度	300人	300人	200人	200人	1000人
平成30年度	300人	300人	300人	200人	1100人
平成31年度	300人	300人	300人	300人	1200人

- 10 この学則は平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 11 この学則は平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 12 この学則は平成30年4月1日から施行する。
- 13 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替

えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人

14 この学則は平成31年4月1日から施行する。

15 この学則は令和2年4月1日から施行する。

16 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
令和2年度	470人	380人	380人	300人	1530人
令和3年度	470人	470人	380人	380人	1700人
令和4年度	470人	470人	470人	380人	1790人
令和5年度	470人	470人	470人	470人	1880人

17 この学則は令和3年3月1日から施行する。

18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。

別表第1  
看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
			医療コミュニケーション	1	
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			2		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2		
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1
				形態機能学Ⅱ	1
	形態機能学Ⅲ	1			
	形態機能学Ⅳ	1			
	フィジカルアセスメント	2			
	生化学	2			
	発達心理学	2			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学		1	
		病理学		1	
		臨床薬理学		1	
		臨床病態学Ⅰ		1	
		臨床病態学Ⅱ		1	
		臨床病態学Ⅲ	1		
		臨床病態学Ⅳ	1		
		臨床病態学Ⅴ	1		
		臨床心理学	2		
		健康支援と社会保障制度	医療概論	1	
	公衆衛生学		2		
	専門基礎分野	看護関係法規	2		
		保健統計学	2		
		疫学	2		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1	
		看護理論	2	
		生活援助論Ⅰ	2	
		生活援助論Ⅱ	2	
		診療援助論Ⅰ	2	
		診療援助論Ⅱ	2	
		看護過程演習	1	
		在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
	外来看護論		1	
	成人看護学	成人看護学概論	2	
		成人看護援助論Ⅰ	1	
		成人看護援助論Ⅱ	1	
		成人看護援助論Ⅲ	1	
	看護学 老年	老年看護学概論	2	
		老年看護援助論Ⅰ	1	
		老年看護援助論Ⅱ	1	
		看護学 母性	母性看護学概論	2
	看護学 小児	母性看護援助論Ⅰ	1	
		母性看護援助論Ⅱ	1	
		小児看護学概論	2	
		小児看護援助論Ⅰ	1	
	看護学 精神	小児看護援助論Ⅱ	1	
		精神看護学概論	2	
		精神看護援助論Ⅰ	1	
		精神看護援助論Ⅱ	1	
	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2	
		家族看護学	1	
		看護管理論	1	
		災害・国際看護論	1	
		養護概説	2	
		学校保健	2	
		健康相談活動論	2	
		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1
			基礎看護学実習Ⅱ	2
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	1
	地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）		3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）		3	
	老年看護学実習		3	
	母性看護学実習		2	
	小児看護学実習		2	
	精神看護学実習		2	
	公衆衛生看護学実習	4		
	主題実習Ⅰ	2		
	主題実習Ⅱ	1		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
		公衆衛生看護学演習	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
公衆衛生看護活動論Ⅳ		2		
公衆衛生看護管理論		2		
保健医療福祉行政論		2		
研究	看護研究	1		
	卒業研究	2		
看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2		
	臨床看護学セミナーⅡ	2		
	公衆衛生看護セミナー	2		
	臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件（最低必要単位数）			127	

別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	1		
	運動学実習	1		
	臨床心理学	1		
	リハビリテーション概論	2		
	公衆衛生学	2		
	生化学	2		
	病理学	2		
	臨床病態学Ⅰ	2		
	臨床病態学Ⅱ	2		
	臨床病態学Ⅲ	2		
	整形外科学	2		
	小児科学（人間発達学）	2		
	精神医学	2		
	リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	2		
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	1		
	スポーツ医学	1		
	テーピング技術論	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
	法医学療法学	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
	発達障害理学療法学	1	
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	地域理学療法学	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法学	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
理学療法特論Ⅰ		1	
理学療法特論Ⅱ		1	
理学療法特論Ⅲ		2	
運動器系理学療法セミナー		1	
神経系理学療法セミナー		1	
内部障害系理学療法セミナー		1	
地域理学療法セミナー	1		
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ（運動器）
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	2		
	臨床運動学	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		2
		公衆衛生学		2
		生化学		2
		病理学		2
		臨床病態学Ⅰ		2
		臨床病態学Ⅱ	2	
		臨床病態学Ⅲ	2	
		整形外科学	2	
		小児科学（人間発達学）	2	
		精神医学	2	
		精神医学各論	2	
		臨床心理学	1	
		リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	1	
		医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	2		
	スポーツ医学	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	作業療法学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法学管理	職場管理（教育を含む）	1
		職業倫理	1
	作業療法学評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	地域作業療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ（身体障害）	2	
	卒業研究Ⅱ（精神障害）	2	
	卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	2	
	卒業研究Ⅱ（発達障害）	2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件（最低必要単位数）			126

別表第4

## 医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
		心理学	2	
	人間理解と社会	生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
		英語 I (初級)	2	
	語学	英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			2	
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人体の構造と機能 及び回復の促進
	解剖学 II (神経)	2		
	解剖学 III (内臓・脈管)	2		
	生理学 I (動物生理学)	2		
	生理学 II (植物生理学)	2		
	生理学 III (応用生理学)	2		
	運動学	2		
	生化学	2		
	病理学	2		
	臨床医学総論	2		
	整形外科学	2		
	内科学	2		
	臨床医学各論 I	2		
	臨床医学各論 II	2		
	臨床医学各論 III	2		
	スポーツ医学	2		
	リハビリテーション医学	2		
	画像診断学	2		
	保健医療福祉 とほり及び さきゅうの理念	衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
	専門科目	基礎 はりきゅう学	経絡経穴学 I	1
			経絡経穴学 II	1
			経穴局所解剖演習 I	1
			経穴局所解剖演習 II	1
			鍼灸科学概論 I	1
			鍼灸科学概論 II	1
			東洋医学概論 I	1
東洋医学概論 II	1			
東洋医学概論 III	1			

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	臨床 はりきゅう学	鍼灸安全学	1	
		臨床生理学	1	
		臨床鍼灸学	1	
		生体観察	1	
		運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論 I	1	
		東洋医学各論 II	1	
		社会 はりきゅう学	鍼灸経営論	1
			関係法規	1
		実習	基礎鍼灸実技 I	1
	基礎鍼灸実技 II		1	
	基礎鍼灸実技 I		1	
	基礎鍼灸実技 II		1	
	応用鍼灸実技 I		1	
	応用鍼灸実技 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 I		1	
	現代医学系鍼灸学実習 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 IV		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 V		1	
	実 習 床	附属施設所基礎実習	2	
		附属施設所応用実習	2	
	総合 領域	キャリアデザイン	1	
		鍼灸総合演習 I	2	
		鍼灸総合演習 II	2	
		鍼灸総合演習 III	2	
		卒業研究 I	1	
		卒業研究 II	1	
	専門 領域	学外見学実習 I	1	
		学外見学実習 II	1	
		美容鍼灸学総論	1	
		テーピング技術論	1	
		コンディショニング技術論	1	
		スポーツ鍼灸学総論	1	
		スポーツ鍼灸学各論	1	
		介護学概論	1	
老年ケア演習		1		
美容鍼灸学各論 I		1		
美容鍼灸学各論 II		1		
応用鍼灸学 I	1			
応用鍼灸学 II	1			
スポーツ経営学	1			
卒業要件 (最低必要単位数)		126		

別表第5

## 医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1		
		物理学	2		臨床生理学	1		
		生物学	2		臨床鍼灸学	1		
		化学	2		生体観察	1		
		情報処理	2		運動機能検査法	1		
		統計学	2		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2		
	人間理解と社会	心理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2		
		生命倫理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1		
		哲学	2		東洋医学系検査法	1		
		社会福祉学	2		東洋医学各論Ⅰ	1		
		日本国憲法	2		東洋医学各論Ⅱ	1		
		東洋史概説	2		鍼灸経営論	1		
	語学	西洋史概説	2		関係法規	1		
		英語Ⅰ（初級）	2		実習	基礎鍼灸Ⅰ	1	
		英語Ⅱ（中級）	2	基礎鍼灸Ⅱ		1		
		英会話	2	基礎灸実技Ⅰ		1		
		医学英語	2	基礎灸実技Ⅱ		1		
		基礎英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅰ		1		
	応用英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅱ	1				
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1	
			チーム医療見学実習	1		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1	
医療コミュニケーション			1	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ		1		
チーム医療論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ		1		
IPW論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅱ		1		
基礎体育			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ		1		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ		1		
健康管理学Ⅰ			2	応用鍼灸治療学		1		
健康管理学Ⅱ			2	臨床灸実習	1			
栄養学			2	特殊鍼灸治療学	1			
身体運動科学			2	実臨床実習	附属施設所基礎実習	2		
東洋医療概論			2		附属施設所応用実習	2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	統合医療概論	2	総合領域	キャリアデザイン	1
				解剖学Ⅰ（骨・筋）	4		鍼灸総合演習Ⅰ	2
	解剖学Ⅱ（神経）	2		鍼灸総合演習Ⅱ	2			
	解剖学Ⅲ（内臓・脈管）	2		鍼灸総合演習Ⅲ	2			
	生理学Ⅰ（動物生理学）	2		運動生理学	2			
	生理学Ⅱ（植物生理学）	2		運動生理機能学演習	2			
	生理学Ⅲ（応用生理学）	2		卒業研究Ⅰ	1			
	運動学	2		卒業研究Ⅱ	1			
	生化学	2		学外見学実習Ⅰ	1			
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学		2	学外見学実習Ⅱ		1	
		臨床医学総論		2	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動		1	
		整形外科		2	スポーツ実習Ⅱ 球技A		1	
		内科学		2	スポーツ実習Ⅱ 球技B		1	
		臨床医学各論Ⅰ		2	スポーツ実習Ⅱ 球技C		1	
		臨床医学各論Ⅱ		2	スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1		
		臨床医学各論Ⅲ		2	スポーツ実習Ⅳ 柔道	1		
		スポーツ医学		2	スポーツ実習Ⅴ ダンス	1		
		リハビリテーション医学	2	スポーツ実習Ⅵ 器械運動	1			
		画像診断学	2	スポーツ実習Ⅶ 水泳	1			
	保健医療福祉の理念	衛生学公衆衛生学	2	スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	1			
		保健医療倫理	1	学校保健（小児保健・精神保健）	2			
	基礎はりきゅう学	経絡経穴学Ⅰ	1	学校保健（学校安全・救急処置）	2			
		経絡経穴学Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）	1			
		経穴局所解剖演習Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）	1			
		経穴局所解剖演習Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）	1			
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）	1			
		鍼灸科学概論Ⅱ	1	体力トレーニング論	2			
		東洋医学概論Ⅰ	1	テーピング技術論	1			
		東洋医学概論Ⅱ	1	スポーツバイオメカニクス	2			
		東洋医学概論Ⅲ	1	介護学概論	1			
				老年ケア演習	1			
	学科専門科目群	専門科目			体育原理	2		
					スポーツ心理学	2		
				スポーツ鍼灸学総論	1			
				スポーツ鍼灸学各論	1			
				スポーツ傷害学・栄養学	2			
				スポーツ経営学	1			
				卒業要件（最低必要単位数）	144			

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	1	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2		
	統合医療概論	2		
	学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造Ⅰ	2
			人体の構造Ⅱ	2
			人体の構造実習	1
			人体の機能Ⅰ	2
人体の機能Ⅱ			2	
生化学			2	
生化学特論			2	
生化学実習			1	
分析化学			2	
小児医学			2	
老年医学			2	
救急災害医学			2	
薬理学		2		
リハビリテーション概論		2		
と医療保健検査学社医		臨床検査学総論	2	
		検査技術科学序論	2	
		病理学	2	
		医学概論	2	
	公衆衛生学	2		
	医用工学概論	2		
工医学療	医用工学実習	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	病態臨床学	臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
	形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
		血液検査学Ⅱ	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
		一般検査学	1
	生物化学分析検査学	臨床化学検査学Ⅰ	2
		臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
		遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
	病原因・生体防御検査学	微生物検査学Ⅰ	2
		微生物検査学Ⅱ	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学Ⅰ	2
		免疫検査学Ⅱ	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
		輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学	2
	生理機能検査学	生理機能検査学Ⅰ	2
		生理機能検査学Ⅱ	2
		生理機能検査学実習Ⅰ	1
		生理機能検査学実習Ⅱ	1
		画像検査学	2
		超音波検査学Ⅰ	1
	超音波検査学Ⅱ	1	
	検査管理総論	検査総合管理	2
		医療情報科学	2
	全医療安全管理学	関係法規	1
		医療安全管理学	1
	総合領域	臨床薬理学	2
食品衛生学		1	
食品関係法規		1	
総合演習Ⅰ		2	
総合演習Ⅱ		2	
研究卒業	総合演習Ⅲ	2	
	卒業研究Ⅰ	2	
実臨地	卒業研究Ⅱ	2	
	臨地実習	7	
細胞診断学	臨床細胞学概論	1	
	臨床細胞学実習Ⅰ	1	
	臨床細胞学実習Ⅱ	1	
	臨床細胞学総論Ⅰ	1	
	臨床細胞学総論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅰ	1	
	臨床細胞学各論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅲ	1	
	細胞診断学実習Ⅰ	3	
	細胞診断学実習Ⅱ	3	
細胞診断学実習Ⅲ	3		
細胞診断学特別実習Ⅰ	3		
細胞診断学特別実習Ⅱ	3		
卒業要件(最低必要単位数)		124	



別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ（初級）	2
		英語Ⅱ（中級）	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
	統合医療概論	2	
	人の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
人体の機能Ⅱ		1	
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2	
	病理学	2	
	免疫学	2	
	薬理学	2	
	看護学概論	1	
	基礎医学実習	1	
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
電気工学Ⅱ		2	
電気工学実習		1	
電子工学Ⅰ		2	
電子工学Ⅱ		2	
電子工学実習	1		
臨床工学に必要な情報技術の基礎	放射線工学概論	1	
	情報処理工学	2	
	医療統計学	2	
	システム制御工学	2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

区分		授業科目	単位数	
専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	2	
		生体材料工学	2	
		バイオメカニクス	2	
		バイオレオロジー	1	
		計測工学	1	
		生体情報処理工学	2	
		医用機器学	医用機器学概論	2
	生体計測装置学		2	
	生体計測装置学実習		1	
	医用治療機器学		2	
	医用治療機器学実習		1	
	画像診断装置学		2	
	医用監視システム装置学		2	
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	1	
		体外循環療法学	2	
		体外循環実習	1	
		血液浄化装置学	1	
		血液浄化療法学	2	
		血液浄化実習	1	
		人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
		人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
		人体機能補助実習	1	
	全医用安全管理	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
	関連臨床医学	関係法規	2	
		臨床医学総論（内科学・外科学）	2	
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2	
		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2	
	実臨床	臨床医学演習	1	
		臨床実習	4	
	専門特講	技術特講	医用生体工学特講	1
			医用機器学特講	1
			生体機能代行技術特講	1
			関連臨床医学特講	1
			基礎工学特講	1
	研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
機能評価学演習			1	
医療情報システム学			1	
医療情報システム学演習			1	
医用ロボット工学		1		
遺伝子検査学		1		
先進科学技術演習		1		
研卒業	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ	2		
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第8

## 医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
チーム医療見学実習			1	
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
		化学演習	1	
		医学概論	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
		放射線物理学・計測学演習	1	
		放射線科学	1	
		専門基礎科目実験	2	

区分		授業科目	単位数		
学科専門科目群	専門科目	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
			X線撮影技術学 I	2	
			X線撮影技術学 II	2	
			X線機器工学	2	
			放射線撮影技術学	2	
			CT・MRI撮影技術学	2	
			CT・MRI機器工学	2	
			撮影技術学・機器工学実験 I	1	
			撮影技術学・機器工学実験 II	1	
			画像解剖学	1	
			画像解剖学演習	1	
			機器工学演習	1	
			核医学検査	核医学検査技術学 I	2
				核医学検査技術学 II	2
	核医学検査技術学実験	1			
	放射性薬品学	1			
	放射線治療	放射線治療技術学 I	2		
		放射線治療技術学 II	2		
		放射線治療技術学実験	1		
	医用画像情報	放射線治療学	1		
		画像工学	2		
		医療情報学	1		
		医用画像情報学	2		
	安全管理学	医用画像情報学実験	1		
		放射線安全管理学	2		
		放射線関係法規	1		
	全学管理	安全管理学実験	1		
		医療安全管理学	2		
	臨床実習	断画像技術	2		
		臨床画像解析学	2		
		臨床実習 I	6		
		臨床実習 II	2		
	専門特講	臨床実習 III	2		
		臨床実習ゼミナール	2		
		診療放射線	診療画像技術学特講	1	
		核医学・放射線治療学特講	1		
放射線技術学特講		1			
研究分野	基礎医学特講	1			
	先進核医学	1			
	先進放射線治療学	1			
	先進画像解析学	1			
	先進医学	1			
卒業研究	卒業研究 I	2			
	卒業研究 II	2			
卒業要件 (最低必要単位数)			126		

別表第9  
教職に関する科目 教育課程

区分	授業科目	単位数
教職に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	2
	保健体育科教育法Ⅱ	2
	保健体育科教育法Ⅲ	2
	保健体育科教育法Ⅳ	2
	教育原理	2
	教職論	2
	教育行政学	2
	教育心理学	2
	特別支援教育概論	1
	教育課程論	2
	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動論	2
	教育方法論	2
	生徒指導・進路指導論	2
	生徒指導論	2
	教育相談の基礎と方法	2
	教育実習事前事後指導	1
	教育実習Ⅰ	2
	教育実習Ⅱ	2
	養護実習(事前事後指導を含む)	5
	教職実践演習(中・高)	2
	教職実践演習(養護教諭)	2

## 別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

大学 学則改定 新旧対照表

(下線は変更部分)

現行	改定案																																																														
<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p>4 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p> <p>2 鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	70	280	看護学科	90	360	臨床検査学科	70	280	作業療法学科	40	160	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880	<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に<u>看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部</u>を置く。</p> <p><u>2 看護学部</u>に看護学科を置き、<u>総合リハビリテーション学部</u>に理学療法学科及び作業療法学科を置き、<u>医療技術学部</u>に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>看護学部</u></td> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"><u>総合リハビリテーション学部</u></td> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"><u>医療技術学部</u></td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>4 医療技術学部</u>鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p><u>5 鍼灸コース</u>は、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部の目的)</p> <p>第4条の2 <u>前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーシ</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	<u>看護学部</u>	看護学科	90	360	<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280	作業療法学科	40	160	<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240	臨床検査学科	70	280	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																												
	理学療法学科	70	280																																																												
	看護学科	90	360																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
<u>看護学部</u>	看護学科	90	360																																																												
<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												

<p>人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</p> <p>4 理学療法学科は、科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>5 看護学科は、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>6 臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>7 作業療法学科は、チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>8 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>9 診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p>	<p><u>ヨンを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、</u> 生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、<u>チーム医療において</u>科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p>
<p>(大学院)</p> <p>第4条の3 本学に大学院を置く。</p> <p>2 大学院に関する規則は別に定める。</p>	<p><u>(学科の目的)</u></p> <p><u>第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた</u></p>

<p>(専攻科)</p> <p>第4条の4 本学に次の専攻科を置く。</p> <p>(1) 助産学専攻科</p> <p>2 専攻科に関する規則は別に定める。</p> <p>(番号変更)</p>	<p><u>人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 総合リハビリテーション学部作業療学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。</u></p> <p><u>(4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(大学院)</u></p> <p><u>第4条の4 本学に大学院を置く。</u></p> <p><u>2 大学院に関する規則は別に定める。</u></p> <p><u>(専攻科)</u></p> <p><u>第4条の5 本学に次の専攻科を置く。</u></p> <p><u>(1) 助産学専攻科</u></p> <p><u>2 専攻科に関する規則は別に定める。</u></p>
---	--

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
保健医療学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育
	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部**看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部**理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部**作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部**鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部**鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部**臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部**臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部**診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
<b>看護学部</b>	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護
<b>医療技術学部</b>	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の**看護学部看護学科**の教育課程及び別表第5の**医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コース**の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちか



しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
保健医療学部	鍼灸学科	学士（鍼灸学）
	理学療法学科	学士（理学療法学）
	看護学科	学士（看護学）
	臨床検査学科	学士（臨床検査学）
	作業療法学科	学士（作業療法学）
	臨床工学科	学士（臨床工学）
	診療放射線学科	学士（診療放射線学）

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、保健医療学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

ら、所定の単位を修得しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
<b>看護学部</b>	看護学科	学士（看護学）
<b>総合リハビリテーション学部</b>	理学療法学科	学士（理学療法学）
	作業療法学科	学士（作業療法学）
<b>医療技術学部</b>	鍼灸学科	学士（鍼灸学）
	臨床検査学科	学士（臨床検査学）
	臨床工学科	学士（臨床工学）
	診療放射線学科	学士（診療放射線学）

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、**各**学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。</p> <p>3 教授会は理事長、学長、副学長、教授、准教授、講師及び事務局長をもって組織する。</p> <p>附 則 (追加)</p>	<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。</p> <p><u>3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>附 則</p> <p><u>18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。</u></p>
--	---

別表第1

## 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
		解剖学 II (神経)	2
		解剖学 III (内臓・脈管)	2
		生理学 I (動物生理学)	2
		生理学 II (植物生理学)	2
学科専門科目群	専門基礎科目	運動学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床医学総論	2
		整形外科学	2
		内科学	2
		臨床医学各論 I	2
		臨床医学各論 II	2
		臨床医学各論 III	2
		スポーツ医学	2
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
	専門科目	保健医療倫理	1
		経絡経穴学 I	1
		経絡経穴学 II	1
経穴局所解剖演習 I		1	
経穴局所解剖演習 II		1	
基礎はりきゅう学	鍼灸科学概論 I	1	
	鍼灸科学概論 II	1	
	東洋医学概論 I	1	
	東洋医学概論 II	1	
	東洋医学概論 III	1	

別表第1

## 看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
		解剖学 II (神経)	2
		解剖学 III (内臓・脈管)	2
		生理学 I (動物生理学)	2
		生理学 II (植物生理学)	2
学科専門科目群	専門基礎分野	運動学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床医学総論	2
		整形外科学	2
		内科学	2
		臨床医学各論 I	2
		臨床医学各論 II	2
		臨床医学各論 III	2
		スポーツ医学	2
	リハビリテーション医学	2	
	基礎はりきゅう学	保健医療倫理	1
		経絡経穴学 I	1
		経絡経穴学 II	1
		経穴局所解剖演習 I	1
経穴局所解剖演習 II		1	
社会保健支援と疫学	鍼灸科学概論 I	1	
	鍼灸科学概論 II	1	
	東洋医学概論 I	1	
	東洋医学概論 II	1	
	東洋医学概論 III	1	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1	
	実習	鍼灸経常論	1
		関係法規	1
		基礎鍼灸実技Ⅰ	1
		基礎鍼灸実技Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1	
	実臨床	東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ	1
		応用鍼灸治療学	1
		臨床灸実習	1
		特殊鍼灸治療学	1
		附属施設所基礎実習	2
		附属施設所応用実習	2
		総合領域	キャリアデザイン
	鍼灸総合演習Ⅰ		2
鍼灸総合演習Ⅱ	2		
鍼灸総合演習Ⅲ	2		
卒業研究Ⅰ	1		
卒業研究Ⅱ	1		
専門領域	学外見学実習Ⅰ	1	
	学外見学実習Ⅱ	1	
	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論Ⅰ	1	
美容鍼灸学各論Ⅱ	1		
応用鍼灸学Ⅰ	1		
応用鍼灸学Ⅱ	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
		生活援助論Ⅰ	2
		生活援助論Ⅱ	2
		診療援助論Ⅰ	2
		診療援助論Ⅱ	2
		看護過程演習	1
	在宅看護学	地域・在宅看護概論	2
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
	成人看護学	外来看護論	1
		成人看護学概論	2
		成人看護援助論Ⅰ	1
		成人看護援助論Ⅱ	1
		成人看護援助論Ⅲ	1
	看護学 老年	成人看護援助論Ⅳ	1
		老年看護学概論	2
		老年看護援助論Ⅰ	1
	看護学 母性	老年看護援助論Ⅱ	1
		母性看護学概論	2
		母性看護援助論Ⅰ	1
	看護学 小児	母性看護援助論Ⅱ	1
		小児看護学概論	2
		小児看護援助論Ⅰ	1
	看護学 精神	小児看護援助論Ⅱ	1
		精神看護学概論	2
		精神看護援助論Ⅰ	1
	看護学 実践Ⅰ	精神看護援助論Ⅱ	1
		健康教育論	2
		家族看護学	1
		看護管理論	1
		災害・国際看護論	1
		養護概説	2
学校保健		2	
健康相談活動論		2	
基礎看護学実習Ⅰ		1	
基礎看護学実習Ⅱ		2	
臨床実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）	3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3	
	老年看護学実習	3	
	母性看護学実習	2	
	小児看護学実習	2	
	精神看護学実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習Ⅰ	2	
主題実習Ⅱ	1		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
	保健医療福祉行政論	2	
研卒業	看護研究	1	
	卒業研究	2	
看護学 実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2	
	臨床看護学セミナーⅡ	2	
	公衆衛生看護セミナー	2	
	臨床看護技術セミナー	1	
卒業要件（最低必要単位数）		127	

別表第2

## 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	統計学	2	
		心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
	語学	日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
共通科目群	保健医療	英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2			
健康管理学Ⅰ	2			
健康管理学Ⅱ	2			
栄養学	2			
身体運動科学	2			
東洋医療概論	2			
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4	
		解剖学Ⅱ(神経)	2	
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2	
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2	
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2	
		生理学Ⅲ(応用生理学)	2	
		運動学	2	
		生化学	2	
		疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学	2
			臨床医学総論	2
	整形外科学		2	
	内科学		2	
	臨床医学各論Ⅰ		2	
	臨床医学各論Ⅱ		2	
	臨床医学各論Ⅲ		2	
	スポーツ医学		2	
	リハビリテーション医学		2	
	画像診断学		2	
	社会と医療の連携	衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
	基礎はりきゆう学	経絡経穴Ⅰ	1	
		経絡経穴Ⅱ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	
鍼灸科学概論Ⅱ		1		
東洋医学概論Ⅰ		1		
東洋医学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅲ	1			

別表第2

## 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本国憲法	2
		東洋史概説	2
		西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
共通科目群	保健医療	英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
健康管理学Ⅰ	2		
健康管理学Ⅱ	2		
栄養学	2		
身体運動科学	2		
東洋医療概論	2		
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
	臨床心理学	1	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
		臨床病態学Ⅲ	2
		整形外科学	2
		小児科学(人間発達学)	2
		精神医学	2
		リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	2
		チームリハビリテーション概論	1
		介護学概論・ボランティア活動論	1
		スポーツ医学	1
テーピング技術論		1	

区分		授業科目	単位数
臨床はりきゆう学		鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
		東洋医学各論Ⅱ	1
		鍼灸経営論	1
		関係法規	1
		実習	
基礎鍼灸技Ⅱ	1		
基礎灸実技Ⅰ	1		
基礎灸実技Ⅱ	1		
応用鍼灸実技Ⅰ	1		
応用鍼灸実技Ⅱ	1		
現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1		
現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1		
現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1		
東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1		
東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1		
東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1		
応用鍼灸治療学	1		
臨床灸実習	1		
特殊鍼灸治療学	1		
実習床		附属施設所基礎実習	2
		附属施設所応用実習	2
総合領域		キャリアデザイン	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	2
		鍼灸総合演習Ⅱ	2
		鍼灸総合演習Ⅲ	2
		運動生理学	2
		運動生理機能学演習	2
		卒業研究Ⅰ	1
		卒業研究Ⅱ	1
		学外見学実習Ⅰ	1
		学外見学実習Ⅱ	1
保健体育		スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技A	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技B	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技C	1
		スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1
		スポーツ実習Ⅳ 柔道	1
		スポーツ実習Ⅴ ダンス	1
		スポーツ実習Ⅵ 器械運動	1
		スポーツ実習Ⅶ 水泳	1
		スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	1
		学校保健（小児保健・精神保健）	2
		学校保健（学校安全・救急処置）	2
		トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）	1
		トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）	1
		トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）	1
		トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）	1
		体力トレーニング論	2
		テーピング技術論	1
		スポーツバイオメカニクス	2
		介護学概論	1
		老年ケア演習	1
		体育原理	2
		スポーツ心理学	2
		スポーツ鍼灸学総論	1
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）			144

区分		授業科目	単位数	
基礎理学療法		医療関係法規論	2	
		理学療法触診法	1	
		基礎理学療法Ⅰ	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	
		基礎理学療法実習	1	
		職場管理(教育を含む)	職業倫理	1
			理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学	理学療法評価学各論	2
			臨床理学療法評価学（動作分析）	1
			臨床理学療法評価学実習	1
			基礎日常生活活動学	1
		理学療法治療学	基礎運動療法学総論	1
			基礎運動療法学各論	1
			物理療法学	1
運動器系理学療法Ⅰ	1			
運動器系理学療法Ⅱ	2			
運動器系理学療法Ⅲ	1			
神経系理学療法Ⅰ	1			
神経系理学療法Ⅱ	2			
神経系理学療法Ⅲ	1			
内部障害系理学療法Ⅰ	1			
内部障害系理学療法Ⅱ	2			
内部障害系理学療法Ⅲ	1			
発達障害系理学療法	1			
義肢装具学	2			
臨床理学療法治療学実習	1			
地域学療法	地域理学療法	2		
	生活環境論	1		
総合領域	老年期理学療法	1		
	理学療法臨床推論概論	1		
	理学療法臨床推論演習	1		
	総合リハビリテーションIPW演習	1		
	理学療法特論Ⅰ	1		
	理学療法特論Ⅱ	1		
	理学療法特論Ⅲ	2		
	運動器系理学療法セミナー	1		
	神経系理学療法セミナー	1		
	内部障害系理学療法セミナー	1		
地域理学療法セミナー	1			
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ	2		
臨床実習	臨床見学実習	1		
	検査測定実習	1		
	臨床評価実習	4		
	地域理学療法実習	1		
臨床実習	臨床総合実習Ⅰ	7		
	臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第3

## 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学 I			2
健康管理学 II			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
		臨床心理学	1
		リハビリテーション概論	2
	公衆衛生学	2	
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	1	
	スポーツ医学	1	
	テーピング技術論	1	

別表第3

## 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学 I			2
健康管理学 II			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	2
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	2	
	スポーツ医学	1	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2	
		理学療法触診法	1	
		基礎理学療法学Ⅰ	1	
		基礎理学療法学Ⅱ	1	
		基礎理学療法学実習	1	
		理学療法管理学	職場管理(教育を含む)	1
			職業倫理	1
		理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
			理学療法評価学各論	2
			臨床理学療法評価学(動作分析)	1
	臨床理学療法評価学実習		1	
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1	
		基礎運動療法学総論	1	
		基礎運動療法学各論	1	
		物理療法学	1	
		運動器系理学療法学Ⅰ	1	
		運動器系理学療法学Ⅱ	2	
		運動器系理学療法学Ⅲ	1	
		神経系理学療法学Ⅰ	1	
		神経系理学療法学Ⅱ	2	
		神経系理学療法学Ⅲ	1	
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1	
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2	
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1	
		発達障害理学療法学	1	
	義肢装具学	2		
	臨床理学療法治療学実習	1		
	学地域療法	地域理学療法学	2	
		生活環境論	1	
		老年期理学療法学	1	
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1	
		理学療法臨床推論演習	1	
		総合リハビリテーションIPW演習	1	
		理学療法特論Ⅰ	1	
		理学療法特論Ⅱ	1	
		理学療法特論Ⅲ	2	
		運動器系理学療法セミナー	1	
		神経系理学療法セミナー	1	
	内部障害系理学療法セミナー	1		
	地域理学療法セミナー	1		
研究業	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ	2		
臨床実習	臨床見学実習	1		
	検査測定実習	1		
	臨床評価実習	4		
	地域理学療法実習	1		
	臨床総合実習Ⅰ	7		
	臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件(最低必要単位数)		126		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	業療法学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法管理学	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	業地域療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
研究業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2	
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件(最低必要単位数)		126	



別表第4

## 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
		東洋医療概論	2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	
		形態機能学Ⅱ	1	
		形態機能学Ⅲ	1	
		形態機能学Ⅳ	1	
		フィジカルアセスメント	2	
		生化学	2	
		発達心理学	2	
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1
			病理学	1
	臨床薬理学		1	
	臨床病態学Ⅰ		1	
	臨床病態学Ⅱ		1	
	臨床病態学Ⅲ		1	
	社会保健支援と疫学	臨床病態学Ⅳ	1	
		臨床病態学Ⅴ	1	
		臨床心理学	2	
	医療概論	1		
	公衆衛生学	2		
看護関係法規	2			
保健統計学	2			
疫学	2			

別表第4

## 医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
		解剖学Ⅱ(神経)	2
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2
生理学Ⅲ(応用生理学)		2	
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	運動学	2	
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床医学総論	2	
	整形外科学	2	
	内科学	2	
	臨床医学各論Ⅰ	2	
	臨床医学各論Ⅱ	2	
	臨床医学各論Ⅲ	2	
	スポーツ医学	2	
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
保健医療倫理	衛生学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
	基礎はりきゅう学	経絡経穴Ⅰ	1
経絡経穴Ⅱ		1	
経穴局所解剖演習Ⅰ		1	
経穴局所解剖演習Ⅱ		1	
鍼灸科学概論Ⅰ		1	
鍼灸科学概論Ⅱ		1	
東洋医学概論Ⅰ	1		
東洋医学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅲ	1		

区分		授業科目	単位数
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
生活援助論 I		2	
生活援助論 II		2	
診療援助論 I		2	
診療援助論 II		2	
看護過程演習		1	
実習地	基礎看護学実習 I	1	
	基礎看護学実習 II	2	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	2
		成人看護援助論 I	1
		成人看護援助論 II	1
		成人看護援助論 III	1
	看護学 老年	成人看護援助論 IV	1
		老年看護学概論	2
	看護学 母性	老年看護援助論 I	1
		老年看護援助論 II	1
		母性看護学概論	2
	看護学 小児	母性看護援助論 I	1
		母性看護援助論 II	1
		小児看護学概論	2
	看護学 精神	小児看護援助論 I	1
		小児看護援助論 II	1
		精神看護学概論	2
	臨地実習	精神看護援助論 I	1
精神看護援助論 II		1	
成人看護学実習 I (急性)		3	
成人看護学実習 II (慢性)		3	
老年看護学実習 I		3	
老年看護学実習 II		1	
母性看護学実習		2	
小児看護学実習	2		
在宅看護論	精神看護学実習	2	
	在宅看護概論	2	
	在宅看護援助論 I	1	
	在宅看護援助論 II	1	
看護の実践 I	外来看護論	1	
	健康教育論	2	
	家族看護学	1	
	看護管理論	1	
	災害・国際看護論	1	
	義護概説	2	
	学校保健	2	
健康相談活動論	2		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論 I	2	
	公衆衛生看護活動論 II	2	
	公衆衛生看護活動論 III	2	
	公衆衛生看護活動論 IV	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2		
臨地実習	在宅看護論実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習 I	2	
卒業と看護の実践 II	主題実習 II	1	
	看護研究	1	
総合分野	卒業研究	2	
	臨床看護学セミナー I	2	
	臨床看護学セミナー II	2	
	公衆衛生看護セミナー	1	
臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			126

区分		授業科目	単位数
専門科目	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論 I	1
	東洋医学各論 II	1	
	うきは社会学ゆり会	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技 I	1
		基礎鍼灸技 II	1
		基礎灸実技 I	1
		基礎灸実技 II	1
		応用鍼灸実技 I	1
		応用鍼灸実技 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 I	1
		現代医学系鍼灸学実習 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 III	1
		東洋医学系鍼灸学実習 I	1
東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
実臨習床	応用鍼灸治療学	1	
	臨床灸実習	1	
総合領域	特殊鍼灸治療学	1	
	附属施設所基礎実習	2	
	附属施設所応用実習	2	
	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習 I	2	
	鍼灸総合演習 II	2	
	鍼灸総合演習 III	2	
	卒業研究 I	1	
	卒業研究 II	1	
	学外見学実習 I	1	
学外見学実習 II	1		
専門領域	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論 I	1	
美容鍼灸学各論 II	1		
応用鍼灸学 I	1		
応用鍼灸学 II	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			126

別表第5

## 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論		2	
人体の構造と機能		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	2
	生化学	2	
	生化学特論	2	
	生化学実習	1	
	分析化学	2	
	小児医学	2	
	老年医学	2	
	救急災害医学	2	
	薬理学	2	
	リハビリテーション概論	2	
	その基礎と関連学と福祉工医学療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
病理学		2	
医学概論		2	
公衆衛生学		2	
医用工学概論		2	
医用工学実習		1	

別表第5

## 医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1	
チーム医療見学実習			1	
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			2	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論		2		
人体の構造と機能		解剖学Ⅰ(骨・筋)	4	
		解剖学Ⅱ(神経)	2	
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2	
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2	
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2	
	生理学Ⅲ(応用生理学)	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	運動学	2	
		生化学	2	
		病理学	2	
		臨床医学総論	2	
		整形外科	2	
		内科学	2	
		臨床医学各論Ⅰ	2	
		臨床医学各論Ⅱ	2	
		臨床医学各論Ⅲ	2	
		スポーツ医学	2	
		リハビリテーション医学	2	
		画像診断学	2	
		保健医療福祉の理念	衛生学公衆衛生学	2
	保健医療倫理		1	
	基礎はりきゅう学		経絡経穴Ⅰ	1
			経絡経穴Ⅱ	1
			経穴局所解剖演習Ⅰ	1
			経穴局所解剖演習Ⅱ	1
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	
鍼灸科学概論Ⅱ		1		
東洋医学概論Ⅰ	1			
東洋医学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅲ	1			

区分	授業科目	単位数
学 科 専 門 科 目 群	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2
	血液検査学Ⅰ	2
	血液検査学Ⅱ	2
	血液検査学実習	1
	病理検査学	2
	病理検査学実習	1
	一般検査学	1
	臨床化学検査学Ⅰ	2
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
	臨床化学検査学実習	1
	遺伝子検査学	2
	遺伝子検査学実習	1
	生命工学概論	1
	微生物検査学Ⅰ	2
	微生物検査学Ⅱ	2
	微生物検査学実習	1
	寄生虫検査学	1
	免疫検査学Ⅰ	2
	免疫検査学Ⅱ	2
	免疫検査学実習	1
	輸血・移植検査学	2
	輸血・移植検査学実習	1
	生理機能検査学Ⅰ	2
	生理機能検査学Ⅱ	2
	生理機能検査学実習Ⅰ	1
	生理機能検査学実習Ⅱ	1
	画像検査学	2
	超音波検査学Ⅰ	1
	超音波検査学Ⅱ	1
	検査総合管理学	2
	医療情報科学	2
	関係法規	1
	医療安全管理学	1
	臨床薬理学	2
	食品衛生学	1
	食品関係法規	1
	総合演習Ⅰ	2
	総合演習Ⅱ	2
	総合演習Ⅲ	2
	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ	2
	臨地実習	7
	臨床細胞学概論	1
	臨床細胞学実習Ⅰ	1
臨床細胞学実習Ⅱ	1	
臨床細胞学総論Ⅰ	1	
臨床細胞学総論Ⅱ	1	
臨床細胞学各論Ⅰ	1	
臨床細胞学各論Ⅱ	1	
臨床細胞学各論Ⅲ	1	
細胞診断学実習Ⅰ	3	
細胞診断学実習Ⅱ	3	
細胞診断学実習Ⅲ	3	
細胞診断学特別実習Ⅰ	3	
細胞診断学特別実習Ⅱ	3	
卒業要件(最低必要単位数)	124	

区分	授業科目	単位数
学 科 専 門 科 目 群	鍼灸安全学	1
	臨床生理学	1
	臨床鍼灸学	1
	生体観察	1
	運動機能検査法	1
	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	2
	現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	2
	現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	1
	東洋医学系検査法	1
	東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1
	鍼灸経営論	1
	関係法規	1
	基礎鍼灸技Ⅰ	1
	基礎鍼灸技Ⅱ	1
	基礎灸実技Ⅰ	1
	基礎灸実技Ⅱ	1
	応用鍼灸実技Ⅰ	1
	応用鍼灸実技Ⅱ	1
	現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
	応用鍼灸治療学	1
	臨床灸実習	1
	特殊鍼灸治療学	1
	附属施術所基礎実習	2
	附属施術所応用実習	2
	キャリアデザイン	1
	鍼灸総合演習Ⅰ	2
	鍼灸総合演習Ⅱ	2
	鍼灸総合演習Ⅲ	2
	運動生理学	2
	運動生理機能学演習	2
	卒業研究Ⅰ	1
	卒業研究Ⅱ	1
	学外見学実習Ⅰ	1
	学外見学実習Ⅱ	1
	スポーツ実習Ⅰ体づくり運動	1
	スポーツ実習Ⅱ球技A	1
	スポーツ実習Ⅱ球技B	1
	スポーツ実習Ⅱ球技C	1
	スポーツ実習Ⅲ陸上競技	1
スポーツ実習Ⅳ柔道	1	
スポーツ実習Ⅴダンス	1	
スポーツ実習Ⅵ器械運動	1	
スポーツ実習Ⅶ水泳	1	
スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ	1	
学校保健(小児保健・精神保健)	2	
学校保健(学校安全・救急処置)	2	
トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)	1	
トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1	
トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1	
トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	1	
体力トレーニング論	2	
テーピング技術論	1	
スポーツバイオメカニクス	2	
介護学概論	1	
老年ケア演習	1	
体育原理	2	
スポーツ心理学	2	
スポーツ鍼灸学総論	1	
スポーツ鍼灸学各論	1	
スポーツ傷害学・栄養学	2	
スポーツ経営学	1	
卒業要件(最低必要単位数)	144	

別表第6

## 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2	
	臨床病態学Ⅲ	2	
	整形外科学	2	
	小児科学(人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	2	
	スポーツ医学	1	

別表第6

## 医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
		リハビリテーション概論	2
	その基礎と臨床検査と福祉医療工医療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		医用工学概論	2
		医用工学実習	1

区分	授業科目	単位数
基礎学	基礎作業学	2
	作業科学入門	2
	作業療法概論	2
	職場管理(教育を含む)	1
作業療法管理学	職業倫理	1
	作業療法評価学総論	2
作業療法評価学	身体障害作業療法評価学	2
	精神障害作業療法評価学	1
	発達障害作業療法評価学	1
	高次脳機能障害作業療法評価学	1
作業療法治療学	日常生活活動学	2
	身体障害作業療法治療学総論	2
	精神障害作業療法治療学総論	2
	高齢期障害作業療法治療学総論	2
	発達障害作業療法治療学総論	2
	身体障害作業療法治療学各論	1
	精神障害作業療法治療学各論	1
	高齢期障害作業療法治療学各論	1
	発達障害作業療法治療学各論	1
	義肢装具学	1
	作業療法特論Ⅰ	1
	作業療法特論Ⅱ	1
	身体障害作業療法治療学演習	1
	精神障害作業療法治療学演習	1
高齢期障害作業療法治療学演習	1	
発達障害作業療法治療学演習	1	
総合リハビリテーションIPW演習	1	
地域学	地域作業療法学	2
	生活環境論	1
	障害者地域生活支援論	1
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2
臨床実習	臨地見学実習	2
	臨床検査実習	2
	地域作業療法実習	1
	臨床評価実習	4
卒業要件(最低必要単位数)		126

区分	授業科目	単位数
臨床学	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2
形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
	血液検査学Ⅱ	2
	血液検査学実習	1
	病理検査学	2
	病理検査学実習	1
生物検査学	一般検査学	1
	臨床化学検査学Ⅰ	2
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
	臨床化学検査学実習	1
	遺伝子検査学	2
検査学分析	遺伝子検査学実習	1
	生命工学概論	1
	微生物検査学Ⅰ	2
	微生物検査学Ⅱ	2
	微生物検査学実習	1
病因・生体防御検査学	寄生虫検査学	1
	免疫検査学Ⅰ	2
	免疫検査学Ⅱ	2
	免疫検査学実習	1
	輸血・移植検査学	2
	輸血・移植検査学実習	1
	生理機能検査学Ⅰ	2
生理機能検査学Ⅱ	2	
生理機能検査学	生理機能検査学実習Ⅰ	1
	生理機能検査学実習Ⅱ	1
	画像検査学	2
	超音波検査学Ⅰ	1
	超音波検査学Ⅱ	1
検査学管理	検査総合管理学	2
	医療情報科学	2
	関係法規	1
管理医療安全	医療安全管理学	1
	総合領域	臨床薬理学
食品衛生学		1
食品関係法規		1
総合演習Ⅰ		2
総合演習Ⅱ		2
総合演習Ⅲ		2
研究卒業	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ	2
実習地	臨地実習	7
	細胞診断学	臨床細胞学概論
臨床細胞学実習Ⅰ		1
臨床細胞学実習Ⅱ		1
臨床細胞学総論Ⅰ		1
臨床細胞学総論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅰ		1
臨床細胞学各論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅲ		1
細胞診断学実習Ⅰ		3
細胞診断学実習Ⅱ		3
細胞診断学実習Ⅲ		3
細胞診断学特別実習Ⅰ	3	
細胞診断学特別実習Ⅱ	3	
卒業要件(最低必要単位数)		124

別表第7

## 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術と医療情報学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

別表第7

## 医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術と医療情報学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
			血液浄化実習	1
	全医用安全管理学	人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
	関連臨床医学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
		人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
	実習	医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
		内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
	臨床実習	外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
		臨床実習	4	
専門特講		技術臨床工学	医用生体工学特講	1
	医用機器学特講		1	
	生体機能代行技術特講		1	
	関連臨床医学特講		1	
	研究分野	先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
卒業	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	
		卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
			血液浄化実習	1
	全医用安全管理学	人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
	関連臨床医学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
		人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
	臨床実習	医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
		内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
	臨床実習	外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
		臨床実習	4	
専門特講		技術臨床工学	医用生体工学特講	1
	医用機器学特講		1	
	生体機能代行技術特講		1	
	関連臨床医学特講		1	
	研究分野	先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
卒業	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	
		卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件 (最低必要単位数)			126	



別表第8

## 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
		並びに放射線の科学及び技術 保健医療福祉における理工学的基礎	電気・電子工学	2
			医用工学	2
			工学演習	1
	情報処理工学		2	
	医療統計学		1	
	放射化学		2	
	放射線生物学		2	
	放射線化学・生物学演習		1	
	放射線物理学		2	
	放射線計測学		2	
	放射線物理学・計測学演習	1		
	放射線科学	1		
	専門基礎科目実験	2		

別表8

## 医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
		並びに放射線の科学及び技術 保健医療福祉における理工学的基礎	電気・電子工学	2
			医用工学	2
			工学演習	1
	情報処理工学		2	
	医療統計学		1	
	放射化学		2	
	放射線生物学		2	
	放射線化学・生物学演習		1	
	放射線物理学		2	
	放射線計測学		2	
	放射線物理学・計測学演習	1		
	放射線科学	1		
	専門基礎科目実験	2		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
		放射線治療学	1
	医用画像情報学	画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
		医用画像情報学実験	1
	放射線安全管理学	放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
		安全管理学実験	1
	医療安全管理学	医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
		先進画像解析学	1
		先進医学	1
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
		放射線治療学	1
	医用画像情報学	画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
		医用画像情報学実験	1
	放射線安全管理学	放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
		安全管理学実験	1
	医療安全管理学	医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
		先進画像解析学	1
		先進医学	1
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
<b>看護学部</b> 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
<b>総合リハビリテーション学部</b> 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
<b>総合リハビリテーション学部</b> 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
<b>医療技術学部</b> 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
<b>医療技術学部</b> 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
<b>医療技術学部</b> 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
<b>医療技術学部</b> 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

## 森ノ宮医療大学 教授会規程

平成19年4月1日制定  
平成22年10月19日改定  
平成26年7月29日改定  
平成27年4月1日改定  
平成28年5月24日改定  
令和元年6月18日改定  
令和2年10月20日改定

### (趣旨)

第1条 森ノ宮医療大学学則の規定による森ノ宮医療大学教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

### (審議事項)

第2条 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 授業及び試験に関する事
- (3) 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- (4) 学生指導に関する事
- (5) その他、教育または研究に関する事項

2 前項の規定に掲げる事項のほか、理事長ならびに学長の諮問した事項を審議し、意見を述べることができる。

### (組織)

第3条 教授会は森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）の理事長ならびに学長、教授、准教授、専任講師、事務局長をもって組織する。

### (議長)

第4条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

### (招集)

第5条 教授会は、前条の規定に関する事項について、審議する必要があると認めるときに、あらかじめ審議事項を通知して招集する。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(議事)

第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。ただし、特別の必要があると認められるときは別に定める割合以上の多数をもって議決することがある。

3 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(議事録)

第7条 議長は、議事録を作成しなければならない。

(議案の提出)

第8条 教授会に議案を提出しようとする者は、会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。

2 臨時に教授会を開くことを要求する者は、議長に議案を添えて申し出なければならない。

(委員会)

第9条 教授会に専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、大学教務室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は平成19年4月1日から施行する。

2 この規程は平成22年10月19日から施行する。

3 この規程は平成27年4月1日から施行する。

4 この規程は平成28年5月24日から施行する。

5 この規程は令和元年6月18日から施行する。

6 この規程は令和2年10月20日から施行する。

**森ノ宮医療大学 看護学部**  
**設置の趣旨等を記載した書類**

**目 次**

<b>1</b>	<b>設置の趣旨及び必要性</b> .....	<b>1</b>
	(1) 大学設置の沿革 .....	1
	(2) 看護学部設置の趣旨と必要性 .....	2
	(3) 教育研究上の目的及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） .....	4
<b>2</b>	<b>学部・学科等の特色</b> .....	<b>5</b>
<b>3</b>	<b>学部・学科等の名称及び学位の名称</b> .....	<b>7</b>
<b>4</b>	<b>教育課程の編成の考え方及び特色</b> .....	<b>7</b>
	(1) 教育課程の基本構成と方針（カリキュラム・ポリシー） .....	7
	(2) 教養科目群の編成と特色 .....	8
	(3) 共通科目群の編成と特色 .....	9
	(4) 学科専門科目群（専門基礎科目）の編成と特色 .....	10
	(5) 学科専門科目群（専門科目）の編成と特色 .....	10
	(6) 卒業認定 .....	11
<b>5</b>	<b>教育方法、履修指導方法及び卒業要件</b> .....	<b>12</b>
	(1) 教育方法 .....	12
	(2) 履修方法とその指導 .....	13
	(3) 卒業要件 .....	13
<b>6</b>	<b>実習の具体的計画</b> .....	<b>14</b>
	(1) 実習計画の概要 .....	14
	(2) 実習指導体制と方法 .....	19
	(3) 大学と実習施設との連携体制と方法 .....	19
	(4) 単位認定等評価方法 .....	21
<b>7</b>	<b>取得可能な資格</b> .....	<b>22</b>
<b>8</b>	<b>入学者選抜の概要</b> .....	<b>23</b>
	(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） .....	24
	(2) 入学者選抜方法 .....	24
	(3) 入学前教育 .....	26
<b>9</b>	<b>教員組織の編成の考え方及び特色</b> .....	<b>26</b>
	(1) 教員組織の編成について .....	26
	(2) 主要科目と教員配置について .....	27
	(3) 教員の年齢構成について .....	27
	(4) 若手教員の育成計画 .....	28
<b>10</b>	<b>施設、設備の整備計画</b> .....	<b>28</b>

(1) 校地、運動場の整備計画.....	28
(2) 校舎等施設の整備計画.....	31
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画.....	32
<b>1 1 管理運営.....</b>	<b>34</b>
(1) 教学面における管理運営体制.....	34
(2) 教授会に関連する下部組織としての委員会.....	35
<b>1 2 自己点検・評価.....</b>	<b>36</b>
(1) 実施の方法と体制.....	36
(2) 結果の活用・公表.....	37
(3) 評価項目.....	38
(4) 認証評価.....	39
<b>1 3 情報の公表.....</b>	<b>39</b>
<b>1 4 教育内容の改善を図るための組織的な取組.....</b>	<b>43</b>
(1) 自己点検評価・FSD 委員会実施体制.....	43
(2) SD の実施体制.....	44
(3) FD の実施体制.....	44
<b>1 5 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....</b>	<b>46</b>
(1) 教育課程内の取り組み.....	46
(2) 教育課程外の取り組みについて.....	47
(3) 適切な体制の整備.....	48

## 森ノ宮医療大学 看護学部 看護学科 設置の趣旨等を記載した書類

### 1 設置の趣旨及び必要性

#### (1) 大学設置の沿革

学校法人森ノ宮医療学園は、「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学の精神のもと、昭和 48（1973）年、大阪市東成区に鍼灸師養成のための専門学校「大阪鍼灸専門学校（現：森ノ宮医療学園専門学校）」を開設した。その後は、「生命（いのち）への愛と畏敬」を学園の精神とし、基本理念である「人によりそい幸福（しあわせ）を希う学園」を目指して発展を続けてきた。平成 12（2000）年には同専門学校に柔道整復学科を新設し、これまでに 3,000 人以上の鍼灸師、1,500 人以上の柔道整復師を輩出している。

平成 19（2007）年 4 月には、大阪市住之江区に保健医療学部鍼灸学科と理学療法学科を備えた森ノ宮医療大学を開設した。森ノ宮医療大学は、設立の目的を「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」と定めている。

また、開学から 4 年後の平成 23（2011）年 4 月には、保健医療学部看護学科と、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）を設置し、さらに 5 年後の平成 28（2016）年 4 月には、保健医療学部臨床検査学科と作業療法学科の 2 学科と、1 年課程の助産学専攻科を設置、平成 30（2018）年 4 月には保健医療学部臨床工学科と、大学院保健医療学研究科医療科学専攻（博士後期課程）を設置、令和 2（2020）年 4 月に保健医療学部診療放射線学科と大学院保健医療学研究科看護学専攻（修士課程）を設置したことから、本学は現在 1 学部 7 学科、1 専攻科、大学院 1 研究科 3 専攻（修士課程・博士後期課程）という体制になった。

令和 4（2022）年 4 月に保健医療学部を再編し、看護学部と総合リハビリテーション学部を新設し、保健医療学部を医療技術学部へ名称変更することで、大学の目的として掲げるチーム医療の教育をより充実させるとともに、広く社会に貢献できる医療人の育成を通してさらなる保健医療分野の発展に寄与することを目指す。



## **(2) 看護学部設置の趣旨と必要性**

### **ア. 看護師の現状と社会的ニーズ**

保健医療学は、人間の健康の維持、増進、疾病からの回復などに直接かかわる領域だけでなく、社会保障、制度・政策、医療経済、医療資源、医療哲学なども包含した極めて広範囲にわたる領域を取り扱う学問となっている。また、保健医療学は、医療技術の進歩や人口の超高齢化など、社会のニーズに合わせて時代とともに教育研究の対象領域を拡大あるいは改変していかなければならない学問でもある。

看護は保健医療学の重要な一領域として、保健医療学を構成する多くの学問分野とともに独自の分野を模索・形成し発展してきている。看護の対象は健康・不健康を問わず、健康のあらゆる段階の、あらゆる年代の個人・家族・地域住民であり、看護のアプローチも、個に対する様々なアプローチから、家族や地域住民あるいは国境を越えた人々に対する直接的なあるいは間接的なアプローチ等、多様で複雑化している。

団塊の世代が 75 歳以上となる令和 7 (2025) 年にはこれまで経験したことのない超高齢多死社会が到来し、その後も高齢化は進展すると推計されている。そこで国は、令和 7 (2025) 年までに少子超高齢社会に対応した社会保障制度を構築するために、医療・介護分野においては、高度急性期から在宅医療・介護までの一連したサービスを切れ目なく提供するために、効率的かつ質の高い医療提供体制と、地域包括ケアシステムの構築を図っている。医療は、高度急性期から慢性期までの病床の機能分化や在宅医療を推進し、介護との連携や多職種協働を強化し、いわゆる「病院完結型」から「地域完結型」を目指している。この流れは、疾病・障がいの治癒や回復を目的とする従来の「医療モデル」から、生活の質に焦点をあて、疾病や障がいがあっても、地域の住まいでその人らしく暮らすことを支える「生活モデル」へのシフトを意味する。このように看護専門職に求められるニーズは多様化が一段と進み、看護が「医療」と「生活」の両側面から全体を総合的に見通し、国民や社会のニーズに適切に応えることが喫緊の課題となっている。

### **イ. 大学、看護学科の沿革と看護学部設置の必要性**

森ノ宮医療大学は平成 19 (2007) 年 4 月に、保健医療学部に鍼灸学科及び理学療法学科を有する大学として開学した。その後、学科等の増設により令和 3 (2021) 年度現在、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、鍼灸学科、臨床工学科、診療放射線学科の 7 学科及び助産学専攻科を有している。大学の目的は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献することである (森ノ宮医療大学学則第 1 条より)。

本学保健医療学部看護学科は平成 23 (2011) 年 4 月に開設した。看護学科の教育目的は、

チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成である。看護学科の教育課程は、教養科目群、学部共通科目群、学科専門科目群から構成され、4年間で卒業要件127単位を修得することによって看護師国家試験受験資格が与えられる。同時に、保健師教育課程（10名定員）では、2年次に選考試験を行い、関連する科目を24単位修得することによって保健師国家試験受験資格が与えられる。また平成28（2016）年度には、助産学専攻科（10名定員）を開設し、修了要件38単位を修得することによって助産師国家試験受験資格が与えられる。さらに平成29（2017）年度からは、看護学科に養護教諭養成課程を設け、養護教諭・教職課程に関する科目を30単位修得することによって養護教諭一種免許状を取得できるようになった。このように本学看護学科は、すべての看護職の免許が取得できるようになり、本学の所定の教育課程を修めた学生は、卒業後の看護実践の第一歩を踏み出すことができる基礎力が修得できていると考える。

また令和2（2020）年には高度な専門的知識と教育・研究的視点を持ち、保健医療福祉関連機関や看護基礎教育機関等において、指導的役割を果たすことが出来る看護実践者を育成することを目的として、本学大学院保健医療学研究科に看護学専攻（修士課程）を開設した。

そして令和4（2022）年4月に既存の保健医療学部看護学科を募集停止し、新たに看護学部看護学科を設置する。

近年、超高齢多死社会の到来など社会構造の変化に伴い、地域包括ケアシステム構築の推進や、多職種連携・チーム医療の推進、医療介護分野におけるAI等の情報通信技術の急速な導入、更なる医療安全の要請等が課題となっている。それら社会の変化に対応し、患者をはじめとする家族・地域社会のケアを中心的に担う看護師の役割が拡大しており、看護師の就業場所は、在宅や介護保険施設など様々な場所に広がっている。ケアの対象の範囲の拡大に伴い、今後さらに必要となる能力を備えた質の高い人材養成が求められており、看護教育水準の維持向上が課題となっている。本学では、保健医療学部看護学科で展開してきた看護教育を継承しつつ、学部化を図ることで保健医療のカテゴリーから区分し、独自性のある看護学教育を追求する。また、看護教育機関に求められる根拠のある看護学教育実践、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力の養成をより一層進め、Art and Scienceとしての看護学の発展の成果を、次世代を担う学生に積極的に反映させるためにも、看護の学部化が必要であると考え。本学の所在地にある公益社団法人大阪府看護協会からは、本学に対して、看護学部設置についての要望書【資料1】が提出されており、本学の看護学部の設置に強い期待が寄せられている。

前項で述べた社会ニーズに加え、本学の施設・設備、教室等の状況から教育の質を保つことが可能な入学定員数を検討し、看護学部看護学科の入学定員を90名に設定した。なお、この定員は現在の保健医療学部看護学科の入学定員と同数である。

**【資料1】森ノ宮医療大学への看護学部設置についての要望書**

### (3) 教育研究上の目的及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### ア. 看護学部が研究対象とする学問分野

看護学部の教育研究上の中心的学問分野は「看護学分野」である。研究の対象とする主たる学問分野は、「看護学」及び関連した保健医療分野である。

#### イ. 教育研究上の目的

森ノ宮医療大学は、「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」ことを目的とする。

なお、ここで言う「高度な専門技術」とは、大学教育で重視される教養教育や、基礎から応用まで体系的に積み上げられた専門教育をベースに、専門性を更に深めていく中で身につけていく様々なスキルの事であり、将来、医療の専門家として頼られ、各分野で重要な役割を担っていくために基盤となるものと考えている。今回設置する看護学部においては、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的としている。

#### ウ. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部看護学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）を以下に示す。

看護学部看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられる。これは看護師国家試験受験資格となる。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

【DP1】看護の対象を理解し、社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修し、知識に裏付けされた確実で根拠ある技術を修得する。

【DP2】他者との相互理解に努め、コミュニケーション力と論理性を高め、看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。

【DP3】“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもち、豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感でき、医療職としての高い倫理観と利他主義を主体的に育むことが出来る豊かな人間力を養う。

【DP4】主体的に看護を追求し、自己の看護観を持つと共に、高度な専門性、他者との連携を統合し、人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる主体的問題解決能力を養う。

## 2. 学部、学科等の特色

森ノ宮医療大学は、大学の目的を「豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」としている。

看護は健康、不健康を問わず、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域の健康問題に対して医療、福祉あるいは行政といった関連の深い専門職とチームを組んで取り組む専門職である。大学で実施する看護基礎教育課程は、生涯学習の出発点となるという認識に立って、将来看護職として社会で幅広く活動するための、保健師、助産師、看護師に共通した看護学の基盤となる豊かな知識と確かな技術ならびに人間力を養うものである。

看護（Care）は人間が人間にはたらきかける行為であるため、豊かな人間性が求められる。そこで、教員と学生がともに学ぶ姿勢を大切にし、また、今日の学生気質も受け入れつつ、学生のニーズに沿って初年時教育、教養教育、専門教育が繋がるような教育を目指す。卒業後活躍する社会は、どの領域であれ知識や技術は日々更新される。そこで、卒業後も最新知識や技術を自力で学ぶことができるよう、また、自ら創出して社会の人々のために役立つ、自らも成長できるよう自学の精神を身につけさせる。

多様化した今日の看護には、相手との関係性を大切にしながら、看護の特質であるところの創造的な開発を行い、看護実践の基礎を学ぶ。看護学の学修は教室内だけでなく、医療・福祉施設、地域社会でも行われる。臨地実習をはじめとする臨床現場の実践のなかでの学修は、他の方法に代えられない極めて重要な課題であると認識して、実習現場との連携を重視する。

高等教育の役割は、人格の形成、能力の開発、知識の伝授、知的生産活動、文明の継承など非常に幅が広い。看護では将来、保健師・助産師・看護師として実践的な活動、すなわち、ニーズの的確な判断、ニーズに対応した確実な実践や評価等、真の医療専門職として成長するための主体的、能動的に学修する力（自学力）を養う必要がある。看護は実践の学問であるから、決められた業務を遂行するといった、手順的な職務を遂行することは非常に少なく、クライアントの個別性にあわせた看護の展開が専門職として求められている。

令和4（2022）年度から開設予定の看護学部看護学科においては、平成23（2011）年度の保健医療学部看護学科開設以来展開してきたこれらの看護学教育を継承しつつ、学部化を図ることで保健医療のカテゴリーから区分し、独自性のある看護学教育を追求する。また、

看護教育機関に求められる根拠のある教育実践、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力の養成をより一層進めていく。

看護学部看護学科の目的は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成である。

## **ア. チーム医療の実践的教育**

チーム医療に積極的に参画できる人材を育てることに重点を置き、そのための実践的な教育に力を入れる。

具体的には、チーム医療を展開するために必要となるコミュニケーション能力を養う「医療コミュニケーション」「チーム医療論」および複数学部・学科が連携して行う「IPW 論 (Interprofessional Work)」をカリキュラムに取り入れている。

1年次には「基礎ゼミナール」において、グループディスカッションを通じ、学生間でコミュニケーションの基礎を身につける。2年次には、「医療コミュニケーション」「チーム医療論」を配置し、3年次には看護学部だけでなく他学部・他学科とともに「IPW 論」を展開する。このように、3年次までのカリキュラムを通じて、他職種との連携・協業の重要性を理解し、3、4年次の臨地実習の場に活用することで、将来のチーム医療の実践につなげる。

## **イ. ヒューマンケアリングの実践的教育**

チーム医療の最前線においては、「ヒューマンケアリング」の視点が重要であると考え、本学科のディプロマ・ポリシーにも掲げている。人を深く理解し、共感できる豊かな感性、想いを医療の力に変えられる人間力、そして何よりも患者や家族、地域住民のニーズを見極め、問題解決に向けて自ら動ける主体性、他者とともに成長できる寛容性がこれからの看護職に求められる資質であるといえる。その修得のために課題を与えるだけではなく、自ら考えて取り組むグループワークやロールプレイ、演習等を積極的に導入した。環境面においては、実習室・演習室や自習スペースの近くに教員の研究室を配置するなど、学生の相談に対して教員がフォローしやすい学修環境を整えている。

## **ウ. 看護師教育を基盤とする教育課程**

全員が看護師と保健師の受験資格が得られる統合カリキュラムを置く看護大学に対して、本学では学内での学修環境の提供や臨地実習での十分な教育を可能とするために、統合カリキュラムを導入せず、看護基礎力を重視し、看護師教育を基盤とした教育課程とする。保健師課程については2年次に選考試験を行い、10名程度の選考を実施し、所定の科

目を修得することによって保健師国家試験受験資格が与えられる。

また助産師教育においても、4年間で看護師と助産師を取得できる大学があるなか、本学は助産学専攻科（10名定員）で助産師教育を行う。看護学科の4年間で看護師としての基盤を固めた後に、専攻科で助産師の専門知識と技術を1年間集中して着実に修得させる。また、養護教諭一種免許状の取得を目指す教職課程においても、選択制とし、希望者の中から2年次に選考試験を行い、成績、面接試験等で15名程度の養護教諭に対するモチベーションの高い者を選考し、教職課程の学修の動機づけを行なったうえで養護教諭に関する教育を行う。これらの専攻科、課程は本学看護学科の開設後、入学生の意向に配慮したものである。

このように本学看護学部は、看護基礎力を重視した教育課程としており、本学の所定の教育課程を修めた学生は、卒業後の看護実践の第一歩を踏み出すことができる基礎力が修得できているとともに実践現場では、指導者の助力を借りながら疑問点や新しい事柄に自律的に取り組むことができると考える。

### **3. 学部・学科の名称及び学位の名称**

本学看護学部はチーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術、利他主義・論理性をはじめとした医療人としての態度を身につけた人材を育成することを目的としている。名称を「看護学部」(Faculty of Nursing)とする。

看護学部看護学科は、看護師を養成する学科であり、看護師の国家試験受験資格を取得できることから、その主旨が最も伝わりやすい「看護学科」(Department of Nursing)とする。本学科の卒業要件を満たしたものに対して学士の学位を授与する。学位の名称はその教育・研究内容から「学士(看護学)」(B.S.in Nursing)とする。

### **4. 教育課程の編成の考え方及び特色**

#### **(1) 教育課程の基本構成と方針(カリキュラム・ポリシー)**

看護学部が掲げる「養成する人材像」及び「目的と特色」の趣旨を実現するために、教育課程は『教養科目群』、『共通科目群』、『学科専門科目群(専門基礎分野、専門分野)』と順次体系的に構成されている。この構成は医療に携わる専門職の養成に有効なプログラムを提供するのみならず、中央教育審議会の答申を踏まえ、学士力(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力)を育むように編成されている。

なお、教育課程については、保健医療学部看護学科の現行カリキュラム・教育体制を継承し、保健医療学部看護学科から看護学部看護学科へ移行しても、教育の実態には大きな

変更が生じないようにカリキュラムを編成しつつ、学部化により専門性を高める教育を今後さらに充実させていく。そのためには、これまでに参考にしてきた「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」や平成 29（2017）年に策定された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を重視して、本学の特徴を活かし、質を高めていく。

また、令和 4（2022）年 4 月 1 日に施行される保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令に伴い、規則の変更箇所該当するカリキュラムを改訂しており、看護学部看護学科開設年度の入学生から新カリキュラムを適用する。

看護学部の教育課程編成・実施の方針として、カリキュラム・ポリシーを以下に記す。

### ①教育内容

- ・ 1、2 年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、看護師、保健師の礎となる知識、技術、人間力の修得を目指す。
- ・ 3、4 年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けさせる。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みさせる。

### ②教育方法

- ・ 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置する。
- ・ 看護実践の基盤となる各看護学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目や保健師課程固有の実習科目を配置する。
- ・ 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置する。また、各看護学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れる。
- ・ 予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行う。

### ③学修成果の評価方法

- ・ 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行う。
- ・ ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行う。

## （2）教養科目群の編成と特色

本学の教養科目群は『科学的思考』、『人間理解と社会』、『語学』の科目区分によって構成される。『科学的思考』では、物事の相互関係を正しく理解し分析できる力、また得ら

れたデータから推論によって仮説を出し、それを検証していくという科学的思考力を培う。

『科学的思考』の科目区分では、医療従事者としての心構えと科学的思考の基礎を築く。「基礎ゼミナール」では、高校から大学へのスムーズな移行と、大学で自ら学ぶことへの動機付けをおこなう。「情報処理」では昨今の情報コミュニケーション技術の発展にともなう膨大な知識と情報を有効に活用するためのメディア・リテラシーを修得する。

『人間理解と社会』の科目区分では、「社会福祉学」を必修科目として配置する。「心理学」「生命倫理学」などの科目を開講し、人と人との関係において他者を理解する事、すなわち人の心の様相を理解することの意味を学ぶ。また人と社会の結びつきについて学修することで、社会の中で生きていく人のあるべき姿を考える。

『語学』では、国際共通語である英語に特化した語学力の向上を日指す。保健・医療・福祉の分野においても、グローバル化に対応するために英語の重要性は増している。英語を用いて異文化を理解し、英語でコミュニケーションがとれるよう実践的な英語力の修得を目指す。

### **(3) 共通科目群の編成と特色**

既設の保健医療学部では令和2(2020)年度からカリキュラムを変更し、保健医療学部の全7学科で『学部共通科目群』の科目編成が統一された。令和4(2022)年度に開設する看護学部においても科目編成を踏襲することにより、『共通科目群』では他学部と密に連携をもち、専門職種間での相互の理解を深めた教育を目指す。学部・学科を越えて同じ目標に向かい、ともに学ぶ機会を設けることで異なる医療職種の理解につなげる。特に

「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」と「チーム医療見学実習」は入学当初から座学と見学実習を通して医療への興味と理解を深め、専門職医療人のベースを確立する。また、「チーム医療論」と「医療コミュニケーション」は、医療の現場でチームとして協働するために必要とされる資質や素養を身につけるために必修とした。ここでは医療者と患者、そして医療者同士でのコミュニケーションを学ぶとともに、医療におけるコミュニケーションの重要性とチーム医療の意義を学び、多様な環境に対応できる能力を育む。また、同じく必修とした「IPW論」では、異なる医療職を目指す他学部・他学科の学生との症例検討等を通し、専門職種連携の方法について学びを深める。また「栄養学」を必修科目として配置し、医療人として必要な知識である栄養と生命活動に関する内容を学修する。



#### **(4) 学科専門科目群（専門基礎分野）の編成と特色**

看護学部看護学科の専門基礎分野の科目は、看護師資格取得を目指す者が学ぶべき看護教育に直結する知識と技術、並びに看護教育の理解と理論付けの基礎として必要な科目で『人体の構造と機能』、『疾病の成り立ちと回復の促進』、『健康支援と社会保障制度』の3つの科目区分で構成し、それぞれについて、より深い看護の知識と技術の修得を目指すように設定している。多くを必修科目とし、それらの考え方及び特色は次の通りである。

『人体の構造と機能』領域は、「形態機能学Ⅰ」「形態機能学Ⅱ」「形態機能学Ⅲ」「形態機能学Ⅳ」を配置し、系統的に学修する。また、人間の生活の基盤となる身体的機能を客観的に判断する手法としての「フィジカルアセスメント」を配置し、理解を深めるようにした。「生化学」は、①「生物の維持と仕事」、②「栄養素」、③「酵素による代謝」、④「血液による恒常性」、⑤「血液と免疫」⑥「臓器の生化学」について学修する。

『疾病との成り立ちと回復の促進』領域は、『人体の構造と機能』の学修を基礎として、看護の対象となる疾患をより深く理解できるように疾病の概要・病態生理・症状・診断・治療等を修得する。必修科目として「微生物学」「病理学」「臨床薬理学」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」を配置した。

『健康支援と社会保障制度』領域では、保健医療福祉と看護の理念について全体像を学修し、全体の中での看護のあり方を理解できるように、「医療概論」「公衆衛生学」「看護関係法規」を必修科目として配置した。また、地域保健活動で用いられる保健統計を学修する「保健統計学」、看護の対象に関する統計学の実態について学修する「疫学」を選択科目として配置する。

#### **(5) 学科専門科目群（専門科目）の編成と特色**

学科専門科目群の中の専門分野については、看護師としての専門性を高めるために必要とされる『基礎看護学』、『地域・在宅看護論』、『成人看護学』、『老年看護学』、『母性看護学』、『小児看護学』、『精神看護学』、『看護の統合と実践Ⅰ』、『臨地実習』、『公衆衛生看護学』、『卒業研究』、『看護の統合と実践Ⅱ』に分けて科目を配置している。

『基礎看護学』は、看護学概論と看護理論、援助論で構成している。また、「看護過程演習」を必修で配置する。看護実践の基本となる看護過程の展開について、これまで学修した知識を活用し患者の情報の収集、アセスメント、看護診断に基づく具体的なケア方針、方法の提示等を行い、看護学実習時に必要となる知識・技術について理解を深め、判断育成に繋げていく。

『地域・在宅看護論』、『成人看護学』、『老年看護学』、『母性看護学』、『小児看護学』、『精神看護学』はどの教育科目も概論、援助論で構成した。援助論においては各領域に特有で、活用頻度の高い看護理論を持ち得るような理論を学修する。また、地域・在宅看護領域においては、外来看護のニーズを今日の医療の動向・現実的な課題から学修する「外来看護論」を選択科目として配置する。

『看護の統合と実践Ⅰ』は「健康教育論」「家族看護学」を必修科目として配置した。高齢化社会を迎えた現代の課題である健康教育や家族看護の役割を学修する。また、看護部門を運営するために必要な管理に関する基礎的知識を理解するために「看護管理論」を必修とした。管理者としてだけでなく、一般の看護職者として必要なリーダーシップ能力を修得させる。

『臨地実習』においては、13科目を設定した。保健師国家試験受験資格を取得する学生を対象とした「公衆衛生看護学実習」「主題実習Ⅱ」を除いた11科目を必修科目として配置した。臨床実習では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、看護の知識・技術を看護実践の場面に適用できるよう実践的に学修させる。また実際の医療チームにおける看護の役割を理解させる。本科目では各実習施設と密に連携を取りながら展開していく。4年次の必修科目とした「主題実習Ⅰ」は、3年次までに修得した知識・技術あるいは臨地実習から興味のある領域を選択し、各自で主題を決めて実習計画の立案・実践・まとめを主体的に行い、基礎教育課程における実習の集大成と位置付けている。「主題実習Ⅱ」は保健師課程の学生が選択する科目であり、公衆衛生看護学実習では経験できなかった分野の実習を行う。また、公衆衛生看護学実習をさらに展開させ、保健師の機能の視点からプロセスを計画的に実践し評価する実習である。

『看護の統合と実践Ⅱ』においては、4科目を設定した。保健師国家試験受験資格を取得する学生を対象とした「公衆衛生看護セミナー」を除いた3科目を必修科目として配置し、これまで修得した知識・技術を活かし総合的な学修を行う。

## **(6) 卒業認定**

看護学部看護学科に4年以上在籍し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数（127単位）を修得し、卒業までに身につける能力としての看護学科のディプロマ・ポリシーの必要要件を満たしたものに卒業を認定する。

カリキュラム・マップ（授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応表）【資料2】を示す。

【資料2】看護学部看護学科 カリキュラム・マップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）

## 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### （1）教育方法

看護学部が掲げる「養成する人材像」及び「看護学部の特色」の趣旨を実現するため、また学生が主体的に学習に取り組むことができるようにするために効果的な教育方法として以下のような体制をとる。

#### ①教育課程

看護学部は教育課程を教養科目群、共通科目群、学科専門科目群の3群に分類し、学科専門科目群をさらに専門基礎分野と専門分野に分けている。教育課程の年次配当は1年次から教養科目群だけでなく、共通科目群、専門基礎分野、専門分野を履修する。1年次から専門分野を履修することで、看護、保健医療への興味関心を抱く機会を与え、学修促進への動機付けとする。また、専門科目の学修により教養科目、共通科目との関連性の理解が深まることを期待している。

#### ②ヒューマンケアリングの実践

ヒューマンケアリングの実践においては、人を理解し、寄り添える豊かな感性、想いを医療の力に変えられる人間力、そして何よりも患者や家族、地域住民のニーズを見極め、問題解決に向けて自ら動ける主体性が重要であり、また看護職に求められる資質である。それらの修得のために、教養科目群・共通科目群・学科専門科目群の複数の授業科目においては、講義に偏らないように、演習や実習の科目をバランスよく配置し、課題を与えるだけではなく、自ら考えて取り組むグループワークやロールプレイ、演習等の教育方法を積極的に導入した。

#### ③チーム医療教育

「基礎ゼミナール」や「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」では、少人数によるディスカッションを導入し、1年前期の「チーム医療見学実習」は、他学科の学生との病院見学実習を通してチーム医療への興味と理解を深め、専門職医療人のベースを確立する。

チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成するためには他学部・他学科（他職種）との連携教育が必要不可欠となる。学部共通科目においてチーム医療やIPW (Interprofessional Work) (専門職連携) を他学部・他学科の学生と共に学び、自分の専門領域のみならず他領域の広範な視点を加えてチームで目標を共

有し実践できる能力を育成する。

#### ④チューター制度の導入

看護学部看護学科ではチューター制度を導入し、担当教員が定期的に履修方法や学生生活に関して面接指導を行う。4年間チューター制をとる。また、学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、専任教員はオフィスアワーを設定し、講義に関する質問だけでなく、勉強の仕方や学生生活に関する相談にも応じる。

#### ⑤キャップ制の導入

本学のすべての学部学科においてキャップ制を導入している。看護学部看護学科は履修科目の年間登録単位数の上限を48単位（半期では24単位）に設定している。

年間登録上限単位数を設定することは、単位の実質化を目的に、学生負担の軽減と履修科目の学修時間の確保を行うことで、十分な学修効果を上げることを目指している。

なお、次の授業科目は、履修登録単位数の上限の対象から除くこととし、学生に対して履修案内で周知している。

- (ア) 資格取得に必要と学長が認めた場合
- (イ) 他大学等において行う「大学コンソーシアム大阪」等、本学が認めた  
単位互換授業科目
- (ウ) 卒業要件外科目、臨床または臨地での実習科目および集中講義で開催される  
実習科目
- (エ) 本学において既修得単位として認定された科目

### (2) 履修方法とその指導

大学における履修は高等学校までの履修と比べて相違点が多いことから、学生が履修方法を理解できるよう定例的に履修指導を行い、最終的には自律できるようにする。

まず、各年次の前期開始日にオリエンテーションで履修指導を実施し、学生自身の興味・関心を尊重し、卒業後の進路も視野に入れた科目履修を促す。さらに、履修に関わる質問への対応や成績不良者の指導などは、随時個別に実施する。

看護学部看護学科ではチューター制をとり、担当チューターが中心となって学生指導に当たるが、卒業研究の担当者などとも連携して、適切な対応・指導を実施する。

### (3) 卒業要件

卒業要件は、4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、共通科目群から必修7単位+選択4単位以上、学科専門科目群の専門基礎分野から必修21単位+選

択 2 単位以上、学科専門科目群の「専門分野」から必修 76 単位＋選択 1 単位以上の計 127 単位以上修得することとしている。

また、保健師課程に関しては、所定の科目を選択して履修し、必修単位数 148 単位を修得した場合に、保健師の国家試験受験資格が与えられる。

教職課程【養護教諭一種免許状】に関しては、所定の科目を選択して履修し、必修単位数 157 単位を修得した場合に、養護教諭一種免許状を取得できる。

なお、年間登録単位数の上限を年間 48 単位（半期 24 単位）としている。

履修モデルを【資料 3】【資料 4】【資料 5】に示す。

【資料 3】履修モデル

【資料 4】履修モデル 保健師課程

【資料 5】履修モデル 教職課程

## 6 実習の具体的計画

### (1) 実習計画の概要

#### ア. 実習目標

実習は、本学におけるチーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材を育成するために不可欠な、看護実践能力育成の根幹をなす教科目である。

実習では、あらゆる健康レベル、健康障害のある人々に対して、既習の知識、技術、態度を実際の場面に活用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力の養成を目的としている。さらに、実際の現場において看護の対象と接する中で、相互理解、コミュニケーション力の向上に努め、専門職業人としての責任感や看護観を養う。また、医療スタッフとの直接的関わりを通して、他職種の専門性を知り、保健・医療・福祉分野における看護職の専門性や役割について理解することを目標としている。

なお、各実習科目の具体的な目標については【資料 6-1】各実習の概要及び週間計画にて示している。

【資料 6-1】各実習の概要及び週間計画

#### イ. 実習先の確保の状況

本学部の実習目標を達成するための要素や、協力体制を備えていることを条件に実習先を選定し、本学が所在する大阪府下を中心に、病院、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、子育て支援施設、保健センター等 118 施設を確保した。本学および大阪市中心部からの移動時間はおおむね片道 1 時間以内である。なお、本学および大阪市中心部からの移動時間は一部の地域を除き片道 1 時間 30 分以内である。これを超える実習施設もあるが、教員の居住地や実習施設まで車を使用するなど効率化を図ることにより、実習指導体制に大

きな影響はないと考える。また、学生については実習施設までの通学時間等を配慮し、原則自宅近くの実習施設への配置を優先する。

【資料 6-2】実習施設総括表、【資料 6-3】実習施設の概要、【資料 6-4】実習承諾書

## ウ. 実習単位および内容、事前・事後の指導計画

臨地実習は、13 科目 28 単位であり、学生が看護実践能力を身につけるためには、実習時間のみならず実習の事前事後の学内でのセミナーや実習先との連携を密にすることが必要となる。本学ではディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従い、1 年次から 4 年次にかけて段階的に実習科目を設けている。

### (ア) 1 年次

1 年次前期には、基礎看護学実習（1 単位、45 時間）として現場で活躍する看護師に帯同し、仕事内容を間近で見学する。実際の現場で見ることで、看護の意味や役割、知識、技術を理解する。また、患者と触れる機会を通して、コミュニケーション方法を学び、看護師としての考え方や姿勢を身につける。

### (イ) 2 年次

2 年次前期には地域・在宅看護論実習（1 単位、45 時間）で地域医療の最前線である診療所において、地域で生活する多様な人々の健康ニーズを知り、看護の基礎を学ぶ。また、後期には基礎看護学実習Ⅱ（1 単位、45 時間）で一人の患者を担当し、患者から得られた情報を元に看護の計画を立てて、援助を行っていく。バイタルサインの測定や全員清拭等、学内で学習した技術を患者の状態に応じて実施する。

### (ウ) 3 年次

3 年次後期には成人看護学実習Ⅰ（急性）（3 単位、135 時間）、成人看護学実習Ⅱ（慢性）（3 単位、135 時間）、老年看護学実習（3 単位、135 時間）、母性看護学実習（2 単位、90 時間）、小児看護学実習（2 単位、90 時間）、精神看護学実習（2 単位、90 時間）で病院、老人福祉施設、保育園などで、発達段階・健康障害・健康レベルに分けた看護を学ぶ。実習までに講義で学んだ知識や技術を活用し、各分野の患者に応じた看護の実践力を養成する。

### (エ) 4 年次

4 年次前期には、地域・在宅看護論実習（2 単位、90 時間）で地域や在宅で生活している人に必要な看護を行う。主題実習Ⅰ（2 単位、90 時間）で 3 年次までに修得した知識や技術を基に、学生自身が更に学びを深めたい領域を決めて実習を行う。また、保健師国家試験受験資格を取得する学生のため、公衆衛生看護学実習（4 単位、180 時間）と主題実習Ⅱ（1 単位、45 時間）を配置し、保健師に必要な知識・技術を修得する。

なお、各実習科目の具体的な内容については【資料 6-1】各実習の概要及び週間計画にて

示している。

## エ. 看護学科臨地実習委員会の設置

看護学科臨地実習委員会では教員の指導体制、安全管理体制などを協議し、協議結果を都度委員より各教員へ周知徹底を図っている。「看護学科臨地実習委員会」は、看護学科の9つの看護専門領域（基礎・成人慢性期・成人急性期・老年・小児・精神・母性・在宅・公衆衛生看護学）の代表者各1名の計9名で構成する。

## オ. 学生へのオリエンテーションの内容、方法

各学期開始前に実施される学科オリエンテーションにおいて、実習セミナーおよび実習の期日を伝え、実習に関わる先修条件の説明を行う。各臨地実習前には、看護学科臨地実習委員会を中心として実習担当教員（学科の実習委員会委員を含む）による実習オリエンテーションを行う。

オリエンテーションの内容は、実習目標の確認、実習先一覧と学生配置、実習の進め方と提出課題、実習日数と欠席などの取り扱い、実習に取り組む姿勢、看護を学ぶ学生としての倫理規定、単位認定の方法、個人情報保護、実習中の事故などについてである。

## カ. 学生の臨地実習参加基準・要件等

学生が実習を履修するにあたり以下の先修条件を設けている。

<専門分野「臨地実習」の先修条件>

2年次後期に開講する「基礎看護学実習Ⅱ」の先修条件

- i. 基礎看護学実習Ⅰ
- ii. 看護理論
- iii. 生活援助論Ⅰ・Ⅱ
- iv. 診療援助論Ⅰ・Ⅱ
- v. 看護過程演習

3年次後期に開講する専門分野「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）の各科目の先修条件

- i. 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ii. 当該領域の必修科目の概論、各援助論の全てを履修し、単位を修得しておかなければ当該領域の実習を履修することはできない。

4年次前期に開講する科目の先修条件

- i. 地域・在宅看護論実習Ⅱは、3年次後期の専門分野「臨地実習」15単位のうち13単位と「地域・在宅看護論実習Ⅰ」（1単位）、および、「地域・在宅看護概論」（2単位）、

「地域・在宅看護援助論Ⅰ」（1単位）→2単位になります、「地域・在宅看護援助論Ⅱ」（1単位）を修得しておかなければ履修できない。

- ii. 公衆衛生看護学実習（※）は、3年後期までの臨地実習19単位、および、専門分野「公衆衛生看護学」（16単位）、「主題実習Ⅰ」（2単位）を修得しておかなければ履修できない。

※但し、公衆衛生看護学実習と主題実習Ⅰは開講時期が重なるため、単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。

- iii. 主題実習Ⅰは、専門分野「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）15単位のうち10単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また上記（i）で、地域・在宅看護論実習Ⅱが履修できない学生は、主題実習Ⅰの地域・在宅領域を選択できない。

- iv. 主題実習Ⅱ（※）は、公衆衛生看護学実習の単位を修得しておかなければ履修できない。

※但し、主題実習Ⅱと公衆衛生看護学実習は開講時期が重なるため単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。

## キ. 実習中の安全管理体制

基礎教育として「安全教育」「倫理教育」「医療安全管理体制」「医療現場におけるリスクマネジメント」について学生は理解した上で、臨地実習へ出向する。臨地実習における安全管理対策について以下に示す。

### （ア）対象者への倫理的配慮

- ①対象者への倫理的配慮を遵守する
- ②言葉遣いや態度に留意する
- ③看護学生としての関係性を保つ（贈答を受取らない。個別に連絡先を交換しない。）

### （イ）健康管理、感染防止対策

- ①感染症抗体価検査及び予防接種の受診
- ②保険加入状況の確認
- ③規則正しい生活を習慣づけ、自己の体調管理に努める。
- ④臨地実習施設へは必ず健康保険証のコピーを持参する。
- ⑤処置やケアの前後には手洗いを十分に行う。
- ⑥感染症のある対象者を受け持つ場合には、感染予防に必要な留意事項を学習し、各施設の対応マニュアルを確認する。

### 【資料 6-5】健康観察表



#### (ウ) 事故防止対策

- ①安全なケアが提供できるよう、十分な事前学習・練習を踏まえて実習に臨む。
- ②ケアの実施前後は、必ず臨地実習指導者に確認・報告をし、決して独断で行動しない。
- ③事故・インシデント発生時は、直ちに担当教員と臨地実習指導者に報告するとともに、施設によって別途届け等の必要がある場合は、所定の手続きに従って行動する。
- ④実習中に学生が事故を起こした場合には、原則として実習要項に定められた報告ルートで報告する。

#### (エ) 個人情報の取り扱い

対象者の診療情報を入手できる環境にあるため、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努める必要があり、以下の点に注意する。

- ①対象者への説明と同意
- ②匿名性の確保と守秘義務について
- ③実習に関する紙媒体・電子媒体の使用方法
- ④個人情報の転記
- ⑤個人情報の転送と保管
- ⑥対象者の個人情報に限らず、実習施設や実習中の生活に関する情報を、SNS（LINE や Facebook など）やブログなど公共性の高いサービスにおいて発信してはならない。

#### 【資料 6-6】誓約書

#### (オ) 感染症、事故・インシデント発生時の対応方法

感染症予防について、事前の検査や予防接種を実施する。また、院内感染を予防するためにスタンダードプリコーション等を遵守し、予防に努める。また、感染症発生時や発生が疑われる場合は、実習施設の方針に従う。また、不測の事態により事故が生じた場合や、事故につながるようなこと（インシデント）が起こった場合は、適切な対応を速やかに行う。また、所定の報告書に基づき報告を行い、発生原因などを明らかにすることにより、事故・インシデントの再発防止を図り、また教育への指針とする。

##### ①学生の責務

- ・臨地実習指導者への事故・インシデント発生報告書の提出

##### ②大学実習指導者（専任教員、非常勤実習助手等）の責務

- ・実習中の事故発生の事実関係の確認
- ・学生に対する指導・助言、臨床側の直接の指導者との協議により、問題を適切かつ迅速に解決する

- ・単位認定者（科目担当教員）への報告

##### ③単位認定者の責務

- ・事故発生状況の詳細な把握、担当教員に対する指導・助言、臨床側の協議・調整を行い、

問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。

- ・単位認定者は、事故のレベルにより速やかに看護学科長および看護学科臨地実習委員長へ報告。

- ・必要に応じて、大学実習指導者、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

#### ④看護学科長の責務

- ・単位認定者から実習中の事故について報告を受け、実習施設責任者との協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するように努める。

- ・事故のレベルや状況により、速やかに学長に報告する。

- ・必要に応じて、大学実習指導者、単位認定者、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

【資料 6-7】感染症予防の手引き、【資料 6-8】感染予防管理表、【資料 6-9】予防接種証明書、【資料 6-10】インフルエンザワクチン実施確認報告書、【資料 6-11】事故・インシデント発生報告書

#### (カ) 災害時等の対応方法

実習中の気象異常・ストライキ時の対応は、原則的に授業同様とするが、個別に対応が必要な場合または判断に迷う場合は、担当教員に連絡し指示を受ける。

## (2) 実習指導体制と方法

### ア. 担当専任教員の配置と指導計画、実習訪問計画

実習科目毎に担当教員（科目責任者等）を決め、実習期間中の学生の効果的な学修に努める。また助手を配置する場合は、教員はその助手を指導、監督し、臨地実習における学生の学修の効果が上がるように必要なだけの巡回体制をとる。【資料 6-12】は、令和 4（2022）年度の学年別の臨地実習計画表案である。各教員の実習担当の重複がないよう計画している。

### イ. 学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

実習担当教員は実習の到達目標を学生と共に確認しながら、学生の実習状況について把握する。また、実習指導者と指導方法、指導内容を確認の上、学生へのアドバイスを必要に応じて行う。

### ウ. 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

実習中、実習後のレポート等の課題は、学生の目標到達度を確認し、学習過程をたどる貴重な学習資料となる。そのため、本学部では各実習科目で求められる到達目標に沿ったレポート等の課題を設定している。実習カンファレンスの際に、実習を通して得られた日々の学

びや自身の課題について記録し、適宜実習担当教員や実習指導者から助言を受けるよう指導する。基礎看護実習Ⅱの課題【資料 6-13】行動計画表、【資料 6-14】評価表を例として示す。

### **(3) 大学と実習施設との連携体制と方法**

#### **ア. 各施設での臨地実習指導者の配置状況と連携会議等の開催計画**

臨地実習を行う上で、臨地実習施設と大学との連携体制を強化することは大変重要となる。そこで、実習指導者と大学との連絡を密にするため、各実習施設に担当教員を配置し、原則として同一教員が連絡をとるようにする。

また、大学実習担当教員と実習指導者が協議する場として、実習前に領域毎、実習施設毎に「臨地実習連携会議」を開催する。この会議は、実習受け入れ施設の実習指導者と大学の実習担当教員で構成され、本学の教育方針、臨地実習の目的、目標、学生の到達度に対する評価方法等を確認し、共通理解のもとに臨地実習が円滑に行えるよう協議する。具体的には、1) 実習前打ち合わせ、2) 実習中における連携、3) 実習終了後における実習評価及び連携、4) 大学と実習先との評価方法についての連携について話し合う。当該実習終了後、大学実習指導者は臨地実習指導者と、実習目標の到達度、実習への取り組み態度、学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。

#### **イ. 実習前、実習中、実習後における調整・連携の具体的方法**

1年次の基礎看護学実習Ⅰでは、大学実習担当教員が実習前に実習施設の担当者と打ち合わせを行い、情報を共有し、学生に伝えておく。実習期間中は実習担当教員引率のもとで実習を行い、見学先の実習指導者から説明・指導を受け、大学実習担当教員からも補足説明を行う。

2年次の基礎看護学実習Ⅱでは、事前に大学実習担当者が実習施設の担当者と打ち合わせを行い、実習目的や実習方法、実習到達目標について確認するほか、配置された学生の学内での知識・技術の修得レベルを報告し、指導方法について協議する。実習期間中は担当教員が施設を訪問し、臨地実習指導者と連携しながら学生への実習指導を行う。

3、4年次の各領域実習、主題実習Ⅰ・Ⅱおよび地域・在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱに関しては、実習前に実習施設ごとに開催する臨地実習指導者会議において、実習目的や実習方法、実習到達目標について確認し、前年度に実施した全実習の総括を行う。実習期間は、大学実習担当教員が訪問し、学生に対して実習指導を行う。

いずれの実習でも、実習期間中は大学実習担当教員と臨地実習指導者が連絡を密にしておくことで、実習指導上の問題が発生した際に迅速に対応できるようにする。終了後は大学実習指導者と臨地実習指導者が、実習目標の到達度、実習への取り組み態度、学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。

## ウ. 実習施設における臨地実習指導者の配置計画

基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、各領域実習、主題実習Ⅰ・Ⅱにおいて、学生1名に対して臨床経験3年以上の看護師が臨地実習指導、および評価を行う。可能な限り2名以上の臨地実習指導者が学生を指導し、学生の評価に関しては、看護師長ならびに他の看護師の意見を総合して、臨地実習指導者が評価表に記載する。

【資料6-12】R4年度臨地実習計画表案

## エ. 大学教育としての実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

本学の臨地実習は、学外の医療施設・福祉施設等で実施する。臨地実習は、学内において修得した知識・技術の臨床での体験学修であるため、本学の教育水準と同レベルに保つことは重要となる。実習水準の確保と方策として、下記に示すことを実施する。

臨地実習開始前に、各施設の臨地実習指導者に対して、本学のカリキュラムならびに授業概要を提示し、教育内容を説明する。さらに、実習指導方法について本学の実習担当教員と実習指導者間で十分に調整する。そして、各施設の実習指導者と本学の連携を密にするために、各実習施設に大学実習担当教員を配置する。

臨地実習は、これまで学んだものを自ら実地にて検証し、より一層理解を深めるものであり、看護実践を展開するための理論的背景や根拠を提示する必要がある。そのために、領域ごとに実習中に課している実習記録において、先行研究などを引用した考察を重要視する。また、臨地実習指導者と本学の実習担当教員が一体となり、臨床現場での指導や抄読会、症例報告会（検討会）、臨床講義などを行い、それらを通じて学生の課題解決能力等を養う。

主題実習終了時は、修得した知識・技術を再確認するとともに、各施設の実習指導内容が本学の教育水準を満たしている事を確認する。実習先の実習水準が本学の教育水準を満たさない場合、もしくは本学の教育内容と合致しない場合は、本学の教育水準を再提示し、教育内容を指導することで実習水準の確保に努める。

なお、大学だけでなく専門学校の実習を受け入れている実習施設については、大学教育にふさわしい実習の質が確保されるよう、臨地実習指導者会議等の場を利用して各施設の臨地実習指導者に実習目標や実習内容を十分に伝え、本学の教員と認識を共有できるよう努める。

## オ. 緊急時の連絡体制等

実習中は常に安全への配慮を行い、事故防止に努める。実習中に事故が発生した場合（学生が対象者に怪我を負わせた場合、施設の器物を破損した場合、実習地への移動中に事故に遭遇した場合等）には、まず臨地実習指導者に報告し、指示を受けた後、実習担当教員に連絡する。休日や早朝、夜間の緊急時の連絡に備え、実習担当教員は実習専用の携帯電話を所持し、学生および実習指導者へ連絡先を伝えておく。必要に応じ、実習指導者と実習担当教員が対応方法を協議する。また、事故のレベルに応じて報告内容を書面に残し、実習委員会、

学科長、学部長、学長にも報告する。【資料 6-15】 事故・インシデント発生レベル

#### （４）単位認定等評価方法

##### ア. 各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携（臨地実習指導者と教員の役割）

臨地実習における教育計画の立案および遂行は、大学が責任をもって行い、臨地実習指導者と教員は次のような教育の役割を分担し、円滑で効率的な運営を図る。

###### ①教員の役割

- ・ 臨地実習内容および方法の計画、臨地実習の実習要項の作成
- ・ 実習依頼とその調整、学生の配置先の決定
- ・ 事前の実習行動計画の指導
- ・ 臨地実習指導者会議の計画と開催
- ・ 実習に関連する問題の調整
- ・ 実習期間中の訪問指導および電話連絡による状況把握
- ・ 実習終了後のセミナーの計画および開催

###### ②臨地実習指導者の役割

- ・ オリエンテーションの実施
- ・ 学生の実習内容と方法に関する教員との連絡調整
- ・ 担当患者に対するケアおよび記録に関する指導
- ・ 学生の課題学修や専門職として社会適応技能の指導
- ・ 本学の評価様式を用いた実習中の学生に対する中間評価と最終評価
- ・ 学生の自己評価に対する指導

当該実習終了後、大学実習指導者は臨地実習指導者と、実習目標の到達度、実習への取り組み態度、学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。臨地実習終了後、大学の専任教員は学生個々の評価を行い、当該実習の全体の評価会議において実習担当教員全員で学生の評価を確認する。

##### イ. 大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準

臨地実習の評価については、各実習科目の臨地実習担当教員と実習先の臨地実習指導者の相談の下に科目主担当教員が評価を行う。評価については、出席状況、実習の到達目標に達していることをはじめ、実習における態度やレポート等の課題から総合的に判断する。臨地実習指導者が合格基準に達していないと判断した場合、大学実習担当教員と協議して対応を決定する。

#### 7. 取得可能な資格

看護学部看護学科の教育課程は、【資料 7】の対比表のとおり、保健師助産師看護師学校

養成所指定規則で定める教育内容及び単位数等の条件を満たしているため、卒業要件に必要な単位を修得することにより、卒業と同時に国家資格である看護師国家試験受験資格を得ることができる。これに加えて、強い意欲があり目的意識の高い者については、保健師または養護教諭一種のいずれかについて、資格・免許を取得するための課程の履修を認める。それぞれの課程の履修については成績・面接試験等により総合的に選考する。

- ・ 卒業要件を満たすことにより受験資格を得る  
看護師国家試験受験資格
- ・ 卒業要件に加え、指定された科目の単位を取得することで受験資格を得る  
保健師国家試験受験資格（10名程度の選考制）
- ・ 卒業要件に加え、指定された科目の単位を取得することで免許を得る  
養護教諭一種免許状（15名程度の選考制）
- ・ 保健師国家試験に合格し、保健師資格を取得した者のうち、教育職員免許法施行規則第66条の6で定める4科目を修得した場合、申請することで免許を得る  
養護教諭二種免許状

#### 【資料7】教育課程と指定規則との対比表

## 8. 入学者選抜の概要

### (1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護学部看護学科が求める学生像は以下のとおりである。

教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求める。具体的には以下のような人物像を求める。

#### <具体的な求める人物像>

- ①看護職の仕事及び本学の教育方針を理解し、看護に関する学修を継続し修了する意欲がある。
- ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。
- ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。
- ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。

#### <高等学校で修得しておくことが望ましい水準>

- ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。
- ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。
- ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。
- ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。

### ＜入学者選抜の方針＞

高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行う。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点）を変えて評価する。

- ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。
- ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。
- ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。

### 【禁煙への取り組み】

本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学の全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施している。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とする。

## （2）入学者選抜方法

本学部が求める学生を多面的・総合的に評価し選抜できるよう、すべての入試において、本学部への入学を志望する動機、ならびに卒業後の目標について記載する「入学志望動機書」の提出及び「面接試験」を課すこととする。これにより、アドミッション・ポリシーに掲げている「職業への理解と関心」、「学修に関する意欲」等が本学科の求める水準に達していることを判定する。

具体的な選抜方法は以下のとおりである。

### 【1】総合型選抜【学習成果重視型】（看護学科5名）

【試験日 2021年10月17日 実施予定】

「将来、社会に貢献するために本学で学びたい」という高い目的意識と強い学習意欲を持った人たちを積極的に評価するために実施する。基礎学力試験による基礎学力、面接による人物評価、高等学校や社会での取り組みを総合的に判定する。

【2】総合型選抜【学力重視型】（看護学科 40 名、指定校推薦選抜含む）

〔試験日 2021 年 11 月 6 日、11 月 7 日 実施予定〕

入学志望動機書、基礎学力試験、面接試験等によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【3】学校推薦型選抜指定校推薦選抜〔試験日 2021 年 11 月 19 日 実施予定〕

入学志望動機書、推薦書、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【4】一般選抜（看護学科 40 名、社会人選抜含む）〔試験日 2022 年 2 月～3 月 実施予定〕

入学志望動機書、学科試験、面接試験によって学力到達度や適性を総合的に判定する。

【5】大学入学共通テスト利用選抜（面接併用型）（看護学科 5 名）

〔試験日 2022 年 3 月 8 日 実施予定〕

入学志望動機書、「大学入学共通テスト」の成績、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【6】社会人選抜〔試験日 2022 年 2 月 6 日、2 月 23 日 実施予定〕

職業に従事した経験を持つ社会人を対象とし、面接を重視し、学科試験を含め、総合的に判定する。なお、社会人とは下記のいずれかに該当する現役高校生以外のすべての方で、おおむね 2 年以上の就労経験（アルバイト含む）がある方とする。

- ①高等学校・中等教育学校を卒業した方
- ②通常の課程による 12 年の学校教育を修了した方
- ③学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校卒業と同等以上の学力があると認められる方

【入試区分ごとの試験科目と科目選択方法】

入試区分	試験科目	選択方法等
総合型選抜 【学習成果重視型】	○基礎学力試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」に相当する科目 ○面接試験（個人面接）	2 科目選択
総合型選抜 【学力重視型】	○基礎学力試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎」、「化学基礎」に相当する科目 ○面接試験（グループ面接）	2 科目選択
学校推薦型選抜 指定校推薦選抜	○面接試験（個人面接）	—
一般選抜	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニ	前期は 2 or



(前期・中期・後期)	ケーシオン英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○面接試験（グループ面接）	3科目選択、 中・後期は 2科目選択																					
大学入学共通テスト利用選抜 （面接併用型）	○大学入学共通テスト：以下の7科目のうち、2科目を合否判定に採用。3科目以上受験した場合は高得点の2科目を合否判定に採用する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>教科</th> <th>出題科目と選択方法等 ※1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学</td> <td>「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="4">理科</td> <td>「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「化学」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「生物」</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「物理」</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>外国語</td> <td>「英語」（リーディング・リスニング）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国語</td> <td>「国語総合（近代以降の文章）」</td> </tr> </tbody> </table> ※1 7科目全てを受験する必要はない ※2 2科目で1科目とみなす ○面接試験（グループ面接）	科目	教科	出題科目と選択方法等 ※1	1	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択	2	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2	3	「化学」	4	「生物」	5	「物理」	6	外国語	「英語」（リーディング・リスニング）	7	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	2科目以上選択
科目	教科	出題科目と選択方法等 ※1																					
1	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択																					
2	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2																					
3		「化学」																					
4		「生物」																					
5		「物理」																					
6	外国語	「英語」（リーディング・リスニング）																					
7	国語	「国語総合（近代以降の文章）」																					
社会人選抜	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○面接試験（個人面接）	2科目選択																					

### (3) 入学前教育

早期に合格が決定した後の学習意欲を継続する観点から、本学では令和2(2020)年度現在、「入学後に学ぶ内容の把握」、「必要な基礎知識の確認」、「高校までとは異なる主体的な学習方法への理解」を深めることを目的とした、「入学前教育プログラム」を実施している。

#### ア 対象

総合型選抜（学習成果重視型）（学力重視型）・学校推薦型選抜指定校推薦選抜に合格した者（12月以前の入学内定者）。

#### イ 内容

リハビリ・医療系総合テキスト、課題提出、ワークショップによる採点指導付き自

習。

令和 4 (2022) 年度以降の入学前教育に関しては、令和 3 (2021) 年度の入学前教育の趣旨を基本としつつ、本学部の特性を考慮した上で教材等の適正化を図っていく予定である。

## 9. 教員組織の編制の考え方及び特色

### (1) 教員組織の編制について

看護学部看護学科は専任教員 32 名（教授 11 名、准教授 7 名、講師 10 名、助教 4 名）で組織される。中心となる研究分野は「看護学」であり、教員組織を構成する教員 32 名のうち 28 名が看護師の資格を有する。また、そのうち 9 名が保健師免許を有する。

研究指導に関しては、専任教員 32 名のうち、博士の学位を持つものが 10 名（看護 2 名、保健学 1 名、医療科学 1 名、医学 4 名、工学 2 名）、修士の学位を持つものが 19 名（看護学 10 名、学術 2 名、臨床教育学 2 名、教育学 2 名、心身健康科学 1 名、健康科学 1 名、史学 1 名）であり、それぞれの分野で研究指導及び補助に当たることができる。

### (2) 主要科目と教員配置について

教養科目群については、既存の保健医療学部看護学科が培ってきた教育水準を引き継ぐため、同一の教員を配置した。本学は医療系大学であるため、専門基礎分野の一部の科目は学部・学科を超えて共通の科目であることから、学内で最適な人選をおこない実績のある教員を配置した。一部の科目において非常勤講師を依頼する場合も優れた教育・研究実績を持つ人材を配置した。

看護学科の専門科目群においては、看護師・保健師という専門職業人養成の観点から、臨床現場の経験が豊富な教員を配置することで、臨床に直結した教育を行う。同時に、高度な専門知識の教育・研究の場としての役割を果たすべく、教育実績および研究実績の豊富な教員を配置し、臨床と教育、研究が相互に作用できるように工夫している。

### (3) 教員の年齢構成について

看護学部開設時、看護学科の専任教員の年齢構成は、70 歳代に教授 2 名、60 歳代に教授 2 名、講師 1 名、50 歳代に教授 7 名、准教授 4 名、講師 4 名、助教 1 名、40 歳代に准教授 3 名、講師 4 名、助教 2 名、30 歳代に講師 1 名、助教 1 名となっている。

これらの専任教員について、本学の定年年齢が満 60 歳であり、森ノ宮医療大学 教員等定年規程【資料 8】で「大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者

は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める」と定められており、定年年齢に達した教員については、完成年度まで在職させる。また、学年進行終了時以降においては、本学の再雇用規程【資料 9】、教育職員等の任期制に関する規程【資料 10】に基づき、看護学の分野に応じて在籍を継続する。

さらに、学年進行終了時以降は、教育研究水準に支障をきたさず世代交代が円滑に行われるよう、退職する教員の専門性、年齢、職位等を考慮し、適宜後任を補充する。この後任の採用は以下に示す方針で行う。

- ・ 現行の教員数 32 名から、若手教員を 3 名増員する。
- ・ 本学の教育研究の維持・向上をはかるため、採用方法を内部昇格のみに限定せず、公募により外部からも広く候補者を求め、その中から適任者を確保する。
- ・ 採用はバランスのとれた年齢構成となるよう年齢も考慮する。
- ・ 原則として、定年まで 4 年以上の期間がある者を採用する。
- ・ 年齢構成は、別表【資料 11】の職位ごとに定めた年齢構成を目途に配慮して採用する。

#### **【資料 8】 教員等定年規程**

#### **【資料 9】 再雇用規程**

#### **【資料 10】 教育職員等の任期制に関する規程**

#### **【資料 11】 将来の教員配置計画**

### **(4) 若手教員の育成計画**

本学では、教員の自己研鑽を促し研究・研修を推進する目的で、研究内容や研究環境を考慮した上で、専任教員が週 1 日程度を学外等での研究・研修活動に充てることを認めている。本学自己点検評価・FSD 委員会および本学大学院自己点検評価・FSD 委員会において組織的な教育活動改善への取り組みを担当しており、経験の浅い若手教員に対して教育方法の改善・指導する体制を整えている。看護学科においては「研究支援委員会」が若手教員の教育研究活動の改善・指導する体制を行っている。大学院が主催する「大学院学術セミナー」を月に 1 回（原則として第 4 木曜日）開催し、各教員が現在取り組んでいる自身の研究成果や進捗状況などを本学教職員や学生、外部の参加希望者に対して講演し、教職員からの質疑応答に対応している。また、「研究支援センター」では、若手教員の研究に対する助言や支援に加え、研究における倫理教育を実施している。同センターでは研究費配分も行っており、若手教員のプロジェクトについても積極的に採用していく。さらに、若手教員の教育研究活動の資質向上のため、助教等を対象とした大学院（修士課程・博士課程）への進学についてもサポートしていく。今後も専門職業人の養成に必要な FD

研修や各種セミナー等を通して教員育成を行い、教員の質向上に努めていく。

## 10. 施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

#### ア. 校地の状況

校地は平成 18 (2006) 年に大阪市住之江区南港北 1 丁目 26 番 16 号 (地番: 1 丁目 39 番 1 号) に 7,683.81 m<sup>2</sup> の土地 (容積率 800%) を大阪市から購入し、平成 20 (2008) 年に隣接する同南港北 1 丁目 39 番 2 号に 8,311.43 m<sup>2</sup> を追加購入、さらに平成 28 (2016) 年に隣接する同南港北 1 丁目 40 番 1 号~3 号、8 号~9 号に 16,941.41 m<sup>2</sup> を追加購入したことにより、合計 32,936.65 m<sup>2</sup> を保有している。大阪メトロ中央線のコスモスクエア駅から徒歩約 1 分の場所にあり、学生の通学や教職員の通勤に高い利便性と、市民に開かれた大学としての役割を担うことができる立地条件である。

近隣には、高層マンションやオフィスビルが林立し、徒歩 5 分圏内には出入国在留管理局や大阪府咲洲庁舎等があり、行政との連携を積極的に行っている。一方、海辺等の自然が間近にあり、学生と市民が触れ合うことができる憩いの場を介し、豊かな人間性を醸成し、学生に活力をもたらし、専門職医療人の育成の環境としてふさわしい立地であると考えられる。

#### イ. 校舎の建設

平成 19 (2007) 年の大学開学に伴い、鍼灸学科および理学療法学科の校舎「東棟」を建設し、残りの校地を緑豊かな空地とした。平成 22 (2010) 年度に「学生食堂棟」、平成 23 (2011) 年度には看護学科設置に伴い「西棟」を建設した。また平成 28 (2016) 年度には「南棟」を建設し、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科、大学院保健医療学研究科医療科学専攻が使用している。また、診療放射線学科設置に伴い、新校舎「桜棟」(5,422.25 m<sup>2</sup>) が令和 2 (2020) 年 1 月に竣工している。

#### ウ. 運動施設の確保

大学にとって運動場は、教育や休息のために必要であることから、校地内に整備することを検討したが、学内に設けるのではなく代替運動施設を利用することとした。その理由として以下の点が挙げられる。

- ・校地内にスポーツ系実習や課外活動を行うに足る、十分な広さを持つ運動場を設けることが困難である
- ・大学の近接地域に大規模な運動施設が存在している
- ・近隣運動施設を大学が使用することによって地域振興につながる

- ・学内に運動場がなくとも、体育館を備えることで教育や研究に支障を来さない

### **(ア) 代替運動施設**

「運動場を設けることと同等と認められる措置」としての代替運動施設として、次のとおり舞洲スポーツアイランド等を使用し、「運動場に係る要件の弾力化による大学設置事業(828)」の特例措置の適応を受けるべく、「ビジネス人材育成特区」として申請、認定されている。

#### i) 舞洲スポーツアイランド (所在地 大阪市此花区北港緑地 2 丁目 2 番 15 号)

舞洲スポーツアイランドは、運動場 4 面、球技場 2 面、体育館 2 棟、テニスコート 21 面を有し、大学から専用バスではほぼ遅延無く約 7 分で到着する。利用については、移動時間を考慮し、実習自体や前後の授業に時間的な支障が生じないように時間割の策定に配慮する。また、学生の経済的負担軽減のため、授業及び課外活動の際には専用バスを大学～舞洲スポーツアイランド間にて往復巡回させている。さらに学生数増加に伴う課外活動の活発化に合わせて、学部・学科や学年の枠組みを超えて、共通の目的や趣味を持つ仲間と互いに刺激しあいながらあらゆるスポーツを楽しむことができるよう、施設利用回数の増加や休憩施設等の充実を図り、課外活動運営を支援している。

#### ii) 本学体育館

バスケットボールコート 2 面、バレーボールコート 2 面、バドミントンコート 6 面を取ることができる体育館を南棟に併設しており、授業や課外活動で利用できるようにし、学内における運動施設環境の充実を図っている。

### **(イ) 多目的スポーツ施設**

平成 29 (2017) 年度に多目的スポーツ施設「グリーンスクエア」を整備した。これは、フットサルやサッカーに対応した人工芝舗装部 (約 1,936 m<sup>2</sup>)、多目的広場としてクレー舗装部 (約 1,468 m<sup>2</sup>)、ランニングコースとしてウレタン舗装部 (周回 300m) を備えた施設となっており、夜間の使用にも対応するべく人工芝舗装部には LED 照明も設置している。

### **(ウ) 体育系の授業**

既設学科においては「基礎体育 (2 単位)」の授業を本学の「多目的スポーツ施設グリーンスクエア」や「舞洲スポーツアイランド」を活用して実施している。看護学部においても既存の保健医療学部同様、これら本学施設等を活用し授業運営を行う。

## (エ) 課外活動支援

課外活動においては現在、大学が認可した部 13 団体（柔道部、バドミントン部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、陸上部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、サッカー部、茶道部、軽音楽部、硬式テニス部、準硬式野球部、ライフサポート部）および公認サークル 2 団体（ボランティアサークル、アコースティックギターサークル）の合計 15 団体が活動している。

主な活動場所としては、本学体育館や「多目的スポーツ施設グリーンスクエア」に加え、隣接地域にある運動場・競技施設を活用している。

### i) 舞洲スポーツアイランド 「おおきにアリーナ舞洲」

利用時間：17：30～21：00（休暇期間中 13：00～16：00）

利用回数：年間約 70 日

### ii) セレッソスポーツパーク舞洲

利用時間：19：00～21：00（休暇期間中 13：00～15：00）

利用回数：年間約 109 日

### iii) その他各団体の施設

（例：ミズノ株式会社所有テニスコート・港スポーツセンターなど）

上記施設を確保し、課外活動運営を支援している。今後も本学体育館や多目的スポーツ施設「グリーンスクエア」の利用状況に応じて継続予定である。

## (2) 校舎等施設の整備計画

現有校舎は「東棟」（延床面積 7,333.26 m<sup>2</sup>）、「学生食堂棟」（同 603.63 m<sup>2</sup>）と「西棟」（同 4,523.74 m<sup>2</sup>）、「南棟」（同 10,939.69 m<sup>2</sup>）などがあり、および新校舎「桜棟」（5,422.25 m<sup>2</sup>）が令和 2（2020）年 1 月に竣工している。

講義室等の設備の整備状況は以下の通りである。なお、講義室、実験室及び実習室、演習室については基本的に既存の保健医療学部看護学科と共用することとし、教育・研究機材、器具などの備品についても同様に共用することとする。保健医療学部看護学科及び他学部との共用でも支障なく使用できるように整備している。【資料 12】で看護学部看護学科の時間割（案）を示す。

### ア. 講義室群

講義室は大学全体で大小併せて 47 室ある（情報処理学習施設 1 室を含む）。大学共有で使用している講義室を用いて、合同講義や少人数制の講義を全ての学年で同時に行えるよう整備している。看護学部は主に西棟と桜棟の講義室を使用する。

## イ. 基礎的な技術指導が可能な実習室・機器・備品

実習室は大学全体で 40 室あり、看護学部で 4 室整備している（基礎看護学実習室、地域・老年看護実習室、成人・精神看護実習室、母性・小児看護実習室）。なお、看護学部で使用する実習室はすべて西棟に配置している。

## ウ. 専任教員の実験・研究施設

専任教員の研究室は、大学全体で 82 室あり、個人研究室が 56 室、共同研究室が 26 室で、すべての専任教員が使用するのに十分な数と広さを備えている。実験室は大学全体で 9 室あり、東棟に大学共有の動物実験室 1 室及び飼育室 1 室と生理学系実験室 1 室、西棟に生理学系実験室 1 室と多目的実験室 1 室、南棟に検査系実験室 3 室、桜棟に実験室 1 室を整備する。

## エ. 個別指導及び問題解決能力を養う演習室

語学演習や卒業研究に活用できる小スペースの演習室が大学全体で 19 室ある。学生と教員が直接対話できる小空間を用いることにより、問題提起の訓練や解決能力向上の育成に役立たせる。

## オ. 地域との交流の場、生涯学習の拠点

南棟の 2 階に図書館（愛称：メディカル・アイ）を整備している。図書館の面積は 881.58 m<sup>2</sup>、閲覧座席数は 273 席、収納可能冊数は 8 万冊、蔵書数は 3 万冊である。体育館についても南棟に設置しており、図書館や体育館、大講義室等の学内施設は、内部の利用だけに留まらず、研修会や市民講座などを誘致して地域の人たちの利用を促し、生涯学習の拠点とする。

## カ. その他

学生が自習等を行うためのフリースペースを東棟 1 階と西棟 1 階、南棟の 1, 3, 4, 5 階のロビー、桜棟の 5 階のロビーに整備している。また各棟にはラーニング・commonsを設置し、学生同士はもとより教員も交えてディスカッションや自習を行うなどフレキシブルに活用できるスペースとなっている。専任教員の研究室に近い場所に学生の自習等のスペースを設けることにより、学生と教員が気軽にコミュニケーションをとれる空間を作っている。

【資料12】看護学部看護学科時間割表（案）

### （3）図書等の資料及び図書館の整備計画

#### ア. 図書館の整備状況

本学図書館（愛称：メディカル・アイ）は南棟の 2 階部分に位置し、面積は 881.58m<sup>2</sup>。

図書収容能力は約 8 万冊、閲覧座席数は 273 席である。開館時間は平日 8 時から 20 時 30 分まで、土曜日と日曜日は 11 時から 17 時までとし、平日の利用が困難な実習中の学生の利用も可能にしているほか、試験期間には閉館時間を 21 時まで延長する等、学生の学習支援に力を注いでおり、各学科、専攻科、研究科を対象としたガイダンスも実施している。

図書館内は全面的に私語を禁止して静寂な環境を維持しているが、入口カウンター前に設けたブラウジングスペースにはソファと低層の書架を配置して利用者がくつろげる空間とし、利用者の多様なニーズに合わせた環境づくりに努めている。

書架が並ぶ閲覧スペースとは別にパソコン専用のスペースを設け、常設型パソコン 52 台、プリンター 4 台を設置、他に貸出用のノートパソコン 18 台も用意しており、電子書籍の閲覧や文献情報の検索とダウンロード、課題レポートの作成等に利用できる。Wi-Fi 環境を完備した館内では持ち込みのノートパソコンからの出力も可能となっており、多様なニーズに沿った利用者サービスを提供している。また、常設型パソコンスペースの横にはグループ学習室を 3 室設置し、ノートパソコンを持ち込んでのプレゼンテーションの練習や、視聴覚資料を用いたグループ学習等に利用できる。

また、図書館入口には磁気ゲートシステム（BDS）を設置し、資料を管理している。

## イ. 図書資料整備計画

看護学部開設予定の令和 4（2022）年度には図書の蔵書数が 3 万冊を超え、所蔵の基礎医学、臨床医学、リハビリテーション学、看護学、公衆衛生学等の専門図書の整備は充実している。今後は、既刊図書の改訂に合わせた購入や複本の購入、新たに出版される専門図書の購入等により更なる充実を図るとともに、看護学部における教育研究を支援するための収集を目指す。

図書館の資料購入費として、毎年 1,400 万円の予算が予定されており、各学科及び専攻からの購入希望による選書を年に 2 回（6～7 月、10 月～11 月）実施しているほか、学生や教職員のリクエストカードによる購入希望も随時受け付けている。いずれも選書後に附属図書館運営委員会（年間 3～4 回開催）で購入を検討し、決定している。

学術雑誌の整備計画については、本学図書館で所蔵する 440 誌（和雑誌 378 誌、洋雑誌 62 誌）のうち、看護学関連の雑誌 212 誌（和雑誌 135 誌、洋雑誌 24 誌、紀要 54 誌）を引き続き整備していく。

電子ジャーナルについては、本学図書館で契約する 19 誌（和雑誌 9 誌、洋雑誌 10 誌）のほか、国内最大の医学文献データベース「医中誌 Web 版」、医学文献データベース「メディカルオンライン」、国立情報学研究所が運営する学術文献データベース「CiNii」、国内の看護系学会誌及び紀要の検索が可能な「最新看護索引 Web」、保健医療の研究者、医療関連専門家や看護科学生を対象としたフルテキストデータベース「ProQuest Nursing & Allied Health Source」等の利用が可能であり、保健医療及び看護学の幅広い分野における文献情報の検索、閲覧、取得等を可能にしている。



【資料 13】で看護学関連図書の所蔵冊数を示す。

#### ウ. 他情報機関との協力

国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に加入、全国の情報機関と連携して文献複写及び相互貸借機能の充実を図るとともに、国立国会図書館の文献複写サービスも利用して利用者の希望に迅速に対応できるよう努めている。

また、私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会に所属し、地区内での相互協力を努めている。

#### エ. 学術情報センターとしての機能

館内の蔵書管理には、オンライン蔵書目録検索システム（OPAC）を導入、OPAC 検索専用のパソコンを上記とは別に 2 台設置し、迅速な検索環境を提供している。

また、リンクリゾルバとして「360Link」を導入し、国外主要医学文献データベース「PubMed」を始めとして、「イ. 図書資料整備計画」に記載した各種文献データベース等と OPAC をリンクさせ、必要文献のフルテキストのスムーズな入手を可能にしている。入手困難な文献については、「ウ. 他情報機関との協力」に記載した文献複写依頼や相互貸借機能の利用により、迅速な文献情報の提供が可能となっている。

利用者には毎年、全学科・専攻を対象として教育研究内容に合った図書館ガイダンスを実施し、適切かつスムーズな学術情報の利用につなげている。

具体的には、図書館内の常設型パソコンのスペースで実施する検索実習（OPAC、データベース）、データベース利用案内（医中誌、ProQuest を重点的に）、申込制の平日限定プチツアー（図書館の利用案内、検索実習、電子書籍の使い方、データベースの使い方等のミニガイダンス）等実施しているほか、学科からの要望によるガイダンス（図書館の利用案内、電子書籍の利用の仕方とリモートアカウント作成、レポートの書き方、著作権について等）も実施している。

#### オ. 感染症予防対策として

令和 2（2020）年より流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防対策として、三密を回避した図書館ガイダンスのメニューを作成し実施するとともに、常設型パソコンのスペースの座席を密にならないように配置し 52 台から 25 台に利用制限、貸出用ノートパソコンをオンライン授業視聴に対応するため 10 台から 18 台に増台する等の対応を行った。今後しばらくはこの対応を実施していく。

#### 【資料13】 森ノ宮医療大学附属図書館 看護関連図書 所蔵冊数

## 1 1. 管理運営

### (1) 教学面における管理運営体制

本学では教育研究目的の達成のため、以下の管理運営体制を構築する。

#### 教授会

森ノ宮医療大学学則【資料 14】及び教授会規程【資料 15】に基づき、教学面における重要事項を審議し、学長に意見を述べる。教授会は学長が招集し、その議長となる。主な審議事項は以下のとおりである。

- ① 教育課程の編成に関する事
- ② 授業及び試験に関する事
- ③ 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- ④ 学生指導に関する事
- ⑤ 学則その他重要な規程の制定改廃に関する事
- ⑥ 森ノ宮医療大学の教学に関する予算の具体的運営に関する事
- ⑦ その他、教育または研究に関する事項

また、これらの事項のほか、理事会ならびに学長の諮問した事項を審議する。

教授会の編成は学長、副学長、教授、准教授、専任講師、事務局長のほか、教学面からの設置者への要望と連携を効果的にするため学園理事長をもって組織する。

教授会の開催については、月 1 回（毎月第 3 木曜日）を定例教授会とし、また、議長は必要に応じて教授会構成員を会議に招集し、臨時教授会を開催することができることとし、教授会の機動的な体制を確保している。

#### 管理運営会議

上記教授会で審議する事項及び教学に係る重要事項をあらかじめ検討、調整するために、管理運営会議を置く。この構成メンバーは、理事長、学長、副学長、図書館長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、事務局長、大学事務局内の管理職等で構成し、会議については月 1 回（毎月第 2 木曜日）を定例の管理運営会議とする。

**【資料 14】 森ノ宮医療大学 学則**

**【資料 15】 森ノ宮医療大学 教授会規程**

## **(2) 教授会に関連する下部組織としての委員会**

教授会の運営を適切かつ有効的に行うために、専門的事項を審議、起案、また実行することを目的として、諮問機関として下記委員会を常設し、構成メンバーは各委員会において定める。

### **教務委員会**

各学部・学科と教務室が連携し、教育課程の編成、運営及び学生の転学、留学、休学及び退学除籍等に関することを検討し、教授会に上申することのほか、単位互換制度、既修得単位の認定、聴講生、研究生、科目等履修生及び留学生に関することを審議検討するため設けている。

### **自己点検評価・FSD委員会**

※FSDとはFDとSDを総称する本学独自の造語。以下FSDとする。

自己点検・評価に関する必要な事項を審議するとともに、教職員の資質向上に資する組織的な取り組みについて検討、提案、具体的運営を図るため設けている。

### **人権問題委員会**

人権を尊重し、人権侵害問題が発生した際に適切な対処を行うことを目的に設けている。活動の一環として、人権意識の啓発のためにセミナー等を定期的開催している。

### **教職課程委員会**

教職課程に関する諸事項を検討し実行することにより充実した教職教育を行うために設けている。

### **学生支援委員会**

各学科と学生支援室が連携し、総合的な学生支援を図り、その円滑な運営を行うために設けている。

### **附属図書館運営委員会**

附属図書館と連携し、その運営に関する重要事項を協議し、充実した図書館運営を行うことを目的に設けている。

## 12. 自己点検・評価

### (1) 実施の方法と体制

本学では、自己点検・評価に関して、必要な事項を定めた森ノ宮医療大学自己点検評価・FSD委員会規程【資料16】に則り、自己点検評価・FSD委員会を設置して、自己点検・評価に関わる活動を展開している。

自己点検評価・FSD委員会は、研究科長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任職員等で構成し、積極的に自己点検・評価活動及びFD及びSDへの取り組みを推進する。

教育活動評価の重要な指標として、「授業評価アンケート」を年2回実施しているほか、年に2回、教員同士が相互に評価を行う「公開授業週間」を全学的に実施している。

自己点検・評価は4年に1回実施することになっており、本学では令和2(2020)年度「自己点検報告書」を公表している。また、ホームページの情報の公表ページの中でも各種の教育関連データの公表を行っている。

自己点検・評価は4年に1回実施することになっているが、本学では平成23(2011)～令和2(2020)年度にかけて毎年実施しており、それぞれの報告書を翌年6月に公表している。令和2(2020)年度分については、令和2(2020)年度大学機関別認証評価「自己点検報告書」として令和2(2020)年7月に公開した。

### 【資料16】森ノ宮医療大学自己点検評価・FSD委員会規程

### (2) 結果の活用・公表

#### ①結果の活用

評価の結果に基づき、成果が到達目標に至った項目については、さらに向上を目指すための検討材料として利用する。また、成果が到達目標に至らず、今後も継続して改善が必要な項目については、「自己点検評価・FSD委員会」と対象部署が協力して原因を追求するとともに、改善の方向性を検討し、随時具体化を図る。また、評価の結果については「中期経営計画」にも反映させている。

#### ②評価報告書の作成と公表

各評価項目の評価結果とそれらを集約、分析した結果、見出された課題等の詳細を「自己点検報告書」にまとめている。自己点検・評価の結果等の関連情報の発信手段としては、大

学のホームページや各種制作物を活用して、学内外へ公表している。

### ③評価

各評価項目について、4段階で評価する。さらに、「自己点検評価・FSD委員会」では、評価の指標によって表現しきれない側面、要因、状況等を考慮に入れて結果を総合的に検討、点検し、必要な調整、修正により補正を行い、自己点検・評価を確定する。

自己点検・評価・改善のそれぞれの活動の中でも、大学を改革し発展させるために最も重要なことは、全学を挙げて達成に取り組む姿勢と不断の努力の積み重ねであると考えられる。本学では1年サイクルで「事業報告書」と「事業計画書(年報)」を作成し自己点検・評価を実施している。

### (3) 評価項目

本学の全学科及び大学院の教育、研究活動に携わる全部門の活動を対象とし、認証評価機関である公益財団法人日本高等教育評価機構の定める大学評価基準を基本に、以下の項目について自己点検・評価を行っている。

#### ①使命・目的等

- ・使命・目的及び教育目的の設定
- ・使命・目的及び教育目的の反映

#### ②学生

- ・学生の受入れ
- ・学修支援
- ・キャリア支援
- ・学生サービス
- ・学修環境の整備
- ・学生の意見・要望への対応

#### ③教育課程

- ・単位認定、卒業認定、修了認定
- ・教育課程及び教授方法
- ・学修成果の点検・評価

#### ④教員・職員

- ・教学マネジメントの機能性

- ・教員の配置・職能開発等

- ・職員の研修

- ・研究支援

#### ⑤経営・管理と財務

- ・経営の規律と誠実性

- ・理事会の機能

- ・管理運営の円滑化と相互チェック

- ・財務基盤と収支

- ・会計

#### ⑥内部質保証

- ・内部質保証の組織体制

- ・内部質保証のための自己点検・評価

- ・内部質保証の機能性

### **(4) 認証評価**

学校教育法第 109 条において、大学・大学院は政令で定める期間（7 年以内）ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受けることとされている。

森ノ宮医療大学及び大学院では、令和 2（2020）年度に「公益財団法人日本高等教育評価機構」による認証評価を受審し、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているという大学機関別認証評価を受けた。認定の期間は、令和 10（2028）年までとなっている。

今後も自己点検・評価・改善計画に則り、教育に関わる様々な情報を集約し、教育の質の保証に向けたシステムを構築するとともに、「中期計画」とリンクしながら PDCA サイクルを取り入れた取り組みを実施していく。

### **1 3. 情報の公表**

学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすため、法人の基本情報、法人の経営及び財政に関する情報、法人が設置する学校の教育研究に関する情報、事業報告に関する情報、設置認可(届出)申請に関する情報等を本学ホームページによって広く公開している。

学校教育法施行規則の一部改正に伴い、平成 23（2011）年 4 月 1 日より施行された教育情報の公表については、ホームページのトップページに「情報の公表」メニューを設定して、

必要十分な情報にすばやく到達できるよう設定し、年度ごとの事業報告（年報）等の最新情報を提供している。

財務情報の公開についても、ホームページ上で計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、固定資産明細表）監査報告書を公開し、閲覧や印刷ができるようにしている。また、財務情報については、別資料を作成し、解説、グラフ等を多用して、分かりやすさに配慮して公表・公開している。

本学では、教育研究活動を含め、大学運営に関わるあらゆる状況について、事業報告書をホームページに掲載することにより広く周知を図っている。情報の提供は、以下の方法により教育研究活動、入学試験情報、社会活動等に関わる内容を広く提供している。この際、個人情報保護への配慮を怠らないようにしている。なお、情報の提供については、学部等と協働で実施している。

以下の本学のホームページアドレスは細分化されているため、主なアドレスのみ記載している。

### **（１）大学の教育研究上の目的に関すること**

森ノ宮医療学園の概要や大学の目的、学部の目的、学科の目的（鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科、診療放射線学科）、大学院（保健医療学専攻修士課程、看護学専攻修士課程、医療科学専攻博士後期課程）、助産学専攻科の教育研究上の目的を公表している。

HOME>大学紹介>建学の精神・教育理念

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/mind.html>

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1\\_1\\_2020%283%29.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_1_2020%283%29.pdf)

### **（２）教育研究上の基本組織に関すること**

学校法人森ノ宮医療学園の構成等について公表している。

HOME>情報の公表

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/organizational.html>

### **（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること**

専任教員数・教員が有する学位及び業績・教員 1 人当たりの学生数・年齢別教員数・職階

別教員数・専任教員数と非常勤教員数の比率等について公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_1\\_2\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_1_2_2020.pdf) 他

#### **(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、並びに進学者数及び就職者数、その他進学及び就職等の状況に関すること**

アドミッション・ポリシー、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、就職者（進学者）数、入学者推移、社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数等について公表している。

HOME>情報の公表

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/admissionpolicy.html> 他

#### **(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること**

各学科の授業科目・単位数・講義概要の検索と一覧表・シラバス照会システム等を公表している。

HOME>森ノ宮医療大学シラバス照会システム

<https://portal.morinomiya-u.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp>

#### **(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること**

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（学則からの抜粋）や教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学位授与数と授与率、退学・除籍者数、中退率、留年者数等を公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_4\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_4_2020.pdf)

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_6\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_6_2020.pdf)

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5\\_1\\_6\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_6_2020.pdf)

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5\\_1\\_9\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_9_2020.pdf)

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5\\_1\\_10\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_10_2020.pdf)

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5\\_1\\_11\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_11_2020.pdf)



## **(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること**

校地・校舎の概要、キャンパスマップ、施設紹介、図書館の概要や学生生活（クラブサークル紹介、学修サポート、学生生活サポート、就職・キャリアサポート、年間スケジュール、学生食堂、下宿・マンション紹介、交通アクセス）について公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1\\_3\\_1\\_2020%284%29.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_3_1_2020%284%29.pdf)

HOME>サポートプログラム・施設紹介

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/campus/map.html> 他

HOME>大学紹介>アクセス・ロケーション

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/access.html>

## **(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること**

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用(年間)を公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1\\_4\\_2020%283%29.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_4_2020%283%29.pdf)

## **(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること**

学生の修学に関する支援体制、学生の進路選択に関する支援体制、心身の健康等に関する支援体制について公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_5\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_5_2020.pdf)

## **(10) その他**

### **①教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報**

本学の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）及びアセスメント・ポリシーについて公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_6\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_6_2020.pdf)

HOME>大学紹介>〔教育方針〕ディプロマ・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/diplomapolicy.html>

HOME>大学紹介>〔教育方針〕カリキュラム・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/curriculumpolicy.html>

HOME>大学紹介>〔教育方針〕アドミッション・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/admissionpolicy.html>

## ②学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等

学則、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等を公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5\\_2\\_1\\_2020.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_2_1_2020.pdf) 他

## ③財務に関する情報

財産目録、貸借対照表、収支計算書、監事の監査報告書、財務の状況を平易に説明する資料、事業報告書（年報）、事業計画書等を公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2019\\_zaisanmokuroku.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2019_zaisanmokuroku.pdf) 他

## ④大学院学位論文に係る評価に当たっての基準

大学院の学位論文に係る評価の基準を公表している。

HOME>情報の公表

[https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2\\_8.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_8.pdf)

以上のように、教育情報と財務情報は、「ホームページ」<http://www.morinomiya-u.ac.jp/>により、学内外すべてに公開されている。

## 14. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

本学では、教育、研究、臨床を通じて広く社会的、国際的貢献を果たすため、それらに携わる教員の資質の維持向上を目的に自己点検評価・FSD 委員会を設置し、方策を立て実施、改善を図る。

## **(1) 自己点検評価・FSD 委員会実施体制**

自己点検評価・FSD 委員会は、研究科長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任職員等で構成し、積極的に自己点検・評価活動及び FD 並びに SD への取り組みを推進する。

## **(2) SD の実施体制**

毎年 2 回以上、SD に関する研修会等を開催している。令和 2 (2020) 年度においては教職員を対象としたものとして、「研究費コンプライアンス研修」を実施したほか、外部講師による「論理的なコミュニケーション」研修を開催した。なお、令和 2 (2020) 年度の SD 研修は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、動画コンテンツ配信にて実施した。また、新卒採用者を対象とした新卒研修の実施や、他大学と連携し、ロジカルシンキング、タイムマネジメントなどに関する合同研修を実施するなど、大学職員に必要な知識、技能の取得、資質向上を図っている。これらの企画は本学人事制度などに基づき、自己点検評価・FSD 委員会において年度計画が検討され、毎年開催されている。

## **(3) FD の実施体制**

### **①教員の資質を判断する客観的・合理的な評価の策定**

以下の 5 項目の視点から各教員を客観的・合理的に評価し、人事配置、その他本学のシステムを検証、改革するための指針とし、さらに学生による授業評価ならびに教職員による公開授業見学会の結果分析を踏まえ、教育環境の改善を図り教員の資質向上に資する。なお、教員の資質を判断する際の客観的・合理的基準や評価項目については、本学の管理運営体制、社会的要請などを考慮し策定を進めるものとする。

### **ア. 学生による授業評価**

学生による授業評価を前期と後期に 1 回ずつ実施し、全教員が最低でも年に 1 回は評価されるよう対象となる科目を設定している。各科目の評価結果は自己点検評価・FSD 委員会を通じて各教員に還元するとともに、結果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

## イ. 教職員による公開授業見学会

教職員による公開授業見学会を、前期と後期に1回ずつ実施し、全教員が最低でも年に1回は評価されるよう対象となる科目を設定している。

公開授業見学会に参加した教職員は見学した授業のアンケートを記入し、そのアンケート集計結果については自己点検評価・FSD委員会を通じて各教員に還元するとともに、結果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

## ウ. 研究活動の評価

各年度に、研究進捗状況、競争的研究資金の獲得状況、研究業績（専門誌掲載、著作、学会発表、シンポジウム発表）、研究を通じた社会貢献など、各教員の研究活動評価を行う。これら研究活動状況は、各年度に各教員により策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、各教員へフィードバックすることで、研究能力の向上、研究活動の推進を促し、同時に教育内容の充実にもつなげる。また、この評価を本学の自己評価の対象とすることにより、大学全体の研究・教育体制の強化を図る。

## エ. 大学運営への貢献度に対する評価

担任やチューター業務、各種委員会活動等、大学運営にかかわる様々な業務の取り組み内容に対し評価を行う。取り組み状況は、各年度に各教員により策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、各教員へフィードバックすることで、大学運営への積極的な貢献を促し、より優れた教育現場の確立につなげる。また、この評価を人事配置に活用、あるいは本学の自己評価の対象とすることにより、組織全体の教育体制の強化を図る。

## オ. その他の活動報告

各種社会活動やボランティア活動など、教員が参加しているさまざまな活動についても、その活動状況は、各年度に各教員から策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、教員の資質向上の契機とする。各教員の活動を学生教育に生かす施策を講じ、研究内容の充実を図る。

## ②教員の研修・研鑽機会の創出

教育活動改善への取り組みを積極的に進める。学生による授業評価および公開授業見学

会（前述）に加え、大学としての組織的な教育方法、教育内容の改善に取り組み、教員の研修、研鑽機会の創出を通じて、大学に対する社会の要請に応えるとともに、教員の資質向上を目指す。具体的には以下の方策をとる。

#### **ア．教育活動改善への取り組み**

自己点検評価・FSD 委員会において組織的な教育活動改善への取り組みを担当しており、教育活動の改善・指導する体制を整えている。

#### **イ．教育活動改善に関する研修、研究機会の確保**

「大学院学術セミナー」を月に1回（原則として第4木曜日）開催し、各教員が現在取り組んでいる自身の研究成果や進捗状況などを本学教職員や学生、外部の参加希望者に対して講演し、教職員からの質疑応答に対応している。また、「研究支援センター」では、若手教員の研究に対する助言や支援に加え、研究における倫理教育を実施している。同センターでは研究費配分も行っており、若手教員のプロジェクトについても積極的に採用していく。2020年に開設されたインクルーシブ医科学研究所では学科横断的な若手教員の研究力育成に取り組んでいる。また、教員に学外での教育活動改善に関する研修・研究機会の情報提供を行うとともにその活用を奨励する。

### **15. 社会的・職業的自立に関する取り組み**

#### **（1）教育課程内の取組について**

看護学部では社会的・職業的自立に関する取り組みについて、1年次より国家資格に必要な専門科目を配置し、4年間を通して取り組むよう教育課程を構成している。4年間通じて、自ら選択した職業への知識や技術を習得し、職業倫理を理解する。

1年次においては「基礎ゼミナール」において、看護師、保健師としての職務内容を理解し、「チーム医療見学実習」においては自身の就業先となりえる医療機関の見学を行うことで自身が目指すキャリアへの意識醸成を図る。また、一般教養科群の科目を履修することで社会に必要な一般教養の修得を行う。

2年次においては自身の目指す職業に対する知識や技術の修得に向けた科目数が増加する。また、「医療コミュニケーション」では、患者様や他の医療職種との関係構築、連携方法などを学修し、実際に両現場におけるコミュニケーションの必要性を修得する。また、これまでの学修を礎に、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修し、これまで身に付けた基礎看護学分野

の実際を臨地で実習し学修する。

3年次においては患者様や他の医療従事者との関係性や実際などについて、実践的に学修を進める。「IPW論」においてはペーパーペイシエントを題材に、患者様の治療から社会復帰に向けてまでのプラン構築を他職種（他学科）の学生とディスカッションしながら自職種において何ができるのかを検討し、議論することで医療現場におけるチーム医療の実際を身に付ける。また専門科目において、患者様のケアに必要な知識と技術をより臨地に近づけるための実践的な学びとして分野別に科目を配置し学修する。これら科目の履修後に領域別の臨地実習を履修し、患者様と触れ、仕事の流れ、病院の仕組みなども学修することで自身のキャリア形成をより明確なものとする。

4年次には4年間の学びの集大成として、「臨床看護学セミナーⅠ・Ⅱ」「臨床看護技術セミナー」を配置し、これまで積み重ねてきた技術や知識を組み合わせることで自身の学びの振り返りと医療現場での応用を学修する。これにより、学生自身が将来を見据え、社会的、職業的自立に向けた歩みを進めるよう支援体制を構築している。

なお、これら教育課程については教務委員会やキャリアセンターと連携し、早期より学問の重要性と職業としての重要性を伝えることができる内容としている。また、担任、チューター制を導入し、学生自身が選択した職業種において、社会的・職業的自立を早期より支援する体制を構築している。

## （2）教育課程外の取り組み

看護学部、キャリアセンター、学生支援室が連携し、社会的自立、キャリア形成の必要性と意義を理解できるよう、教育課程外においてもキャリア支援体制を構築している。

1年次においては新入生オリエンテーション時にキャリアガイダンスを開催し、入学時より卒業後のキャリアに向けた意識醸成とこれから必要となる知識、技術の修得方法、自身が目指す職種を知ることの重要性などについて解説する。当ガイダンスは教育課程受講に向けた導線としても位置づけている。

2年次においては前期のオリエンテーションにおいて、キャリアガイダンスを開催し、自身のこれまでのキャリア形成を振り返りながら自己分析を行い、自身の目指すキャリアをより明確なものにする。

3年次より就職、進学等、具体的な進路に向けた支援が行われる。学生への個別面談、自己分析、履歴書作成などのキャリアに関するガイダンス、大学内で行われる合同就職説明会の見学、希望者による医療施設等へのインターンシップなどを実施する。

4年次には進路に向けた具体的な活動を支援する。学生への個別面談、学内合同就職説明会への参加、一般教養試験対策講座、ビジネスマナー、履歴書等に関する就職ガイダンス、

卒業生によるキャリアガイダンスなどを実施し、進路に直結した支援を行う。

また学年を問わず、実施する支援策もある。キャリアカウンセラー等による個別のキャリアカウンセリングを実施し、学生個々の進路に合わせた個別指導を実施する。また、医療資格保有者によるキャリア支援セミナーを行い、医療現場の実際などについて解説する。

このように教育課程外においても教育課程と連動し、また大学内外の関係各所と連携し、社会的・職業的自立を支援する体制を構築している。

### **(3) 適切な体制の整備**

本学では学生の社会的・職業的自立を支援するために、キャリアセンターを教職協働で設置し、全学的なキャリアに関する方針と施策を企画、立案している。施策についてはキャリアに対する大学の方針を基礎として、各学部、各学科の特性に合わせた内容を策定している。また、学生支援室ではキャリアセンター、各学部、各学科と連携し、キャリアセンターの方針を受けて各学科での進路支援に関する施策の支援、キャリアカウンセラーを配置し学生への進路に関する個別指導、就職、進路情報の収集などを行い、学生へ情報提供を行っている。

このように教員、職員が連携し、学生の社会的・職業的自立を支援する体制を構築している。

**森ノ宮医療大学 看護学部 看護学科  
設置趣旨等を記載した書類 資料目次**

- 資料 1 看護学部設置に関する要望書
- 資料 2 カリキュラムマップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）
- 資料 3 履修モデル
- 資料 4 履修モデル（保健師課程）
- 資料 5 履修モデル（教職課程）
- 資料 6-1 各実習の概要及び週間計画
- 資料 6-2 実習施設総括表
- 資料 6-3 実習施設の概要
- 資料 6-4 実習承諾書
- 資料 6-5 健康観察表
- 資料 6-6 誓約書
- 資料 6-7 感染症予防の手引き
- 資料 6-8 感染症予防管理確認表
- 資料 6-9 予防接種証明書
- 資料 6-10 インフルエンザワクチン実施確認報告書
- 資料 6-11 事故・インシデント発生報告書
- 資料 6-12 R4 年度臨地実習計画表案
- 資料 6-13 毎日の行動計画
- 資料 6-14 評価表
- 資料 6-15 事故・インシデント発生のレベル
- 資料 7 教育課程と指定規則との対比表
- 資料 8 教員等定年規程
- 資料 9 再雇用規程
- 資料 10 教育職員等の任期制に関する規程
- 資料 11 将来の教員配置計画
- 資料 12 看護学部看護学科時間割表（案）
- 資料 13 森ノ宮医療大学附属図書館 所蔵雑誌リスト
- 資料 14 森ノ宮医療大学 学則
- 資料 15 森ノ宮医療大学 教授会規程
- 資料 16 森ノ宮医療大学 自己点検評価・FSD委員会規程



■森ノ宮医療大学 看護学部看護学科カリキュラムマップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）

ディプロマポリシー  
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●看護学科の方針

看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数127単位を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられます。これは看護師国家試験受験資格となります。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】 精度の高い専門的知識と専門技術

- ・看護の対象を理解することができる。
- ・社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。
- ・知識に裏づけられた確実で根拠ある技術を身につけることができる。

【DP2】 チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

- ・他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。
- ・看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。

【DP3】 豊かな人間力

- ・“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。
- ・豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。
- ・医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。

【DP4】 主体的問題解決能力

- ・主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。
- ・自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。
- ・人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④
			必修	選択					
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2	必修14単位＋選択2単位以上		○	○	○
		物理学	1後	2				○	
		生物学	1前	2				○	
		化学	1前	2				○	
		情報処理	1前	2				○	
		統計学	1前	2				○	
	人間理解と社会	心理学	1後	2				○	
		生命倫理学	1前	2				○	
		哲学	1後	2				○	
		社会福祉学	1前	2				○	
		日本国憲法	1後	2				○	
		東洋史概説	3前	2				○	
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2				○	
		英語Ⅱ(中級)	1後	2				○	
		英会話	2前	2				○	
		医学英語	2後	2				○	
		基礎英語演習	2前	2				○	
応用英語演習		2後	2			○			
学部共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1	必修7単位＋選択4単位以上		○	○	
		チーム医療見学実習	1前	1			○	○	
		医療コミュニケーション	2前	1			○	○	
		チーム医療論	2後	1			○	○	○
		IPW論	3前	1			○	○	
		基礎体育	1後	2				○	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前	2				○	
		健康管理学Ⅰ	2前	2				○	
		健康管理学Ⅱ	2後	2				○	
		栄養学	1後	2				○	
		身体運動科学	2後	2				○	
		東洋医療概論	2後	2				○	○
統合医療概論	2後	2			○	○			

ディプロマポリシー  
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●看護学科の方針

看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数127単位を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられます。  
これは看護師国家試験受験資格となります。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう  
下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

- ・看護の対象を理解することができる。
- ・社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。
- ・知識に裏づけられた確実で根拠ある技術を身につけることができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

- ・他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。
- ・看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。

【DP3】豊かな人間力

- ・“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。
- ・豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。
- ・医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

- ・主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。
- ・自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。
- ・人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
			必修	選択						
学科専門科目群	専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	1			○		
			形態機能学Ⅱ	1前	1			○		
			形態機能学Ⅲ	1後	1			○		
			形態機能学Ⅳ	1後	1			○		
			フィジカルアセスメント	2前	2		○	○		
			生化学	1後	2			○		
			発達心理学	1前		2			○	
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1後	1		○	○		
			病理学	1後	1		○	○		
			臨床薬理学	2前	1		○	○		
			臨床病態学Ⅰ	2前	1		○	○		
			臨床病態学Ⅱ	2前	1		○	○		
			臨床病態学Ⅲ	2前	1		○	○		
			臨床病態学Ⅳ	2後	1		○	○		
	社会保険制度	社会保険制度	臨床病態学Ⅴ	2後	1		○	○		
			臨床心理学	1後		2		○	○	
			医療概論	1前	1		○	○		
			公衆衛生学	1後	2		○	○		
			看護関係法規	3前	2		○			
			保健統計学	2前		2		○		
			疫学	2後		2		○		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	1前	1		○			
			看護理論	1後	2		○			
			生活援助論Ⅰ	1前	2		○			○
			生活援助論Ⅱ	1後	2		○			○
			診療援助論Ⅰ	1後	2		○			○
			診療援助論Ⅱ	2前	2		○			○
			看護過程演習	2前	1		○			○
	在宅看護論	在宅看護論	地域・在宅看護概論	2前	2		○			
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2後	2		○	○		○
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	3前	1		○	○		○
外来看護論	3前		1		○	○				

ディプロマポリシー  
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●看護学科の方針

看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数127単位を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられます。  
これは看護師国家試験受験資格となります。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう  
下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

- ・看護の対象を理解することができる。
- ・社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。
- ・知識に裏づけられた確実で根拠ある技術を身につけることができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

- ・他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。
- ・看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。

【DP3】豊かな人間力

- ・“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。
- ・豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。
- ・医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

- ・主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。
- ・自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。
- ・人々の個性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。

区 分	授業科目	配 当 年 次	単位数		履修方法 及び 卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
			必修	選択						
学 科 専 門 科 目 群  専 門 分 野  実 践 Ⅰ	成人看護学	成人看護学概論	2前	2	必修 7 6 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上	○				
		成人看護援助論Ⅰ	2後	1		○			○	
		成人看護援助論Ⅱ	2後	1		○			○	
		成人看護援助論Ⅲ	3前	1		○			○	
		成人看護援助論Ⅳ	3前	1		○			○	
	老年看護学	老年看護学概論	2前	2		○				
		老年看護援助論Ⅰ	2後	1		○			○	
		老年看護援助論Ⅱ	3前	1		○			○	
	母性看護学	母性看護学概論	2前	2		○				
		母性看護援助論Ⅰ	2後	1		○			○	
		母性看護援助論Ⅱ	3前	1		○			○	
	小児看護学	小児看護学概論	2前	2		○				
		小児看護援助論Ⅰ	2後	1		○			○	
		小児看護援助論Ⅱ	3前	1		○			○	
	精神看護学	精神看護学概論	2前	2		○		○		
		精神看護援助論Ⅰ	2後	1		○		○	○	
		精神看護援助論Ⅱ	3前	1		○		○	○	
	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2後	2		○		○		
		家族看護学	3前	1		○		○		○
		看護管理論	4後	1		○				
		災害・国際看護論	4後			1	○		○	○
看護概説		2前		2	○					
学校保健		1後		2	○					
健康相談活動論		2後		2	○					

ディプロマポリシー  
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●看護学科の方針

看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数127単位を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられます。これは看護師国家試験受験資格となります。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

- ・看護の対象を理解することができる。
- ・社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。
- ・知識に裏づけられた確実で根拠ある技術を身につけることができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

- ・他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。
- ・看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。

【DP3】豊かな人間力

- ・“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。
- ・豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。
- ・医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

- ・主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。
- ・自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。
- ・人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。

区 分	授業科目	配 当 年 次	単位数		履修方法 及び 卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④
			必修	選択					
学科 専門 科目 群	臨床 実習	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		○	○	○	○
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2		○	○	○	○
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2前	1		○	○	○	○
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	4前	2		○	○	○	○
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3後	3		○	○	○	○
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3後	3		○	○	○	○
		老年看護学実習	3後	3		○	○	○	○
		母性看護学実習	3後	2		○	○	○	○
		小児看護学実習	3後	2		○	○	○	○
		精神看護学実習	3後	2		○	○	○	○
		公衆衛生看護学実習	4前		4	○	○	○	○
		主題実習Ⅰ	4前	2		○	○	○	○
		主題実習Ⅱ	4前		1	○	○	○	○
	公衆 衛生 看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2		○			
		公衆衛生看護学演習	3前		2	○	○		○
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	○	○		
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2	○	○		
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前		2	○	○		
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	3前		2	○		○	
		公衆衛生看護管理論	3前		2	○			○
	卒業 研	保健医療福祉行政論	3前		2	○			
看護研究		3前	1		○			○	
実 践 Ⅱ	卒業研	4通	2		○			○	
	看護 の 統 合 と 実 践	臨床看護学セミナーⅠ	4前	2		○			
		臨床看護学セミナーⅡ	4後	2		○			
		公衆衛生看護セミナー	4後		2	○			○
臨床看護技術セミナー		4後	1		○				
卒業要件単位数					127				

# 【資料3】

## ●看護学部看護学科履修モデル①

黒字：必修科目 青字：選択科目

科目区分	学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計		
		科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修		選択	
教養科目群	科学的 思考 と 社会 理解	基礎ゼミナール	2							必修 14 単位 + 選択 2 単位 以上		
		生物学	2									
		情報処理	2									
	統計学	2										
	心理学	2	2									
	社会学	2										
	英語 I (初級)	2										
	英語 II (中級)	2										
	小計	14	2	0	0	0	0	0	0	16		
共通科目群	保健 医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		医療コミュニケーション	1		IPW論	1		*必修 7 単位 + 選択 7 上 4 単 位	
		チーム医療見学実習	1		チーム医療論	1		健康管理学 I	2			
		栄養学	2					健康管理学 II	2			
	小計	4	0	2	0	1	4	0	0	11		
専門基礎科目	人体の 構造と 機能	形態機能学 I	1		フィジカルアセスメント	2					必修 21 単位 + 選択 2 単 位 以上	
		形態機能学 II	1									
		形態機能学 III	1									
		形態機能学 IV	1									
	生化学	2										
	疾病の 成り立 ちと回 復の促 進	微生物学	1		臨床薬理学	1						
		病理学	1		臨床病態学 I	1						
				臨床病態学 II	1							
				臨床病態学 III	1							
				臨床病態学 IV	1							
			臨床病態学 V	1								
社会 保健 と 福祉	医療概論	1		疫学	2		看護関係法規	2				
	公衆衛生学	2										
	小計	11	0	8	2	2	0	0	0	23		
学科専門科目群	基礎 看護学	看護学概論	1		診療援助論 II	2					必修 76 単位 + 選択 1 単 位 以上	
		看護理論	2		看護過程演習	1						
		生活援助論 I	2									
		生活援助論 II	2									
		診療援助論	2									
	地域・在宅 看護学				地域・在宅看護概論	2		地域・在宅看護援助論 II	1			
					地域・在宅看護援助論 I	2		外来看護論	1			
	成人 看護学				成人看護学概論	2		成人看護援助論 III	1			
					成人看護援助論 I	1		成人看護援助論 IV	1			
					成人看護援助論 II	1						
	老年 看護学				老年看護学概論	2		老年看護援助論 II	1			
					老年看護援助論 I	1						
	母性 看護学				母性看護学概論	2		母性看護援助論 II	1			
					母性看護援助論 I	1						
小児 看護学				小児看護学概論	2		小児看護援助論 II	1				
				小児看護援助論 I	1							
精神 看護学				精神看護学概論	2		精神看護援助論 II	1				
				精神看護援助論 I	1							
看護 実践 の 統合				健康教育論	2		家族看護学	1		看護管理論	1	
臨床 実習	基礎看護学実習 I	1		基礎看護学実習 II	2		成人看護学実習 I (急性)	3		地域・在宅看護論実習 II	2	
				地域・在宅看護論実習 I	1		成人看護学実習 II (慢性)	3		主題実習 I	2	
							老年看護学実習	3				
							母性看護学実習	2				
							小児看護学実習	2				
						精神看護学実習	2					
公衆 衛生 看護学				公衆衛生看護学概論	2							
卒業 研究							看護研究	1		卒業研究	2	
看護 の 統合 と 実践 II										臨床看護学セミナー I	2	
										臨床看護学セミナー II	2	
										臨床看護技術セミナー	1	
	小計	10	0	30	0	24	1	12	0	77		
合計		39	2	40	2	27	5	12	0	127		

# 【資料4】

## ●看護学部看護学科履修モデル②【保健師課程】

黒字：必修 青字：選択 赤字：保健師課程選択必

科目区分	学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計		
		科目名	必修/選択	科目名	必修/選択	科目名	必修/選択	科目名	必修/選択			
教養科目群	科学的 思考 と 人間 理解 と 社会 理解	基礎セミナー 生物学 情報処理 統計学	2 2 2 2							必修 1 4 単位 + 選択 2 単位 以上		
		社会福祉学 日本国憲法	2 2	2								
		英語 I (初級) 英語 II (中級)	2 2									
		小計	14	2	0	0	0	0	0		0	
	共通科目群	保健 医療	MDS(Morinomiya Basic Seminar) チーム医療見学実習 栄養学 健康科学 (スポーツ社会学を含む) 基礎体育	1 1 2 2	医療コミュニケーション チーム医療論	1 1	IPW論	1			選 必修 止 4 7 単 位 + 選 択 4 単 位 以上	
小計		4	4	2	0	1	0	0	0	11		
学科専門科目群	専門基礎科目	大 体 の 構造 と 機能	形態機能学 I 形態機能学 II 形態機能学 III 形態機能学 IV 生化学	1 1 1 1 2	フィジカルアセスメント	2					必修 2 1 単位 + 選 択 4 単 位 以上	
		疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	微生物学 病理学	1 1	臨床薬理学 臨床病態学 I 臨床病態学 II 臨床病態学 III 臨床病態学 IV 臨床病態学 V	1 1 1 1 1						
		社 会 医 療 支 援 と	医療概論 公衆衛生学	1 2	保健統計学 疫学	2 2	看護関係法規	2				
		小計	11	0	8	4	2	0	0	0		25
	専門分野	基 礎 看 護 学	看護学概論 看護理論 生活援助論 I 生活援助論 II 診療援助論	1 2 2 2 2	診療援助論 II 看護過程演習	2 1						必修 7 6 単位 + 選 択 2 0 単位 以上
		地 域 ・ 学 在 宅 看		地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論 I	2 2	地域・在宅看護援助論 II	1					
		成 人 看 護 学		成人看護学概論 成人看護援助論 I 成人看護援助論 II	2 1 1	成人看護援助論 III 成人看護援助論 IV	1 1					
		老 年 看 護 学		老年看護学概論 老年看護援助論 I	2 1	老年看護援助論 II	1					
		母 性 看 護 学		母性看護学概論 母性看護援助論 I	2 1	母性看護援助論 II	1					
		小 児 看 護 学		小児看護学概論 小児看護援助論 I	2 1	小児看護援助論 II	1					
		精 神 看 護 学		精神看護学概論 精神看護援助論 I	2 1	精神看護援助論 II	1					
合 看 と 護 の 実践			健康教育論	2	家族看護学	1	看護管理論	1				
臨 地 実 習		基礎看護学実習 I	1	基礎看護学実習 II 地域・在宅看護論実習 I	2 1	成人看護学実習 I (急性) 成人看護学実習 II (慢性) 老年看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	3 3 3 2 2 2	地域・在宅看護論実習 II 公衆衛生看護学実習 主題実習 I 主題実習 II	2 2 2 1	4 1		
公 衆 衛 生 看 護 学			公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論 I 公衆衛生看護活動論 II	2	公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護活動論 III 公衆衛生看護活動論 IV 公衆衛生看護管理論 公衆衛生福祉行政論	2 2 2 2 2						
卒 業 研 究				看護研究	1	卒業研究	2					
看 と 護 の 統 合 と 実 践 II						臨床看護学セミナー I 臨床看護学セミナー II 臨床看護技術セミナー 公衆衛生看護セミナー	2 2 1	1				
小計	10	0	30	4	24	10	12	6	96			
合計	39	6	40	8	27	10	12	6	148			

●看護学部看護学科履修モデル③【教職課程】養護教諭一種免許状取得

黒字：必修科目 青字：選択科目 緑字：教職科目

科目区分	学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計		
		科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修		選択	
教養科目群	科学的 思考 と社会 理解 語学	基礎ゼミナール	2							必修 14 単位 + 選択 2 単位 以上		
		生物学	2									
		情報処理	2									
		統計学	2									
	小計		14	2		0	2		0	0	18	
共通科目群	保健 医療	MIS(Morinomiya Basic Seminar)	1		医療コミュニケーション	1		IPW論	1		必修 7 単位 + 選択 4 単位	
		チーム医療見学実習	1		チーム医療論	1		健康管理学Ⅰ	2			
	小計		2		2		2		2		13	
専門基礎科目群	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1		フィジカルアセスメント	2					必修 21 単位 + 選択 2 単位 以上	
		形態機能学Ⅱ	1									
		形態機能学Ⅲ	1									
		形態機能学Ⅳ	1									
		生化学	2									
		微生物学	1		臨床薬理学	1						
		病理学	1		臨床病態学Ⅰ	1						
		疾病の成り立ちと回復の促進	1		臨床病態学Ⅱ	1						
			1		臨床病態学Ⅲ	1						
			1		臨床病態学Ⅳ	1						
			1		臨床病態学Ⅴ	1						
医療概論	1		疫学	2		看護関係法規	2					
社会健康支援と	2											
小計		11	0		8	2		2	0	23		
専門科目群	専門分野	看護学概論	1		診療援助論Ⅱ	2					必修 76 単位 + 選択 1 単位 以上	
		看護理論	2		看護過程演習	1						
		生活援助論Ⅰ	2									
		生活援助論Ⅱ	2									
		診療援助論	2									
		地域・在宅看護学			地域・在宅看護概論	2		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1			
					地域・在宅看護援助論Ⅰ	2		外来看護論	1			
		成人看護学			成人看護学概論	2		成人看護援助論Ⅲ	1			
					成人看護援助論Ⅰ	1		成人看護援助論Ⅳ	1			
					成人看護援助論Ⅱ	1						
		老年看護学			老年看護学概論	2		老年看護援助論Ⅱ	1			
					老年看護援助論Ⅰ	1						
		母性看護学			母性看護学概論	2		母性看護援助論Ⅱ	1			
					母性看護援助論Ⅰ	1						
小児看護学			小児看護学概論	2		小児看護援助論Ⅱ	1					
			小児看護援助論Ⅰ	1								
精神看護学			精神看護学概論	2		精神看護援助論Ⅱ	1					
			精神看護援助論Ⅰ	1								
合看と護実の			健康教育論	2		家族看護学	1		看護管理論	1		
実践の												
基礎看護学実習Ⅰ	1		基礎看護学実習Ⅱ	2		成人看護学実習Ⅰ(急性)	3		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2		
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	1		成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3		主題実習Ⅰ	2		
臨床実習						老年看護学実習	3					
						母性看護学実習	2					
						小児看護学実習	2					
						精神看護学実習	2					
公衆衛生学			公衆衛生看護学概論	2								
卒業研究						看護研究	1		卒業研究	2		
看護と実践の									臨床看護学セミナーⅠ	2		
実習Ⅱ									臨床看護学セミナーⅡ	2		
									臨床看護技術セミナー	1		
小計		10	0		30	0		24	1	12	77	
教職に 関する 科目	教育原理	教育原理	2		特別支援教育概論	1		教育方法論	2		養護実習(事前事後指導を含む) 教育実践演習(養護教諭)	5
		教育論	2		教育課程論	2				2		
	教育行政学	2		総合的な学習の時間の指導法	2							
	教育心理学	2		特別活動論	2							
	教育心理学	2		生徒指導論	2							
	教育心理学	2		教育相談の基礎と方法	2							
小計		10	0		11	0		2	0	7	30	
合計		49	4		51	4		29	5	19	161	

## 各実習の概要及び週間計画

＜森ノ宮医療大学看護学部看護学科 実習要項（抜粋）＞

## 1. 基礎看護学実習 I

配当年次	1 年前期
実習場所	大阪急性期・総合医療センター 住友病院 大阪国際がんセンター
単位数（時間数）	1 単位 45 時間
実習内容	看護が行われている場を理解するとともに、健康に障害をきたし、医療施設に入院している患者に対する看護師の活動の見学を通してケアの意味を考える。また、その一連の過程から看護の役割と看護職に求められる知識、技術、態度などについて理解する。
実習目標	①医療施設の場の構造や機能について理解する。 ②人間の基本的欲求に基づく日常生活行動について理解する。 ③健康障害による基本的欲求の変化と生活への影響を理解する。 ④患者の自立できない日常生活行動に対する援助の意味を理解する。 ⑤専門家として看護職に求められる能力について理解する。 ⑥本実習を通して看護専門職を志す者としての基本的な態度を養う。 ⑦患者との関わりを通し看護におけるコミュニケーションを理解する。
実習週間計画（原則、臨地では 8:30～17:00、学内は 1 限～5 限）	
1 日目	病院内での実習
2 日目	病院内での実習
3 日目	病院内での実習
4 日目	病院内での実習
5 日目	学内での実習（グループ発表、評価面接）



## 2. 地域・在宅看護論実習 I

配当年次	2 年前期
実習場所	介護老人保健施設 雅秀苑 デイサービスひなた さきしま地域包括支援センター みどりの風クリニック
単位数 (時間数)	1 単位 45 時間
実習内容	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。
実習目標	①地域で生活する人々の健康ニーズを知る。 ②地域医療の最前線である診療所における看護について知る。 ③地域で生活する多様な人々への看護について考える。 ④地域包括ケアシステムについて考えることができる。
実習週間計画 (原則、臨地では 8:30~17:00、学内は 1 限~5 限)	
1 日目	学内でのオリエンテーション
2 日目	関連施設での実習
3 日目	(地域包括支援センター・通所介護施設・通所リハビリ施設)
4 日目	地域の診療所での実習
5 日目	学内での実習 (グループ発表、評価面接)

### 3. 基礎看護学実習Ⅱ

配当年次	2年後期	
実習場所	住友病院 北野病院 大阪鉄道病院 関西メディカル病院	
単位数（時間数）	2単位 90時間	
実習内容	実際に入院中の患者を受け持ち、看護活動の系統的・論理的な進め方（道筋）である看護過程（アセスメント、看護診断、看護計画、実践、評価）を用いて看護実践の方法を学ぶ。また、実習を通して看護者としての自己の役割や関連職種との関係を考えるとともに、看護の価値を認識する。	
実習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①患者や家族との関わりの中で人間関係を形成することができる。</li> <li>②看護概念モデル(V.Henderson)を適用して、患者の情報をアセスメントすることができる。</li> <li>③アセスメントの結果、看護診断することができる。</li> <li>④看護診断のもとに看護計画を立案することができる。</li> <li>⑤立案した計画に基づき、患者の状況に応じたケアを実践することができる。</li> <li>⑥実践した結果を通して目標の達成度を評価することができる。</li> <li>⑦患者を中心とした保健医療チームを理解し、チームにおける看護の役割を考えることができる。</li> <li>⑧本実習を通して看護専門職を志す者としての基本的な態度を養うことができる。</li> </ul>	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	病院内での実習
	2日目	病院内での実習
	3日目	病院内での実習
	4日目	学内での実習（情報のまとめ、整理、診断計画等）
	5日目	病院内での実習
2 週 目	6日目	病院内での実習
	7日目	病院内での実習
	8日目	病院内での実習
	9日目	病院内での実習
	10日目	学内での実習（実習のまとめ、グループ発表、全体討論）

#### 4. 成人看護学実習 I (急性)

配当年次	3 年後期				
実習場所	大阪急性期・総合医療センター 大阪鉄道病院 大手前病院				
単位数 (時間数)	3 単位 135 時間				
実習内容	周手術期にある患者の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、術前から術後の看護実践を通して、患者および家族に必要な看護について学ぶ。				
実習目標	①手術を受ける患者の特徴を発達段階、病態生理をふまえて理解することができる。 ②手術を受ける患者および家族の術前の看護を実施することができる。 ③手術中の看護を理解することができる。 ④麻酔・手術侵襲に伴って生じる生体反応を理解することができる。 ⑤術後の合併症予防、苦痛の緩和、ADL 拡大の看護を実施することができる。 ⑥患者および家族の心理状態に応じた看護を実施することができる。 ⑦患者および家族の社会的役割・機能に基づく退院支援について考えることができる。 ⑧周手術期にある患者の看護過程を展開することができる。				
実習週間計画 (原則、臨地では 8:30~17:00、学内は 1 限~5 限)					
1 週 目	1 日目	病院内での実習	2 週 目	6 日目	病院内での実習
	2 日目	病院内での実習		7 日目	病院内での実習
	3 日目	病院内での実習		8 日目	病院内での実習
	4 日目	病院内での実習		9 日目	病院内での実習
	5 日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)		10 日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)
3 週 目	11 日目	病院内での実習			
	12 日目	病院内での実習			
	13 日目	病院内での実習			
	14 日目	病院内での実習			
	15 日目	学内での実習 (実習のまとめ)			

## 5. 成人看護学実習Ⅱ（慢性）

配当年次	3年後期				
実習場所	大阪急性期・総合医療センター 大阪鉄道病院 住友病院				
単位数（時間数）	3単位 135時間				
実習内容	病気をもちながら生活する成人の対象者の心理を理解し、自己管理能力を高める援助方法について学び、対象者の状況や、変化に応じた看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を習得する。また、生活を共にする家族の不安や苦勞を理解したうえで、個別的な特徴をとらえた援助方法を学ぶ。				
実習目標	<p>①慢性期・終末期疾患患者の抱える問題を理解し、精神的苦痛を和らげる援助を行う。</p> <p>②慢性期・終末期疾患患者が日常生活を送るうえでの問題点を明らかにし、援助を行う。</p> <p>③慢性期・終末期疾患患者の心理を理解し自己管理能力を高める援助を行う。</p> <p>④慢性期・終末期疾患患者と家族を支える医療チームメンバーの役割を理解し、チームメンバーとして責任ある行動がとれる。</p> <p>⑤慢性期・終末期疾患患者と家族の援助を通じて個別性を考慮した看護実践ができる。</p> <p>⑥看護実践を通して自己洞察を深め、自己の課題を明確にできる。</p>				
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）					
1 週 目	1日目	病院内での実習	2 週 目	6日目	病院内での実習
	2日目	病院内での実習		7日目	病院内での実習
	3日目	病院内での実習		8日目	病院内での実習
	4日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)		9日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)
	5日目	病院内での実習		10日目	病院内での実習
3 週 目	11日目	病院内での実習			
	12日目	病院内での実習			
	13日目	病院内での実習			
	14日目	病院内での実習			
	15日目	学内での実習 (実習のまとめ)			

## 6. 老年看護学実習

配当年次	3 年後期				
実習場所	藤井会リハビリテーション病院 日本生命病院 阪和第二泉北病院 大手前病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 特別養護老人ホーム阪和苑 特別養護老人ホーム玲風苑				
単位数（時間数）	3 単位 135 時間				
実習内容	医療・介護・福祉施設の概要および老年期の人々の健康問題と、検査・治療を受けている老年患者の看護過程の展開を通して個別性のある看護を理解する。また、老年患者および家族の自己決定を尊重した看護や、社会生活への適応、継続看護の必要性、社会資源と活用方法等について知り、保健医療福祉チームの連携について学ぶ。				
実習目標	①健康障害をもつ老年期患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ②看護計画に基づいた看護ケアを行い、評価後に計画の追加修正を実施する。 ③受け持ち患者を通して経過別看護、主要症状別看護、治療処置別看護を理解する。 ④老年患者のもてる力を生かして、社会生活への適応や自立を促す援助を知る。 ⑤老年患者の自己概念を考慮し、自己決定を尊重した看護を知る。 ⑥老年患者のライフスタイルを考慮した継続看護について知る。 ⑦老年患者に起こりやすい褥創や夜間せん妄、寝たきり状態などの予防方法を知る。 ⑧老年患者の健康問題に応じた社会資源と活用方法について知る。 ⑨保健医療福祉チームにおける連携の必要性を知る。				
実習週間計画（原則、臨地では 8:30～17:00、学内は 1 限～5 限）					
1 週 目	1 日目	病院内での実習	2 週 目	6 日目	病院内での実習
	2 日目	病院内での実習		7 日目	病院内での実習
	3 日目	病院内での実習		8 日目	病院内での実習
	4 日目	病院内での実習		9 日目	病院内での実習
	5 日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)		10 日目	学内での実習 (情報のまとめ、整理、診断計画等)

3 週 目	11 日目	関連施設での実習
	12 日目	関連施設での実習
	13 日目	関連施設での実習
	14 日目	関連施設での実習
	15 日目	学内での実習 (実習のまとめ)

## 7. 母性看護学実習

配当年次	3年後期	
実習場所	大阪急性期・総合医療センター ベルランド総合病院 府中病院 日本生命病院 大阪市立総合医療センター 住之江区子ども・子育てプラザ 福島区子ども・子育てプラザ 中央区子ども・子育てプラザ	
単位数（時間数）	2単位 90時間	
実習内容	リプロダクティブヘルス・ライツの視点で、生み育てる女性への健康支援における基礎的能力を養うとともに、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における母性看護の特性と役割を学ぶ。	
実習目標	<p>①産褥期・新生児期にある対象のフィジカルアセスメントを実施して、健康状態を評価する。</p> <p>②Wellnessの視点で、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象のアセスメントを行い、看護課題を見出し、看護目標と計画が立案できる。</p> <p>③対象の健康が向上するための看護の必要性が理解できる。</p> <p>④対象を通して、愛着形成や親役割獲得過程、家族関係の再構築について理解する。</p> <p>⑤母子と家族がエンパワーメントするための支援を理解する。</p> <p>⑥母子を支える社会資源と看護の役割を理解する。</p> <p>⑦母子保健システムにおける各職種の役割について理解する。</p> <p>⑧実習を通して、自己と他者のいのちやセクシュアリティについて内省する。</p>	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	2日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	3日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	4日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	5日目	学内での実習（実習のまとめ）
2 週 目	6日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	7日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	8日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	9日目	病院内もしくは地域母子支援施設での実習
	10日目	学内での実習（実習のまとめ）

## 8. 小児看護学実習

配当年次	3年後期	
実習場所	大阪急性期・総合医療センター 大阪母子医療センター 八尾市立病院 大阪発達総合療育センター すみのえひよこ保育園 認定こども園 住の江幼稚園 きのみ保育園 どろんこ保育園	
単位数（時間数）	2単位 90時間	
実習内容	健康な子どもとのかかわりをとおして、乳幼児期の成長発達の特徴を学ぶとともに、健康障害をもつ小児各期（乳幼児期・学童期・思春期）の子どもと家族の看護について学ぶ。	
実習目標	①子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を総合的に理解する。 ②子どもの生活環境と生活リズムを理解する。 ③子どもとのかかわりをとおして、発達に応じたコミュニケーションを理解する。 ④健康障害をもつ子どもの身体的・精神的・社会的要因を総合的に理解する。 ⑤健康障害をもつ子どもと家族の問題について多角的に理解する。 ⑥健康障害をもつ子どもと家族に対する看護の実際を理解する。 ⑦実習全体をとおして、自己の小児看護観を深める。	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	病院内もしくは保育園等での実習
	2日目	病院内もしくは保育園等での実習
	3日目	病院内もしくは保育園等での実習
	4日目	病院内もしくは保育園等での実習
	5日目	学内での実習（実習のまとめ）
2 週 目	6日目	病院内もしくは保育園等での実習
	7日目	病院内もしくは保育園等での実習
	8日目	病院内もしくは保育園等での実習
	9日目	病院内もしくは保育園等での実習
	10日目	学内での実習（実習のまとめ）



## 9. 精神看護学実習

配当年次	3年後期	
実習場所	浜寺病院 八尾こころのホスピタル	
単位数（時間数）	2単位 90時間	
実習内容	精神科看護実践の対象者についての理解を深め、対象者の強みと可能性を活かした個別的な援助ができる能力を養う。	
実習目標	<p>①対象者に関心を注ぎながら、ケアにおける対人関係が形成・展開できる。</p> <p>②精神的健康問題が及ぼす影響について、セルフケア看護アプローチを用いて理解し、看護師としての必要な援助計画が具体的に立案できる。</p> <p>③援助計画の一部を実践しながら、対象者のよりよい状態に向けた看護援助が発展できる。</p> <p>④プロセスレコードを用いて対象者への働きかけを振り返り、自己理解や相互理解の展開に活かすことができる。</p> <p>⑤対象者に関する倫理的な事柄に関心を寄せ、看護を学ぶものとして行動できる。</p>	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	病院内での実習
	2日目	病院内での実習
	3日目	病院内での実習
	4日目	学内での実習（情報のまとめ、整理、診断計画等）
	5日目	病院内での実習
2 週 目	6日目	病院内での実習
	7日目	病院内での実習
	8日目	学内での実習（情報のまとめ、整理、診断計画等）
	9日目	病院内での実習
	10日目	病院内での実習

## 10. 地域・在宅看護論実習Ⅱ

配当年次	4年前期	
実習場所	友愛訪問看護ステーション 南港病院訪問看護ステーション 訪問看護ステーションたちばな ニッセイ訪問看護ステーション ベルアンサンプル訪問看護ステーション 大阪府済生会茨木訪問看護ステーション 訪問看護ステーションさくら通り 訪問看護ステーションそよかぜ 関西メディカル訪問看護ステーション 協和訪問看護ステーション	
単位数（時間数）	2単位 90時間	
実習内容	疾病や障害を持ちながら生活する療養者・家族の療養生活を理解し、 地域でよりより生活を維持するために在宅療養者や家族に対する看護の役割を理解する。	
実習目標	①疾病や障害を持ちながら在宅で生活する人とその家族の療養状況を理解できる。 ②訪問看護師の活動を通して、対象に応じた看護援助のあり方について考えることができる。 ③在宅療養を支える在宅ケアシステムについて理解できる。 ④訪問看護に必要な態度が実践できる。	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	訪問看護ステーションでの実習
	2日目	訪問看護ステーションでの実習
	3日目	訪問看護ステーションでの実習
	4日目	学内での実習（情報のまとめ、整理、診断計画等）
	5日目	訪問看護ステーションでの実習
2 週 目	6日目	訪問看護ステーションでの実習
	7日目	訪問看護ステーションでの実習
	8日目	学内での実習（実習のまとめ）
	9日目	訪問看護ステーションでの実習
	10日目	訪問看護ステーションでの実習

### 1 1. 公衆衛生看護学実習

配当年次	4 年前期				
実習場所	大阪府四條畷保健所 美原保健センター 大阪市港区保健福祉センター				
単位数 (時間数)	4 単位 180 時間				
実習内容	公衆衛生看護の視点から、地域で生活する人々を対象とした疾病予防と健康増進に関する理解を深め、保健師としての必要な能力を養う。				
実習目標	<p>①行政 (保健所・市町村保健センターなど) における公衆衛生看護活動の実際を理解する。</p> <p>②地域で生活する人々の健康課題を地域特性と関連づけて理解する。</p> <p>③コミュニティの概念を理解し、地域の人々の健康を、生活、環境、個人、家族、集団の中で把握し、生活の質 (QOL) を向上するための活動を理解する。</p> <p>④地域で生活する人々に必要な保健・医療・福祉領域の社会資源や各職種間の連携など総合支援システムと保健師の役割を理解する。</p> <p>⑤地域診断を通して、健康課題を解決・改善するための組織化・施策化する過程を理解する。</p>				
実習週間計画 (原則、臨地では 8:30~17:00、学内は 1 限~5 限)					
1 週目	1 日目	保健所等での実習	2 週目	6 日目	保健所等での実習
	2 日目	保健所等での実習		7 日目	保健所等での実習
	3 日目	保健所等での実習		8 日目	保健所等での実習
	4 日目	保健所等での実習		9 日目	保健所等での実習
	5 日目	学内での実習 (振り返り、報告書作成等)		10 日目	学内での実習 (振り返り、報告書作成等)
3 週目	11 日目	保健所等での実習	4 週目	16 日目	保健所等での実習
	12 日目	保健所等での実習		17 日目	保健所等での実習
	13 日目	保健所等での実習		18 日目	保健所等での実習
	14 日目	保健所等での実習		19 日目	保健所等での実習
	15 日目	学内での実習 (振り返り、報告書作成等)		20 日目	学内での実習 (振り返り、グループ発表等)

## 12. 主題実習 I

配当年次	4 年前期
実習場所	<p>大阪急性期・総合医療センター 住友病院 阪和第二泉北病院 藤井会リハビリテーション病院 グループホーム清泉 日本生命病院 中央区子ども・子育てプラザ 住之江区子ども・子育てプラザ 大阪発達総合療育センター 八尾市立病院 浜寺病院 八尾こころのホスピタル オリーブ訪問看護ステーション 株式会社フリーステーション かがやき訪問看護ステーション加美駅前 咲洲みなみ小中一貫校 さきしま地域包括支援センター おおさか多胎ネット 寝屋川市立保健福祉センター</p>
単位数（時間数）	2 単位 90 時間
実習内容	<p>過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p>
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</li> <li>②各自が選択した領域のサブカテゴリーから主題（テーマ）を絞ることができる。</li> <li>③主題（テーマ）の意義を説明することができる。</li> <li>④主題（テーマ）に関する知識や先行研究を検索することができる。</li> </ol>

		⑤主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。 ⑥実現可能な実習計画を立案することができる。 ⑦計画のもとに活動し、結果をまとめることができる。 ⑧一連の過程をプレゼンテーションすることができる。
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）		
1 週 目	1日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	2日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	3日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	4日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	5日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
2 週 目	6日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	7日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	8日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	9日目	病院、関連施設等での実習（状況に応じ学内で実習計画書の作成）
	10日目	学内での実習（グループ発表、討論、実習のまとめ）

### 13. 主題実習Ⅱ

配当年次	4年前期
実習場所	池田市立くすのき学園 ワークスペースさつき 障害者支援施設三恵園
単位数（時間数）	1単位 45時間
実習内容	本実習では、障害を持つ人々の理解や、障害を持つ人々が地域の社会資源を活用することにより自立した生活ができるよう行われている施策を理解する。また、既存の社会資源や施策が障害を持つ人々の健康水準を向上させるために有効なものであるかをアセスメントする能力を培うことを目標に実習を行う。さらに主題実習Ⅰと公衆衛生看護学実習で得られた学び（地域診断）をもとに、実習地域の健康課題を抽出し、公衆衛生看護活動の計画を策定し、健康課題に対する施策を考える。
実習目標	①地域で生活している障害者の生活や健康課題について理解する。 ②障害者を支える家族の生活や健康課題について理解する。 ③地域の障害者支援体制について理解する。 ④障害者支援にかかわる専門職とその役割について理解する。 ⑤障害者に焦点を当てたヘルスプロモーションについて理解する。 ⑥障害者がその人らしく生きることのできる地域社会づくりや支援体制について考える。 ⑦地域の健康課題について、計画策定および健康影響評価をすることができる。地域の健康課題について優先順位をつけて考えることができる。
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:00、学内は1限～5限）	
1日目	関連施設での実習
2日目	関連施設での実習
3日目	関連施設での実習
4日目	関連施設での実習
5日目	関連施設での実習

## 【資料6-2】

### 実 習 施 設 総 括 表

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備 考
1	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	小児看護学実習 母性看護学実習 主題実習 I 基礎看護学実習 II 成人看護学実習 I (急性) 成人看護学実習 II (慢性)	
2	一般財団法人 住友病院	基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II 主題実習 I	
3	公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II 成人看護学実習 I (急性) 成人看護学実習 II (慢性)	
4	医療法人 警和会 第二大阪警察病院	成人看護学実習 II (慢性)	
5	西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院	基礎看護学実習 II 成人看護学実習 I (急性) 成人看護学実習 II (慢性) 老年看護学実習	
6	国家公務員共済組合連合会 大手前病院	成人看護学実習 I (急性) 老年看護学実習	
7	独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 大阪みなと中央病院	基礎看護学実習 II 老年看護学実習	
8	公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院	小児看護学実習 主題実習 I 成人看護学実習 I (急性) 母性看護学実習 老年看護学実習	
9	社会福祉法人 帝塚山福祉会 特別養護老人 ホーム 浜木綿苑	主題実習 I 老年看護学実習	
10	社会福祉法人 帝塚山福祉会 特別養護老人 ホーム 阪和苑	老年看護学実習	
11	社会福祉法人 帝塚山福祉会 介護老人保健施 設 雅秀苑	主題実習 I 老年看護学実習 地域・在宅看護論実習 I	
12	医療法人 讃和会 友愛訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習 II	
13	社会医療法人 三宝会 南港病院訪問看護 ステーション	地域・在宅看護論実習 II	
14	医療法人 橘会 訪問看護ステーション たちばな	地域・在宅看護論実習 II	

15	有限会社 志宝 訪問看護ステーション しほう	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
16	公益財団法人 日本生命済生会 ニッセイ訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
17	医療法人 錦秀会 阪和第二泉北病院	主題実習Ⅰ 老年看護学実習	
18	社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院	母性看護学実習	
19	八尾市立病院	主題実習Ⅰ	
20	医療法人清心会 八尾こころのホスピタル	精神看護学実習 主題実習Ⅰ	
21	社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会 茨木訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
22	医療法人 微風会 浜寺病院	精神看護学実習 主題実習Ⅰ	
23	社会医療法人 生長会 府中病院	母性看護学実習	
24	大阪市住之江区保健福祉センター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	
25	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター	小児看護学実習 主題実習Ⅰ	
26	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	基礎看護学実習Ⅱ	
27	南大阪医療生活協同組合 訪問看護ステーションたんぼぼ	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
28	社会医療法人 生長会 ベルアンサンプル訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
29	株式会社フリーステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ 主題実習Ⅰ	
30	大阪市立南港桜小学校	主題実習Ⅰ	
31	大阪府立高槻支援学校	主題実習Ⅰ	
32	社会福祉法人 京都光彩の会 京都市朱雀工房	主題実習Ⅱ	
33	社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団 池田市立くすのき学園	主題実習Ⅱ	
34	社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団 ワークスペースきつき	主題実習Ⅱ	



35	社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団 障害者支援施設三恵園	主題実習Ⅱ	
36	社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団 生活介護事業所こすもす	主題実習Ⅱ	
37	医療法人 藤井会 藤井会リハビリテーション病院	主題実習Ⅰ 老年看護学実習	
38	地方独立行政法人 りんくう総合医療センター	母性看護学実習	
39	社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 住之江区子ども・子育てプラザ	母性看護学実習 主題実習Ⅰ	
40	社会福祉法人 大阪市福島区社会福祉協議会 福島区子ども・子育てプラザ	母性看護学実習	
41	島本町ふれあいセンター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	
42	医療法人 協和会 協和訪問看護ステーション サテライト千里中 央センター	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
43	医療法人 協和会 協和訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
44	医療法人 協和会 協立訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
45	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合 訪問看護 ステーションさくら通り	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
46	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合 訪問看護ステーションそよかぜ	地域・在宅看護論実習Ⅱ	
47	社会福祉法人 大阪市中央区社会福祉協議会 中央区子ども・子育てプラザ	母性看護学実習 主題実習Ⅰ	
48	社会福祉法人 大阪福祉事業財団 すみれ乳児院	主題実習Ⅰ	
49	大阪市北区保健福祉センター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	
50	大阪市都島区保健福祉センター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	
51	大阪市福島区保健福祉センター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	
52	大阪市此花区保健福祉センター	主題実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習	

53	大阪市中央区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
54	大阪市西区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
55	大阪市港区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
56	大阪市大正区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
57	大阪市天王寺区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
58	大阪市浪速区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
59	大阪市西淀川区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
60	大阪市淀川区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
61	大阪市東淀川区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
62	大阪市東成区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
63	大阪市生野区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
64	大阪市旭区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
65	大阪市城東区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
66	大阪市鶴見区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
67	大阪市阿倍野区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
68	大阪市住吉区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
69	大阪市東住吉区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
70	大阪市平野区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
71	大阪市西成区保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
72	社会福祉法人 帝塚山福祉会 特別養護老人ホーム玲風苑	老年看護学実習	
73	医療法人 錦秀会 グループホーム清泉	主題実習 I	
74	株式会社 Olive corporation オリーブ訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習 II 主題実習 I	
75	美原区美原保健福祉総合センター 美原保健センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
76	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	主題実習 I 母性看護学実習	
77	株式会社 縁 訪問看護ステーション えにし	地域・在宅看護論実習 II	
78	社会福祉法人 帝塚山福祉会 介護老人保健施設 聖和苑	老年看護学実習	

79	ゆう助産院	主題実習 I 母性看護学実習	
80	NPO法人 女性と子育て支援グループ・ pokkapoka ぼっかぽか保育ルーム・上新庄	主題実習 I 母性看護学実習	
81	NPO法人 女性と子育て支援グループ・ pokkapoka おやこひろば・瑞光	主題実習 I 母性看護学実習	
82	NPO法人 女性と子育て支援グループ・ pokkapoka おやこひろば・相川	主題実習 I 母性看護学実習	
83	NPO法人 女性と子育て支援グループ・ pokkapoka おやこひろば・菅原	主題実習 I 母性看護学実習	
84	大阪府池田保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
85	吹田市保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
86	大阪府茨木保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
87	寝屋川市保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
88	大阪府守口保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
89	大阪府四條畷保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
90	大阪府藤井寺保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
91	大阪府富田林保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
92	大阪府和泉保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
93	大阪府岸和田保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
94	大阪府泉佐野保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
95	株式会社 クオーレ 訪問看護ステーション	主題実習 I	
96	社会医療法人 純幸会 関西メディカル訪問看護ステーション	地域・在宅看護論実習 II	
97	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター	主題実習 I 母性看護学実習	
98	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	小児看護学実習	
99	社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院	基礎看護学実習 II	
100	社会福祉法人 明日葉 まんまる	主題実習 II	
101	株式会社 縁 訪問看護ステーション えにし 東大阪サテライト	地域・在宅看護論実習 II	

102	社会福祉法人 喜和保育事業会 きのみ保育園	主題実習 I 小児看護学実習	
103	学校法人 森岡学園 幼稚園型 認定こども園 住の江幼稚園	主題実習 I 小児看護学実習	
104	咲洲みなみ小中一貫校	主題実習 I	
105	一般社団法人 大阪府助産師会 おひさまサンサン広場	主題実習 I 母性看護学実習	
106	一般社団法人 大阪府助産師会 産前産後ケアセンター	主題実習 I 母性看護学実習	
107	おおさか多胎ネット	主題実習 I	
108	枚方市保健所	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
109	株式会社 かがやき かがやき訪問看護ステーション加美駅前	主題実習 I	
110	社会福祉法人 健成会 さきしま地域包括支援センター	主題実習 I 主題実習 II 地域・在宅看護論実習 I	
111	寝屋川市立保健福祉センター	主題実習 I 公衆衛生看護学実習	
112	社会福祉法人 さざんか福祉会 どろんこ保育園	小児看護学実習	
113	社会福祉法人 風の馬 ペガサス訪問看護ステーション石津北	地域・在宅看護論実習 II	
114	医療法人 笠松産婦人科・小児科	母性看護学実習	
115	医療法人 錦秀会 阪和住吉総合病院	成人看護学実習 II (慢性) 老年看護学実習	
116	優仁ウエルネス株式会社 デイサービスひなた	地域・在宅看護論実習 I 老年看護学実習	
117	学校法人 森ノ宮医療学園附属 みどりの風クリ ニック	地域・在宅看護論実習 II 主題実習 I 地域・在宅看護論実習 I	
118	学校法人 森岡学園 すみのえひよこ保育園	主題実習 I 小児看護学実習	
合計実習施設数 ( 118 ) 施設			

実習施設概要、承諾書

(実習先については資料 6 - 2 の実習施設総括表を参照)

## 健康観察表

実習科目（ ） 実習施設（ ）

学籍番号（ ） 名前（ ）

日時	体温	呼吸器症状	呼吸器以外の症状	備考
4/1 6:45	37.4℃	なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	昨夜 20 時頃から 嘔気と倦怠感あり
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	
／		なし 鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳	なし 下痢、嘔吐、頭痛	

記入例

[学生]→[担当教員]→ [学生]

看護学科臨地実習における個人情報の保護に関する誓約書

\_\_\_\_\_様

私は、森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科の学生として、実習における個人情報の保護に関する規則を十分に理解し、これを遵守いたします。

個人情報保護のため、実習記録には患者個人を特定できる内容(施設名、患者名、患者番号等)を記載いたしません。また、実習記録の取り扱いについては、「看護学臨地実習要項 個人情報の取り扱い」に基づき責任を持って管理いたします。

私は、実習中はもちろん、実習終了後においても、知り得た個人情報を、正当な事由なく第三者に漏らしません。

以上の事柄を、誠実に遵守することを誓います。

年 月 日

森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科

学年 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

## 感染症予防の手引き

### 1) 臨地実習に伴う感染症抗体価検査および予防接種の実施について

- (1) 臨地実習施設での院内感染防止のため、風疹、麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎の抗体価検査を受ける。抗体がなければ自己責任で予防接種を受け、<様式7>「予防接種証明書」（予防接種日・薬剤番号シール、接種医療機関名の記載と捺印があるもの）を健康管理センターに提出する。
- (2) 保育所実習前、1か月以内に検便（0157・赤痢・サルモネラ）の検査を受ける。
- (3) インフルエンザワクチンの接種については、2・3年生に義務付ける。医療機関でインフルエンザワクチンの接種が開始されたら、速やかに自己責任で予防接種を受け、<様式8>「インフルエンザワクチン実施確認報告書」を健康管理センターに提出する。
- (4) 結核感染の予防対策として、入学時健康診断にてT-SPOT検査を実施する。T-SPOT検査結果が陽性（+）の場合は医療機関を受診し、現時点での発症の有無について診断書を健康管理センターに提出する。また、結果が「判定保留」の場合は再検査を受ける。

### 2) 院内感染の予防行動について

- (1) 各自が看護学生としての責任を認識し、日々の健康管理、手洗いなど感染予防に努める。
- (2) ベッドサイドではスタンダード・プリコーションを遵守する。  
「1処置2手洗い（＝1つの処置ごとにその前後で手洗いを実行）」の原則を遵守する。排泄物や体液の付着したものは必ずゴム手袋を装着して処理する。処理後のゴム手袋で周辺の物（患者の衣類・寝具・ドアノブ・テーブル・パソコンのキーボード等）に触れてはならない。
- (3) 患者に咳症状がある場合はマスクを、吐物や下痢便の処理にはマスクとディスポーザブルのビニールエプロンを装着して処理し、汚染物はビニール袋に入れて口を閉じ廃棄する。
- (4) ユニフォームは少なくとも、2日に1回洗濯し清潔を保つ。
- (5) 実習期間中は<様式5>「健康観察表」の記録例に従い、毎日の自己健康観察の記入を実施し、実習施設に出向する。

### 3) 感染症発生時・発生が疑われる場合の対処

- (1) 感冒症状や、37.0℃以上（但し平熱を考慮し判断する）の発熱があるときは実習施設に向せず、速やかに担当教員に連絡<sup>注1)</sup>し、受診等の指示に従う。
- (2) 実習中に体調不良のため休む場合は、担当教員に連絡した後、医療機関を受診し、診断書を担当教員へ提出する。
- (3) インフルエンザの流行する時期に発熱があり、咳や鼻汁、咽頭痛等の呼吸器症状を伴う場合、インフルエンザに感染している人との濃厚接触歴がある場合なども、感染をしている可能性があるため、速やかに受診、診断を受け、担当教員に報告すること。
- (4) 実習期間中に、発熱、咳、下痢、嘔吐、発疹等の感染症が疑われる症状がある場合は、担当教員および臨地実習指導者に連絡<sup>注1)</sup>し、指示に従う（自己判断しない）。実習施設なら



びに対象者によっては、微細な風邪症状でも実習内容の制限が必要になるため、担当教員への連絡を怠らない。

- (5) 実習施設内での感染が疑われる場合の対処は、直ちに指導者・教員に報告し、指導を受ける。原則として実習施設の方針に従う。
- (6) 実習中に学生及び教員に感染症が発生した場合、担当教員が<様式9>「感染症の発生（または疑い）に関する報告書」を記入し、学科長に報告、健康管理センター提出する。<様式9>の備考欄には、学生の生活状況（親と同居、一人暮らしなど）や臨地における状況を簡潔に記録する。

#### 4) 集団感染について

- (1) 教員を含む実習グループ内で2名以上の感染者が出た場合を集団感染とする。集団感染時の濃厚接触者であって非感染者は、実習施設の許可が得られた場合に限り、原則として通常通りの実習が続行できる。
- (2) 実習施設の許可が得られない場合は、担当教員の指示に従う。

#### 5) 実習への復帰について

- (1) 実習において出席停止もしくは実習制限となりうる感染症は、表2に示す。
- (2) 実習復帰の時期は表2に準ずる。
- (3) 実習期間中の感染症発症に関しては、医師が発行する臨地実習へ復帰しても可能であることが書かれた内容を含む診断書を提出のうえ復帰する。
- (4) 表2にある感染症以外に関しても、自己判断で復帰せず、担当教員に確認する。実習施設ならびに対象者により対応が異なるため、担当教員に連絡<sup>注1)</sup>し、指示に従う。

#### 注意事項

- 1) 家族、友人等に感染症発症者がいる場合、濃厚接触歴を併せて報告する。

感染症と出席停止期間

	対象疾病(潜伏期間)	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎(ポリオ) ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス であるものに限る) 中東呼吸器症候群(MERSコロナウイルスであ るものに限る) 特定鳥インフルエンザ	治癒するまで
第二種	インフルエンザ (1～4日)	発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経 過し、かつ解熱した後2日(幼児にあっては3日)を 経過するまで
	百日咳 (5～21日)	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗 菌薬療法が終了するまで
	麻疹 (はしか) (7～18日)	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふく) (12～25日)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した 後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風疹 (14～23日)	発疹が消失するまで
	水痘 (主に14～16日)	すべての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱(プール熱) (2～14日)	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した 後2日を経過するまで
	結核 (2年以内、特に6ヶ月以内に多い) 髄膜炎菌性髄膜炎 (1～10日)	主治医において感染のおそれがないと認められ るまで
第三種	コレラ (数時間～5日)※ 細菌性赤痢 (1～7日)※ 腸管出血性大腸菌感染症 (10時間～6日) 腸チフス (3～60日)※ パラチフス (1～10日)※ 流行性角結膜炎 (2～14日) 急性出血性結膜炎 ①EV70 (平均24時間) ②CA24v (2～3日)	主治医において感染のおそれがないと認められ るまで ※治癒するまで出席停止が望ましい

	対象疾病(潜伏期間)	出席停止期間
その他 感染症	感染症胃腸炎 ①ノロウイルス (12～48時間) ②ロタウイルス (1～3日) サルモネラ感染症 (6～72時間) カンピロバクター感染症 (主に2～5日) マイコプラズマ感染症 (1～4週) インフルエンザ菌感染症 (1～4週) 肺炎球菌感染症 (1～4週) 溶連菌感染症 (2～5日) 伝染性紅斑 (4～21日) RSウイルス感染症 (2～8日) EBウイルス感染症 (30～50日) 単純ヘルペスウイルス感染症 (新生児以降は2 日～2週間) 帯状疱疹 (特定できない) 手足口病 (3～6日) ヘルパンギーナ (3～6日) A型肝炎 (15～50日) B型肝炎 (45～160日) 皮膚真菌症 ①カンジダ感染症 ②白癬 (数日～数週間)	感染症の種類や各地域、学校における感染症の 発生・流行の態様等を主治医またはその他医師 が考慮の上で判断する
その他 感染症	伝染性膿痂疹(とびひ) (2～10日) 伝染性軟属腫(水いぼ) (主に2～7週) アタマジラミ症 (産卵からふ化までは10～14 日、成虫までは2週) 疥癬 (感染して約1～2ヵ月)	出席停止の必要性は低いですが、感染症の種類や各 地域、学校における感染症の発生・流行の態様等 を主治医またはその他医師が考慮の上で判断す る

参考資料「学校において予防すべき感染症の解説」2018年3月発行

## 6) インフルエンザ予防投与について

実習期間中に、実習先病棟の患者・患者家族・臨床実習指導者（看護師・教員・医師等）・同施設で実習している実習グループ内にインフルエンザ発症があり、発症者との濃厚接触が確認された学生に対して、抗インフルエンザ薬の予防投与を推奨する。

※ただし、インフルエンザワクチン接種の有無や実習施設の状況等も加味する。

### (1) 濃厚接触とは

- ・世帯内居住者が発症した。
- ・発症者に防護装備の装着なしに直接携わった。
- ・患者の体液(血液、唾液、喀痰、尿、便等)に、防護装備なしで接触があった。
- ・手で触れること、会話することが可能な距離(約 2m 以内)で、対面で会話や挨拶等の接触があった(接触時間は問わない)。

### (2) 投与に関して

48 時間以内に抗インフルエンザウイルス剤の投与を行うことが望ましい。

### (3) 抗インフルエンザ薬

- ・タミフル：75mg(1C)を1日1回7～10日
- ・リレンザ：1回2吸入(10mg)を10日間
- ・イナビル：20mg(1キット)を1日1回で2日間吸入、または40mgを1回吸入

### (4) 費用について

原則、臨床実習指導者・施設担当教員から検査・予防投与を受けるよう指示があった際には検査・予防薬の実費が、インフルエンザに罹患した際には定額見舞金、Will 保険により補償可能である。(但し、実習外で濃厚接触し検査・予防投与を受けた場合は、Will 補償はない。)

※検査・予防薬の領収書は手続きの際必要なので、必ず保管しておくこと。

※インフルエンザに罹患した際の手続きは、原則診断書が必要である。

※診断書は、医療保険適用外なので自己負担となる。

### (5) Will 申請の手続き

- ① 学生が、Will 保険申請の書類を健康管理センターに取りに来て必要事項を記入する。
- ② 学生が、記入した書類を健康管理センターに提出する。

学籍番号：\_\_\_\_\_ 名前：\_\_\_\_\_

I. 小児感染症とB型肝炎の罹患歴・予防接種歴・抗体価検査の結果について

	罹患歴（有無と時期）	入学前予防接種歴（接種年月日）	入学時抗体価検査	入学後予防接種（接種年月日）
	※母子手帳確認	※母子手帳確認	2020年 月 日実施	
麻疹 (はしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法】 _____ 抗体価 (陰性・満たさない・満たす)	年 月 日接種 年 月 日接種
風疹 (三日ばしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法】 _____ 抗体価 (陰性・満たさない・満たす)	年 月 日接種 年 月 日接種
水痘 (水ぼうそう)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法】 _____ 抗体価 (陰性・満たさない・満たす)	年 月 日接種 年 月 日接種
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ ムンプス)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法】 _____ 抗体価 (陰性・満たさない・満たす)	年 月 日接種 年 月 日接種
B型肝炎	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種	HBs抗原【CLIA法基準値1.0未満】 _____ (陽性・陰性) HBs抗体【CLIA法基準値10.0以上】 _____ (陽性・陰性)	年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種 抗体価検査 2年 年 月 日 HBs抗体 _____ (陽性・陰性)

II. T-SPOT 結果、胸部レントゲン検査結果

T-SPOT 結果	胸部レントゲン検査結果
入学時 年 月 日 陽性・判定保留・陰性	入学時 年 月 日 異常なし・所見有( )
年 月 日 陽性・判定保留・陰性	2年 年 月 日 異常なし・所見有( )
・陽性の場合、診断書要	3年 年 月 日 異常なし・所見有( )
・判定保留の場合、2ヵ月後再検査	4年 年 月 日 異常なし・所見有( )

健康診断時の「感染症検査の結果」は大切に保管し、不明な点は健康管理センターに確認する。

問合せ先：森ノ宮医療大学 健康管理センター 〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16 TEL：06-6105-4098

## 1. 小児感染症（4種）予防接種について

(1) 入学時健康診断における小児感染症抗体価検査結果が、日本環境感染症学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」のE I A法基準値を満たさない場合、予防接種を推奨する。但し、実習施設の基準に準ずる場合がある。

<接種回数> 基準値に満たない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、2回接種。(2回目接種は、1回目接種後から少なくとも1ヶ月以上をあけて接種する。)
- ・入学前予防接種歴が1回の場合、1回接種。

## 2. B型肝炎予防接種について

(1) 入学時健康診断におけるHBs抗体価検査が、C L I A法基準値をみたさない場合、予防接種を推奨する。

<接種回数> 基準値に満たない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、3回接種。(1年次に大学でもB型肝炎ワクチンの予防接種を実施します。<6月・7月・11月予定>)

## 3. 結核感染の診断検査について

(1) 入学時健康診断におけるT-SPOT検査結果が、陽性の場合には医療機関を受診し、現時点での発症の有無について診断書を健康管理センターに提出する。判定保留の場合は、2ヵ月後に再検査をする。

※ 実習地における感染防御あるいは感染症蔓延予防の立場から、予防接種を完了していない学生は臨地実習の許可が出ないことがあるので注意する。但し、アレルギー等により予防接種が実施できない人は診断書を提出する(要相談)。

【小児感染症抗体価検査陰性、予防接種状況】 該当する感染症の流行時期・症状・リスクについても自己にて記載。

臨地実習の際は、実習施設から説明が求められることもあるので、正確に小児感染症予防接種歴と小児感染症抗体価検査の結果が説明できるようにしておく。



## インフルエンザワクチン実施確認報告書

森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科

学籍番号	名前	生年月日

ワクチン名	予防接種日、薬剤番号シールの貼付、接種医療機関名の記載と捺印をお願い申し上げます。
インフルエンザワクチン	

※ インフルエンザワクチンは2020年11月2日（月）～11月30日（月）の期間に各自で行ってください。

※ 12月1日（火）までに、この用紙を大学 健康管理センターに提出してください。

問合せ先：森ノ宮医療大学 健康管理センター

〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16

TEL：06-6616-6911

[学生]→[大学健康管理センター]



## 事故・インシデント発生報告書

年 月 日

森ノ宮医療大学保健医療学部  
看護学科長 様実習科目( ) 実習施設( )  
実習グループ ( ) 学籍番号( ) 名前( )

事故・インシデントの発生日時： 年 月 日 午前/午後 時 分

事故・インシデントの発生場所：

事故・インシデントの種類：転倒・転落、誤薬、熱傷、患者誤認、針刺し事故

その他 ( )

事故・インシデントのレベル：

担当教員に報告した日時： 年 月 日 午前/午後 時 分

科目担当教員に報告した日時： 年 月 日 午前/午後 時 分

事故・インシデント発生状況ならびに対応（時系列）

事故・インシデント発生後の対象者の状況

事故・インシデントが発生した理由

再発防止のための具体策

自己の課題

領域としての対応

年間実習計画表

月	4月				5月					6月				7月					8月					月	9月				10月				11月					12月				1月					2月				3月				備考												
	グループ/週				グループ/週					グループ/週				グループ/週					グループ/週						グループ/週				グループ/週				グループ/週					グループ/週				グループ/週				グループ/週																					
1年次 (90名)																																																																			①基礎看護学実習 I
2年次 (90名)																																																																			②地域・在宅看護論実習 I ③基礎看護学実習 II
4年次 (90名)	1G 5名																																																					④成人看護学実習 I													
	2G 5名																																															⑤成人看護学実習 II																			
	3G 5名																																															⑥老年看護学実習																			
	4G 5名																																															⑦母性看護学実習																			
	5G 5名																																															小児看護学実習 ⑧(保育園) ⑨(病院関係)																			
	6G 5名																																															⑩精神看護学実習																			
	7G 5名																																															⑪地域・在宅看護論実習 II																			
	8G 5名																																															⑫公衆衛生看護学実習																			
	9G 5名																																															⑬主題実習 I																			
	10G 5名																																															⑭主題実習 II																			
	11G 5名																																																																		
	12G 5名																																																																		
	13G 5名																																																																		
	14G 5名																																																																		
	15G 5名																																																																		
	16G 5名																																																																		
	17G 5名																																																																		
	18G 5名																																																																		

全ての実習計画を示す一覧表

# 1・2年次臨地実習計画表

月	4月				5月					6月				7月				8月				9月					10月				11月					12月					1月					2月				3月			
グループ/週	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
1G																																																					
2G					備考 ※Iグループ6名 ※(非)は非常勤助手																																																
3G					基礎看護学実習 I (1年次)																																																
4G					地域・在宅看護論実習 I (2年次)																																																
5G					基礎看護学実習 II (2年次)																																																
6G																																																					
7G																																																					
8G																																																					
9G																																																					
10G																																																					
11G																																																					
12G																																																					
13G																																																					
14G																																																					
15G																																																					

村上教授、住友病院  
(非)佐藤、(非)宮内

介護老人保健施設雅秀苑  
みどりの風クリニック  
升田准教授・岩佐講師

デイサービスひなた  
升田准教授・岩佐講師

さきしま地域包括支援センター  
升田准教授・岩佐講師

デイサービスひなた  
みどりの風クリニック  
升田准教授・岩佐講師

大阪急性期・総合医療センター  
森教授、日高助教、(非)河尻

北野病院  
住田准教授

大阪鉄道病院  
村上教授、小西講師

関西メデイカル病院  
伊津美教授、日高助教

住友病院  
村上教授、伊津美教授、日高助教、住田准教授、小西講師、

### 3年次臨地実習計画表

		9月				10月				11月					12月				1月					2月				3月				備考				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4					
1G	A							② 岡田准教授	① 安井講師	大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 高木講師 非・佐藤				⑧ 樋口助教	大阪急性期・総合医療センター 吉村教授 宮本助教										浜寺病院 蓮池准教授 矢野講師					大手前病院 特別養護老人ホーム玲風苑 外村准教授 非・河尻						※1Gあたり学生6名配置  成人看護学実習Ⅰ
	B							④ 非・宮内																		⑥ 非・宮内										
2G	A									大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 高木講師 非・佐藤					藤井会リハビリテーション病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 非・迫田 非・河尻					大阪鉄道病院 久木元教授	浜寺病院 蓮池准教授 矢野講師					① 徳島講師	⑥ 非・宮内					成人看護学実習Ⅱ				
	B							① 非・橋本	⑧ 齋藤教授																									老年看護学実習		
3G	A									大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 高木講師 非・佐藤					日本生命病院 特別養護老人ホーム阪和苑 外村准教授 非・橋本					⑧ 齋藤教授	③ 樋口助教				③ 安井講師					⑦ 安井講師				母性看護学実習		
	B																															⑦ 非・宮内				
4G	A																	⑤ 徳島講師													⑦ 樋口助教				① 中央区子ども・子育てプラザ	
	B							③ 非・東野	② 徳島講師	大手前病院 宮本助教																					⑥ 安井講師				② 福島区子ども・子育てプラザ	
5G	A									大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 非・河尻					八尾こころの ホスピタル 蓮池准教授 矢野講師																	④ 齋藤教授				③ 住之江区子ども・子育てプラザ
	B																																	④ 大阪急性期・総合医療センター		
6G	A									住友病院 澤田講師 高木講師 非・佐藤					大阪鉄道病院 久木元教授																	④ 齋藤教授				⑤ 大阪市立総合医療センター
	B																																	⑥ 府中病院		
7G	A									① 非・橋本	② 徳島講師			藤井会リハビリテーション病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 非・迫田 非・河尻	大手前病院 小林講師																	④ 齋藤教授				⑦ ベルランド総合病院
	B																																	⑥ 日本生命病院		
8G	A									浜寺病院 蓮池准教授 矢野講師				① 非・橋本	大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 高木講師 非・佐藤																	⑥ 岡田准教授				⑧ 小児看護学実習
	B																																	⑦ 安井講師		
9G	A									大手前病院 宮本助教				③ 非・東野	阪和二泉北病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 外村准教授 川添講師																	⑧ 樋口助教				① きのみ保育園
	B																																	② 認定こども園 住の江幼稚園		
10G	A									藤井会リハビリテーション病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 川添講師 非・迫田				② 安井講師																					③ すみのえひよこ保育園	
	B																																	④ だろんこ保育園		
11G	A									大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 非・河尻				② 岡田准教授	阪和二泉北病院 特別養護老人ホーム浜木綿苑 川添講師 非・橋本																	⑥ 安井講師				⑤ 大阪発達総合療育センター
	B																																	⑥ 大阪急性期・総合医療センター		
12G	A									大阪鉄道病院 久木元教授				① 非・橋本																					⑦ 大阪母子医療センター	
	B																																	⑧ 八尾市立病院		
13G	A									住友病院 澤田講師 高木講師 非・佐藤				① 樋口助教	大阪鉄道病院 吉村教授 小林講師																					⑤ 大阪発達総合療育センター
	B																																	⑥ 大阪急性期・総合医療センター		
14G	A									住友病院 澤田講師 高木講師 非・佐藤				② 岡田准教授	③ 徳島講師	⑤ 徳島講師																		⑦ 大阪母子医療センター		
	B																																	⑧ 八尾市立病院		
15G	A									大手前病院 小林講師				② 岡田准教授	大阪急性期・総合医療センター 和田准教授 高木講師 非・佐藤																					⑤ 大阪発達総合療育センター
	B																																	⑥ 大阪急性期・総合医療センター		

冬  
期  
休  
暇

※ 非は非常勤助手を表す

# 4年次臨地実習計画表

月 週	4月				5月					6月				7月				8月								
	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5				
グループ1 5名				②5名／升田准教授 ③5名／岩佐講師 ⑥5名／非：河尻			①5名／伊津美教授 ②5名／住田准教授																			
グループ2 5名																										
グループ3 5名																										
グループ4 5名							④5名／升田准教授 ⑤5名／岩佐講師 ⑥5名／非：河尻			⑪3名／非：宮内 ⑫3名／徳島講師 ⑬4名／安井講師																
グループ5 5名																										
グループ6 5名												⑭5名／蓮池准教授 ⑮5名／矢野講師														
グループ7 5名																										
グループ8 5名										①5名／升田准教授 ⑥5名／岩佐講師 ⑧5名／非：河尻																
グループ9 5名																										
グループ10 5名								⑤3名／非：迫田 ⑥3名／川添講師 ⑦4名／外村准教授																		
グループ11 5名																										
グループ12 5名								③10名／久木元教授																		
グループ13 5名																										
グループ14 5名																										
グループ15 5名																										
グループ16 5名																										
グループ17 5名																										
グループ18 5名																										
	地域・在宅看護論実習Ⅱ				公衆衛生看護学実習					主題実習Ⅰ				主題実習Ⅱ												
備考 ※非は非常 勤助手を表 す	①友愛訪問看護ステーション ②南港病院訪問看護ステーション ③訪問看護ステーションたちばな ④ニッセイ訪問看護ステーション ⑤ベルアンサンブル訪問看護ステーション				⑥大阪府済生会茨木訪問看護ステーション ⑦訪問看護ステーションさくら通り ⑧訪問看護ステーションそよかぜ ⑨関西メディカル訪問看護ステーション ⑩協和訪問看護ステーション					①大阪府四條畷保健所 ②美原保健センター ③大阪市港区保健福祉センター				①大阪急性期・総合医療センター(基礎) ②住友病院(基礎) ③大阪急性期・総合医療センター(成人Ⅰ) ④大阪急性期・総合医療センター(成人Ⅱ) ⑤阪和第二泉北病院(老年) ⑥藤井会リハビリテーション病院(老年) ⑦グループホーム清泉(老年) ⑧日本生命病院(母性) ⑨大阪急性期・総合医療センター(母性) ⑩中央区、住之江区子ども・子育てプラザ(母性) ⑪大阪発達総合療育センター(小児)				⑫八尾市立病院(小児) ⑬大阪急性期・総合医療センター(小児) ⑭浜寺病院(精神) ⑮八尾こころのホスピタル(精神) ⑯オリーブ訪問看護ステーション(在宅) ⑰株式会社フリーステーション(在宅) ⑱かがやき訪問看護ステーション加美駅前(在宅) ⑲咲洲みなみ小中一貫校(公衆衛生) ⑳さきしま地域包括支援センター(公衆衛生) ㉑おおさか多胎ネット(公衆衛生) ㉒寝屋川市立保健福祉センター(公衆衛生)				①池田市立くすのき学園 ②ワークスペースさつき ③障害者支援施設三恵園				

患者名(記号) \_\_\_\_\_ 実習グループ \_\_\_\_\_ G \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

年 月 日( ) 本日の行動目標		
本日の計画		実施・結果
タイムスケジュール	根拠・留意点	
午前		
午後		
看護の振り返り・課題		

評価内容	評点	
	自己評価	教員評価
1) 患者や家族との関わりの中で、人間関係を形成することができる		
(1)患者や家族の思いを傾聴することができる		
(2)患者や家族との関わりの中から、現象の意味を考えることができる		
(3)学生の思いを表現し、コミュニケーションを発展させることができる		
2) 看護概念モデル(V.Henderson)を適用して患者の情報をアセスメントすることができる		
(1)看護概念モデル(V.Henderson)を用いて関連する情報を収集することができる		
(2)収集した情報の意味を考えることができる		
(3)現象の原因や誘因について情報を統合し、多様な角度から考えることができる		
3) アセスメントの結果、看護診断することができる		
(1)看護診断は、専門職として看護の守備範囲のものとしての表現ができる		
(2)看護診断名を適切に表現することができる		
4) 看護診断のもとに、看護計画を立案することができる		
(1)達成可能な看護目標(長期・短期)を設定することができる		
(2)計画を具体的に(誰が、いつ、どこで、何を、どのように)立案することができる		
(3)Evidenceに基づいたケア計画を立案することができる		
5) 立案した計画に基づき、患者の状況に応じた実践ができる		
(1)看護技術の原理・原則に基づいた看護実践できる		
(2)ケアの目的や根拠を説明し、患者の個別的状況に応じたケアができる		
(3)準備や実施に際し、常に安全性・安楽性が確保できる		
(4)ケア中およびケア後の患者の反応に注目することができる		
6) 実践した結果を通して目標の達成度を評価することができる		
(1)日々の看護実践が患者の問題解決につながっているか考えることができる		
(2)評価した結果について原因や誘因を考えることができる		
7) 患者を中心とした医療チームにおける看護の役割を考えることができる		
(1)受け持ち患者のための医療チームの構成員とその役割を説明することができる		
(2)その医療チームの構成における看護の役割を説明することができる		
8) 本実習を通して、看護専門職を志す者としての基本的態度を養うことができる		
(1)ルールに基づいた行動ができる(時間・服装等)		
(2)自分の行った看護(行動)について、正確に報告・連絡・相談(調整)ができる		
(3)グループ活動を通して、メンバーシップおよびリーダーシップを発揮できる		
(4)看護チームの一員として、主体的な行動をとることができる		
合計点		
備考欄		

次の5段階の評価基準を参考に自己評価欄に記入し提出する。「合計点」の記入は不要。

5 大変良い      4 良い      3 普通      2 努力を要する      1 かなり努力を要する

表 1 事故・インシデント発生レベル

レベル	対象者への影響	報告判断基準
0	間違っことは発生したが、対象者には実施されなかった（インシデント <sup>註</sup> ）	担当教員は科目担当 教員まで報告
ハイ リスク	レベル0の状況ではあるが、実施されれば「レベル2」以上が予測される （インシデント <sup>註</sup> ）	
1	事故による対象者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性がある 観察を強化し、心身の配慮の可能性が生じた場合	
2	事故により対象者への観察の強化の必要とバイタルサインに変化が生じた、ま たは、検査の必要が生じた場合	科目担当教員は学科 長及び臨地実習委員 長まで報告
3	事故により必要でなかった治療、処置の必要性や入院日数の増加が生じた場合	学科長は学部長まで 報告
4	事故による障害が一生続く場合	学部長は学長まで報 告
5	事故が死因となる場合	

注：レベル0あるいはレベルハイリスクを、用語の定義（2）のインシデントとする。

（参考、原 洋子：「リスクマネジメント」の体制づくりを考える．看護展望, 24(10), p41-45, 1999, 一部改変）

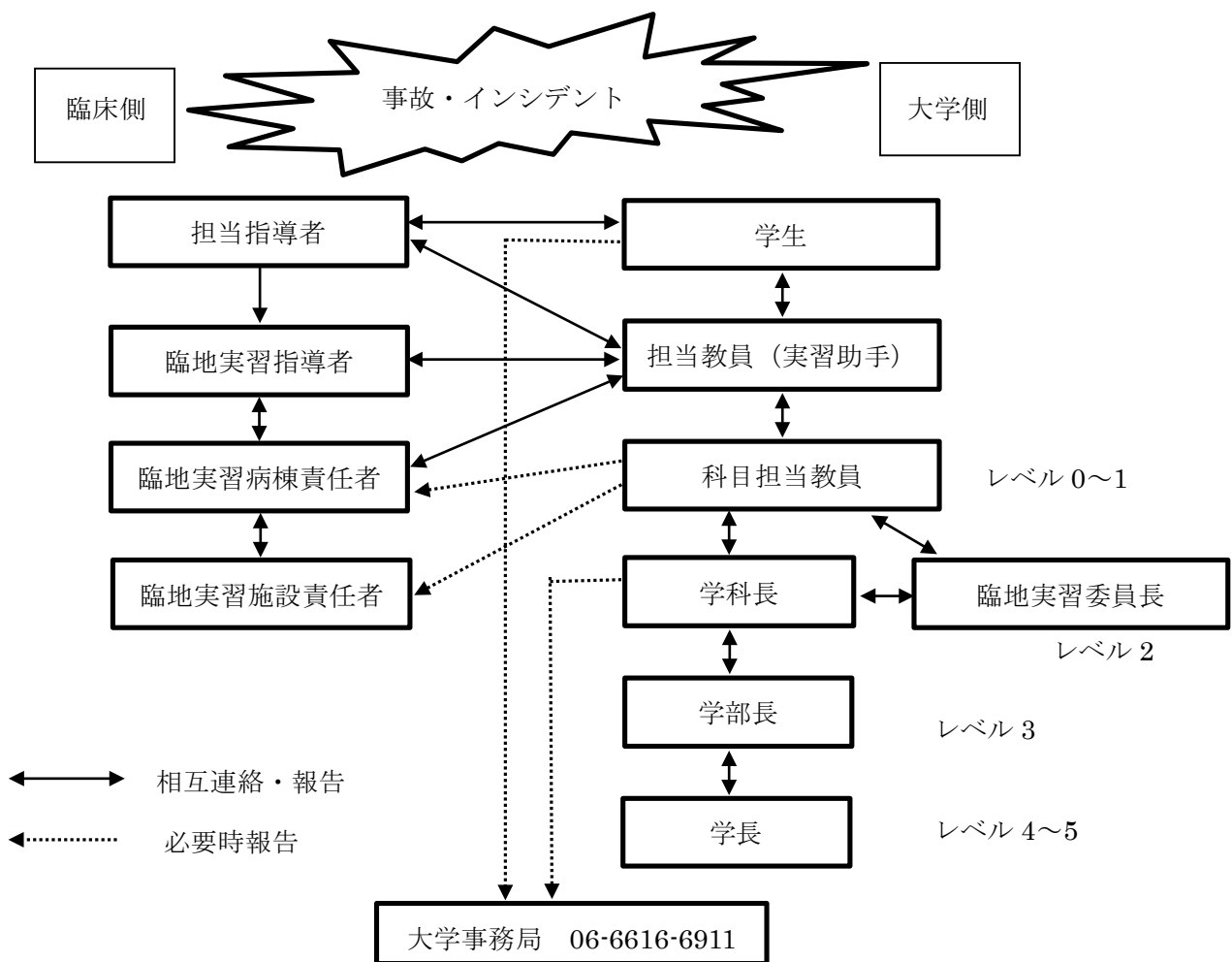


図 1 事故・インシデント発生時対応図





## 森ノ宮医療大学 教員等定年規程

平成19年4月1日制定

平成22年10月19日改訂

平成26年12月16日改訂

(目的)

第1条 この規程は、森ノ宮医療大学（以下「大学」という）の教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という）並びに助手の定年に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 教員並びに助手は、満60歳に達した後に到来する3月31日をもって定年退職する。但し、大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める。

(再雇用)

第3条 前2条にかかわらず、本人が希望する場合で、労使協定に定める選考基準に達した教員は、1年の期間を定めて嘱託教員として、再雇用する。再雇用に関し必要な事項は、別に定める再雇用規程において定める。

(規程の改廃)

第4条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に在職する教員及び大学の設置に係り、就任することが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、平成23年3月31日まで在職することができる。
- 3 この規程は平成22年4月1日から施行する。
- 4 この規程施行の際、看護学科設置及び大学院設置に係り、就任をすることが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、それぞれの学年進行終了時まで在職することができる。
- 5 この規程は平成22年10月19日から施行する。(改廃条文)
- 6 この規程は平成26年12月16日から施行する。

## 学校法人森ノ宮医療学園 再雇用規程

平成27年3月24日制定

(目的)

第1条 この規程は、就業規則第17条第5項の規定に基づき、定年に達した職員の再雇用に関する事項を定めることを目的とする。

(定年の通知)

第2条 学園は、定年の日の3カ月前に本人に対して定年の通知を行う。

(再雇用の申出)

第3条 前条による定年の通知を受けた者で再雇用を希望する者は、通知日より15日以内に学園に再雇用の申し出を行わなければならない。

(再雇用の可否の決定)

第4条 学園は、再雇用の申し出があった場合は、労使協定に定める再雇用の基準に基づきその可否、並びに労働条件を決定し、再雇用の申し出の日から2カ月以内に本人に通知する。但し、就業規則第17条第1項但し書に該当する年齢に達するまでの間は、希望者全員を再雇用する。

(再雇用の期間)

第5条 再雇用の期間は1年とする。但し、労使協定に定める更新基準を満たした場合は、満65歳までを限度に再雇用契約を更新する。

(再雇用の解約)

第6条 再雇用の期間中に、再雇用の条件を欠くに至った場合は、雇用期間中とはいえども再雇用を打ち切ることがある。

(就業場所及び従事業務)

第7条 再雇用後の就業場所及び従事業務は再雇用契約締結の際、学園が決定する。

(再雇用後の給与)

第8条 再雇用後の給与は、本人の能力、経験等を勘案して学園が決定する。

2 定期昇給は行わない。

(賞与)

第9条 賞与は支給しない。

(退職金)

第10条 退職金は支給しない。

(労働条件)

第11条 再雇用者の次に定める労働条件については、個別に定める雇用契約による。

- (1) 始業時間及び終業時間
- (2) 休日
- (3) 年次有給休暇
- (4) 各種社会保険

附 則

- 1 この規程は平成27年4月1日から施行する。

## 森ノ宮医療大学 教育職員等の任期制に関する規程

平成19年4月1日制定

平成23年4月1日改定

平成27年3月24日改定

平成29年2月21日改定

平成31年3月26日改定

## (目的)

第1条 この規程は、学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）において、教育研究上の能力又は業績を有する教育職員（以下「教員」という。）相互の教育・学問的交流が不断に行われる状況を創設し、本学における教育研究の活性化と発展を図るため、「大学の教員等の任期に関する法律」（平成9年法律第82号、以下「任期制法」という。）に基づき採用する教員の任期制に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

## (任期等)

第2条 任期制法第4条第1項第1号ないし第3号により、任期を定めて任用する教員の教育研究組織、職位、任期及び再任に関する事項は、別表のとおりとする。

## (雇用契約)

第3条 理事長は、前条の定めに基づく教員の採用は次の各号について合意した者と雇用契約を締結して行う。

(1) 任期は、5年以内の期間をもって定める期間とする。

(2) 前号の任期満了により雇用契約は終了し、退職する。ただし、第4条第3項、第1号乃至第2号に基づき、再任用する場合には、改めて雇用契約を締結する。

2 雇用契約は、当該教員の申し出により途中解約することができる。ただし、解約の日は、教育研究に支障のないよう双方協議のうえ、決定するものとする。

3 任用の期間内に、森ノ宮医療学園就業規則第17条第1項に定める定年に達する場合には、その任期は、定年退職日までの期間とする。

## (再任用)

第4条 理事長は、学長の意見を聴き、総合審査の結果を踏まえ、第2条及び別表に定める再任用を相当と認めるときは再任用を決定する。

2 理事長は再任用を相当とするときは、任期満了までに当該教員に通知する。

3 再任用に関する基準は、次の各号による。

(1) 同職位において、任期を定めて再任用

(2) 昇任させたい場合、任期を定めて再任用

(その他)

第5条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成23年4月1日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成29年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、第3条、第4条、別表の改定により平成31年4月1日から施行する。

別表

教育研究組織	対象の職位	任 期	再任用事項	適 用
大学院 保健医療学研究科 保健医療学部 助産学専攻科	教授 准教授 講師 助教 助手	5年以内	再任用する場合がある	任期制法第4条第1項第1号

【資料 1 1】 将来の教員配置計画（看護学部看護学科）

		30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	計
開設時 (令和 4 年度)	教授			7	2	2	11
	准教授		3	4			7
	講師	1	4	4	1		10
	助教	1	2	1			4
	計	2	9	16	3	2	32
計画 (令和 12 年度)	教授			7	5		12
	准教授		3	5	1		9
	講師	1	5	3	1		10
	助教	1	2	1			4
	計	2	10	16	7	0	35

# 【資料12】

時間割表 (案)  
前期  
看護学部 看護学科 1年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟・W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・MTC=体育館

		月	火	水	木		金	
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	(選)健康科学 (スポーツ社会学を含む) ※履修制限あり	生活援助論Ⅰ	基礎ゼミナール	情報処理 Aクラス	情報処理 Bクラス	【教職課程】 教職論	
	担当教員	佐野 加奈絵	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	阿部 秀高(7回)・看護学科教員(8回)	信太 宗也		阿部 秀高	
	教室	S棟471 (理学・看護 合同で実施)	S棟471・W棟431	【阿部】S棟471 【学科教員】	E棟401		E棟311 (鍼灸・看護合同で実施)	
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	統計学	生活援助論Ⅰ	形態機能学Ⅰ	情報処理 Aクラス	情報処理 Bクラス	(選)化学	
	担当教員	井手口 範男	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	北村 清一郎	信太 宗也		安部 辰夫	
	教室	S棟471	S棟471・W棟431	S棟471	E棟401		E415 (看護・検査・工学合同で実施)	
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	生物学		形態機能学Ⅱ	看護学概論		英語Ⅰ(初級) Aクラス	英語Ⅰ(初級) Bクラス
	担当教員	久国 正章		木田 岩男	村上 生美		長尾 晋宏	藤重 仁子
	教室	S棟471		S棟471	S棟471		S棟373	S棟374
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	(選)生命倫理学	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	【教職課程】 教育原理	医療概論			
	担当教員	神田 靖士	蓮池 光人	松田 智子	村上 生美			
	教室	S棟471 (理学・看護合同実施)	コスモホール S棟471	E棟311 (鍼灸・看護 合同)	S棟471			
5時限 16:20 ~ 17:50	科目	社会福祉学		チーム医療見学実習 日程は別途連絡			(選)発達心理学	
	担当教員	掛川 直之		升田寿賀子			井手口 範男	
	教室	S棟471		S棟471			S棟471	

【集中講義】

【臨地実習】基礎看護学実習Ⅰ



時間割表 (案)

後期

看護学部 看護学科 1年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟・ W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・ C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・ S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・ MTC=体育館

		月	火	水	木	金	
1時限 9:30 ~ 11:00	科目		(選) 哲学	(選) 基礎体育	(選) 学校保健		
	担当教員		松枝 啓至	中原 英博・伊奈 新太郎 佐野 加奈絵・信江 彩加	宮永 啓子		
	教室		E棟415 (鍼灸・理学・看護・検査・作業 合同)	担当教員の指示に従うこと (鍼灸・看護合同)	S棟471		
2時限 11:00 ~ 12:30	科目	看護理論	形態機能学Ⅳ	(選) 基礎体育	微生物学	(選) 心理学	
	担当教員	村上 生美・伊津美 孝子	木田 岩男	中原 英博・伊奈 新太郎 佐野 加奈絵・信江 彩加	安部 辰夫	井手口 範男	
	教室	S棟471	S棟471	担当教員の指示に従うこと (鍼灸・看護合同)	S棟471	S棟471	
3時限 13:30 ~ 15:00	科目	公衆衛生学	【教職課程】 教育心理学	生活援助論Ⅱ	(選) 物理学	英語Ⅱ(中級) Aクラス	英語Ⅱ(中級) Bクラス
	担当教員	神田 靖士	北口 勝也	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	久国 正章	長尾 晋宏	藤重 仁子
	教室	S棟471	S棟473 (鍼灸・看護合同)	S棟471	S棟472 (鍼灸・看護合同)	S棟373	S棟374
4時限 15:00 ~ 16:30	科目	栄養学	診療援助論Ⅰ	生活援助論Ⅱ	病理学	(選) 日本国憲法	
	担当教員	森 美侑紀	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	安部 辰夫	植田 重幸	
	教室	S棟471	S棟471	S棟471	S棟471	C棟559 (看護・放射線合同)	
5時限 16:30 ~ 18:00	科目	形態機能学Ⅲ	診療援助論Ⅰ	【教職課程】 教育行政学	生化学	(選) 臨床心理学	
	担当教員	北村 清一郎	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	松田 智子	森 美侑紀	海蔵寺 陽子	
	教室	S棟471	S棟471	E棟313 (鍼灸・看護合同)	S棟471	C棟352	

時間割表(案)

前期

看護学部 看護学科 2年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟・W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	臨床病態学Ⅰ	成人看護学概論	(選)基礎英語演習	フィジカルアセスメント	(選)英会話
	担当教員	青木 元邦	吉村 弥須子・和田 由里	長尾 晋宏	住田 陽子・外村 昌子・安井 渚 澤田 悦子・小林 妙子 宮本 佳子・樋口 優子	藤重 仁子
	教室	S棟472	S棟472	S棟374 (理学・看護で実施)	S棟472・W棟431・W棟531 ・その他実習室	S棟374
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	臨床病態学Ⅱ	臨床病態学Ⅲ	精神看護学概論	フィジカルアセスメント	小児看護学概論
	担当教員	青木 元邦	久保 忠彦	蓮池 光人	外村 昌子・安井 渚 澤田 悦子・小林 妙子 宮本 佳子・樋口 優子	齋藤 雅子
	教室	S棟472	S棟472	S棟472	S棟472・W棟431・W棟531 ・その他実習室	S棟472
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	公衆衛生看護学概論	臨床薬理学	母性看護学概論	(選)健康管理学Ⅰ ※履修制限あり	診療援助論Ⅱ
	担当教員	白井 文恵	木田 岩男	齋藤 雅子・岡田 公江	伊黒 浩二	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美
	教室	S棟472	S棟472	S棟472	E棟415 (理学・看護・検査・作業・工学・放射線合同)	S棟472
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	老年看護学概論	【教職課程】 生徒指導論	看護過程演習	(選)養護概説	診療援助論Ⅱ
	担当教員	外村 昌子	杉山 雅	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美	宮永 啓子	村上 生美・伊津美 孝子・住田 陽子・ 小西 由起子・日高 朋美
	教室	S棟472	S棟376	S棟472・W棟431	S棟373	S棟472
5時限 16:20 ~ 17:50	科目	地域・在宅看護概論	医療コミュニケーション	(選)保健統計学	【教職課程】 教育課程論	【教職課程】 総合的な学習の時間の指導法
	担当教員	升田 寿賀子・岩佐 由美	升田 寿賀子・蓮池 光人	井手口 範男	安藤 福光	福島 信也
	教室	S棟472	S棟472	S棟472	S棟373	E棟313 (鍼灸・看護合同)

【集中講義】

【臨地実習】地域・在宅看護論実習Ⅰ

時間割表(案)  
後期  
看護学部 看護学科 2年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟・ W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・ C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・ S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・ MTC=体育館

		月	火	水	木	金	
1時限 9:30 ~ 11:00	科目	チーム医療論	(選) 公衆衛生看護活動論 I	(選) 健康相談活動論	(選) 統合医療概論	成人看護援助論 I (8回)	成人看護援助論 II (7回)
	担当教員	升田寿賀子・蓮池 光人	白井 文恵・七山 知佳	宮永 啓子	山下 仁・増山 祥子・森 美侑紀	吉村 弥須子・久木元 由紀子・和田 由里 澤田 悦子・高木 みどり・小林 妙子・宮本 佳子	
	教室	W棟532	S棟472	S棟472	S棟472・E棟201 (看護・工学 合同)	S棟472	
2時限 11:00 ~ 12:30	科目	【教職課程】 教育相談の基礎と方法	母性看護援助論 I	精神看護援助論 I	【教職課程】 特別支援教育概論	成人看護援助論 I (7回)	成人看護援助論 II (8回)
	担当教員	吉田 卓司	齋藤 雅子・岡田 公江・樋口 優子	蓮池 光人・矢野 秀蔵・矢野 貴恵	加藤 美朗	吉村 弥須子・久木元 由紀子・和田 由里 澤田 悦子・高木 みどり・小林 妙子・宮本 佳子	
	教室	E棟313 (鍼灸・看護 合同)	S棟472	S棟472	E棟313 (鍼灸・看護 合同で実施)	S棟472	
3時限 13:30 ~ 15:00	科目	臨床病態学 V	地域・在宅看護援助論 I	【教職課程】 特別活動論	(選) 健康管理学 II	健康教育論	
	担当教員	青木 元邦	岩佐 由美・升田 寿賀子	松田 智子	伊黒 浩二	関口 敏彰	
	教室	S棟472	S棟472	S棟373	E棟415 (理学・看護・臨床検査・作業・工学 合同)	S棟472	
4時限 15:00 ~ 16:30	科目	臨床病態学 IV	(選) 疫学	小児看護援助論 I	(選) 東洋医療概論	【教職課程】 道徳教育論	
	担当教員	前川 佳敏	井手口 範男	安井 渚・徳島 佐由美	横山 浩之	福島 信也	
	教室	S棟472	S棟472	S棟472	S棟374 (理学・看護 合同)	S棟473 (看護・鍼灸 合同)	
5時限 16:30 ~ 18:00	科目	(選) 公衆衛生看護活動論 II	(選) 身体運動科学	(選) 応用英語演習	老年看護援助論 I	(選) 医学英語	
	担当教員	関口 敏彰・七山 知佳	中根 征也・杉本 圭・松尾 浩希	長尾 晋宏	川添 英利子・外村 昌子	長尾 晋宏	
	教室	S棟472	E棟415 (看護・検査・作業・工学 合同)	S棟374 (理学・看護 合同)	S棟472	S棟373	

【集中講義】

【臨地実習】基礎看護学実習 II

時間割表(案)  
前期  
看護学部 看護学科 3年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟・ W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・ C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・ S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・ MTC=体育館

		月	火	水		木	金
1時限	科目	【教職課程】 教育方法論	(選) 西洋史概説	小児看護援助論Ⅱ	母性看護援助論Ⅱ	家族看護学	看護研究
	担当教員	阿部 秀高	松枝 啓至	徳島 佐由美・安井 渚	齋藤 雅子・岡田公江・樋口 優子	白井文恵・蓮池 光人	村上 生美・久木元 由紀子・外村 昌子・関口 敏彰 ・蓮池 光人・徳島 佐由美・高木 みどり
	教室	S棟374	S棟473 (理学・看護合同実施)	S棟473		S棟473	S棟471・S棟472・S棟473
2時限	科目	看護関係法規	(選) 東洋史概説	小児看護援助論Ⅱ	母性看護援助論Ⅱ	(選) 外来看護論	老年看護援助論Ⅱ
	担当教員	齋藤 雅子・蓮池 光人・関口 敏彰 岡田 公江・外村 昌子	重信 あゆみ	徳島 佐由美・安井 渚	齋藤 雅子・岡田公江・樋口 優子	住田 陽子	外村 昌子・川添 英利子
	教室	S棟473	S棟473 (理学・看護合同実施)	S棟473		S棟473	S棟473
3時限	科目	成人看護援助論Ⅲ	IPW論	(選) 公衆衛生看護活動論Ⅲ		精神看護援助論Ⅱ	(選) 公衆衛生看護活動論Ⅳ
	担当教員	吉村 弥須子・久木元 由紀子・和田 由里 澤田 悦子・高木 みどり・小林 妙子・宮本 佳子	升田 寿賀子・蓮池 光人	七山 知佳(4回)・西内 恭子(4回)		蓮池 光人・矢野 秀蔵・矢野 貴恵	白井 文恵・七山 知佳
	教室	S棟473	S棟473	S棟473		S棟473	S棟473
4時限	科目	成人看護援助論Ⅳ	地域・在宅看護援助論Ⅱ	(選) 公衆衛生看護活動論Ⅲ		(選) 保健医療福祉行政論	(選) 公衆衛生看護学演習
	担当教員	吉村 弥須子・久木元 由紀子・和田 由里 澤田 悦子・高木 みどり・小林 妙子・宮本 佳子	升田 寿賀子・岩佐 由美	七山 知佳(4回)・西内 恭子(3回)		関口 敏彰・七山 知佳	白井 文恵・七山 知佳
	教室	S棟473	S棟473	S棟473		S棟473	S棟473
5時限	科目	(選) 公衆衛生看護管理論					(選) 公衆衛生看護学演習
	担当教員	関口 敏彰・七山 知佳					白井 文恵・関口 敏彰・七山 知佳
	教室	S棟473					S棟473

時間割表（案）

後期

看護学部 看護学科 3年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟・W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限	科目					
	担当教員					
	9:30 ~ 11:00 教室					
2時限	科目					
	担当教員					
	11:00 ~ 12:30 教室					
3時限	科目					
	担当教員					
	13:30 ~ 15:00 教室					
4時限	科目					
	担当教員					
	15:00 ~ 16:30 教室					
5時限	科目					
	担当教員					
	16:30 ~ 18:00 教室					

【臨地実習】 成人看護学実習Ⅰ（急性）・成人看護学実習Ⅱ（慢性）・老年看護学実習・母性看護学実習・小児看護学実習・精神看護学実習 ※実施時期は学科の指示に従ってください。

時間割表（案）

前期

看護学部 看護学科 4年

【各棟および施設の名稱について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟・ W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・ C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・ S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・ MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	卒業研究				
	担当教員	看護学科教員				
	教室	担当教員の指示に従うこと				
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	臨床看護学セミナーⅠ	臨床看護学セミナーⅠ	養護実習（事前事後指導を含む）		
	担当教員	木田 岩男	木田 岩男	阿部 秀高・老田 準司・福島 信也 松田 智子・宮永 啓子		
	教室	W棟531	W棟531	S棟373		
3時限 13:00 ~ 14:30	科目					
	担当教員					
	教室					
4時限 14:40 ~ 16:10	科目					
	担当教員					
	教室					
5時限 16:20 ~ 17:50	科目					
	担当教員					
	教室					

【集中講義】

【臨地実習】

地域・在宅看護論実習Ⅱ、主題実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習、主題実習Ⅱ、養護実習（事前事後指導を含む）

時間割表（案）

後期

看護学部 看護学科 4年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟・W棟：ウエストポート(West Port)=西棟・C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟・S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟・MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限	科目	卒業研究				
	9:30 ~ 11:00 担当教員	看護学科教員				
	教室	担当教員の指示に従うこと				
2時限	科目		(選) 災害・国際看護論	臨床看護技術セミナー	【教職課程】 教職実践演習(養護教諭)	看護管理論
	11:00 ~ 12:30 担当教員		升田 寿賀子	看護学科教員	阿部 秀高・老田 準司・福島 信也 松田 智子・宮永 啓子	小西 由起子
	教室		W棟531	W棟531	S棟473	W棟531
3時限	科目		臨床看護学セミナーⅡ	(選) 公衆衛生看護セミナー		
	13:30 ~ 15:00 担当教員		看護学科教員	白井 文恵・関口 敏彰・七山 知佳		
	教室		W棟531	W棟531		
4時限	科目		臨床看護学セミナーⅡ			
	15:00 ~ 16:30 担当教員		看護学科教員			
	教室		W棟531			
5時限	科目					
	16:30 ~ 18:00 担当教員					
	教室					

分野	分類名	内訳	図書	製本雑誌	消耗図書	映像資料	電子書籍	小計
看護学	看護学		932	6	67	19	0	1,024
		看護理論	28	0	0	0	0	28
		看護倫理	18	0	0	0	0	18
	基礎看護学		41	0	8	0	0	49
		看護技術	289	24	0	13	0	326
		看護過程	212	0	0	4	0	216
		看護管理	57	0	0	0	0	57
		看護教育	32	34	0	101	0	167
		看護研究	87	23	0	0	0	110
	経過別看護		2	0	0	0	0	2
		急性期	62	0	2	4	0	68
		周術期	24	0	0	0	0	24
		慢性期	10	0	0	1	0	11
		回復期リハビリテーション	4,998	87	80	333	0	5,498
		終末期	24	0	0	1	0	25
		母性看護学	63	0	11	14	0	88
		小児看護学	52	0	8	4	0	64
		成人看護学	111	0	11	0	0	122
		精神看護学	60	0	8	0	0	68
		老年看護学	56	0	11	0	0	67
	公衆衛生看護学	29	0	0	0	0	29	
	在宅看護学	3	0	0	0	0	3	
	災害・国際看護学	12	0	0	0	0	12	
医学	解剖学		362	0	1	5	0	368
	生理学		358	5	21	0	0	384
	病理学		125	0	1	0	0	126
	診断学		40	0	0	5	0	45
	内科学		119	0	1	0	0	120
	外科学		119	12	1	0	0	132
	産科学・婦人科学		19	0	0	0	0	19
	公衆衛生学		34	0	8	0	0	34
	関係法規	35	0	6	0	0	41	
心理学	発達心理学		25	0	0	0	0	25
社会学	社会福祉学		7	0	0	0	0	7
教育学	学校保健・養護		45	0	0	0	0	45
	教職に関する科目		70	0	0	0	0	70
計			8,560	191	245	504	0	9,492



## 森ノ宮医療大学

### 学 則（案）

第一章	目的
第二章	自己点検評価及び第三者評価
第三章	学部・学科等及び附属施設
第四章	学年、学期及び休業日
第五章	修業年限及び在学年限
第六章	入学
第七章	教育課程、履修方法等
第八章	休学、復学、転学、退学及び除籍
第九章	卒業及び学位
第十章	科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生
第十一章	職員組織
第十二章	教授会、各種委員等
第十三章	入学検定料、入学料、授業料等
第十四章	賞罰
第十五章	大学開放及び生涯学習事業
第十六章	雑則

## 第一章 目的

(目的)

第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。

## 第二章 自己点検評価及び第三者評価

(自己点検評価及び第三者評価)

第2条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育・研究・組織・運営・施設及び設備の状況について、自己点検評価を行う。

2 自己点検評価に関する必要な事項は別に定める。

3 本学は前項の措置に加え、その教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。

4 自己点検評価および第三者評価の結果を公表するものとする。

(情報の積極的な公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって積極的にその情報を公開するものとする。

## 第三章 学部・学科等及び附属施設

(学部、学科、入学定員及び収容定員)

第4条 本学に看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部を置く。

2 看護学部看護学科を置き、総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科を置き、医療技術学部鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。

3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
看護学部	看護学科	90	360
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	280
	作業療法学科	40	160

医療技術学部	鍼灸学科	60	240
	臨床検査学科	70	280
	臨床工学科	60	240
	診療放射線学科	80	320
合計		470	1880

4 医療技術学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。

5 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。

#### (学部の目的)

第4条の2 前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。
- (3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。

#### (学科の目的)

第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材の育成を目的とする。
- (3) 総合リハビリテーション学部作業療法学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。
- (4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。

- (6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(大学院)

第4条の4 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

第4条の5 本学に次の専攻科を置く。

(1) 助産学専攻科

2 専攻科に関する規則は別に定める。

(附属施設)

第5条 本学に次の附属施設を置く。

(1) 附属図書館

(2) 附属臨床実習施設

2 前項の附属施設に関し必要な事項は別に定める。

## 第四章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期にわけるとする。

(1) 前期4月1日から9月30日まで

(2) 後期10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
  - (3) 春期休業日 3月21日から3月31日まで
  - (4) 夏期休業日 8月11日から9月30日まで
  - (5) 冬期休業日 12月25日から1月7日まで
- 2 学長は前項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

## 第五章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第10条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学した学生は、第19条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

## 第六章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

- 2 ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学する場合及び特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) 前各号に定める者の他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、入学願書に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第16条 学長は、編入学を志望するものがあるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に編入学を許可することができる。

2 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

(1) 大学及び短期大学の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(2) 高等専門学校の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(3) 学校教育法第三十二条に定める専修学校を卒業した者か、卒業見込みの者

(転入学)

第17条 学長は、他の大学に在籍しているもので、本学への転入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第18条 学長は、再入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第19条 第16条、第17条、第18条の規定により入学を許可された者が既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

## 第七章 教育課程、履修方法等

## (教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

第21条 授業は、講義、演習、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第22条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

## (単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実習については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

## (1年間の授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週とすることを原則とする。

## (単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者に、担当の教員は所定の単位を与える。

- 2 前項の試験は、当該授業科目を履修した者でなければ、受けることができない。

## (成績の評価)

第26条 成績の評価は、優、良、可及び不可の4段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。

## (試験の種類)

第27条 各授業科目の試験は、定期試験、追試験、再試験及び臨時試験等とする。

## (入学前及び在学時における他大学等での既修得単位等の認定)

第28条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等で履修した授業科目について修得した単位（大学等で科目等履修生として修得した単位を含む）を、該当する授業科目を本学において履修及び修得したものと見なし、単位を与えることができる。

- 2 学長は教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学等と協議の上、学生が授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第16条の編入学、第17条の転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

## (教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科スポーツ特修コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の看護学部看護学科の教育課程及び別表第5の医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。
- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

## 第八章 休学、復学、転学、退学及び除籍

## (休学)

第29条 疾病その他やむを得ない事情により3ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。



- 2 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合において、学長の許可を得たときは、この限りでない。
- 3 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学の期間は第10条に規定する在学年限に算入しない。

## (復学)

第30条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

## (転学)

第31条 本学への在学期間中、他の大学等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

## (退学)

第32条 退学しようとするものは、学長の許可を受けなければならない。

## (除籍)

第33条 次の各号に該当する者は、学長が除籍することができる。

- (1) 第10条の規定により定められた在学年限を超えた者
  - (2) 第29条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者
  - (3) 授業料を納入しない者
  - (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 前項(3)により除籍となった者が、所定の期日内に学費を納付した場合、復籍を認めることがある。

## 第九章 卒業及び学位

## (卒業)

- 第34条 本学に4年(第16条、第17条、第18条の規定により入学したものについては、第19条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、単位を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、前項の卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

## (学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)

総合リハビリテーション学部	理学療法学科 作業療法学科	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）
医療技術学部	鍼灸学科 臨床検査学科 臨床工学科 診療放射線学科	学士（鍼灸学） 学士（臨床検査学） 学士（臨床工学） 学士（診療放射線学）

## 第十章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

### （科目等履修生）

第36条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

### （研究生）

第37条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

2 研究生となることを志願することができる者は大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

### （聴講生）

第38条 本学において、特定の授業科目について聴講を志願するものがあるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

### （特別聴講生）

第38条の2 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下この条において同じ）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長は、特別聴講生として入学を許可することができる。

### （外国人留学生）

第39条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

## 第十一章 職員組織

### （職員）

第40条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の必要な職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合には副学長を置くことができる。

(各組織の長)

第41条 本学に、学長のほか、事務局長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、附属臨床実習施設長、及び附属図書館長等を置く。

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

5 学部長は、本学の教授をもって充て、各学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。

7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。

8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

## 第十二章 教授会、各種委員等

(教授会)

第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第44条 本学に、専門事項を審議する専門委員会を置く。

2 専門委員会は学長の付託を受け専門事項を審議する。

3 専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

### 第十三章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第10のとおりとする。

(授業料等の納付)

第46条 本学の学生の授業料等は4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とし、その年額の2分の1に相当する額を、学長が指定した日までに納付しなければならない。

2 経済的事由により授業料等の納付が困難であって、学業優秀と認められた者その他やむを得ない事情があると認められた者については、授業料等の全部若しくは一部の納付を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

3 第29条により休学を認められた学生の学納金は、各学期の授業料の5分の1とする。

4 既に納付した入学検定料、授業料は、返還しない。

### 第十四章 賞罰

(表彰)

第47条 学長は、表彰に値する行為があった学生を表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

### 第十五章 大学開放及び生涯学習事業

(大学開放)

第49条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第50条 本学は、地域社会の発展に寄与するため、生涯学習事業をとおして本学の教育研究資源の地域社会への還元に積極的に努めるものとする。

## 第十六章 雑則

(雑則)

第51条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は学長が別に定める。

## 附 則

- 1 この学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、第12条、第13条、第14条、第15条、第45条、第46条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成19年度	120人				120人
平成20年度	120人	120人			240人
平成21年度	120人	120人	120人		360人
平成22年度	120人	120人	120人	120人	480人

- 3 この学則は平成23年4月1日から施行する。
- 4 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成23年度	200人	120人	120人	120人	560人
平成24年度	200人	200人	120人	120人	640人
平成25年度	200人	200人	200人	120人	720人
平成26年度	200人	200人	200人	200人	800人

- 5 平成23年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 6 この学則は平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 7 この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 8 この学則は平成27年4月1日から施行する。
- 9 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成28年度	300人	200人	200人	200人	900人
平成29年度	300人	300人	200人	200人	1000人
平成30年度	300人	300人	300人	200人	1100人
平成31年度	300人	300人	300人	300人	1200人

- 10 この学則は平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 11 この学則は平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 12 この学則は平成30年4月1日から施行する。
- 13 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替

えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人

14 この学則は平成31年4月1日から施行する。

15 この学則は令和2年4月1日から施行する。

16 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
令和2年度	470人	380人	380人	300人	1530人
令和3年度	470人	470人	380人	380人	1700人
令和4年度	470人	470人	470人	380人	1790人
令和5年度	470人	470人	470人	470人	1880人

17 この学則は令和3年3月1日から施行する。

18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。

別表第1  
看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
			医療コミュニケーション	1	
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			2		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2		
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1
				形態機能学Ⅱ	1
	形態機能学Ⅲ	1			
	形態機能学Ⅳ	1			
	フィジカルアセスメント	2			
	生化学	2			
	発達心理学	2			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学		1	
		病理学		1	
		臨床薬理学		1	
		臨床病態学Ⅰ		1	
		臨床病態学Ⅱ		1	
		臨床病態学Ⅲ	1		
		臨床病態学Ⅳ	1		
		臨床病態学Ⅴ	1		
		臨床心理学	2		
		健康支援と社会保障制度	医療概論	1	
	疫学		2		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1	
		看護理論	2	
		生活援助論Ⅰ	2	
		生活援助論Ⅱ	2	
		診療援助論Ⅰ	2	
		診療援助論Ⅱ	2	
		看護過程演習	1	
		在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
			外来看護論	1
		成人看護学	成人看護学概論	2
			成人看護援助論Ⅰ	1
			成人看護援助論Ⅱ	1
			成人看護援助論Ⅲ	1
		看護学 老年	老年看護学概論	2
			老年看護援助論Ⅰ	1
			老年看護援助論Ⅱ	1
		看護学 母性	母性看護学概論	2
			母性看護援助論Ⅰ	1
			母性看護援助論Ⅱ	1
	看護学 小児	小児看護学概論	2	
		小児看護援助論Ⅰ	1	
		小児看護援助論Ⅱ	1	
	看護学 精神	精神看護学概論	2	
		精神看護援助論Ⅰ	1	
		精神看護援助論Ⅱ	1	
	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2	
		家族看護学	1	
		看護管理論	1	
		災害・国際看護論	1	
		養護概説	2	
		学校保健	2	
		健康相談活動論	2	
		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1
			基礎看護学実習Ⅱ	2
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	1
	地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）		3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）		3	
	老年看護学実習		3	
	母性看護学実習		2	
	小児看護学実習		2	
	精神看護学実習		2	
	公衆衛生看護学実習		4	
	主題実習Ⅰ		2	
	主題実習Ⅱ		1	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
		公衆衛生看護学演習	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	
		公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2			
研究	看護研究	1		
	卒業研究	2		
看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2		
	臨床看護学セミナーⅡ	2		
	公衆衛生看護セミナー	2		
	臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件（最低必要単位数）			127	



別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	1		
	運動学実習	1		
	臨床心理学	1		
	専門科目	総合領域		
			公衆衛生学	2
			生化学	2
			病理学	2
			臨床病態学Ⅰ	2
			臨床病態学Ⅱ	2
			臨床病態学Ⅲ	2
			整形外科学	2
			小児科学（人間発達学）	2
			精神医学	2
			リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	2
			チームリハビリテーション概論	1
			介護学概論・ボランティア活動論	1
			スポーツ医学	1
			テーピング技術論	1

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
	法医学管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
	発達障害理学療法学	1	
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	地域療法学	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
	総合領域	老年期理学療法学	1
		理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
理学療法特論Ⅰ		1	
理学療法特論Ⅱ		1	
理学療法特論Ⅲ		2	
運動器系理学療法セミナー		1	
神経系理学療法セミナー		1	
内部障害系理学療法セミナー		1	
地域理学療法セミナー	1		
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ（運動器）
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	2		
	臨床運動学	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		2
		公衆衛生学		2
		生化学		2
		病理学		2
		臨床病態学Ⅰ		2
		臨床病態学Ⅱ	2	
		臨床病態学Ⅲ	2	
		整形外科学	2	
		小児科学（人間発達学）	2	
		精神医学	2	
		精神医学各論	2	
		臨床心理学	1	
		リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	1	
		医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	2		
	スポーツ医学	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎作業学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法学	職場管理（教育を含む）	1
		職業倫理	1
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	地域作業療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ（身体障害）	2
		卒業研究Ⅱ（精神障害）	2
		卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	2
卒業研究Ⅱ（発達障害）		2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第4

## 医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分	授業科目	単位数			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
		心理学	2		
	人間理解と社会	生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
		西洋史概説	2		
		英語 I (初級)	2		
	語学	英語 II (中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
医療コミュニケーション			1		
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			2		
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2		
健康管理学 I			2		
健康管理学 II			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)
	解剖学 II (神経)	2			
	解剖学 III (内臓・脈管)	2			
	生理学 I (動物生理学)	2			
	生理学 II (植物生理学)	2			
	生理学 III (応用生理学)	2			
	運動学	2			
	生化学	2			
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学			2
		臨床医学総論			2
		整形外科学			2
		内科学			2
		臨床医学各論 I			2
		臨床医学各論 II			2
		臨床医学各論 III	2		
		スポーツ医学	2		
		リハビリテーション医学	2		
		画像診断学	2		
	保健医療福祉と社会の理念	衛生学公衆衛生学	2		
		保健医療倫理	1		
	専門科目	基礎はりきゅう学	経絡経穴学 I	1	
			経絡経穴学 II	1	
			経穴局所解剖演習 I	1	
			経穴局所解剖演習 II	1	
			鍼灸科学概論 I	1	
			鍼灸科学概論 II	1	
			東洋医学概論 I	1	
東洋医学概論 II			1		
東洋医学概論 III	1				

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1	
		臨床生理学	1	
		臨床鍼灸学	1	
		生体観察	1	
		運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論 I	1	
		東洋医学各論 II	1	
		社会はりきゅう学	鍼灸経営論	1
			関係法規	1
		実習	基礎鍼灸実技 I	1
	基礎鍼灸実技 II		1	
	基礎灸実技 I		1	
	基礎灸実技 II		1	
	応用鍼灸実技 I		1	
	応用鍼灸実技 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 I		1	
	現代医学系鍼灸学実習 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 IV		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 V		1	
	実臨床	附属施設所基礎実習	2	
		附属施設所応用実習	2	
	総合領域	キャリアデザイン	1	
		鍼灸総合演習 I	2	
		鍼灸総合演習 II	2	
		鍼灸総合演習 III	2	
		卒業研究 I	1	
		卒業研究 II	1	
	専門領域	学外見学実習 I	1	
		学外見学実習 II	1	
		美容鍼灸学総論	1	
		テーピング技術論	1	
		コンディショニング技術論	1	
		スポーツ鍼灸学総論	1	
		スポーツ鍼灸学各論	1	
介護学概論		1		
老年ケア演習		1		
美容鍼灸学各論 I		1		
美容鍼灸学各論 II	1			
応用鍼灸学 I	1			
応用鍼灸学 II	1			
スポーツ経営学	1			
卒業要件 (最低必要単位数)		126		

別表第5

医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	区分	授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1	
		物理学	2		臨床生理学	1	
		生物学	2		臨床鍼灸学	1	
		化学	2		生体観察	1	
		情報処理	2		運動機能検査法	1	
		統計学	2		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2	
	人間理解と社会	心理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2	
		生命倫理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1	
		哲学	2		東洋医学系検査法	1	
		社会福祉学	2		東洋医学各論Ⅰ	1	
		日本国憲法	2		東洋医学各論Ⅱ	1	
		東洋史概説	2		鍼灸経営論	1	
	語学	西洋史概説	2		関係法規	1	
		英語Ⅰ（初級）	2		実習	基礎鍼灸Ⅰ	1
		英語Ⅱ（中級）	2	基礎鍼灸Ⅱ		1	
		英会話	2	基礎灸実技Ⅰ		1	
		医学英語	2	基礎灸実技Ⅱ		1	
		基礎英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅰ		1	
	応用英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅱ	1			
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
チーム医療見学実習			1	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ		1	
医療コミュニケーション			1	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ		1	
チーム医療論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ		1	
IPW論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅱ		1	
基礎体育			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ		1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ		1	
健康管理学Ⅰ			2	応用鍼灸治療学		1	
健康管理学Ⅱ			2	臨床灸実習	1		
栄養学			2	特殊鍼灸治療学	1		
身体運動科学			2	実臨習床	附属施術所基礎実習	2	
東洋医療概論			2	附属施術所応用実習	2		
統合医療概論			2	総合領域	キャリアデザイン	1	
学科専門科目群			人体の構造と機能		解剖学Ⅰ（骨・筋）	4	鍼灸総合演習Ⅰ
	解剖学Ⅱ（神経）	2			鍼灸総合演習Ⅱ	2	
	解剖学Ⅲ（内臓・脈管）	2			鍼灸総合演習Ⅲ	2	
	生理学Ⅰ（動物生理学）	2			運動生理学	2	
	生理学Ⅱ（植物生理学）	2			運動生理機能学演習	2	
	生理学Ⅲ（応用生理学）	2			卒業研究Ⅰ	1	
	運動学	2			卒業研究Ⅱ	1	
	生化学	2			学外見学実習Ⅰ	1	
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学			2	学外見学実習Ⅱ	1
		臨床医学総論			2	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
		整形外科	2		スポーツ実習Ⅱ 球技A	1	
		内科学	2		スポーツ実習Ⅱ 球技B	1	
		臨床医学各論Ⅰ	2		スポーツ実習Ⅱ 球技C	1	
		臨床医学各論Ⅱ	2	スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1		
		臨床医学各論Ⅲ	2	スポーツ実習Ⅳ 柔道	1		
		スポーツ医学	2	スポーツ実習Ⅴ ダンス	1		
		リハビリテーション医学	2	スポーツ実習Ⅵ 器械運動	1		
		画像診断学	2	スポーツ実習Ⅶ 水泳	1		
	保健医療福祉の理念	衛生学公衆衛生学	2	スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	1		
		保健医療倫理	1	学校保健（小児保健・精神保健）	2		
基礎はりきゅう学	経絡経穴学Ⅰ	1	学校保健（学校安全・救急処置）	2			
	経絡経穴学Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）	1			
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）	1			
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）	1			
	鍼灸科学概論Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）	1			
	鍼灸科学概論Ⅱ	1	体力トレーニング論	2			
	東洋医学概論Ⅰ	1	テーピング技術論	1			
	東洋医学概論Ⅱ	1	スポーツバイオメカニクス	2			
	東洋医学概論Ⅲ	1	介護学概論	1			
				老年ケア演習	1		
学科専門科目群	専門科目			体育原理	2		
				スポーツ心理学	2		
				スポーツ鍼灸学総論	1		
				スポーツ鍼灸学各論	1		
				スポーツ傷害学・栄養学	2		
				スポーツ経営学	1		
				卒業要件（最低必要単位数）	144		

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分	授業科目	単位数	
教養科目群	基礎ゼミナール	2	
	物理学	2	
	生物学	2	
	化学	2	
	情報処理	2	
	統計学	2	
	心理学	2	
	生命倫理学	2	
	哲学	2	
	社会福祉学	2	
	日本国憲法	2	
	東洋史概説	2	
	西洋史概説	2	
	英語 I (初級)	2	
	英語 II (中級)	2	
英会話	2		
医学英語	2		
基礎英語演習	2		
応用英語演習	2		
共通科目群	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1	
	チーム医療見学実習	1	
	医療コミュニケーション	1	
	チーム医療論	1	
	IPW論	1	
	基礎体育	1	
	健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2	
	健康管理学 I	2	
	健康管理学 II	2	
	栄養学	2	
	身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2	
	統合医療概論	2	
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造 I	2
		人体の構造 II	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能 I	2
		人体の機能 II	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
	リハビリテーション概論	2	
	とその他の基礎臨床検査と保健福祉医学 工学療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		医用工学概論	2
		医用工学実習	1

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	病態臨床学	臨床病態学 I	2
		臨床病態学 II	2
	形態検査学	血液検査学 I	2
		血液検査学 II	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
	生物化学検査学	一般検査学	1
		臨床化学検査学 I	2
		臨床化学検査学 II (放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
	病原因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
		微生物検査学 I	2
		微生物検査学 II	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学 I	2
		免疫検査学 II	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
	生理機能検査学	輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学 I	2
		生理機能検査学 II	2
		生理機能検査学実習 I	1
		生理機能検査学実習 II	1
		画像検査学	2
	検査総論	超音波検査学 I	1
		超音波検査学 II	1
		検査総合管理	2
	全医療安全管理	医療情報科学	2
関係法規		1	
総合領域	医療安全管理学	1	
	臨床薬理学	2	
	食品衛生学	1	
	食品関係法規	1	
	総合演習 I	2	
研究	総合演習 II	2	
	総合演習 III	2	
卒業	卒業研究 I	2	
	卒業研究 II	2	
実臨地	臨床実習	7	
	細胞診断学	臨床細胞学概論	1
		臨床細胞学実習 I	1
		臨床細胞学実習 II	1
		臨床細胞学総論 I	1
		臨床細胞学総論 II	1
		臨床細胞学各論 I	1
		臨床細胞学各論 II	1
		臨床細胞学各論 III	1
		細胞診断学実習 I	3
		細胞診断学実習 II	3
細胞診断学実習 III		3	
細胞診断学特別実習 I	3		
細胞診断学特別実習 II	3		
卒業要件 (最低必要単位数)		124	

別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		
		チーム医療見学実習	1		
		医療コミュニケーション	1		
		チーム医療論	1		
		IPW論	1		
		基礎体育	1		
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	人の機能	医学概論	1
				公衆衛生学	2
				人体の構造Ⅰ	2
				人体の構造Ⅱ	1
				人体の機能Ⅰ	2
人体の機能Ⅱ	1				
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学		2		
	病理学		2		
	免疫学		2		
	薬理学		2		
	看護学概論		1		
	基礎医学実習		1		
臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学		2		
	数学演習		1		
	応用数学		2		
	応用物理学		1		
	応用化学		1		
	電気工学Ⅰ		2		
	電気工学Ⅱ	2			
	電気工学実習	1			
	電子工学Ⅰ	2			
	電子工学Ⅱ	2			
電子工学実習	1				
臨床工学に必要な情報技術の基礎	放射線工学概論	1			
	情報処理工学	2			
	医療統計学	2			
	システム制御工学	2			
	情報処理・システム制御工学実習	1			

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	2	
		生体材料工学	2	
		バイオメカニクス	2	
		バイオレオロジー	1	
		計測工学	1	
		生体情報処理工学	2	
		医用機器学	医用機器学概論	2
	生体計測装置学		2	
	生体計測装置学実習		1	
	医用治療機器学		2	
	医用治療機器学実習		1	
	画像診断装置学		2	
	医用監視システム装置学		2	
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	1	
		体外循環療法学	2	
		体外循環実習	1	
		血液浄化装置学	1	
		血液浄化療法学	2	
		血液浄化実習	1	
		人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
		人体機能補助装置学	1	
	人体機能補助療法学	2		
	人体機能補助実習	1		
	全医用安全管理	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
	関連臨床医学	関係法規	2	
		臨床医学総論（内科学・外科学）	2	
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2	
		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2	
	実臨床	臨床医学演習	1	
		臨床実習	4	
	専門特講	技術特講	医用生体工学特講	1
			医用機器学特講	1
			生体機能代行技術特講	1
			関連臨床医学特講	1
			基礎工学特講	1
	研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
機能評価学演習			1	
医療情報システム学			1	
医療情報システム学演習			1	
医用ロボット工学		1		
遺伝子検査学		1		
先進科学技術演習		1		
研卒業	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ	2		
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第8

## 医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
		MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
		統合医療概論	2
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2
		数学演習	1
		物理学演習	1
		生物学演習	1
		化学演習	1
		医学概論	1
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	公衆衛生学	1
		人体の構造 I	1
		人体の構造 II	1
		人体の機能 I	1
		人体の機能 II	1
		生化学	1
		病理学	1
		内科学 I	1
		内科学 II	1
		薬理学	1
		看護学概論	1
		基礎医学演習	1
		外科学	1
		救急災害医学	1
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2
		医用工学	2
		工学演習	1
		情報処理工学	2
		医療統計学	1
		放射化学	2
		放射線生物学	2
		放射線化学・生物学演習	1
		放射線物理学	2
		放射線計測学	2
		放射線物理学・計測学演習	1
		放射線科学	1
		専門基礎科目実験	2

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
		X線撮影技術学 I	2	
		X線撮影技術学 II	2	
		X線機器工学	2	
		放射線撮影技術学	2	
		CT・MRI撮影技術学	2	
		CT・MRI機器工学	2	
		撮影技術学・機器工学実験 I	1	
		撮影技術学・機器工学実験 II	1	
		画像解剖学	1	
		画像解剖学演習	1	
		機器工学演習	1	
		核医学検査	核医学検査技術学 I	2
			核医学検査技術学 II	2
	核医学検査技術学実験		1	
	放射性薬品学		1	
	放射線治療	放射線治療技術学 I	2	
		放射線治療技術学 II	2	
		放射線治療技術学実験	1	
	放射線治療	放射線治療学	1	
		画像工学	2	
	医用画像情報	医療情報学	1	
		医用画像情報学	2	
	医用画像情報学	医用画像情報学実験	1	
		放射線安全管理学	放射線安全管理学	2
	放射線関係法規		1	
	安全管理学実験		1	
	医療安全管理学	医療安全管理学	2	
		断画像技術	臨床画像解剖学	2
	臨床実習		臨床画像解析学	2
		臨床実習 I	6	
		臨床実習 II	2	
		臨床実習 III	2	
	臨床実習	臨床実習ゼミナール	2	
		診療放射線技術特講	診療画像技術学特講	1
			核医学・放射線治療学特講	1
放射線技術学特講			1	
研究分野	基礎医学特講	1		
	先進核医学	1		
	先進放射線治療学	1		
研究分野	先進画像解析学	1		
	先進医学	1		
	卒業研究 I	2		
卒業研究	卒業研究 II	2		
	卒業要件 (最低必要単位数)		126	

別表第9  
教職に関する科目 教育課程

区分	授業科目	単位数
教職に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	2
	保健体育科教育法Ⅱ	2
	保健体育科教育法Ⅲ	2
	保健体育科教育法Ⅳ	2
	教育原理	2
	教職論	2
	教育行政学	2
	教育心理学	2
	特別支援教育概論	1
	教育課程論	2
	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動論	2
	教育方法論	2
	生徒指導・進路指導論	2
	生徒指導論	2
	教育相談の基礎と方法	2
	教育実習事前事後指導	1
	教育実習Ⅰ	2
	教育実習Ⅱ	2
	養護実習(事前事後指導を含む)	5
	教職実践演習(中・高)	2
	教職実践演習(養護教諭)	2



## 別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

大学 学則改定 新旧対照表

(下線は変更部分)

現行	改定案																																																														
<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p>4 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p> <p>2 鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	70	280	看護学科	90	360	臨床検査学科	70	280	作業療法学科	40	160	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880	<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に<u>看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部</u>を置く。</p> <p><u>2 看護学部</u>に看護学科を置き、<u>総合リハビリテーション学部</u>に理学療法学科及び作業療法学科を置き、<u>医療技術学部</u>に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>看護学部</u></td> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"><u>総合リハビリテーション学部</u></td> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"><u>医療技術学部</u></td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>4 医療技術学部</u>鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p><u>5 鍼灸コース</u>は、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部の目的)</p> <p>第4条の2 <u>前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーシ</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	<u>看護学部</u>	看護学科	90	360	<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280	作業療法学科	40	160	<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240	臨床検査学科	70	280	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																												
	理学療法学科	70	280																																																												
	看護学科	90	360																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
<u>看護学部</u>	看護学科	90	360																																																												
<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												

<p>人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</p> <p>4 理学療法学科は、科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>5 看護学科は、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>6 臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>7 作業療法学科は、チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>8 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>9 診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p>	<p><u>ヨンを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、</u>  生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、<u>チーム医療において</u>科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p>
<p>(大学院)</p> <p>第4条の3 本学に大学院を置く。</p> <p>2 大学院に関する規則は別に定める。</p>	<p><u>(学科の目的)</u></p> <p><u>第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた</u></p>

<p>(専攻科)</p> <p>第4条の4 本学に次の専攻科を置く。</p> <p>(1) 助産学専攻科</p> <p>2 専攻科に関する規則は別に定める。</p> <p>(番号変更)</p>	<p><u>人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 総合リハビリテーション学部作業療学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。</u></p> <p><u>(4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(大学院)</u></p> <p><u>第4条の4 本学に大学院を置く。</u></p> <p><u>2 大学院に関する規則は別に定める。</u></p> <p><u>(専攻科)</u></p> <p><u>第4条の5 本学に次の専攻科を置く。</u></p> <p><u>(1) 助産学専攻科</u></p> <p><u>2 専攻科に関する規則は別に定める。</u></p>
---	--

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
保健医療学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育
	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部**看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部**理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部**作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部**鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部**鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部**臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部**臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部**診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
<b>看護学部</b>	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護
<b>医療技術学部</b>	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の**看護学部看護学科**の教育課程及び別表第5の**医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コース**の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちか

しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
保健医療学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	理学療法学科	学士(理学療法学)
	看護学科	学士(看護学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、保健医療学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

ら、所定の単位を修得しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
<b>看護学部</b>	看護学科	学士(看護学)
<b>総合リハビリテーション学部</b>	理学療法学科	学士(理学療法学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
<b>医療技術学部</b>	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、**各**学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>3 教授会は理事長、学長、副学長、教授、准教授、講師及び事務局長をもって組織する。</p> <p>附 則 (追加)</p>	<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。</p> <p><u>3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>附 則</p> <p><u>18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。</u></p>
--	---

別表第1

## 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	統計学	2	
		心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
	語学	日本語 I (初級)	2	
		英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学 I	2	
		健康管理学 II	2	
		栄養学	2	
	身体運動科学	2		
	東洋医療概論	2		
	統合医療概論	2		
	学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
			解剖学 II (神経)	2
解剖学 III (内臓・脈管)			2	
生理学 I (動物生理学)			2	
生理学 II (植物生理学)			2	
専門基礎科目 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進		運動学	2	
		生化学	2	
		病理学	2	
		臨床医学総論	2	
		整形外科学	2	
		内科学	2	
		臨床医学各論 I	2	
		臨床医学各論 II	2	
		臨床医学各論 III	2	
		スポーツ医学	2	
リハビリテーション医学	2			
画像診断学	2			
保健医療福祉の理念 社会福祉の促進	衛生学公衆衛生学	2		
	保健医療倫理	1		
	専門科目 基礎はりきゅう学	経絡経穴学 I	1	
		経絡経穴学 II	1	
		経穴局所解剖演習 I	1	
経穴局所解剖演習 II		1		
鍼灸科学概論 I		1		
鍼灸科学概論 II	1			
東洋医学概論 I	1			
東洋医学概論 II	1			
東洋医学概論 III	1			

別表第1

## 看護学部 看護学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	統計学	2	
		心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
	語学	日本語 I (初級)	2	
		英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学 I	2	
		健康管理学 II	2	
		栄養学	2	
	身体運動科学	2		
	東洋医療概論	2		
	統合医療概論	2		
	学科専門科目群	人体の構造と機能	形態機能学 I	1
			形態機能学 II	1
形態機能学 III			1	
形態機能学 IV			1	
フィジカルアセスメント			2	
専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		生化学	2	
		発達心理学	2	
		微生物学	1	
		病理学	1	
		臨床薬理学	1	
		臨床病態学 I	1	
		臨床病態学 II	1	
		臨床病態学 III	1	
		臨床病態学 IV	1	
		臨床病態学 V	1	
臨床心理学	2			
社会保健支援と健康支度	医療概論	1		
	公衆衛生学	2		
	看護関係法規	2		
	保健統計学	2		
	疫学	2		



区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1	
	うきは社 学めり学	鍼灸経常論	1
		関係法規	1
		基礎鍼灸実技Ⅰ	1
		基礎鍼灸実技Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
	実習	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅴ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅵ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅶ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅷ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅸ	1
	実習床	附属施設所基礎実習	2
		附属施設所応用実習	2
総合領域	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習Ⅰ	2	
	鍼灸総合演習Ⅱ	2	
	鍼灸総合演習Ⅲ	2	
	卒業研究Ⅰ	1	
	卒業研究Ⅱ	1	
専門領域	学外見学実習Ⅰ	1	
	学外見学実習Ⅱ	1	
	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論Ⅰ	1	
美容鍼灸学各論Ⅱ	1		
応用鍼灸学Ⅰ	1		
応用鍼灸学Ⅱ	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
		生活援助論Ⅰ	2
		生活援助論Ⅱ	2
		診療援助論Ⅰ	2
		診療援助論Ⅱ	2
		看護過程演習	1
	在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
	成人看護学	外来看護論	1
		成人看護学概論	2
		成人看護援助論Ⅰ	1
		成人看護援助論Ⅱ	1
		成人看護援助論Ⅲ	1
	看護学 老年	成人看護援助論Ⅳ	1
		老年看護学概論	2
		老年看護援助論Ⅰ	1
	看護学 母性	老年看護援助論Ⅱ	1
		母性看護学概論	2
		母性看護援助論Ⅰ	1
	看護学 小児	母性看護援助論Ⅱ	1
		小児看護学概論	2
		小児看護援助論Ⅰ	1
	看護学 精神	小児看護援助論Ⅱ	1
		精神看護学概論	2
		精神看護援助論Ⅰ	1
	看護学 実践Ⅰ	精神看護援助論Ⅱ	1
		健康教育論	2
		家族看護学	1
		看護管理論	1
		災害・国際看護論	1
		養護概説	2
学校保健		2	
健康相談活動論		2	
基礎看護学実習Ⅰ		1	
基礎看護学実習Ⅱ		2	
臨床実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）	3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3	
	老年看護学実習	3	
	母性看護学実習	2	
	小児看護学実習	2	
	精神看護学実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習Ⅰ	2	
主題実習Ⅱ	1		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
	保健医療福祉行政論	2	
研卒業	看護研究	1	
	卒業研究	2	
看護学 実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2	
	臨床看護学セミナーⅡ	2	
	公衆衛生看護セミナー	2	
	臨床看護技術セミナー	1	
卒業要件（最低必要単位数）		127	

別表第2

## 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	統計学	2	
		心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
	語学	日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
共通科目群	保健医療	英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2			
健康管理学Ⅰ	2			
健康管理学Ⅱ	2			
栄養学	2			
身体運動科学	2			
東洋医療概論	2			
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4	
		解剖学Ⅱ(神経)	2	
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2	
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2	
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2	
		生理学Ⅲ(応用生理学)	2	
		運動学	2	
		生化学	2	
		疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学	2
			臨床医学総論	2
	整形外科学		2	
	内科学		2	
	臨床医学各論Ⅰ		2	
	臨床医学各論Ⅱ		2	
	臨床医学各論Ⅲ		2	
	スポーツ医学		2	
	リハビリテーション医学		2	
	画像診断学		2	
	社会と医療の連携	衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
基礎はりきゆう学	経絡経穴Ⅰ	1		
	経絡経穴Ⅱ	1		
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1		
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1		
	鍼灸科学概論Ⅰ	1		
	鍼灸科学概論Ⅱ	1		
	東洋医学概論Ⅰ	1		
東洋医学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅲ	1			

別表第2

## 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本国憲法	2
		東洋史概説	2
		西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
共通科目群	保健医療	英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
健康管理学Ⅰ	2		
健康管理学Ⅱ	2		
栄養学	2		
身体運動科学	2		
東洋医療概論	2		
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
	臨床心理学	1	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
		臨床病態学Ⅲ	2
		整形外科学	2
		小児科学(人間発達学)	2
精神医学		2	
リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	2		
チームリハビリテーション概論	1		
介護学概論・ボランティア活動論	1		
スポーツ医学	1		
テーピング技術論	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
		東洋医学各論Ⅱ	1
		東洋医学各論Ⅲ	1
	社会はりきゆう学	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技Ⅰ	1
		基礎鍼灸技Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		応用鍼灸治療学	1
		臨床灸実習	1
	特殊鍼灸治療学	1	
	実臨床	附属施設所基礎実習	2
		附属施設所応用実習	2
	総合領域	キャリアデザイン	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	2
		鍼灸総合演習Ⅱ	2
		鍼灸総合演習Ⅲ	2
		運動生理学	2
		運動生理機能学演習	2
		卒業研究Ⅰ	1
		卒業研究Ⅱ	1
		学外見学実習Ⅰ	1
		学外見学実習Ⅱ	1
	保健体育	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
スポーツ実習Ⅱ 球技A		1	
スポーツ実習Ⅱ 球技B		1	
スポーツ実習Ⅱ 球技C		1	
スポーツ実習Ⅲ 陸上競技		1	
スポーツ実習Ⅳ 柔道		1	
スポーツ実習Ⅴ ダンス		1	
スポーツ実習Ⅵ 器械運動		1	
スポーツ実習Ⅶ 水泳		1	
スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ		1	
学校保健（小児保健・精神保健）		2	
学校保健（学校安全・救急処置）		2	
トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）		1	
トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）		1	
トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）		1	
トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）		1	
体力トレーニング論		2	
テーピング技術論		1	
スポーツバイオメカニクス		2	
介護学概論		1	
老年ケア演習		1	
体育原理		2	
スポーツ心理学	2		
スポーツ鍼灸学総論	1		
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）			144

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
		職場管理（教育を含む）	1
	理学療法評価学	職業倫理	1
		理学療法評価学総論	1
	理学療法治療学	理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
		基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
	地域理学療法学	神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
		発達障害系理学療法学	1
		義肢装具学	2
		臨床理学療法治療学実習	1
		地域理学療法学	2
	総合領域	生活環境論	1
		老年期理学療法学	1
		理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
		理学療法特論Ⅰ	1
		理学療法特論Ⅱ	1
		理学療法特論Ⅲ	2
		運動器系理学療法セミナー	1
		神経系理学療法セミナー	1
	内部障害系理学療法セミナー	1	
	地域理学療法セミナー	1	
	研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ	2
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
臨床総合実習Ⅰ			7
臨床総合実習Ⅱ			7
卒業要件（最低必要単位数）			126

別表第3

## 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学 I			2
健康管理学 II			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造 I (神経系)	2
		人間の構造 II (循環・内臓)	2
		人間の構造実習	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
		臨床心理学	1
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	1	
	スポーツ医学	1	
	テーピング技術論	1	

別表第3

## 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学 I			2
健康管理学 II			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造 I (神経系)	2
		人間の構造 II (循環・内臓)	2
		人間の構造実習	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	2	
	スポーツ医学	1	

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法Ⅰ	1
		基礎理学療法Ⅱ	1
		基礎理学療法実習	1
	理学療法管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学(動作分析)	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法Ⅰ	1
		運動器系理学療法Ⅱ	2
		運動器系理学療法Ⅲ	1
		神経系理学療法Ⅰ	1
		神経系理学療法Ⅱ	2
		神経系理学療法Ⅲ	1
		内部障害系理学療法Ⅰ	1
		内部障害系理学療法Ⅱ	2
		内部障害系理学療法Ⅲ	1
		発達障害理学療法	1
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	学地域療法	地域理学療法	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
		理学療法特論Ⅰ	1
		理学療法特論Ⅱ	1
		理学療法特論Ⅲ	2
		運動器系理学療法セミナー	1
		神経系理学療法セミナー	1
	内部障害系理学療法セミナー	1	
	地域理学療法セミナー	1	
研究業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
	臨床総合実習Ⅱ	7	
卒業要件(最低必要単位数)		126	

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	業療法	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	作業療法評価	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	業地域	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
研究業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2	
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件(最低必要単位数)		126	

別表第4

## 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
		東洋医療概論	2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	
		形態機能学Ⅱ	1	
		形態機能学Ⅲ	1	
		形態機能学Ⅳ	1	
		フィジカルアセスメント	2	
		生化学	2	
		発達心理学	2	
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1
			病理学	1
	臨床薬理学		1	
	臨床病態学Ⅰ		1	
	臨床病態学Ⅱ		1	
	臨床病態学Ⅲ		1	
	社会保健支援と疫学	臨床病態学Ⅳ	1	
		臨床病態学Ⅴ	1	
		臨床心理学	2	
	医療概論	1		
	公衆衛生学	2		
看護関係法規	2			
保健統計学	2			
疫学	2			

別表第4

## 医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
		解剖学Ⅱ(神経)	2
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2
生理学Ⅲ(応用生理学)		2	
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	運動学	2	
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床医学総論	2	
	整形外科学	2	
	内科学	2	
	臨床医学各論Ⅰ	2	
	臨床医学各論Ⅱ	2	
	臨床医学各論Ⅲ	2	
	スポーツ医学	2	
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
基礎はりきゅう学	衛生学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
	経絡経穴Ⅰ	1	
	経絡経穴Ⅱ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
鍼灸科学概論Ⅰ	1		
鍼灸科学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅰ	1		
東洋医学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅲ	1		

区分		授業科目	単位数
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
		生活援助論 I	2
		生活援助論 II	2
		診療援助論 I	2
		診療援助論 II	2
		看護過程演習	1
	実習地	基礎看護学実習 I	1
		基礎看護学実習 II	2
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	2
		成人看護援助論 I	1
		成人看護援助論 II	1
		成人看護援助論 III	1
		成人看護援助論 IV	1
	看護学 老年	老年看護学概論	2
		老年看護援助論 I	1
		老年看護援助論 II	1
	看護学 母性	母性看護学概論	2
		母性看護援助論 I	1
		母性看護援助論 II	1
	看護学 小児	小児看護学概論	2
		小児看護援助論 I	1
		小児看護援助論 II	1
	看護学 精神	精神看護学概論	2
		精神看護援助論 I	1
		精神看護援助論 II	1
	臨地実習	成人看護学実習 I (急性)	3
		成人看護学実習 II (慢性)	3
		老年看護学実習 I	3
老年看護学実習 II		1	
母性看護学実習		2	
小児看護学実習		2	
精神看護学実習		2	
在宅看護論	在宅看護概論	2	
	在宅看護援助論 I	1	
	在宅看護援助論 II	1	
	外来看護論	1	
看護の統合と実践 I	健康教育論	2	
	家族看護学	1	
	看護管理論	1	
	災害・国際看護論	1	
	義護概説	2	
	学校保健	2	
	健康相談活動論	2	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論 I	2	
	公衆衛生看護活動論 II	2	
	公衆衛生看護活動論 III	2	
	公衆衛生看護活動論 IV	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2		
臨地実習	在宅看護論実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習 I	2	
卒業と看護の統合	看護研究	1	
	卒業研究	2	
看護の統合と実践 II	臨床看護学セミナー I	2	
	臨床看護学セミナー II	2	
	公衆衛生看護セミナー	1	
	臨床看護技術セミナー	1	
卒業要件 (最低必要単位数)			126

区分		授業科目	単位数
専門科目	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論 I	1
	東洋医学各論 II	1	
	うきは社会学ゆり会	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技 I	1
		基礎鍼灸技 II	1
		基礎灸実技 I	1
		基礎灸実技 II	1
		応用鍼灸実技 I	1
		応用鍼灸実技 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 I	1
現代医学系鍼灸学実習 II		1	
現代医学系鍼灸学実習 III		1	
東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
実臨習床	臨床灸実習	1	
	特殊鍼灸治療学	1	
総合領域	附属施設所基礎実習	2	
	附属施設所応用実習	2	
	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習 I	2	
	鍼灸総合演習 II	2	
	鍼灸総合演習 III	2	
	卒業研究 I	1	
	卒業研究 II	1	
	学外見学実習 I	1	
	学外見学実習 II	1	
専門領域	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論 I	1	
	美容鍼灸学各論 II	1	
	応用鍼灸学 I	1	
応用鍼灸学 II	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			126

別表第5

## 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	1	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
	人体の構造と機能	東洋医療概論	2	
		統合医療概論	2	
		人体の構造Ⅰ	2	
		人体の構造Ⅱ	2	
		人体の構造実習	1	
		人体の機能Ⅰ	2	
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の機能Ⅱ	2	
		生化学	2	
		生化学特論	2	
		生化学実習	1	
		分析化学	2	
		小児医学	2	
		老年医学	2	
		救急災害医学	2	
		薬理学	2	
		リハビリテーション概論	2	
		その基礎と関連学と福祉学と工学療	臨床検査学総論	2
			検査技術科学序論	2
	病理学		2	
	医学概論		2	
	公衆衛生学		2	
	医用工学概論		2	
	工学療	医用工学実習	1	

別表第5

## 医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
	人体の構造と機能	東洋医療概論	2	
		統合医療概論	2	
		解剖学Ⅰ(骨・筋)	4	
		解剖学Ⅱ(神経)	2	
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2	
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2	
学科専門科目群	専門基礎科目	生理学Ⅱ(植物生理学)	2	
		生理学Ⅲ(応用生理学)	2	
		運動学	2	
		生化学	2	
		病理学	2	
		臨床医学総論	2	
		整形外科	2	
		内科学	2	
		臨床医学各論Ⅰ	2	
		臨床医学各論Ⅱ	2	
		臨床医学各論Ⅲ	2	
		スポーツ医学	2	
	社会と福祉の理念	リハビリテーション医学	2	
		画像診断学	2	
		衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
		基礎はりきゅう学	経絡経穴Ⅰ	1
			経絡経穴Ⅱ	1
経穴局所解剖演習Ⅰ	1			
経穴局所解剖演習Ⅱ	1			
鍼灸科学概論Ⅰ	1			
鍼灸科学概論Ⅱ	1			
専門科目	東洋医学概論Ⅰ	1		
	東洋医学概論Ⅱ	1		
	東洋医学概論Ⅲ	1		



区分	授業科目	単位数	
学 科 専 門 科 目 群	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	血液検査学 I	2	
	血液検査学 II	2	
	形態検査学	血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
	生物化学検査学	一般検査学	1
		臨床化学検査学 I	2
		臨床化学検査学 II (放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
		微生物検査学 I	2
		微生物検査学 II	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学 I	2
		免疫検査学 II	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
	生 理 機 能 検 査 学	輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学 I	2
		生理機能検査学 II	2
		生理機能検査学実習 I	1
		生理機能検査学実習 II	1
	合 査 学 管 理 総 務 学	画像検査学	2
		超音波検査学 I	1
		超音波検査学 II	1
	検査管理	検査総合管理学	2
		医療情報科学	2
	管理	関係法規	1
		医療安全管理学	1
	総 合 領 域	臨床薬理学	2
		食品衛生学	1
		食品関係法規	1
		総合演習 I	2
		総合演習 II	2
	研 究 業	総合演習 III	2
		卒業研究 I	2
	実 習 地	卒業研究 II	2
臨地実習		7	
細 胞 診 断 学	臨床細胞学概論	1	
	臨床細胞学実習 I	1	
	臨床細胞学実習 II	1	
	臨床細胞学総論 I	1	
	臨床細胞学総論 II	1	
	臨床細胞学各論 I	1	
	臨床細胞学各論 II	1	
	臨床細胞学各論 III	1	
	細胞診断学実習 I	3	
	細胞診断学実習 II	3	
	細胞診断学実習 III	3	
細胞診断学特別実習 I	3		
細胞診断学特別実習 II	3		
卒業要件 (最低必要単位数)	124		

区分	授業科目	単位数		
学 科 専 門 科 目 群	鍼灸安全学	1		
	臨床生理学	1		
	臨床鍼灸学	1		
	生体観察	1		
	臨 床 は り き ゆう 学	運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論 I	1	
		東洋医学各論 II	1	
		鍼灸経営論	1	
		社会はりきゆう学	1	
		関係法規	1	
	実 習	基礎鍼灸技 I	1	
		基礎鍼灸技 II	1	
		基礎灸実技 I	1	
		基礎灸実技 II	1	
		応用鍼灸実技 I	1	
		応用鍼灸実技 II	1	
		現代医学系鍼灸学実習 I	1	
		現代医学系鍼灸学実習 II	1	
		現代医学系鍼灸学実習 III	1	
		東洋医学系鍼灸学実習 I	1	
	実 習 床	東洋医学系鍼灸学実習 II	1	
		東洋医学系鍼灸学実習 III	1	
		応用鍼灸治療学	1	
		臨床灸実習	1	
		特殊鍼灸治療学	1	
		附属施術所基礎実習	2	
		附属施術所応用実習	2	
		総 合 領 域	キャリアデザイン	1
			鍼灸総合演習 I	2
			鍼灸総合演習 II	2
	鍼灸総合演習 III		2	
	運動生理学		2	
	運動生理機能学演習		2	
	卒業研究 I		1	
	卒業研究 II		1	
	学外見学実習 I		1	
	学外見学実習 II		1	
	保 健 体 育	スポーツ実習 I 体づくり運動	1	
スポーツ実習 II 球技 A		1		
スポーツ実習 II 球技 B		1		
スポーツ実習 II 球技 C		1		
スポーツ実習 III 陸上競技		1		
スポーツ実習 IV 柔道		1		
スポーツ実習 V ダンス		1		
スポーツ実習 VI 器械運動		1		
スポーツ実習 VII 水泳		1		
スポーツ実習 VIII 生涯スポーツ		1		
学校保健 (小児保健・精神保健)		2		
学校保健 (学校安全・救急処置)		2		
トレーニング科学演習 I (レジスタンスエクササイズ1)		1		
トレーニング科学演習 II (エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)		1		
トレーニング科学演習 III (レジスタンスエクササイズ2・水中運動)		1		
トレーニング科学演習 IV (指導実習)		1		
体力トレーニング論		2		
テーピング技術論		1		
スポーツバイオメカニクス		2		
介護学概論		1		
老年ケア演習	1			
体育原理	2			
スポーツ心理学	2			
スポーツ鍼灸学総論	1			
スポーツ鍼灸学各論	1			
スポーツ傷害学・栄養学	2			
スポーツ経営学	1			
卒業要件 (最低必要単位数)	144			

別表第6

## 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論			2
学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2	
	臨床病態学Ⅲ	2	
	整形外科学	2	
	小児科学(人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	2	
	スポーツ医学	1	

別表第6

## 医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論			2
学科専門科目群	人体の構造と機能	人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
		リハビリテーション概論	2
	その基礎と臨床検査と福祉医療工学	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		医用工学概論	2
		医用工学実習	1

区分	授業科目	単位数
基礎学	基礎作業学	2
	作業科学入門	2
	作業療法概論	2
	職場管理(教育を含む)	1
作業療法管理学	職業倫理	1
	作業療法評価学総論	2
作業療法評価学	身体障害作業療法評価学	2
	精神障害作業療法評価学	1
	発達障害作業療法評価学	1
	高次脳機能障害作業療法評価学	1
作業療法治療学	日常生活活動学	2
	身体障害作業療法治療学総論	2
	精神障害作業療法治療学総論	2
	高齢期障害作業療法治療学総論	2
	発達障害作業療法治療学総論	2
	身体障害作業療法治療学各論	1
	精神障害作業療法治療学各論	1
	高齢期障害作業療法治療学各論	1
	発達障害作業療法治療学各論	1
	義肢装具学	1
	作業療法特論Ⅰ	1
	作業療法特論Ⅱ	1
	身体障害作業療法治療学演習	1
	精神障害作業療法治療学演習	1
高齢期障害作業療法治療学演習	1	
発達障害作業療法治療学演習	1	
総合リハビリテーションIPW演習	1	
地域学	地域作業療法学	2
	生活環境論	1
	障害者地域生活支援論	1
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2
臨床実習	臨地見学実習	2
	臨床検査実習	2
	地域作業療法実習	1
	臨床評価実習	4
卒業要件(最低必要単位数)		126

区分	授業科目	単位数
臨床学	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2
形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
	血液検査学Ⅱ	2
	血液検査学実習	1
	病理検査学	2
	病理検査学実習	1
生物検査学	一般検査学	1
	臨床化学検査学Ⅰ	2
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
	臨床化学検査学実習	1
	遺伝子検査学	2
病因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1
	生命工学概論	1
	微生物検査学Ⅰ	2
	微生物検査学Ⅱ	2
	微生物検査学実習	1
	寄生虫検査学	1
	免疫検査学Ⅰ	2
	免疫検査学Ⅱ	2
	免疫検査学実習	1
	輸血・移植検査学	2
輸血・移植検査学実習	1	
生理機能検査学	生理機能検査学Ⅰ	2
	生理機能検査学Ⅱ	2
	生理機能検査学実習Ⅰ	1
	生理機能検査学実習Ⅱ	1
	画像検査学	2
	超音波検査学Ⅰ	1
超音波検査学Ⅱ	1	
検査管理学	検査総合管理学	2
	医療情報科学	2
	関係法規	1
総合領域	医療安全管理学	1
	臨床薬理学	2
	食品衛生学	1
	食品関係法規	1
	総合演習Ⅰ	2
	総合演習Ⅱ	2
	総合演習Ⅲ	2
	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ	2
	細胞診断学	臨床実習
臨床細胞学概論		1
臨床細胞学実習Ⅰ		1
臨床細胞学実習Ⅱ		1
臨床細胞学総論Ⅰ		1
臨床細胞学総論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅰ		1
臨床細胞学各論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅲ		1
細胞診断学実習Ⅰ		3
細胞診断学実習Ⅱ		3
細胞診断学実習Ⅲ		3
細胞診断学特別実習Ⅰ		3
細胞診断学特別実習Ⅱ	3	
卒業要件(最低必要単位数)		124

別表第7

## 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術とシステム工学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
情報処理・システム制御工学実習	1		

別表第7

## 医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術とシステム工学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
情報処理・システム制御工学実習	1		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	医用監視システム装置学	2
			体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
	血液浄化実習		1	
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習	1		
	全医用安全管理学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
	関連臨床医学	人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
	実臨床	内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	専門特講	技術臨床工学	臨床実習	4
医用生体工学特講			1	
医用機器学特講			1	
生体機能代行技術特講			1	
関連臨床医学特講			1	
研究分野		先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
研究卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	医用監視システム装置学	2
			体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
	血液浄化実習		1	
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習	1		
	全医用安全管理学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
	関連臨床医学	人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
	実臨床	内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	専門特講	技術臨床工学	臨床実習	4
医用生体工学特講			1	
医用機器学特講			1	
生体機能代行技術特講			1	
関連臨床医学特講			1	
研究分野		先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
研究卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

別表第 8

## 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学的基礎	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

別表 8

## 医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学的基礎	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
		X線撮影技術学Ⅰ	2	
		X線撮影技術学Ⅱ	2	
		X線機器工学	2	
		放射線撮影技術学	2	
		CT・MRI撮影技術学	2	
		CT・MRI機器工学	2	
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1	
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1	
		画像解剖学	1	
		画像解剖学演習	1	
		機器工学演習	1	
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2	
		核医学検査技術学Ⅱ	2	
		核医学検査技術学実験	1	
		放射性薬品学	1	
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2	
		放射線治療技術学Ⅱ	2	
		放射線治療技術学実験	1	
	医用画像情報学	放射線治療学	1	
		画像工学	2	
		医療情報学	1	
		医用画像情報学	2	
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1	
		放射線安全管理学	2	
		放射線関係法規	1	
	医療安全管理学	安全管理学実験	1	
		医療安全管理学	2	
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2	
		臨床画像解析学	2	
		臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
			臨床実習Ⅱ	2
	臨床実習Ⅲ		2	
	臨床実習ゼミナール		2	
	専門特講	診療画像技術学特講	1	
		核医学・放射線治療学特講	1	
		放射線技術学特講	1	
		基礎医学特講	1	
	研究分野	先進技術科学	先進核医学	1
			先進放射線治療学	1
			先進画像解析学	1
		卒業研究	先進医学	1
卒業研究Ⅰ	2			
卒業研究Ⅱ	2			
卒業要件（最低必要単位数）		126		

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
		X線撮影技術学Ⅰ	2	
		X線撮影技術学Ⅱ	2	
		X線機器工学	2	
		放射線撮影技術学	2	
		CT・MRI撮影技術学	2	
		CT・MRI機器工学	2	
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1	
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1	
		画像解剖学	1	
		画像解剖学演習	1	
		機器工学演習	1	
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2	
		核医学検査技術学Ⅱ	2	
		核医学検査技術学実験	1	
		放射性薬品学	1	
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2	
		放射線治療技術学Ⅱ	2	
		放射線治療技術学実験	1	
	医用画像情報学	放射線治療学	1	
		画像工学	2	
		医療情報学	1	
		医用画像情報学	2	
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1	
		放射線安全管理学	2	
		放射線関係法規	1	
	医療安全管理学	安全管理学実験	1	
		医療安全管理学	2	
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2	
		臨床画像解析学	2	
		臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
			臨床実習Ⅱ	2
	臨床実習Ⅲ		2	
	臨床実習ゼミナール		2	
	専門特講	診療画像技術学特講	1	
		核医学・放射線治療学特講	1	
		放射線技術学特講	1	
		基礎医学特講	1	
	研究分野	先進技術科学	先進核医学	1
			先進放射線治療学	1
			先進画像解析学	1
		卒業研究	先進医学	1
卒業研究Ⅰ	2			
卒業研究Ⅱ	2			
卒業要件（最低必要単位数）		126		

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
<b>看護学部</b> 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
<b>総合リハビリテーション学部</b> 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
<b>総合リハビリテーション学部</b> 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
<b>医療技術学部</b> 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
<b>医療技術学部</b> 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
<b>医療技術学部</b> 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
<b>医療技術学部</b> 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	



## 森ノ宮医療大学 教授会規程

平成19年4月1日制定  
平成22年10月19日改定  
平成26年7月29日改定  
平成27年4月1日改定  
平成28年5月24日改定  
令和元年6月18日改定  
令和2年10月20日改定

### (趣旨)

第1条 森ノ宮医療大学学則の規定による森ノ宮医療大学教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

### (審議事項)

第2条 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 授業及び試験に関する事
- (3) 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- (4) 学生指導に関する事
- (5) その他、教育または研究に関する事項

2 前項の規定に掲げる事項のほか、理事長ならびに学長の諮問した事項を審議し、意見を述べることができる。

### (組織)

第3条 教授会は森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）の理事長ならびに学長、教授、准教授、専任講師、事務局長をもって組織する。

### (議長)

第4条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

### (招集)

第5条 教授会は、前条の規定に関する事項について、審議する必要があると認めるときに、あらかじめ審議事項を通知して招集する。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(議事)

- 第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。ただし、特別の必要があると認められるときは別に定める割合以上の多数をもって議決することがある。
  - 3 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(議事録)

第7条 議長は、議事録を作成しなければならない。

(議案の提出)

- 第8条 教授会に議案を提出しようとする者は、会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。
- 2 臨時に教授会を開くことを要求する者は、議長に議案を添えて申し出なければならない。

(委員会)

第9条 教授会に専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、大学教務室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成22年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成28年5月24日から施行する。
- 5 この規程は令和元年6月18日から施行する。
- 6 この規程は令和2年10月20日から施行する。

## 森ノ宮医療大学 自己点検評価・FSD委員会規程

平成19年4月1日制定

平成21年4月1日改訂

平成23年2月17日改訂

平成23年4月21日改訂

平成25年2月14日改訂

平成27年2月24日改訂

令和元年5月28日改訂

## (趣旨)

第1条 この規程は、森ノ宮医療大学学則第2条に規定する自己点検・評価に関し、必要な事項を定めるものとする。さらに教職員の資質を維持・向上させることによって、本学が教育、研究、臨床を通じて広く社会的・国際的な貢献を果たすことを目的としてこの委員会を設置する。

## (任務)

第2条 森ノ宮医療大学における自己点検・評価について、次に掲げる事項を審議し、実行する。

- (1) 自己点検・評価の方針及び項目の作成に関すること
- (2) 自己点検・評価の実施に関すること
- (3) 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関すること
- (4) 第三者評価への対応に関すること
- (5) その他、理事長、学長が諮問した事項

2 FD・SDについて、次に掲げる事項を審議し、実行する。

- (1) FD・SDのための研修会の開催
- (2) 教育、研究、臨床を積極的に展開できる環境作り
- (3) 本学教職員の資質維持・向上に関わる事項

## (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 学部長
- (3) 学科長もしくは代行できる者
- (4) 共通教育部門より選出された者

- (5) 学術研究委員会より選出された者
- (6) 事務局長および事務局長を代行できる者
- (7) 大学事務局各室長のうち2名以上
- (8) 総務室員 若干名
- (9) 学長の指名する者

2 前項各号の委員は、学長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、学長が指名する
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる
- 4 委員長は、副委員長を指名する
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代行する

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任をさまたげない。

- 2 委員に欠員が生じた場合は補充しなければならない。この場合の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 委員は任期満了の後でも、後任の委員が委嘱されるまでは、なお、その任務を行なう。

(議事)

第6条 委員会の成立は、委員の3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。
- 3 議長が必要と認めるときは、他の職員の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会で、特に必要と認めた調査研究を行う場合は、別に専門部会を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、委員会において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関して必要な事項は委員会において定める。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成19年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成21年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成23年4月1日から施行する。
- 5 この規程は平成23年4月21日から施行する。
- 6 この規程は平成25年2月14日から施行する。
- 7 この規程は平成27年2月24日から施行する。
- 8 この規程は令和元年5月28日から施行する。

森ノ宮医療大学 看護学部看護学科  
学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
  - (1) 学生の確保の見通し
    - ① 定員充足の見込み
    - ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要
    - ③ 学生納付金の設定の考え方
  - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況
    - ① オープンキャンパス
    - ② 受験情報雑誌／進学情報サイト
    - ③ 進学相談会／高校ガイダンス
    - ④ 高校訪問
    - ⑤ 教員対象説明会
    - ⑥ 本学公式 WEB サイト
  
- 2 人材需要の動向等社会の要請
  - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
  - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生の確保の見通し

##### ア. 定員充足の見込み

###### (ア) 入学定員設定の考え方

本学保健医療学部看護学科は開設以来安定して入学定員を満たす志願者を確保しており、医療系大学として周辺地域の方々に支持されてきた。この度、保健医療学部看護学科を募集停止し、新たに開設する看護学部看護学科の入学定員を考えるに当たり、①教員組織、実習指導体制、学生支援体制、教育施設・設備等の面において現行の水準が確保できること、②「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている看護師の社会的ニーズに応えられること、③長期的な学生確保が可能であること、等の観点を考慮した。

また、上記の要件に加え、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」にある定員等を考慮し、教育効果や学習効率を十分に達成できる環境を構築する上で支障のない人数として総合的に判断した結果、看護学部看護学科の入学定員を90名(収容定員360名)に設定することとした。

**【現在】** 保健医療学部看護学科 (入学定員90名/収容定員360名)

↓

**【2022年4月以降】** 看護学部看護学科 (入学定員90名/収容定員360名)

#### (イ) 定員を充足する見込み

看護学部看護学科の開設にあたり、全国の志願者動向、本学の定員充足状況、大学を取り巻く環境・競合大学の動向の調査や分析をおこなった。その結果、次に示す内容により、進学ニーズが拡大していること、拡大傾向が継続的であること、本学および本学保健医療学部看護学科が安定的に志願者を確保していることから、継続的に学生を確保し定員を充足する見通しであると判断した。

- ① 全国的に、看護学を含む「保健系分野」への進学ニーズが高いこと
- ② 近畿エリアにおいて、看護職養成校への進学ニーズが見込めること
- ③ 開学以来本学が全体的に順調に志願者を確保していること
- ④ 本学保健医療学部看護学科が順調に志願者を確保していること

#### イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

##### (ア) 看護学を含む「保健系分野」への全国的な進学ニーズ

文部科学省発表の学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）より、保健系分野への進学者数は年々増加していることがわかる。過去 5 年間の増加率を平均すると、大学全体では毎年平均 4.7%、私立大学では毎年平均 5.6% ずつ進学者数が増加している。【資料 1】

また、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター集計の「私立大学・短期大学等入学志願動向」より、看護学を含む保健系学部に対する「志願者数」「受験者数」「入学者数」はいずれも過去 5 ヶ年にわたり増加していることがわかる。また、志願倍率についても、5.2～5.8 倍程度で、入学定員充足率は 100% を割ることなく安定的に推移しており、これらのことから進学ニーズの高さがわかる。【資料 2】

#### （イ）本学の医療系大学としての実績（入試状況）

本学は直近の過去 5 ヶ年にわたり安定して志願者を確保しており、入学定員を十分に満たす学生数を維持している。このような医療系大学としての本学の実績は、看護学科の定員充足の見込みを裏付ける一つの根拠であるといえる。

保健医療学部全体でみると、平成 27 年度実施入試の志願者数が 2,978 名（競争率 4.88 倍）、平成 28 年度実施入試の志願者数が 3,298 名（競争率 5.67 倍）、平成 29 年度実施入試の志願者数が 3,304 名（競争率 4.84 倍）、平成 30 年度実施入試の志願者数が 2,823 名（競争率 4.23 倍）、令和元年度実施入試の志願者数が 4,451 名（競争率 5.20 倍）となり競争率は常に高い水準を維持している。【資料 3】

保健医療学部看護学科についても、開設以来順調に志願者を確保しており、過去の入試状況をみても、平成 27 年度実施入試の志願者数が 1,315 名（競争率 7.39 倍）、平成 28 年度実施入試の志願者数が 1,435 名（競争率 9.04 倍）、平成 29 年度実施入試の志願者数が 1,393 名（競争率 8.56 倍）、平成 30 年度実施入試の志願者数が 1,108 名（競争率 7.00 倍）、令和元年度実施入試の志願者数が 1,259 名（競争率 6.62 倍）と安定して高水準を維持し続けている。このことから、看護学部看護学科も引き続き定員が充足される可能性は非常に高いと考えられる。

#### （ウ）近畿の看護職養成校（大学）の入試動向および本学との競合関係

本学保健医療学部看護学科の競合校が志願者を十分に確保できていることも、本学看護学部看護学科の定員を充足できると考える一つの根拠となっている。

近畿エリアの看護職養成校のうち、本学保健医療学部看護学科の競合校として 6 校【関西医療大学 保健看護学部保健看護学科（大阪府泉南郡）、兵庫医療大学 看護学部看護学科（兵庫県神戸市）、大和大学 保健医療学部看護学科（大阪府吹田市）、関西医科大学 看護学部看護学科（大阪府枚方市）、摂南大学 看護学部看護学科（大阪府枚方市）、畿央大学 健康科学部看護医療学科（奈良県北葛城郡）】を挙げているが、いずれも平成 30 年度および令和元年度実施の入試において、入学定員の 5 倍以上の志願者数を確保している。また、6 大学の合計でみても、令和元年度実施の入試において、584 名の入学定員に対して延べ 10,574



人が志願しており、志願倍率は18倍を超えていることから、近畿エリアにおける看護職養成校の募集は安定していると言える。

なお、競合校として上げた6校はいずれも、本学同様、看護学科を有する関西エリアの私立大学であり、想定される受験者層（偏差値層）が同程度であることや、本学との位置関係などの要因から、併願関係が高いと言える。実際、本学独自の辞退者アンケートにおいても競合関係にあることが強く示唆されていることから、妥当な選定であると判断している。

【資料4】【資料5】

## ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学看護学部看護学科における初年度学生納付金（授業料+施設設備費）は、近隣競合校の状況や既設学科の学生納付金を考慮し、155万円に設定されている。

本学科の競合校の初年度学生納付金は、155万円～170万円であり、本学科が設定する初年度学生納付金もこの範囲内に納められている。また、本学の他学科（理学療法学科、作業療法学科、鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科）の学生納付金と同額に設定されている。【資料6】

## （2）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では学生の確保に向け、アドミッションセンターが中心となり様々な取り組みを行っている。具体的には、広報室で起案している各種企画の内容的な報告・連絡・相談とその確定および学科内への業務依頼、情報の提供をアドミッションセンター会議において行い、それを各学科及び部署にフィードバックする体制が構築されている。この体制により、「オープンキャンパス」「進学相談会」「高校訪問」「教員対象説明会」等の学生募集活動を教職協働で実施し、長期的な学生確保のビジョンを持って取り組むことが可能となっている。

主な取り組み（予定含む）は以下のとおりである。

### ① オープンキャンパス

毎年、各高等学校のイベントや競合大学のスケジュールを考慮した上で、本学が求める学生が幅広く参加できるよう日程を調整し、内容においても開催時期ごとにテーマを設け、本学の認知度の向上とともに各学問領域への興味を喚起するものとなっている。また、高校3年生を対象とするだけでなく、1・2年生を対象としたプログラムや保護者を対象とした「保護者のための進学説明会」を実施し、長期的な学生の確保に力を入れている。

また、「リアルオープンキャンパス」と題した「授業見学会（通常の大学の授業を見学できるイベント）」を開催し、本学への理解を促している。

## ② 受験雑誌・進学情報サイト

受験生等からの本学に対する資料請求件数は、開学以来順調に伸び続けている。【資料 7】資料請求件数全体のうち、受験雑誌や進学サイトを經由した請求が概ね 8 割程度を占めていることから、それらを通じた長期的な学生確保の取り組みに力を入れる。

また、これまで受験雑誌や進学サイトに掲載してきた内容に加え、学部再編に伴う新增設企画への参加や、掲載雑誌およびサイトの拡大、広告枠の拡大などについても順次実施していくことにより、更に広報活動を広げることができる。

## ③ 進学相談会／高校内ガイダンス

複数の大学がブースを設け、来場した高校生やその保護者から相談を受け付ける「進学相談会」と、大学の広報担当者などが高校に出向いて各学科の特色などを説明する「高校ガイダンス」を、本学の通学圏内となるエリアを中心に年間を通して実施する。参画する相談会／ガイダンスの学問分野を看護・医療系に限定し、看護・医療関連への興味関心の高い生徒との接点を増やすと同時に、高校 1・2 年生を対象とした相談会／ガイダンスへの参加を増やし、長期的かつ安定的な学生の確保に向けた取り組みを行っている。

進学相談会令和元年度（令和元年 4 月～令和 2 年 3 月）実績：延べ 38 会場で実施、648 名と接触。

高校ガイダンス令和元年度（令和元年 4 月～令和 2 年 3 月）実績：延べ 265 校で実施、4,696 名と接触。

## ④ 高校訪問

周辺の高等学校教員の本学への認知度を向上させる目的で、高等学校を訪問する。訪問目的と必要性を吟味し、訪問対象校や訪問時期・訪問回数・提案内容等を精査する。本学と同じ学科を有する大学が少ない近隣府県の高等学校への訪問を強化し、本学の認知度を高めることで当該分野に興味のある生徒の獲得を狙う。

令和元年度（令和元年 4 月～令和 2 年 3 月）実績：延べ 1,072 校訪問。近畿 2 府 4 県では延べ 855 校訪問。

## ⑤ 教員対象説明会

近隣府県の高等学校の教員を対象とした説明会を実施する。認知度や募集力の短期的な向上ではなく、より長期的な学生募集力の強化を目的としており、そのため本学全体の情報提供のほか、各学科の設置の趣旨やアドミッションポリシー、入学者選抜の方法等の情報を提供する。

## ⑥ 本学 WEB サイト

本学 WEB サイトに看護学科の紹介ページを作成しており、看護学科及び看護職への興味関心を促すとともに、日々更新される最新情報を滞りなく発信するツールとして活用する。受験生だけでなく、高校 1・2 年生を対象とした専用コンテンツも開設しており、長期的な学生の確保を意識した構成となっている。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

- ① 看護の対象を理解し、社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修し、知識に裏付けされた確実で根拠ある技術を習得させる。
- ② 他者との相互理解に努め、コミュニケーション力と論理性を高め、看護や他職種の専門性を理解し、人々の QOL 向上のために連携することができる。
- ③ “いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもち、豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感でき、医療職としての高い倫理観と利他主義を主体的に育むことが出来る豊かな人間力を養う。
- ④ 主体的に看護を追求し、自己の看護観を持つと共に、高度な専門性、他者との連携を統合し、人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる主体的問題解決能力を養う。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

看護師、保健師の大阪府下における採用状況については、2020 年度においても有効求人倍率が約 2.0 と高い水準を維持している。

参考 1) 2020 年 9 月度職業別有効倍率 (大阪労働局発表)

(出展: 職種別有効求人倍率及び求人求職賃金 2020 年 9 月分 大阪労働局 資料)

## 求人・求職 バランスシート

有効求人・有効求職【大阪労働局】

2020年9月度	常用計			常用			常用パート		
大阪計	有効求人人数	有効求職者数	有効求人倍率	有効求人人数	有効求職者数	有効求人倍率	有効求人人数	有効求職者数	有効求人倍率
職業計	157,454	156,273	1.01	97,330	102,279	0.95	60,124	53,994	1.11
A 管理的職業	688	592	1.16	665	530	1.25	23	62	0.37
B 専門的・技術的職業	36,923	21,130	1.75	26,578	15,859	1.68	10,345	5,271	1.96
07 開発技術者	1,078	673	1.60	1,052	601	1.75	26	72	0.36
08 製造技術者	849	1,535	0.55	804	1,307	0.62	45	228	0.20
09 建築・土木技術者等	4,043	862	4.69	3,973	744	5.34	70	118	0.59
10 情報処理・通信技術者	5,556	2,838	1.96	5,502	2,654	2.07	54	184	0.29
11 その他の技術者	176	112	1.57	155	84	1.85	21	28	0.75
12 医師、薬剤師等	748	413	1.81	415	202	2.05	333	211	1.58
13 保健師、助産師等	6,690	3,371	1.98	3,802	1,926	1.97	2,888	1,445	2.00
14 医療技術者	2,552	984	2.59	1,629	641	2.54	923	343	2.69
15 その他の保健医療	2,653	1,044	2.54	2,186	802	2.73	467	242	1.93
16 社会福祉の専門的職業	9,744	2,875	3.39	5,448	1,663	3.28	4,296	1,212	3.54
22 美術家、デザイナー等	659	2,724	0.24	405	2,366	0.17	254	358	0.71
05.06.17~21.23.24 その他の専門的職業	2,175	3,699	0.59	1,207	2,869	0.42	968	830	1.17

また、本学を含めた近隣大学におけるここ 2 年の求人状況についても新卒者の平均求人倍率 (2020 年 3 月卒 1.83 倍リクルートワークス研究所調べ) をはるかに上回る数値で推移している。

参考 2) 近隣大学の求人状況について (他校との比較) ※順不同

	2019		2018	
	求人件数	求人倍率	求人件数	求人倍率
関西医療大学	416	4.6	479	5.3
藍野大学	310	3.4	248	2.8
兵庫医療大学	969	9.7	-	-
森ノ宮医療大学	587	7.1	527	6.0

※求人倍率については各大学の定員数で換算。本学は在籍者数で換算。

これらの情報を基に、看護師、保健師における求人件数は需要過多の状況にあり、社会的にも地域的にもこれらの職種に関する人材を求めていることが裏付けられている。

よって、本学における看護学部の設置については社会的にも地域的にも大きな意義があると考えられる。

以上

## 学生確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1 保健医療学系学科入学者推移

資料 2 私立大学入学志願動向

資料 3 過去 5 ヶ年の本学入学試験状況

資料 4 競合校の動向

資料 5 競合校と本学の位置関係

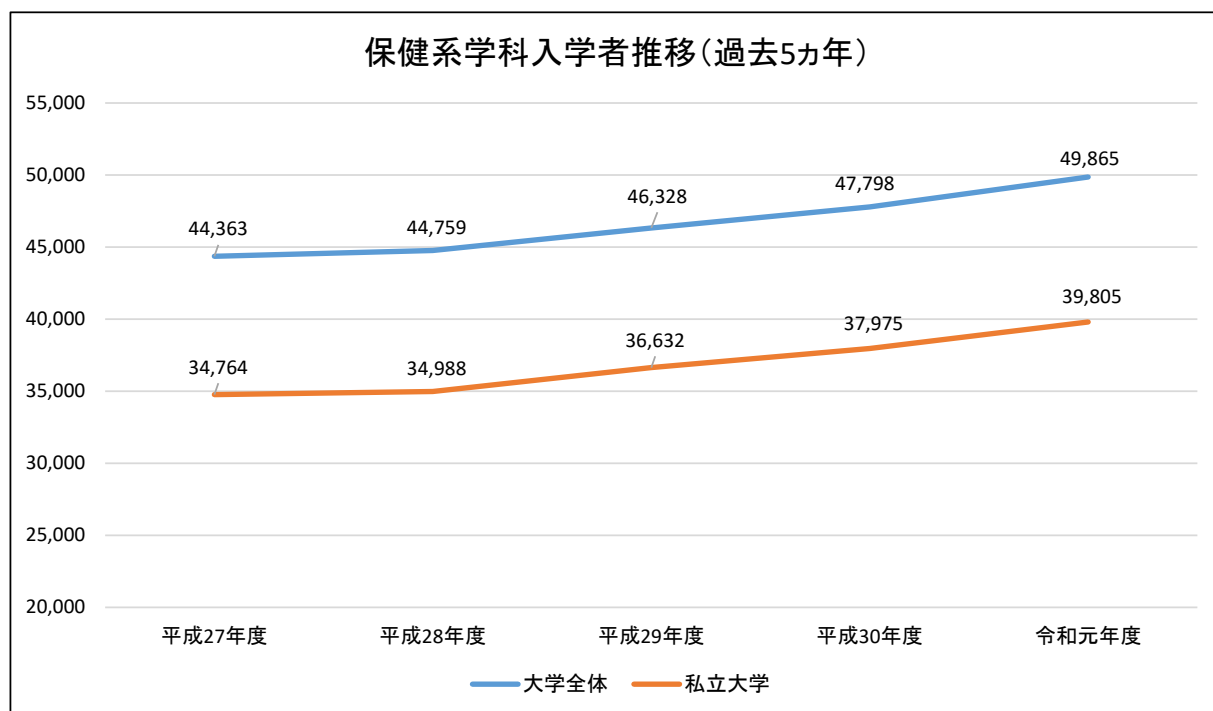
資料 6 競合大学学納金一覧（看護職養成校）

資料 7 本学における年度別資料請求数

## 保健系学科入学者推移表

区分	大学区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
保健系(医学・ 歯学・薬学を除く)	大学全体	人数	44,363	44,759	46,328	47,798	49,865
		前年比増加率		100.9%	103.5%	106.8%	107.6%
	私立大学	人数	34,764	34,988	36,632	37,975	39,805
		前年比増加率		100.6%	104.7%	108.5%	108.7%

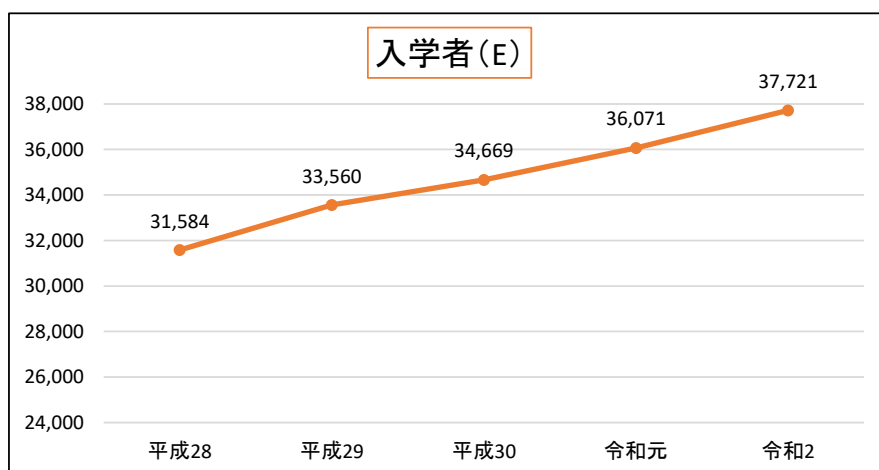
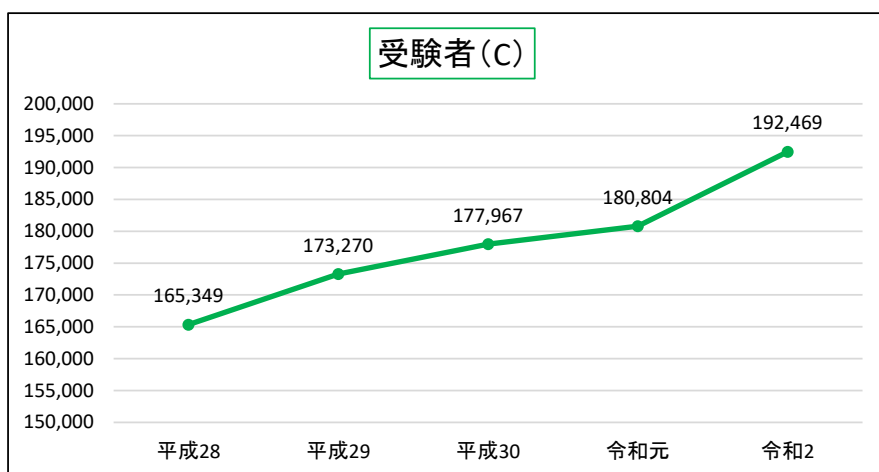
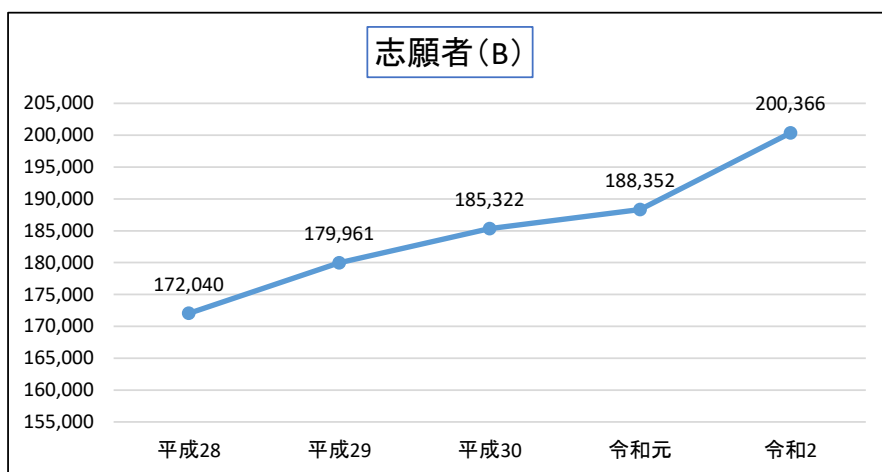
※文部科学省 学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）保健系分野を年度ごとに抜粋【単位は人】



## 私立大学入学志願動向 【学部系統別の動向（大学/過去5ヵ年）】

区分	年度	集計 学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)	志願倍率 (B/A)	合格率 (D/C)	歩留率 (E/D)	定員充足 率(E/A)
保健系	平成28	198	30,330	172,040	165,349	63,762	31,584	5.67	38.56	49.53	104.13
	平成29	209	32,850	179,961	173,270	67,108	33,560	5.48	38.73	50.01	102.16
	平成30	220	34,307	185,322	177,967	69,269	34,669	5.40	38.92	50.05	101.06
	令和元	236	35,781	188,352	180,804	73,667	36,071	5.26	40.74	48.96	100.81
	令和2	244	37,221	200,366	192,469	78,539	37,721	5.38	40.80	48.03	101.34

※日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より抜粋



## 過去5カ年の本学の入学試験状況

2020.9.30現在

(志願者数・受験者数・合格者数・競争率・入学者数・定員超過率)

学部	学科	入試実施年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率(受験者数/合格者数)	入学者数	定員超過率	
保健医療学部	鍼灸学科	R1	60	219	215	90	2.39	69	1.15	
		H30	60	151	150	97	1.55	68	1.13	
		H29	60	152	149	108	1.38	70	1.17	
		H28	60	183	180	113	1.59	67	1.12	
		H27	60	206	201	106	1.90	67	1.12	
	理学療法学科	R1	70	707	689	112	6.15	70	1.00	
		H30	70	574	560	104	5.38	70	1.00	
		H29	70	712	696	100	6.96	70	1.00	
		H28	60	722	705	99	7.12	70	1.17	
		H27	60	792	775	103	7.52	70	1.17	
	看護学科	R1	90	1,259	1,198	181	6.62	90	1.00	
		H30	90	1,108	1,071	153	7.00	90	1.00	
		H29	90	1,393	1,344	157	8.56	90	1.00	
		H28	80	1,435	1,374	152	9.04	90	1.13	
		H27	80	1,315	1,278	173	7.39	90	1.13	
	作業療法学科	R1	40	316	304	59	5.15	52	1.30	
		H30	40	215	206	77	2.68	50	1.25	
		H29	40	305	300	71	4.23	53	1.33	
		H28	40	381	367	76	4.83	50	1.25	
		H27	40	244	232	89	2.61	50	1.25	
	臨床検査学科	R1	70	607	588	126	4.67	72	1.03	
		H30	60	558	536	119	4.50	72	1.20	
		H29	60	490	483	129	3.74	72	1.20	
		H28	60	577	560	122	4.59	72	1.20	
		H27	60	421	407	122	3.34	72	1.20	
	臨床工学科	R1	60	322	305	110	2.77	66	1.10	
		H30	60	217	208	96	2.17	71	1.18	
		H29	60	252	248	100	2.48	70	1.17	
		H28								—
		H27								—
				H30年4月開設のため入試データなし						
診療放射線学科	R1	80	1021	983	146	6.73	90	1.13		
	H30								—	
	H29								—	
	H28								—	
	H27								—	
				R2年4月開設のため入試データなし						
全学科合計	R1	470	4,451	4,282	824	5.20	509	1.08		
	H30	380	2,823	2,731	646	4.23	421	1.11		
	H29	380	3,304	3,220	665	4.84	425	1.12		
	H28	300	3,298	3,186	562	5.67	349	1.16		
	H27	300	2,978	2,893	593	4.88	349	1.16		



## 競合校の入試動向

No.	大学名	学部学科名(入学定員数)	偏差値 (森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学 科47.5～50.0)	入試実施 年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率
A	関西医療大学	保健看護学部 保健看護学科 (90名)	42.5～52.5	平成30年度	90	1,262	1,211	180	14.0
				令和元年度	90	1,077	1,031	217	12.0
B	兵庫医療大学	看護学部 看護学科 (100名)	50.0～52.5	平成30年度	100	1,719	1,698	273	17.2
				令和元年度	100	1,768	1,743	322	17.7
C	大和大学	保健医療学部 看護学科 (100名)	52.5	平成30年度	100	1,634	1,564	273	16.3
				令和元年度	100	1,805	1,759	249	18.1
D	関西医科大学	看護学部 看護学科 (100名)	50	平成30年度	100	517	511	135	5.2
				令和元年度	100	711	-	176	7.1
E	摂南大学	看護学部 看護学科 (100名)	47.5	平成30年度	100	2,779	2,616	431	27.8
				令和元年度	100	2,401	2,117	501	24.0
F	畿央大学	健康科学部 看護医療学科 (94名)	47.5～52.5	平成30年度	94	2,919	2,889	484	31.1
				令和元年度	94	2,812	2,795	530	29.9
6大学の合計				平成30年度	584	10,830	10,489	1,776	18.5
				令和元年度	584	10,574	9,445(※)	1,995	18.1

※関西医科大学を除く

※偏差値は河合塾「第1回全統記述模試」の数値

※志願者数等の入試データは、旺文社「パスナビ」より算出

※志願倍率:入学定員に対する志願者数の割合

## 競合校と本学の位置関係



## 初年度学生納付金一覧(看護職養成校)

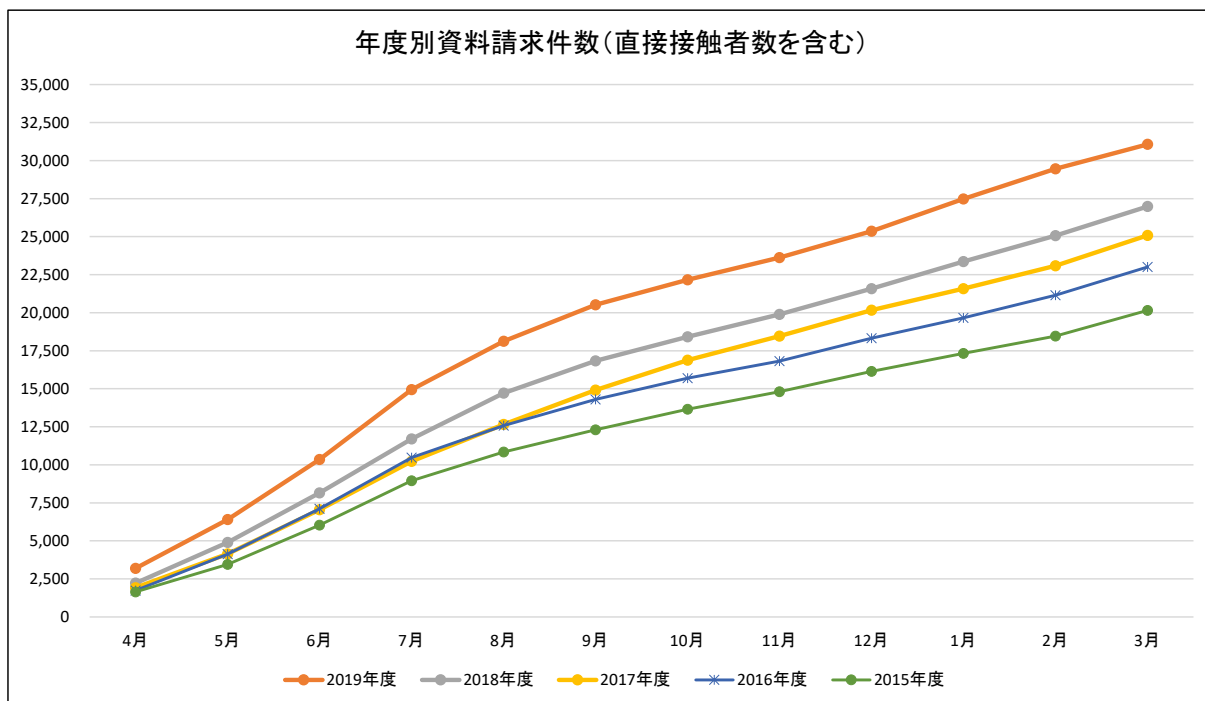
所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料(A)	施設設備費等(B)	合計(A+B)
大阪府	私立	関西医療大学	保健看護学部	保健看護学科	90	¥200,000	¥1,200,000	¥400,000	¥1,600,000
兵庫県	私立	兵庫医療大学	看護学部	看護学科	100	¥300,000	¥1,100,000	¥500,000	¥1,600,000
大阪府	私立	大和大学	保健医療学部	看護学科	100	¥180,000	¥1,550,000	¥0	¥1,550,000
大阪府	私立	関西医科大学	看護学部	看護学科	100	¥200,000	¥1,100,000	¥600,000	¥1,700,000
大阪府	私立	摂南大学	看護学部	看護学科	100	¥250,000	¥1,550,000	¥100,000	¥1,650,000
奈良県	私立	畿央大学	健康科学部	看護医療学科	94	¥260,000	¥860,000	¥730,000	¥1,590,000
大阪府	私立	森ノ宮医療大学	看護学部	看護学科	90	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
			総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				作業療法学科	40	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
			医療技術学部	鍼灸学科	60	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				臨床検査学科	70	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				臨床工学科	60	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				診療放射線学科	80	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000

※各大学情報については、各大学公式ウェブサイトより調査

本学における年度別資料請求数（直接接触者数を含む）

資料7

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別累積請求数 (件)	2019年度	3,198	6,399	10,356	14,953	18,131	20,515	22,158	23,627	25,361	27,477	29,461	31,067	31,067
	2018年度	2,223	4,902	8,161	11,710	14,716	16,834	18,424	19,895	21,575	23,356	25,072	26,982	26,982
	2017年度	1,926	4,143	7,048	10,237	12,651	14,918	16,888	18,464	20,171	21,582	23,085	25,085	25,085
	2016年度	1,741	4,130	7,105	10,478	12,578	14,307	15,704	16,816	18,324	19,659	21,147	23,005	23,005
	2015年度	1,649	3,459	6,044	8,961	10,837	12,311	13,657	14,814	16,149	17,329	18,470	20,153	20,153



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	アキ モトニ 青木 元邦 <令和3年4月>		博士 (医学)		森ノ宮医療大学学長 (令和3.4～令和5.3)

教 員 の 氏 名 等													
(看護学部 看護学科)													
調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
1	専	教授(学部長)	ヨシムラ ヤスコ 吉村 弥須子 <令和4年4月>		博士(看護学)		成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ(急性) 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4通 4後	2 1 1 1 1 3 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平23.4)	5日	
2	専	教授	イツミ ケイコ 伊津美 孝子 <令和4年4月>		博士(工学)		看護理論 生活援助論Ⅰ 生活援助論Ⅱ 診療援助論Ⅰ 診療援助論Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1後 1前 1後 1後 2前 2前 1前 1前 2後 4前 4通 4後	2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平23.4)	5日	
3	専	教授	キタモト ユキコ 久木元 由紀子 <令和4年4月>		修士(看護学)		基礎ゼミナール 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ(急性) 主題実習Ⅰ 看護研究 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4通 4後	2 1 1 1 1 3 2 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平27.4)	5日	
4	専	教授	サトウ マチコ 齋藤 雅子 <令和4年4月>		修士(臨床教育学)		基礎ゼミナール 看護関係法規 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 小児看護学概論 母性看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 3前 2前 2後 3前 2前 3後 4前 4通 4後	2 2 2 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (令2.4)	5日	
5	専	教授	シライ フミエ 白井 文恵 <令和4年4月>		博士(医学)		基礎ゼミナール 家族看護学 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学演習Ⅳ 公衆衛生看護学実習 主題実習Ⅰ 主題実習Ⅱ 卒業研究 公衆衛生看護セミナー 臨床看護技術セミナー	1前 3前 2前 3前 2後 3前 4前 4前 4前 4通 4後 4後	2 1 2 2 2 2 4 2 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (令2.4)	5日	
6	専	教授	ムラシマ イクミ 村上 生美 <令和4年4月>		博士(工学)		医療概論 看護学概論 看護理論 生活援助論Ⅰ 生活援助論Ⅱ 診療援助論Ⅰ 診療援助論Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究 卒業研究 主題実習Ⅰ 臨床看護技術セミナー	1前 1前 1後 1前 1後 1後 2前 2前 2前 2後 3前 4通 4前 4後	1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平23.4)	5日	
7	専	教授	アベ タカオ 安部 辰夫 <令和4年4月>		博士(医学)		基礎ゼミナール 化学 微生物学 病理学 卒業研究	1前 1前 1後 1後 1後 4通	2 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平24.4)	5日	
8	専	教授	モリ ミチキ 森 美侑紀 <令和4年4月>		博士(医学)		基礎ゼミナール 栄養学 統合医療概論※ 生化学 卒業研究	1前 1後 2後 1後 4通	2 2 0.3 2 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平25.4)	5日	
9	専	教授	フクノ マコト 福野 信也 <令和4年4月>		学士(工学)		基礎ゼミナール 卒業研究 道徳教育論 総合的な学習の時間の指導法 養護実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(養護教諭)	1前 4通 2後 2後 4前 4後	2 2 2 2 5 2	1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平28.4)	5日	
10	専	教授	キタ イチオ 木田 岩男 <令和4年4月>		博士(医学)		形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅳ 臨床薬理学 臨床看護学セミナーⅠ 臨床看護学セミナーⅡ	1前 1後 2前 4前 4後	1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平26.4)	5日	
11	専	教授	マツダ トモコ 松田 智子 <令和4年4月>		修士(教育学)		教育原理 教育行政学 特別活動論 養護実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(養護教諭)	1前 1後 2前 4前 4後	2 2 2 5 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (令2.4)	5日	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
12	専	准教授	スミダ ヨカ 住田 陽子 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 生活援助論Ⅰ 生活援助論Ⅱ 診療援助論Ⅰ 診療援助論Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 外来看護論 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 1前 1後 1後 2前 2前 1前 1前 2後 3前 4前 4通 4後	2 2 2 2 2 1 1 2 1 2 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (平23.4)	5日
13	専	准教授	トモテ マサ 外村 昌子 <令和4年4月>		博士 (医療科学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 看護関係法規 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習 主題実習Ⅰ 看護研究 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 3前 2後 2前 2後 3前 3後 4前 3前 4通 4後	2 2 2 1 1 1 3 2 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (平25.4)	5日
14	専	准教授	マサノ スガコ 升田 寿賀子 <令和4年4月>		修士 (学術)		基礎ゼミナール チーム医療見学実習 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 地域・在宅看護実習Ⅰ 地域・在宅看護実習Ⅱ 災害・国際看護論 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 1前 2前 2後 3前 3前 2後 2前 4前 4後 4前 4通 4後	2 1 1 1 1 2 1 1 2 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (平27.4)	5日
15	専	准教授	ハシケ ミチ 蓮池 光人 <令和4年4月>		博士 (看護学)		基礎ゼミナール MBS(Morinomiya Basic Seminar) 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 看護関係法規 看護学概論 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 家族看護学 主題実習Ⅰ 看護研究 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 1前 2前 2後 3前 3前 2後 2前 3前 3後 3前 4前 3前 4通 4後	2 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (平27.4)	5日
16	専	准教授	セネガチ トシアキ 関口 敏彰 <令和4年4月>		修士 (社会健康医学(専門職))		基礎ゼミナール 看護関係法規 健康教育論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護管理論 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学実習 主題実習Ⅰ 主題実習Ⅱ 看護研究 卒業研究 公衆衛生看護セミナー 臨床看護技術セミナー	1前 3前 2後 3前 2後 3前 3前 4前 4前 4前 3前 4通 4後 4後	2 2 2 2 2 2 2 4 2 1 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (平26.4)	5日
17	専	准教授	オカダ キエ 岡田 公江 <令和4年4月>		博士 (保健学)		基礎ゼミナール 看護関係法規 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 3前 2前 2後 3前 3後 4前 4通 4後	2 2 2 1 1 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (令3.4)	5日
18	専	准教授	ワカ ユリ 和田 由里 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅱ(慢性) 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4通 4後	2 2 1 1 1 1 3 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科准教授 (令3.4)	5日
19	専	講師	トクシマ サユミ 徳島 佐由美 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 家族看護学 主題実習Ⅰ 看護研究 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 3前 3後 3前 4前 3前 4通 4後	2 1 2 2 1 2 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (平28.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
20	専	講師	サカタ エコ 澤田 悦子 <令和4年4月>		学士 (学術)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅱ(慢性) 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4通 4後	2 2 1 1 1 1 3 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (平30.4)	5日
21	専	講師	ヤシ フミ 安井 渚 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 3前 3後 4前 4通 4後	2 2 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (平30.4)	5日
22	専	講師	タケミ マチ 高木 みどり <令和4年4月>		修士 (健康科学)		基礎ゼミナール 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅱ(慢性) 主題実習Ⅰ 看護研究 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4通 4後	2 1 1 1 1 3 2 1 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (平31.4)	5日
23	専	講師	イサ ユミ 岩佐 由美 <令和4年4月>		修士 (史学)		基礎ゼミナール 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 3前 2前 4前 4前 4通 4後	2 2 1 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.4)	5日
24	専	講師	カワノ エコ 川添 英利子 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 3前 3後 4前 4通 4後	2 1 1 3 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.4)	5日
25	専	講師	コシ ユキ 小西 由起子 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 生活援助論Ⅰ 生活援助論Ⅱ 診療援助論Ⅰ 診療援助論Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護管理論 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2前 2前 4後 4前 4通 4後	2 2 2 2 1 1 2 2 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.4)	5日
26	専	講師	コベケン タエコ 小林 妙子 <令和4年4月>		修士 (心身健康科学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ(急性) 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4通 4後	2 2 1 1 1 1 3 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.4)	5日
27	専	講師	ヤノ タミ 矢野 貴恵 <令和4年4月>		修士 (教育学)		基礎ゼミナール 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 3前 3後 4前 4通 4後	2 1 1 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.4)	5日
28	専	講師	ナナヤマ チカ 七山 知佳 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護活動論Ⅳ 公衆衛生看護管理論 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学実習 主題実習Ⅰ 主題実習Ⅱ 卒業研究 公衆衛生看護セミナー 臨床看護技術セミナー	1前 3前 2後 2後 3前 3前 3前 3前 4前 4前 4前 4通 4後 4後	2 2 2 2 2 2 2 4 2 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科講師 (令2.11)	5日
29	専	助教	ヒガチ ユカ 樋口 優子 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 3前 3前 4前 4通 4後	2 2 1 1 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科助教 (平31.4)	5日



調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	専	助教	ミヤコト ヨシコ 宮本 佳子 <令和4年4月>		修士 (臨床教育学)		基礎ゼミナール フィジカルアセスメント 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ(急性) 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4通 4後	2 2 1 1 1 1 3 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科助教 (平31.4)	5日
31	専	助教	ヒガシ トモミ 日高 朋美 <令和4年4月>		修士 (学術)		基礎ゼミナール 生活援助論Ⅰ 生活援助論Ⅱ 診療援助論Ⅰ 診療援助論Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 主題実習Ⅰ 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2前 1前 2後 2後 4前 4通	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科助教 (令3.4)	5日
32	専	助教	ヤノ ショウカ 矢野 秀蔵 <令和4年4月>		修士 (看護学)		基礎ゼミナール 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習 主題実習Ⅰ 卒業研究 臨床看護技術セミナー	1前 2後 3前 3後 4前 4通 4後	2 1 1 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科助教 (平31.4)	5日
33	兼担	教授	アベ ヒデアキ 阿部秀高 <令和4年4月>		修士 (学校教育学)		基礎ゼミナール 教職論 教育方法論 養護実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(養護教諭)	1前 1前 3前 4前 4後	2 2 2 5 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平30.4)	
34	兼担	教授	イヅミナリノ 井手口 範男 <令和4年4月>		修士 (人間科学)		統計学 心理学 発達心理学 保健統計学 疫学	1前 1後 1前 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平27.4)	
35	兼担	教授	フジノ ヒロコ 藤重 仁子 <令和4年4月>		博士 (言語文化学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平19.4)	
36	兼担	教授	ナカハラ ヒロコ 中原 英博 <令和4年4月>		博士 (医学)		基礎体育 健康管理学Ⅰ 健康管理学Ⅱ	1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平23.4)	
37	兼担	教授	ナカネ セイジ 中根 征也 <令和4年4月>		修士 (学術)		身体運動科学	2後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科教授 (平26.4)	
38	兼担	教授	ヤマタ ヒトシ 山下 仁 <令和4年4月>		博士 (保健学)		統合医療概論※	2後	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平19.4)	
39	兼担	教授	キタムラ セイイチロウ 北村 清一郎 <令和4年4月>		博士 (歯学)		形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅲ	1前 1後	1 1	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 教授 (平27.4)	
40	兼担	教授	アオキ モリノ 青木 元邦 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅰ 臨床病態学Ⅱ 臨床病態学Ⅴ	2前 2前 2後	1 1 1	1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 教授 (平19.4)	
41	兼担	教授	キウボウ ヒロユキ 久保 忠彦 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2前	1	1	森ノ宮医療大学大学院 保健医療学専攻科教授 (令2.6)	
42	兼担	教授	マエ川 ヒロコ 前川 佳歌 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅳ	2後	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学科 教授 (平28.4)	
43	兼担	教授	オノ ジュンジ 老田 準司 <令和4年4月>		学士 (教育学)		養護実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(養護教諭)	4前 4後	5 2	1 1	保健医療学部 鍼灸学科教授 (平成24年4月)	
44	兼担	准教授	ヨシヤマ ヒロシ 横山 浩之 <令和4年4月>		学士 (鍼灸学)		東洋医療概論	2後	2	1	森ノ宮医療大学 鍼灸情報センター 准教授 (平19.4)	
45	兼担	准教授	マシマ ショウコ 増山 祥子 <令和4年4月>		修士 (心身健康科学)		統合医療概論※	2後	0.7	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授 (平21.4)	
46	兼担	准教授	ミヤガキ ケイ 宮永 啓子 <令和4年4月>		修士 (臨床教育学)		養護概説 学校保健 健康相談活動論 養護実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(養護教諭)	2前 1後 2後 4前 4後	2 2 2 5 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 特任准教授 (平30.4)	
47	兼担	講師	ナガオ ケイロ 長尾 晋宏 <令和4年4月>		修士 (文学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習	1前 1後 2後 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平29.4)	
48	兼担	講師	サノ カズエ 佐野 加奈絵 <令和4年4月>		博士 (スポーツ科学)		基礎体育 健康科学(スポーツ社会学を含む)	1後 1前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平30.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
49	兼任	講師	スギモト ケイ 杉本 圭 <令和4年4月>		修士 (学術)		身体運動科学	2後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 講師 (平29.4)	
50	兼任	助教	シバ シュウヤ 信太 宗也 <令和4年4月>		博士 (工学)		情報処理	1前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床工学科 助教 (令2.4)	
51	兼任	助教	イナ シノブ 伊奈 新太郎 <令和4年4月>		修士 (体育学)		基礎体育	1後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平30.4)	
52	兼任	助教	ノベ アサカ 信江 彩加 <令和4年4月>		修士 (スポーツ科学)		基礎体育	1後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平31.4)	
53	兼任	助教	マツ ヒロキ 松尾 浩希 <令和4年4月>		修士 (教育学)		身体運動科学	2後	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 助教 (平30.4)	
54	兼任	講師	ヒサキ マサキ 久枝 正章 <令和4年4月>		高等学校卒		物理学 生物学	1後 1前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平20.4)	
55	兼任	講師	カノ セイジ 神田 靖士 <令和4年4月>		博士 (化学)		生命倫理学 公衆衛生学	1前 1後	2 2	1 1	関西医科大学 公衆衛生学講座准教授 (平16.4)	
56	兼任	講師	マエ ケイ 松枝 啓至 <令和4年4月>		博士 (人間・環境学)		哲学 西洋史概説	1後 3前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平29.4)	
57	兼任	講師	カガリ ナオキ 掛川 直之 <令和4年4月>		博士 (創造都市)		社会福祉学	1前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平30.4)	
58	兼任	講師	カネノ シノブ 植田 重幸 <令和4年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	1後	2	1	東洋医療専門学校 救急救命士学科専任講師 (平20.4)	
59	兼任	講師	シゲノブ アユミ 重信 あゆみ <令和4年4月>		修士 (中国文学)		東洋史概説	3前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平21.4)	
60	兼任	講師	カイノケン ヨウコ 海蔵寺 陽子 <令和4年4月>		修士 (社会学)		臨床心理学	1後	2	1	石田クリニック (平成20年4月)	
61	兼任	講師	ニシガキ キョウ 西内 恭子 <令和4年4月>		博士 (医学)		公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前	2	1	梅花女子大学看護保健学部 特任教授 (平22.4)	
62	兼任	講師	キタガチ カツ 北口 勝也 <令和4年4月>		博士 (心理学)		教育心理学	1後	2	1	武庫川女子大学 文学部教育学科 教授 (平19.4)	
63	兼任	講師	カトミチロウ 加藤 美朗 <令和4年4月>		修士 (学校教育学)		特別支援教育概論	2前	1	1	関西福祉科学大学 教育学部教育学科准教授 (平23.4)	
64	兼任	講師	アノトウ ヨシフ 安藤 福光 <令和4年4月>		修士 (教育学)		教育課程論	2前	2	1	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科准教授 (平23.4)	
65	兼任	講師	スギヤマ ヤス 杉山 雅 <令和4年4月>		修士 (文学)		生徒指導論	2前	2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平成30年4月)	
66	兼任	講師	ヨシダ タカシ 吉田 卓司 <令和4年4月>		修士 (法学)		教育相談の基礎と方法	2後	2	1	藍野大学医療保健学部 看護学科准教授 (平成23年4月)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	4人	1人	1人	7人	
	修 士	人	人	人	人	2人	人	1人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	1人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	3人	人	人	人	3人	修士 (社会健康医学 (専門職))
	修 士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	2人	5人	2人	人	人	9人	
	学 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	3人	1人	人	人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	4人	4人	1人	1人	10人	
	修 士	人	人	6人	8人	4人	人	1人	19人	
	学 士	人	人	人	人	人	1人	1人	2人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	